

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 21 集

泉坂下遺跡Ⅲ

保存整備事業に伴う第 2 次確認調査報告

平成 26 年 7 月

常陸大宮市教育委員会

茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第 21 集

いずみ さか した い せき
泉 坂 下 遺 跡 III

保存整備事業に伴う第 2 次確認調査報告

平成 26 年 7 月

常陸大宮市教育委員会



調査区全景（南から）



第13～15・18・23トレンチ付近拡大（鉛直、上が北）



S K 59 ~ 61確認状況 (南から)



S K 81確認状況 (南から)

ごあいさつ

常陸大宮市は茨城県北西部に位置し、県都水戸市から北約20kmの、平成の大合併で誕生した人口約4万3千人の市です。

市域の北側には八溝・久慈山系からなる山地が連なり、南西端を那珂川が、東側を南北に縦断する久慈川が流れる景勝の地です。また、市域の中央は久慈川の支流玉川と那珂川の支流緒川が南北に流れ、高度に応じた緑豊かな丘陵・台地・低地を形成し、原始・古代からの重要な遺跡が多く残されています。

那珂川左岸の段丘上にある小野天神前遺跡では、昭和51年に茨城県歴史館が行った発掘調査の際、弥生時代中期に東日本に分布する再葬墓であることが判明し、また1遺跡から3個もの人面付壺形土器が発見されるという初めての事例となりました。

一方、昭和55年頃に久慈川右岸の泉地区字坂下で水田耕作をしていた菊池榮一氏は、偶然2個の弥生土器を発見し、大宮町歴史民俗資料館(当時)に寄贈されました。このことを発端として、平成18年に鈴木素行氏による学術調査が行われ、再葬墓遺構が確認されるとともに国内最大の人面付壺形土器が出土しました。その調査成果の一部は、平成22年1月に市文化センターで発表され、多くの考古学関係者や市民の注目するところとなりました。

市といたしましては、この貴重な遺跡を未来永劫に引き継ぐため、出土した遺物を平成22年3月に市有形文化財に指定しました。また、今後遺跡の保護を進めていくためには国史跡の指定を受けることが肝要との結論に至り、同年10月に常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会を立ち上げ、保護・保存策についてご検討をお願いしました。そして、遺跡の性格等を明らかにするため、3か年にわたる確認調査を計画し、平成24年10月から11月にかけて、第1次調査を実施しています。

この調査報告書は、平成25年8月から10月にかけて実施した第2次調査の成果をまとめたものです。第2次調査についても、文化庁の国宝重要文化財等整備費補助金の交付を受けて実施しており、泉坂下遺跡の重要性を世に伝えるとともに、これからの整備計画の基本資料として活用されるものと固く信じているところです。

最後になりますが、発掘調査にあたりご指導いただきました文化庁文化財部記念物課、茨城県教育庁文化課、泉坂下遺跡保存委員会委員の皆様、全般にわたりご協力いただきました地元の皆様及びその他ご指導・ご協力いただいた関係各位に衷心より深く感謝申し上げます。

平成26年7月

常陸大宮市教育委員会
教育長 上久保 洋一

例 言

- 1 本書は、国宝重要文化財等保存整備費補助金の交付を受けて、常陸大宮市教育委員会が実施した泉坂下遺跡の第2次確認調査の報告書である。
- 2 泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在する。
- 3 この調査は、泉坂下遺跡の将来の保存活用・国史跡指定のための資料を得ることを目的とした確認調査である。今回は3次にわたり計画している確認調査の第2次調査であり、主目的は再葬墓遺構分布範囲及び原地形の確認である。区域内に7か所のトレンチを設定して調査を行い、すべて人力により掘削した。調査対象面積は7,697㎡、実際の調査面積は246.5㎡である。
- 4 現地調査及び整理期間は以下のとおりである。

現地調査 平成25年（2013）8月1日～同年10月11日
整理作業 平成25年（2013）10月15日～平成26年（2014）7月31日
- 5 現地調査は、常陸大宮市教育委員会生涯学習課主幹後藤俊一、同嘱託職員萩野谷悟、同嘱託職員中林香澄が担当した。本書の執筆は、本文を後藤、図・表を萩野谷と中林が担当した。また調査に関する当市教育委員会の組織は以下のとおりである。

【平成25年度】上久保洋一（教育長）、皆川清貴（教育部長）、金子和司（次長）、古田土正（生涯学習課長）、笠井慎二（同副参事）、井坂仁（同主幹）、中村直人（同主幹）
【平成26年度】上久保洋一（教育長）、皆川清貴（教育部長）、木村雅之（次長）、山本洋一（生涯学習課長）、笠井慎二（同副参事）、山田聡（同社会教育主事）井坂仁（同主幹）、武藤由香里（同主幹）
- 6 調査にあたっては、地権者である菊池榮一、菊池清、菊池隆広の各氏から多大なる御理解と御協力をいただいた。
- 7 調査は、文化庁文化財部記念物課榎宜田佳男主任文化財調査官、茨城県教育庁文化課、常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会から全般にわたり御指導をいただきながら実施した。なお、泉坂下遺跡保存委員会を構成する委員は、以下の各氏である。

川崎純徳（座長）、相田美樹男、石川日出志、鈴木素行（以上、平成22年10月1日から）、谷口陽子（平成24年7月27日から）
- 8 調査は、以下の方々の御協力のもと実施した。

小野千里、川又恵美子、久米美夏、篠原とよ子、須藤公子、樋口正子（以上、現地調査及び整理作業）、海老原四郎、西條つや子、佐藤里香、鈴木陽、土井翔平、根本聖也、浜敏子、廣水一真（以上、現地調査）、相田尚人、天野早苗、大里美穂、中村美肖、春里桃子（以上整理作業）
- 9 現地調査及び整理作業にあたっては、以下の方々から種々御教示や御協力をいただいた（敬称略）。

飯島一生、石井聖子、稲田健一、井上慎也、植田雄己、梅澤重昭、大塚初重、小澤重雄、櫻村宣行、鴨志田篤二、川又清明、川井正一、瓦吹堅、菊池芳文、小玉秀成、後藤一成、後藤孝行、小林青樹、清水健一、白石哲也、杉山祐一、田中裕、永井茂文・ゆわえ、白田正子、橋本勝雄、原信田正夫、比毛君男、吹野富美夫、森嶋秀一、横倉要次
- 10 出土遺物及び関係資料は、常陸大宮市教育委員会において保管している。
- 11 本書に掲載した出土遺物拓本の一部には、茨城県指定無形文化財保持者菊池正氣氏の書いた西ノ内紙を用いた。

凡 例

- 1 地区設定については、平成18年(2006)の調査時に鈴木素行氏が現在の地形を考慮してグリッドを設定しているため、これを踏襲した。グリッドの南北軸はN-23°-Wである。

平成18年の調査時に設定した北西端の杭を基準とし、遺跡範囲内を東西・南北各々20mの大調査区に分割し、さらにこの大調査区を東西・南北に各々10等分し、2m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ0, 1, 2・・・、西から東へA, B, C・・・とし「A1区」、「B2区」のように呼称した。なお、平成18年の調査区はF6区となる。

さらに小調査区は北から南へ0, 1, 2,・・・西から東へa, b, c・・・とし、名称は大調査区の名称を冠して「A1_{a0}区」、「B2_{b1}区」のように呼称した。
- 2 トレンチは、平成18年調査時のものを第1トレンチとし、それを中心として東西南北に延ばすように設定し、さらに必要に応じて設定している。番号は随時、時計回りで付した。

なお、作業の便宜上、トレンチを5mごとに区切って、中心側から1区、2区・・・等と称したことがある。
- 3 本文・実測図・遺物観察表等で使用した記号は、次のとおりである。

遺構 SB—掘立柱建物跡, SD—溝跡, SE—井戸跡, SI—堅穴住居跡, SK—土坑,
SX—性格不明遺構, P—柱穴




遺物 Q—石器・石製品, S—石

土層 K—攪乱
- 4 土層と遺物における色調の判定には、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社)を使用した。
- 5 トレンチ・遺物実測図の掲載方法については、次のとおりである。

(1) 全体図は400分の1、トレンチ実測図は60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。

(2) 遺物は原則として3分の1の縮尺で掲載した。

(3) トレンチ・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	須恵器, 赤彩		竈材, 粘土(混じりの土), 黒色処理
	軸		

(4) トレンチ実測図中の●・○は土器・土製品, ■は石器・石製品, ▲は古銭を示し、それらは出土位置を示す。
- 6 遺物観察表の表記については以下のとおりである。

(1) 欠損がある場合、現存値は(), 推定値は[]を付して示した。計測値の単位は原則、cmで、重量はgで示した。有効数字は表示のとおりである。

(2) 備考欄は、写真図版番号、残存状況その他必要と思われる事項を記した。
- 7 「主軸」は、竈を持つ堅穴住居跡については竈を通る軸線とし、他の遺構については、長軸(長径)を軸とみなした。「主軸・長軸(長径)方向」は、その主軸が座標北から見て、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した(例 N-10°-W)。

目次

ごあいさつ	
例言	2
凡例	3
目次	4
挿図・付図目次	5
表目次	6
写真図版目次	7
第1章 調査経緯	9
第1節 調査に至る経緯	9
第2節 調査の目的と方法	10
第3節 調査経過	12
第2章 位置と環境	16
第1節 地理的環境	16
第2節 歴史的環境	16
第3章 調査の成果	19
第1節 遺跡の概要	19
第2節 基本層序	19
1 上位層	19
2 下位層	21
第3節 遺構と遺物	22
1 第10トレンチ	22
2 第12トレンチ	43
3 第13トレンチ	93
4 第14トレンチ	113
5 第15トレンチ	131
6 第18トレンチ	147
7 第23トレンチ	170
8 表面採集	178
第4章 総括	179
1 泉坂下遺跡の範囲	179
2 土地利用の変遷	180
3 弥生時代遺構分布状況	181
4 まとめ	183
付章	185
第1節 泉坂下遺跡の保存に向けて	185
1 泉坂下遺跡の再葬墓群に伴う壺形土器の保存のための土中環境と遺跡周辺微小環境の検討	185
第2節 第12トレンチ出土の古代サメ歯化石	189
1 泉坂下縄文晩期遺跡の古代サメ類カルカロドン・メガロドンの歯化石	189
2 縄文時代におけるサメ類の化石について	191
写真図版	
報告書抄録	

挿 図 ・ 付 図 目 次

第1図 泉坂下遺跡周辺遺跡分布図 …………… 17	第32図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(7) …………… 65
第2図 泉坂下遺跡平面図 ……………(付図)	第33図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(8) …………… 66
第3図 第10トレンチ3・4区実測図 …………… 23	第34図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(9) …………… 67
第4図 第10トレンチ7・8区実測図 …………… 24	第35図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(10) …………… 68
第5図 第10トレンチ11・12区実測図 …………… 25	第36図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(11) …………… 69
第6図 第13号竪穴住居跡竈実測図 …………… 26	第37図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(12) …………… 70
第7図 第13号竪穴住居跡出土遺物実測図 …………… 26	第38図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(13) …………… 71
第8図 第49号土坑出土遺物実測図 …………… 29	第39図 第13トレンチ1・2区実測図 …………… 94
第9図 第53号土坑出土遺物実測図 …………… 30	第40図 第13トレンチ5・6区実測図 …………… 95
第10図 第62号土坑出土遺物実測図 …………… 31	第41図 第58号土坑実測図 …………… 96
第11図 第86号土坑出土遺物実測図 …………… 32	第42図 第58号土坑出土遺物実測図 …………… 97
第12図 第90号土坑出土遺物実測図 …………… 33	第43図 第65号土坑出土遺物実測図 …………… 99
第13図 第10トレンチ遺構外出土遺物実測図(1) …………… 35	第44図 第75号土坑出土遺物実測図 …………… 102
第14図 第10トレンチ遺構外出土遺物実測図(2) …………… 36	第45図 第13トレンチ遺構外出土遺物実測図(1) …………… 105
第15図 第12トレンチ実測図 …………… 41・42	第46図 第13トレンチ遺構外出土遺物実測図(2) …………… 106
第16図 第9号竪穴住居跡出土遺物実測図(1) …………… 44	第47図 第13トレンチ遺構外出土遺物実測図(3) …………… 107
第17図 第9号竪穴住居跡出土遺物実測図(2) …………… 45	第48図 第14トレンチ実測図 …………… 114
第18図 第10号竪穴住居跡出土遺物実測図 …………… 49	第49図 第67号土坑実測図 …………… 115
第19図 第11号竪穴住居跡出土遺物実測図 …………… 49	第50図 第67号土坑出土遺物実測図 …………… 116
第20図 第12号竪穴住居跡出土遺物実測図(1) …………… 51	第51図 第14号竪穴住居跡竈実測図 …………… 118
第21図 第12号竪穴住居跡出土遺物実測図(2) …………… 52	第52図 第14号竪穴住居跡出土遺物実測図 …………… 118
第22図 第1号掘立柱建物跡実測図 …………… 55	第53図 第15号竪穴住居跡竈実測図 …………… 120
第23図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図 …………… 55	第54図 第15号竪穴住居跡出土遺物実測図 …………… 120
第24図 第54号土坑出土遺物実測図 …………… 56	第55図 第14トレンチ遺構外出土遺物実測図(1) …………… 123
第25図 第93号土坑出土遺物実測図 …………… 57	第56図 第14トレンチ遺構外出土遺物実測図(2) …………… 124
第26図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(1) …………… 59	第57図 第14トレンチ遺構外出土遺物実測図(3) …………… 125
第27図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(2) …………… 60	第58図 第15トレンチ実測図 …………… 131
第28図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(3) …………… 61	第59図 第59号土坑出土遺物実測図 …………… 132
第29図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(4) …………… 62	第60図 第59～61号土坑実測図 …………… 133
第30図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(5) …………… 63	第61図 第60号土坑出土遺物実測図 …………… 134
第31図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(6) …………… 64	

第62図	第61号土坑出土遺物実測図	136	第76図	第18トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	161
第63図	第84号土坑出土遺物実測図	137	第77図	第18トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)	162
第64図	第17号竪穴住居跡出土遺物実測図	138	第78図	第18トレンチ遺構外出土遺物実測図(4)	163
第65図	第18号竪穴住居跡出土遺物実測図	139	第79図	第23トレンチ実測図	171
第66図	第15トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	140	第80図	第16号竪穴住居跡出土遺物実測図	172
第67図	第15トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)	141	第81図	第7号溝跡出土遺物実測図	172
第68図	第18トレンチ実測図	148	第82図	第1号井戸跡出土遺物実測図	173
第69図	第81号土坑実測図	149	第83図	第23トレンチ遺構外出土遺物実測図	175
第70図	第81号土坑出土遺物実測図	150	第84図	表面採集遺物実測図	178
第71図	第83号土坑実測図	151	第85図	泉坂下遺跡の立地する低位段丘の範囲	179
第72図	第83号土坑出土遺物実測図	152	第86図	弥生時代遺構分布状況	181
第73図	第9号溝跡出土遺物実測図	155			
第74図	第11号溝跡出土遺物実測図	158			
第75図	第18トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)	160			

表 目 次

第1表	泉坂下遺跡周辺遺跡一覧表	18	第23表	第14号竪穴住居跡出土遺物観察表	119
第2表	泉坂下遺跡収載遺構一覧表	20	第24表	第15号竪穴住居跡出土遺物観察表	120
第3表	第13号竪穴住居跡出土遺物観察表	26	第25表	第14トレンチ遺構外出土遺物観察表	126
第4表	第49号土坑出土遺物観察表	29	第26表	第59号土坑出土遺物観察表	132
第5表	第53号土坑出土遺物観察表	30	第27表	第60号土坑出土遺物観察表	134
第6表	第62号土坑出土遺物観察表	31	第28表	第61号土坑出土遺物観察表	136
第7表	第86号土坑出土遺物観察表	32	第29表	第84号土坑出土遺物観察表	137
第8表	第90号土坑出土遺物観察表	33	第30表	第17号竪穴住居跡出土遺物観察表	138
第9表	第10トレンチ遺構外出土遺物観察表	37	第31表	第18号竪穴住居跡出土遺物観察表	139
第10表	第9号竪穴住居跡出土遺物観察表	46	第32表	第15トレンチ遺構外出土遺物観察表	142
第11表	第10号竪穴住居跡出土遺物観察表	49	第33表	第81号土坑出土遺物観察表	150
第12表	第11号竪穴住居跡出土遺物観察表	49	第34表	第83号土坑出土遺物観察表	153
第13表	第12号竪穴住居跡出土遺物観察表	52	第35表	第9号溝跡出土遺物観察表	156
第14表	第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表	56	第36表	第11号溝跡出土遺物観察表	158
第15表	第54号土坑出土遺物観察表	56	第37表	第18トレンチ遺構外出土遺物観察表	164
第16表	第93号土坑出土遺物観察表	57	第38表	第16号竪穴住居跡出土遺物観察表	172
第17表	第12トレンチ遺構外出土遺物観察表	72	第39表	第7号溝跡出土遺物観察表	172
第18表	第58号土坑出土遺物観察表	98	第40表	第1号井戸跡出土遺物観察表	174
第19表	第65号土坑出土遺物観察表	100	第41表	第23トレンチ遺構外出土遺物観察表	176
第20表	第75号土坑出土遺物観察表	102	第42表	表面採集遺物観察表	178
第21表	第13トレンチ遺構外出土遺物観察表	103	第43表	泉坂下遺跡再発掘等一覧表	182
第22表	第67号土坑出土遺物観察表	117			

写真図版目次

- 巻頭図版1 調査区全景, 第13～15・18・23トレンチ付近拡大
- 巻頭図版2 SK59～61確認状況, SK81確認状況
- 図版1 遺跡遠景(1), 同(2), 同(3), 調査区全景(1), 第13～15・18・23トレンチ付近拡大
- 図版2 調査区全景(2), 同(3), 同(4), 同(5), 同(6)
- 図版3 調査区全景(7), 同(8), テストピット西壁, 同北壁, 第10トレンチ11・12区全景, 同セクション, SI13確認状況, 同竈調査状況(1)
- 図版4 SI13竈調査状況(2), 同竈完掘状況, SK49確認状況(1), 同(2), SK50確認状況, SK52確認状況, SK53確認状況, SK62確認状況
- 図版5 SK63確認状況, SK86確認状況, SK87・88確認状況, SK89確認状況, SK90確認状況, SK91確認状況, SK92確認状況, SD3確認状況
- 図版6 SD6確認状況, SX6確認状況(1), 同(2), 同(3), 第12トレンチ全景, 同セクション(1), 同(2), 同(3)
- 図版7 SI9確認状況(1), 第12トレンチセクション(4), SI9確認状況(2), SI10確認状況(1), 同(2)
- 図版8 SI11確認状況(1), 同(2), SI12確認状況(1), 同(2), SK54・93確認状況
- 図版9 SK55確認状況, SK56確認状況, SK94・95確認状況, SB1確認状況, 同No1出土状況, 同P2セクション, 同P3セクション, 第13トレンチ1・2区全景
- 図版10 第13トレンチ5・6区全景, 同1・2区セクション, 同6区セクション, 同5区セクション, SK58確認状況, 同調査状況(1), 同(2), 同遺物出土状況(1)
- 図版11 SK58遺物出土状況(2), 同調査状況(3), SK65確認状況, 同セクション, SK65・98確認状況
- 図版12 SK71セクション(1), 同(2), SK96セクション, SK98セクション, 第14トレンチ全景, SI14確認状況, 同セクション(1), 同(2)
- 図版13 SI14竈確認状況, SI15確認状況, 同セクション, 同竈確認状況, SK67確認状況(1)
- 図版14 SK67確認状況(2), 同調査状況(1), 同(2), 同(3), SD7確認状況, SI17・18確認状況, SI17セクション, 同柱穴確認状況
- 図版15 SI17No1出土状況, SK59～61確認状況(1), 同(2), 同(3), SK60確認状況
- 図版16 SK81確認状況, 同セクション, 同調査状況(1), 同(2), 同遺物出土状況
- 図版17 SK83確認状況(1), 同(2), 同調査状況(1), 同(2), 同(3)
- 図版18 SK83調査状況(4), 同(5), SD9調査状況, SD10～12調査状況, SD10確認状況
- 図版19 第23トレンチ全景, SE1・SI16確認状況, SI16セクション, SE1確認状況, SK73確認状況, SK80確認状況, SD7確認状況, 同セクション
- 図版20 作業風景(1), 同(2), 同(3), 同(4), 現地説明会(1), 同(2), 文化庁による指導, 調査参加者

- 図版21 S I 13出土遺物, S K 49出土遺物, S K 53出土遺物, S K 62出土遺物, S K 86出土遺物, S K 90出土遺物
- 図版22 第10トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版23 第10トレンチ遺構外出土遺物 (2)
- 図版24 S I 9出土遺物 (1)
- 図版25 S I 9出土遺物 (2), S I 10出土遺物, S I 11出土遺物
- 図版26 S I 12出土遺物 (1)
- 図版27 S I 12出土遺物 (2), S B 1出土遺物, S K 54出土遺物, S K 93出土遺物, 第12トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版28 第12トレンチ遺構外出土遺物 (2)
- 図版29 第12トレンチ遺構外出土遺物 (3)
- 図版30 第12トレンチ遺構外出土遺物 (4)
- 図版31 第12トレンチ遺構外出土遺物 (5)
- 図版32 第12トレンチ遺構外出土遺物 (6)
- 図版33 第12トレンチ遺構外出土遺物 (7)
- 図版34 第12トレンチ遺構外出土遺物 (8)
- 図版35 第12トレンチ遺構外出土遺物 (9)
- 図版36 第12トレンチ遺構外出土遺物 (10)
- 図版37 第12トレンチ遺構外出土遺物 (11)
- 図版38 S K 58出土遺物, S K 65出土遺物 (1)
- 図版39 S K 65出土遺物 (2), S K 75出土遺物, 第13トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版40 第13トレンチ遺構外出土遺物 (2)
- 図版41 第13トレンチ遺構外出土遺物 (3)
- 図版42 S K 67出土遺物, S I 14出土遺物 (1)
- 図版43 S I 14出土遺物 (2), S I 15出土遺物, 第14トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版44 第14トレンチ遺構外出土遺物 (2)
- 図版45 第14トレンチ遺構外出土遺物 (3)
- 図版46 第14トレンチ遺構外出土遺物 (4)
- 図版47 S K 59出土遺物, S K 60出土遺物, S K 61出土遺物
- 図版48 S K 84出土遺物, S I 17出土遺物, S I 18出土遺物, 第15トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版49 第15トレンチ遺構外出土遺物 (2)
- 図版50 第15トレンチ遺構外出土遺物 (3), S K 81出土遺物, S K 83出土遺物 (1)
- 図版51 S K 83出土遺物 (2), S D 9出土遺物
- 図版52 S D 11出土遺物, 第18トレンチ遺構外出土遺物 (1)
- 図版53 第18トレンチ遺構外出土遺物 (2)
- 図版54 第18トレンチ遺構外出土遺物 (3)
- 図版55 第18トレンチ遺構外出土遺物 (4), S I 11出土遺物, S I 16出土遺物, S E 1出土遺物
- 図版56 第23トレンチ遺構外出土遺物, 表面採集遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

泉坂下遺跡は、地権者である菊池榮一氏の自宅敷地であったが、菊池氏が転居後水田にするため整地して出土した遺物を当時の大宮町歴史民俗資料館と同町立上野小学校に寄贈したことから一部に知られていた。寄贈されていた遺物は、石棒破片及び未成品7点、弥生土器2点である。うち壺形土器1点は、平成7年（1995）、大宮町歴史民俗資料館特別展「大宮の考古遺物」で展示され、図録（大宮町歴史民俗資料館『大宮の考古遺物』大宮町教育委員会、平成7年）にも掲載されたことから広く知られ、再葬墓遺跡の可能性がある遺跡として注目されるようになった。

平成18年（2006）1月から2月にかけて鈴木素行氏が石棒製作遺跡の実態解明を目的として学術調査を実施したが、調査の当初から再葬墓遺構が良好な遺存状態で確認されるに及び、調査の目的が再葬墓の実態解明に変更された。再葬墓が希少な遺構である上に、調査初日から人面付壺形土器が出土し、調査目的の変更は自然な動きであった。

その後調査で得られた資料は慎重に整理され、詳細な考察とともに調査報告書『泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—』（平成23年8月25日、鈴木素行編集・発行）にまとめられた。なお、同報告書は、同年8月31日、鈴木氏の好意により実質同内容で『茨城県常陸大宮市泉坂下遺跡』として当市教育委員会から発行されている。また、調査で出土した遺物は、平成21年11月末日に鈴木氏から常陸大宮市に移管されている。

当市はこれら資料の文化財としての重要性に鑑み、歴史民俗資料館で平成21年度企画展「再葬墓と人面付土器のふしぎ」（期間：平成21年12月15日～平成22年2月7日）を開催し、研究者や一般の注目を集めた。併せて開催されたシンポジウム（平成22年1月31日）は市外からも多くの参加者を得、関心の高さを裏付けたものであった。

これらの再葬墓出土物については、平成22年3月31日付で市指定文化財に指定され、さらには平成26年1月27日付で県指定文化財に指定されている。

また、遺跡の重要性も極めて高いことから、当市としては保存・整備の上、活用することとし、そのために常陸大宮市泉坂下遺跡保存委員会（以下、保存委員会）を組織して、その指導のもとに調査・保存・整備・活用をすることとした。以降、保存委員会では測量・確認調査についての検討・指導、整備の基本理念・基本計画等の具体的な検討を進めている。

そこで、今後保存・整備・活用を円滑に進めるためには国史跡指定を得ることが肝要との考えから、その基礎資料を得ることを目的とした確認調査を3か年計画で実施することを立案された。

平成24年10月1日から11月15日にかけて、第1次確認調査を実施し、再葬墓遺構の分布範囲の確認や原地形の確認といった成果が挙げられた。一方、土器棺墓や第4号性格不明遺構の所在など、新たな課題も浮上している。これらについては『泉坂下遺跡Ⅱ 保存整備事業に伴う第1次確認調査』（茨城県常陸大宮市埋蔵文化財調査報告書第16集、平成25年7月31日、常陸大宮市教育委員会編集・発行）にまとめられている。

第2節 調査の目的と方法

調査の目的は上記したとおり、「泉坂下遺跡整備の基本理念」（文末に抜粋を取録）に則り、将来の保存・活用、及び国史跡指定申請のための基礎資料を得ることである。第2次調査の主目的は、「泉坂下遺跡第2次確認調査要項」（同）のとおり遺構分布範囲の確認、原地形の確認を掲げた。

調査の目的を達成するために、平成18年調査の調査区を中心に、南北に延長し、また東西に直交する形でトレンチを入れることとし、状況に応じて補足的なトレンチを追加することとした。トレンチの掘削は、下層に存在する遺構を保護するため、全て人力で行なうこととした。また埋め戻しの際も同様に人力で行った。

調査中に確認された遺構は原則として掘り込まず、確認にとどめた。したがって遺構に伴う遺物の取り上げもしないこととした。ただし確認のためやむを得ない場合、サブトレンチを掘削して調べている。

なお、調査区域は主に陸田であり、調査した遺構が耕作により破壊されることが危惧されることから、遺構保護のため調査区域の借上げを行なうこととした。これによって耕作による遺構破壊の危惧がなくなることから、トレンチ幅を広げて2mとすることとした。

調査は常陸大宮市教育委員会が主体となって実施し、保存委員会が指導する体制を採ることとした。また、状況によって茨城県文化課、文化庁にも指導を仰いだ。

調査区割については、平成18年調査の際のトレンチを基本とするグリッドによることとしたため、南北軸がN-23°-Wの傾きを見せるが、これは調査地の地形に合わせたものとなっている。無論今後には生かせるよう、世界測地系（新・平面直角座標系）に反映できるようにした。

「泉坂下遺跡整備の基本理念（抜粋）」

1 当市の教育政策と泉坂下遺跡

（中略）泉坂下遺跡とその出土遺物は、当市の多くの優れた文化財の中でも、とりわけ大きな重要性を持つものであり、「郷土の誇れるもの」の中でも白眉といえる。泉坂下遺跡とその出土遺物の保存・活用は、当市の教育と教育政策の中核をなすべきものである。当市としては、泉坂下遺跡とその出土遺物を後世に向けて万全な保存をし、十分に活用していかななくてはならない。

（中略）

2 泉坂下遺跡の基本的性格と構造

（中略）当市域の再葬墓の遺跡としては、当遺跡のほか小野天神前遺跡、中台遺跡が知られており、また周辺では那珂市域に海後遺跡なども所在する。当市域及び周辺は再葬墓の遺跡が密な分布を示す地域であり、再葬墓を有する文化が大きく展開している地域といえる。

当遺跡は、そうした時期と地域の中で営まれた再葬墓群に強く特色づけられる。その上、一次葬の土壙墓群を伴っており、当時の墓制の実相を示唆している。ただ、再葬墓群や関連する遺構の範囲については、平成18年の調査が部分的なものであり、現在のところ不明である。また、生活の拠点としての集落遺跡や生業の場としての水田等の遺跡の所在も不明である。

（中略）当遺跡は再葬墓の遺跡として、縄文時代から弥生時代への転換期における当地域の文化の様相を象徴的に示している可能性がある。一方で遺跡の範囲や年代、性格等は不明の部分が多く、遺跡の全体像は捉えられていない。（中略）今後、調査を実施して明らかにしていく必要

がある。

3 泉坂下遺跡の重要性

(中略) きわめて遺存状況がよいことである。再葬墓遺跡が少ない上に多くは遺存状況が悪く、調査研究に支障を来しており、遺存状況が良好な当遺跡の今後の調査によっては、弥生時代墓制の解明、ひいては弥生時代の社会や文化の解明が大きく進展する可能性がある。さらに言えば、前回調査で出土したような遺構・遺物が周辺に埋没している可能性があり、そうした状況が明らかになれば弥生時代の解明に計り知れない意義がある。当遺跡の持つ学術上の、また教育上の意義がさらに増大する可能性があるのである。

4 国史跡指定と整備の基本理念

以上に述べた重要性に鑑み、今後さらに遺跡の性格等の把握に努め、本市として保存・整備・活用を推進していく。これを適切かつ円滑に推進するためにも、国史跡指定を受け、国の史跡として整備することを目指す。(中略)

泉坂下遺跡は、耕作等による遺構の破壊が軽微であり、保存状況がきわめて良好である。当遺跡を特色づける再葬墓群の他に縄文晩期・古墳時代・奈良平安時代の遺構も存在し、各時代の土地利用がそのまま保たれている可能性がある。しかし表土層が薄く、従って深耕の影響をうけやすく、このまま放置しておけば湮滅の恐れもある。当遺跡全体をできるだけ現状のまま保存することを念頭に整備を進める。また、周辺には歴史的環境が自然景観を含めて良く残されている。

台地上には前小屋城跡があり、一帯には縄文時代以来の自然景観が広く保たれている。これらが一体となってこの地域の歴史的環境を形成しているのである。こうした歴史的環境をできるだけ保全しつつ整備を進める。(以下略)

「泉坂下遺跡第2次確認調査要項(抜粋)」

1 調査目的・方針等

(1) 調査目的

- ①「泉坂下遺跡整備の基本理念」に則り、将来の保存活用・国史跡指定のための資料を得ることを目的とする。
- ②具体的な主目的は、i) 遺構分布範囲の確認、ii) 原地形の確認、iii) 弥生時代遺構の分布の確認と内容の把握とする。

- (2) 調査方針 上記目的に沿った調査とするため、可能な限り現状が保存できる調査方法をとる。

2 調査対象区域

- (1) 調査範囲 常陸大宮市泉字坂下918-21ほか21筆
- (2) 調査面積 7,697㎡

3 日程・工程

- (1) 全体計画 3年計画(平成24・25・26年度)。本年度はその第2次。
- (2) 調査期間 平成25年8月1日～9月30日(61日。実質38日)

4 調査体制

- (1) 調査主体 常陸大宮市教育委員会(着手後、法第99条による報告)
- (2) 指導体制 保存委員会による指導(随時)。必要に応じて文化庁・県文化課の指導
- (3) 調査体制 調査員:市教育委員会 後藤俊一主幹、萩野谷悟嘱託職員、中林香澄嘱託職員

補助員：大学（院）生若干名 作業員：補助員と合わせて10名程度
※一部区域については、明治大学が考古学実習を実施

5 調査方法

- (1) 調査範囲の土地借上げ 遺構の保存のため、公有地化まで継続
- (2) 掘り込み
 - ① トレンチ調査（前回調査のトレンチ延長及び直交方向、幅2m）
* 遺構の平面形や性格の把握に努めるが、トレンチ拡張はせず
 - ② 人力による掘削（必要があれば重機導入）
 - ③ 遺構の掘り込み 原則、しない。必要な場合もサブトレンチまで
 - ④ 遺物の取り扱い 遺構内出土遺物は、原則、取り上げない。
* 取り上げる場合の判断は、学術上の観点（自然科学的調査の試料採取を含む）及び保護上の観点から慎重に行なう。
- (3) 記録
 - ① 実測 縮尺：遺構は原則1/20、必要に応じ1/10等も。
原地形は1/100でコンター測量
調査員・補助員等で実施（業者は基準杭設置・トレンチ設定のみで、実測作業は行わず）
調査用方眼により実施。世界測地系（新・平面直角座標系）に変換可能に
 - ② 写真撮影 35mmモノクロ・カラーリバーサル、デジタルカメラ
 - ③ 空中写真 業者委託により撮影（ラジコンヘリ、6×7判カラーリバーサル・6×7判モノクロ・デジタルカメラ）
- (4) 埋め戻し 実施。人力による（遺構の保存に影響がなく、必要があれば重機導入も可）。

第3節 調査経過

調査期間は平成25年8月1日から9月30日までとした。8月1日に調査準備、実際に掘削（表土除去）を開始し、予定より若干遅れて10月11日に現場での調査を終了した。整理作業は10月15日から開始し、平成26年7月31日に終了した。以下、調査日誌から抄録する。

【調査日誌抄録】

- 8月1日（木）曇時々雨。機材整理等調査準備をし、調査前状況写真撮影。作業員とミーティングをし、調査の趣旨・方法等について確認。その後手掘りで第10トレンチ3・4区の第I層・第I B層除去に着手し、SK49を確認。第I層・第I B層の遺物は、2m単位で設定されている小グリッドごとに取り上げる。第I B層中から土偶胴部確認
- 8月2日（金）曇。第10トレンチ3・4区の第I B層を除去し、SK50を確認して写真撮影。同7・8区の第I層・第I B層を除去し、SK51・52を確認
- 8月5日（月）曇。第10トレンチ3・4区、7・8区の写真撮影及び実測。第10トレンチ11・12区の第I層・第I B層を除去、第I B層に現代の遺物が混入している。SK49のサブトレンチ掘削
- 8月6日（火）曇のち雷雨。第10トレンチ11・12区を精査するが遺構は確認できない。地権者・菊池清氏の話のとおり、畑作による攪乱が見られる。写真撮影し、サブトレンチを掘削し始めたところで雷雨により中断。午後は歴史民俗資料館で遺物の水洗

- 8月7日(水) 晴。第10トレンチ3・4区、7・8区、11・12区をレベリング。第10トレンチ11・12区のサブトレンチを掘削するも、滲水のため遺構確認は状況が改善してからとした。第10トレンチ3・4区のサブトレンチ掘削
- 8月8日(木) 晴。第10トレンチ7・8区のサブトレンチを掘削するも、滲水のため遺構確認は状況が改善してからとした。第10トレンチ3・4区のサブトレンチセクション検討。SK50写真撮影。滲水により第10トレンチでの作業はこれ以上進められないため、やむを得ず第12トレンチ第I層除去に移る
- 8月9日(金) 晴。第12トレンチ第I層を除去。第10トレンチ3・4区を実測、セクション実測。明日から作業を長期間休止するため、遺構・遺物を養生
- 8月19日(月) 快晴。盆前の突風被害の復旧措置。第12トレンチ1～4区の第I層・第IB層を除去。石川委員により第10トレンチ内を精査
- 8月20日(火) 曇のち雷雨。第12トレンチ1～4区の第IB層を除去、遺構確認。巨大ザメの歯の化石、勾玉などが出土した。石川委員は第10トレンチ内の精査を継続。雷雨のため作業を切り上げた
- 8月21日(水) 曇。第12トレンチ1～4区の遺構確認継続。4区に遺物が集中する地点があるため調査範囲を拡張し、5・6区の第I層も除去した。第10トレンチは昨日の雷雨のため水没しており作業断念
- 8月22日(木) 曇。第10トレンチは水没しており作業断念。第12トレンチ4区の遺物集中の連続は確認できなかったが、写真撮影、実測。第IB層から皇宋通寶確認。また、第12トレンチ南端部でも遺物集中地点がある
- 8月23日(金) 曇のち雨。第12トレンチの遺構確認を継続も、降雨により作業中断。歴史民俗資料館での遺物の水洗に切り替えた。第12トレンチの遺物から、土偶胴部、織部等を確認
- 8月26日(月) 晴。第12トレンチ南端の遺物集中地点はやはり住居跡と考えられ、これを含め住居跡と考えられる遺構を4軒、土坑を3基確認した。第10トレンチの水が引いたため清掃。第14トレンチの第I層を除去。また、明治大学実習として、第15トレンチ調査を開始し、第II層上面を精査
- 8月27日(火) 晴。第12トレンチ内の写真撮影、平面実測。第14トレンチ第I層・第IB層を除去。第15トレンチは第II層上面を精査した
- 8月28日(水) 快晴。第12トレンチの第12号竪穴住居跡の実測、写真撮影、遺物取り上げ。第13トレンチ第I層・第IB層除去、遺構確認。第14トレンチの遺構確認。第15トレンチの遺構確認を継続
- 8月29日(木) 晴。第12トレンチを遺構確認し、SK57を実測、写真撮影。第13トレンチを遺構確認し、SK58を実測、写真撮影。第14トレンチのサブトレンチを掘削したところ、カマドが検出され住居跡が確認された。このため、SX4の走向を確認するために設定されたトレンチであるが、確認には至らなかった。第15トレンチの遺構確認を継続
- 8月30日(金) 晴。最高気温38℃。第13・14トレンチは全体を掘り下げて遺構確認した。第15トレンチでは再葬墓遺構に遺構ナンバー付与。平成18年調査のSX2はSK59と改称し、その北のSK60・61の実測、写真撮影。第10トレンチ7・8区のセクションを検討。今後設定するトレンチの位置を検討。その目的は①SX4の走向確認、②再葬墓範囲の確認
- 9月2日(月) 快晴のち雨。第10トレンチ7・8区、11・12区を実測、写真撮影。第13トレンチ5・6区の掘り下げ、1・2区の第I層を除去した。雷鳴・通り雨により、2度作業中断。第15トレンチ内遺構の実測、エレベーション実測

- 9月3日(火) 晴。第13トレンチ1・2区の第I B層を除去した。第10トレンチ7・8区の実測、セクション実測。S I 13出土状況の実測、遺物取り上げ。第15トレンチ内の再葬墓遺構の実測、サブトレンチ掘削。第10トレンチ7・8区で七本桜バミスの集積する箇所があり、精査した。第14トレンチではS I 14以外にも複数の遺構が存在しており、精査
- 9月4日(水) 雨。現地作業は中止、歴史民俗資料館で遺物水洗
- 9月5日(木) 雨。現地作業は中止、歴史民俗資料館で遺物水洗
- 9月6日(金) 曇。第14トレンチはカマド確認面まで掘り下げ遺構確認、カマド実測、写真撮影した。第10トレンチ11区にテストピット掘り始めるも湧水で中断。第13トレンチ1・2区及び第12トレンチにサブトレンチを掘削した。第15トレンチでは遺構確認
- 9月9日(月) 晴。第12トレンチのサブトレンチを掘削したところ、北端部に落ち込みがある。第13トレンチ1・2区のサブトレンチを掘削したところ、中央部と南端に落ち込みがある。第14トレンチを実測、遺物取り上げた。第14トレンチでは、新たに弥生壺底～底部が確認され、土器棺墓と考えられる土器が2個体ある。第15トレンチを実測、サブトレンチ掘削。第23トレンチの第I層を除去
- 9月10日(火) 快晴。第12トレンチ北端の落ち込みは土坑と判明した。第14トレンチの土器棺墓のプランを確認し、SK67とする。第15トレンチでは遺構確認を継続。第23トレンチの第I B層を除去
- 9月11日(水) 晴。第23トレンチの遺構確認、写真撮影、実測、遺物取り上げ。第12トレンチ内SK66周辺で、SBになる可能性を検討。S I 15のカマドの写真撮影。SK67の写真撮影、実測。第15トレンチ南端にサブトレンチを掘削
- 9月12日(木) 晴。第10トレンチのSX6を掘削。第18トレンチを掘り下げて遺構確認。第13トレンチ5・6区の遺構確認、実測、サブトレンチ掘削。第23トレンチ内SE1周辺を精査したところ、S I 16を確認し、写真撮影、実測。SK58のサブトレンチを掘削、瓦器片・木質片等を確認した。SK67を精査。第15トレンチを精査し、プランを確認、写真撮影
- 9月13日(金) 晴。第18トレンチのサブトレンチを掘削、SK81のプラン確認のためトレンチ拡張し、南半分のプランを確認。第12トレンチ内SB1を精査、実測、写真撮影。SK58、67の精査。SX6の写真撮影
- 9月17日(火) 快晴。台風18号の影響で水没したトレンチの水汲み。第18トレンチのサブトレンチを掘削、のちプランの確認に十分なように拡張した。第15トレンチ内SK59・60・61精査、新たにSK84を確認。文化庁榑宜田佳男主任調査官が調査視察
- 9月18日(水) 快晴。第18トレンチを精査。SX4の連続となる溝を確認し、SD9とした。SD9の走向が変化していることを確認、下層から十王台式が出土。SD8、SK83の遺構確認、写真撮影、実測
- 9月19日(木) 快晴。空中写真撮影。SD9を精査したところ、底面は砂利層であり、底面付近で弥生片が出土する。弥生より新しい遺物は出土しないため、弥生の溝と判断し、セクション検討。SK61の精査。SK83の実測。SK81のサブトレンチを掘削。第15トレンチの写真撮影、実測
- 9月20日(金) 晴。SD9の写真撮影、セクション実測。SD7の確認のためトレンチ拡張、SD10・11を確認。第14トレンチのセクション検討、写真撮影。第10トレンチ11区のテストピット掘削を再開
- 9月21日(土) 晴。現地説明会。70名参集。萩野谷囃託職員により遺構・遺物の解説が行われた。午後からは作業を再開。SD9の実測、土層観察。第14トレンチのセクション実測。第23トレ

- ンチのセクション実測。第10トレンチ11区のテストピットでは地表面から180cm程度で砂利層に到達
- 9月22日(日) 晴のち曇。第23トレンチのセクション写真撮影, 土層観察。第14トレンチのセクション修正, 土層観察。第13トレンチ5・6区のセクション検討。
- 9月24日(火) 曇。第14・23トレンチの埋め戻し完了。S I 14・15のカマド実測。S D 7・10・11のセクション写真撮影, 実測。第15トレンチ内を精査したところ, 平安の住居跡確認。テストピット土層検討, 写真撮影
- 9月25日(水) 曇時々雨。天候が不安定なため, 現地では実測・撮影のみを行い, 残りの作業員は歴史民俗資料館で遺物水洗へと手分けした。S K 83の写真撮影。第18トレンチのセクション実測。テストピットのセクション実測, 土壌サンプル採取。S K 81のセクション検討, 写真撮影。S D 10・11の写真撮影
- 9月26日(木) 曇。台風20号の影響の強風により, 午前中は歴史民俗資料館で遺物の水洗。午後は天候がやや回復したため, 現地では実測のみ行った。S X 6の実測, セクション実測。S K 53の精査, 第10トレンチ3・4区のセクション検討。S D 10・11の実測
- 9月27日(金) 快晴。最高気温20℃。第10トレンチ7・8, 11・12区の埋め戻し。S K 81のエレベーション実測, 遺物取り上げ。第10トレンチ3・4区のセクション検討, 遺構確認。新たにS K 87・88を確認
- 9月30日(月) 晴。第10トレンチ3・4区のセクション検討, 写真撮影。S K 49・50・53・86・87・88の写真撮影。S K 83の掘り込み, セクション実測, 遺物取り上げ。第13トレンチ1・2区のセクション写真撮影, 5・6区のセクション実測。第12トレンチのセクション検討
- 10月1日(火) 雨のち曇。現地作業は中止, 歴史民俗資料館で遺物水洗。午後は天候がやや回復したため, 現地では実測のみ行った。S I 17・18のセクション実測。S K 90・91周辺の精査。S K 58の精査
- 10月2日(水) 台風22号接近に伴う強風雨。現地作業は中止, 歴史民俗資料館で遺物水洗
- 10月3日(木) 晴。埋め戻し可能な場所がないため, 現地では実測のみ行い, 一部の作業員は歴史民俗資料館で遺物水洗。S K 90～92の写真撮影, 実測, セクション実測。S K 87・89・91のセクション実測。第15トレンチのセクション実測。S I 17・18の実測。S K 59・60・61の土器に山砂で保護して水を打ち, 埋め戻した。S K 81の実測, エレベーションの実測
- 10月4日(金) 曇時々雨。S K 89・91の土層観察。S K 87・88の写真撮影。第15トレンチの埋め戻し完了。第10トレンチ1・2区のセクション実測, 土層観察。S K 58の実測。第13トレンチ1・2区の実測。第12トレンチのセクション検討
- 10月7日(月) 晴。第13トレンチ1・2区の埋め戻し完了。第10トレンチ3・4区の埋め戻し完了。S K 58の土層観察。第12トレンチのセクション検討
- 10月8日(火) 晴のち曇。S K 81の写真撮影, 遺物取り上げ。第12トレンチのセクション写真撮影, 実測。S K 58の実測, 遺物取り上げ。第18トレンチの埋め戻し
- 10月9日(水) 晴のち曇。台風24号の影響で風が強い。S K 83のセクション写真撮影, 遺物取り上げ。第12トレンチの平面図補足, 土層観察
- 10月10日(木) 晴。S K 83の完掘状況写真。第13・18トレンチの埋め戻し。第12トレンチの土層観察, 埋め戻し。S B 1のエレベーション実測。S K 58の木質取り上げ後, 埋め戻し
- 10月11日(金) 雨のち晴。第12トレンチの埋め戻し。終了状況写真撮影。機材を撤収し, 現場での全作業を終了した

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境 (第1図)

泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在する。

常陸大宮市は茨城県北西部に位置し、西は栃木県と境を接する。市域の多くは八溝山地の一部である鷲子山塊及びその周縁の台地または低地である。市域のほぼ東端を久慈川が南流し、南端付近を那珂川が南東に流れている。久慈川は市域南東端で支流である玉川と合流するが、当遺跡はこの合流点から北西約3kmに所在する。

当遺跡は、鷲子山塊に連続する那珂台地から東に下った久慈川右岸の低位段丘上に立地している。久慈川の現在の河道からの距離は700～800mの位置にある。河道近くには自然堤防が形成され、北側の自然堤防上には宇留野塚の集落が立地している。自然堤防との間は氾濫原（後背湿地）で、現在は水田になっている。当遺跡の立地する低位段丘は標高が20mほどで、東側の水田面からの比高差は2mほどである。同様の低位段丘は、台地からの湧水によって切断されながら、玉川との合流点まで南東に大きく展開し、現在は根本の集落、さらには上岩瀬・下岩瀬の集落が立地している。西側の那珂台地とは比高差30mほどあり、その斜面には水戸藩三大江堰の一つ岩崎江堰水路が南流し、これに伴う地形の改変が見られる。

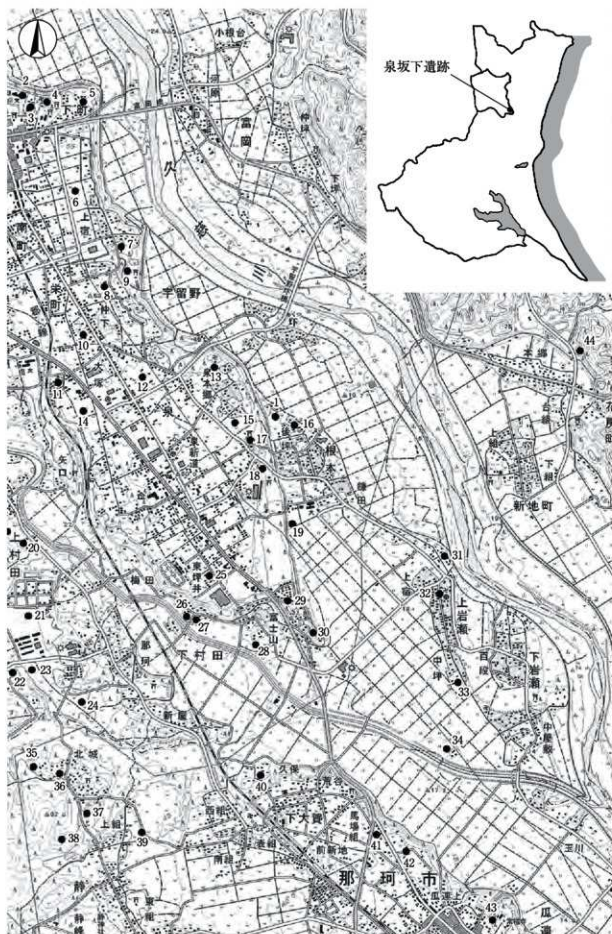
第2節 歴史的環境 (第1図, 第1表)

常陸大宮市で周知されている遺跡の多くは久慈川・那珂川の両水系によって形成された河岸段丘から低地にかけて分布し、山間地への分布は比較的少ない。旧石器から近世に至る多様な遺跡が所在しており、以下各時代の主な遺跡をもって概要を説明する。

旧石器時代の遺物としては、山方遺跡で昭和39年に茨城県内初となる旧石器が発見され、この時出土した石核は約30,000～28,000年前のもので、現時点において市内最古の遺物である。また赤岩遺跡では礫群3基と石器・剥片集中地点3か所が確認されており、礫群はいずれも大型で、1号礫群では礫数は197点、総重量で43kgを超えるものであった。

縄文時代は、岡原遺跡で縄文時代早期（田戸下層式期）の竪穴住居跡を1軒確認している。また西塙遺跡では有段竪穴4軒や土坑378基等が、高ノ倉遺跡では土坑223基が確認されるなど、中期の大規模集落が那珂川左岸の段丘上に所在していることが特徴的といえる。特筆されるのは、久慈川の支流玉川の左岸段丘上に広がる坪井上遺跡である。泉坂下遺跡の南方約1.2kmに位置する坪井上遺跡は平成5年度と平成8年度の2度にわたり調査が行われ、竪穴住居跡19軒、袋状土坑75基が確認された中期の集落跡であり、1遺跡から8個の硬玉製大珠が出土していることで特に知られている。これらは新潟県糸魚川市の姫川流域で産出される翡翠製であり、この集落は中期における茨城県北部地域の一大交流拠点であったと考えられている。

弥生時代としては、泉坂下遺跡の南方約1.5kmの上岩瀬富士山遺跡で後期後半十玉台式期の集落跡が確認されている。しかしここで特筆すべきは小野天神前遺跡であろう。昭和51年に茨城県立歴史館によって学術調査されて、16m四方ほどの調査区から20基の土坑が確認され、茨城県北部の再葬墓研究に大きく寄与した。一般に人面付壺形土器は再葬墓遺跡1遺跡から1点しか出土



第1図 泉坂下遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院1:25,000地形図「常陸大宮」)

しないが、小野天神前遺跡では1遺跡から3点の人面付壺形土器が出土し一躍注目を浴び、これらを含む出土土器19点は茨城県有形文化財に指定されている。那珂川沿いの小野天神前遺跡は、今回調査された久慈川沿いの泉坂下遺跡と並び称される遺跡である。

古墳時代の集落遺跡としては、梶巾遺跡や下村田遺跡が確認されている。また富士山古墳群には前方後方墳である富士山4号墳があり、茨城県内でも最も古い古墳の一つと考えられていて、泉坂下遺跡の南方約1.5kmに所在する。また中期の前方後円墳として、同じく富士山古墳群の全長60mの五所皇神社裏古墳、糠塚古墳群の全長90mの糠塚古墳が所在する。後期の古墳として、一騎山古墳群は10基の古墳からなり、4号墳は6世紀後半の小規模な前方後円墳で、人物・動物等の形象埴輪や円筒埴輪が出土している。このほか岩崎古墳群、鷹巣古墳群、糠塚古墳群、富士山古墳群などがあり、これらのほとんどは久慈川右岸またはその支流玉川兩岸の段丘上に立地するが、岩崎古墳群及び富士山古墳群の丸山古墳は久慈川の低位段丘面上に立地している。また玉川左岸には、雷神山横穴群と岩穴横穴群といった横穴墓も所在している。

奈良・平安時代の遺跡は時代別としては最も多く市内に所在し、調査例も多い。県内有数の大規模集落として知られるのは、久慈川右岸の段丘上標高55mの上ノ宿遺跡である。平成18年度と平成20年度の2度の調査で、合わせて118軒の堅穴住居跡が確認され、風字硯や耳皿2点などの遺物が出土しており、この地域の拠点集落であったと考えられている。また岡原遺跡では多文字・人面墨書土器や朱墨書土器が出土しており、源氏平遺跡では底面に墨書され内側に漆紙文書が付着した土師器坏や、刻書された瓦が出土した。このほか「丈」の烙印が出土した上村田小中遺跡や、茨城県指定有形文化財「丈永私印」の銅印が出土した小野中道遺跡など、丈部氏関連と考えられる遺跡が確認されている。

中世の遺跡としては、久慈川右岸の部垂城跡、宇留野城跡、前小屋城跡、那珂川左岸の長倉城跡、野口城跡、小場城跡、玉川左岸の東野城跡などに代表される城館跡が所在しており、中でも前小屋城跡は泉坂下遺跡の北西約1kmに所在する。

第1表 泉坂下遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種類	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	番号	遺跡名	種類	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世
1	泉坂下遺跡	集落跡		○	○	○	○	○	○	○	23	堂山B遺跡	集落跡							○	
2	部垂城跡	城館跡									24	堂山A遺跡	集落跡				○	○	○		
3	松吟寺遺跡	集落跡		○	○	○	○				25	坪井上遺跡	集落跡	○	○	○	○	○			
4	松吟寺古墳群	古墳群				○	○				26	念仏塚	経塚								○
5	宮中遺跡	集落跡		○		○					27	念仏塚遺跡	集落跡				○				
6	上ノ宿遺跡	集落跡		○		○					28	西坪井遺跡	集落跡			○	○	○	○		
7	上宿上坪遺跡	集落跡		○	○	○	○				29	上岩瀬富士山遺跡	集落跡	○	○	○	○				
8	仲下遺跡	集落跡		○	○	○	○				30	富士山古墳群	古墳群			○					
9	宇留野城跡	城館跡					○				31	川岸遺跡	集落跡							○	
10	大塚遺跡	集落跡		○							32	岩瀬城跡	城館跡		○					○	
11	六丁遺跡	集落跡					○				33	上岩瀬中坪遺跡	集落跡							○	○
12	駄木所遺跡	集落跡									34	本宮遺跡	集落跡	○	○	○					
13	前小屋館跡	城館跡				○	○				35	瀨前遺跡	集落跡							○	
14	上高作遺跡	集落跡									36	上坪遺跡	集落跡								
15	春日神社前遺跡	集落跡			○	○					37	滝前遺跡	集落跡	○							
16	根本後坪遺跡	集落跡									38	城背堤城跡	城館跡								○
17	根本遺跡	集落跡									39	新宿古墳群	古墳群				○				
18	根本古墳群	古墳群				○					40	久保遺跡	集落跡				○	○	○		
19	根本向井坪遺跡	集落跡									41	下大貫遺跡	集落跡				○	○	○	○	
20	北村田B遺跡	集落跡				○	○				42	十林寺古墳群	古墳群				○	○	○		
21	一騎山古墳群	古墳群				○	○				43	瓜連遺跡	集落跡	○	○	○	○	○			
22	高野A遺跡	集落跡						○			44	寺山寺院跡	寺院跡								○

第3章 調査の成果

第1節 遺跡の概要 (第2図, 第2表)

泉坂下遺跡は、茨城県常陸大宮市泉字坂下918番地ほかに所在し、久慈川右岸の低位段丘面上に立地している。標高20m～21mで、東側の水田面からの比高差は2mほどであり、現況は水田(陸田)、宅地、原野である。

まず平成18年に調査されたトレンチを第1トレンチとして調査区の中心に捉え、これを南北に延長し、また東西に直交する形でトレンチを設定し、状況に応じてこれらを補足するトレンチを入れる方針をとった。

最初に南に向かって第2・3トレンチ、西へ向かって第4・5トレンチ、北へ向かって第6・7トレンチ、東へ向かって第8・9トレンチを設定し、調査を進めた。これらがある程度進捗してきたところで、補足の必要が生じた部分に第10～16トレンチを追加で設定し、さらに進捗により第17～24トレンチを設定した。それらのうち第1次調査で第2～9・11・16トレンチが調査済であるため、今次調査では第10・12～15・18・23トレンチの調査を実施した。残したトレンチは次回に調査する予定である。

今次調査では合計7本のトレンチで計246.5㎡を調査し、縄文時代前期から近世までの幅広い時代の遺構・遺物を確認した。

遺構は、縄文時代の竪穴住居跡4軒、弥生時代の土坑7基、溝跡1条、平安時代の竪穴住居跡6軒、中世の土坑9基、溝跡3条、井戸跡1基、近世の掘立柱建物跡1棟、土坑1基、時期不明の土坑30基、溝跡4条、性格不明遺構2基が確認されている。弥生時代の土坑7基のうち3基は再葬墓遺構、3基は土器棺墓である。また中世の土坑9基はいずれも墓塚と考えられる。

遺物は、収納コンテナ(内寸530mm×356mm×234mm)で38箱ほど出土している。主な遺物は縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器・石製品、土製品である。中でも縄文時代晩期の土器がとりわけ目につく。

第2節 基本層序

1 上位層

調査区における土層の堆積は、平成18年調査の報告書『泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—』(平成23年8月25日、鈴木素行編集・発行)に倣い、整地・耕作により攪乱された層を第Ⅰ層、ローム層を第Ⅲ層、その中間の層を第Ⅱ層と大きく分類し、そこからアルファベットを付して分層し、さらに細分するものはアラビア数字を付して表記することとした。

また、遺物の出土位置など判別が困難な場合については、例えば第ⅠB1層及び第ⅠB2層から出土したものを、合わせて第ⅠB層からの出土と表記するなど、便宜的に総称として用いた箇所もある。

なお、これらの層位についてはトレンチごとに差異があるため、図についてはそれぞれのトレンチの項にて記載する。

第2表 収載遺構一覧表

№	遺構番号	位置		時期	備考
		グリッド	トレンチ		
1	SB1	C6h1, C6h2	12トレ	近世	
2	SD3	E9e8, E9e9	10トレ	中世	
3	SD6	E9c7	10トレ	中世	
4	SD7	E6e5, E6f5, E6e2, E6f2	14・23トレ	中世	
5	SD8	E7g1, E7h1	18トレ	不明	
6	SD9	E7i1, E7j1	18トレ	弥生	1次調査ではSX4
7	SD10	E7e1, E7e2	18トレ	不明	
8	SD11	E7e1	18トレ	不明	
9	SD12	E7d1, E7e1	18トレ	不明	
10	SE1	E6h2, E6i2	23トレ	中世	
11	S19	C5h3, C5h4, C5i3, C5i4	12トレ	縄文	
12	S110	C5h4-C5h7, C5i4-C5i7	12トレ	縄文	
13	S111	C5h9-C6h1, C5i9-C6i1	12トレ	縄文	
14	S112	C6h4-C6h6, C6i4-C6i6	12トレ	縄文	
15	S113	E8e5	10トレ	平安	
16	S114	E6g5, E6h5	14トレ	平安	
17	S115	E6h5-E6i5	14トレ	平安	
18	S116	E6g2-E6i2	23トレ	平安	
19	S117	F6e5, F6e5	15トレ	平安	
20	S118	F6d5	15トレ	平安	
21	SK49	E7e5	10トレ	不明	
22	SK50	E7e7	10トレ	中世	墓域
23	SK52	E8e5, E8e6	10トレ	中世	墓域
24	SK53	E7e6, E7e7	10トレ	不明	
25	SK54	C5h5	12トレ	不明	
26	SK55	C6i2, C6i3	12トレ	中世	墓域
27	SK56	C6i2, C6i3	12トレ	不明	
28	SK57	C5i6, C5i7	12トレ	中世	墓域
29	SK58	E6e3, E6e4	13トレ	近世	
30	SK59	F6h5, F6e5	15トレ	弥生	丙摩墓
31	SK60	F6e5	15トレ	弥生	丙摩墓
32	SK61	F6e5	15トレ	弥生	丙摩墓
33	SK62	E9e6	10トレ	不明	
34	SK63	E8e7	10トレ	不明	
35	SK64	E8e6	10トレ	不明	
36	SK65	E5e6	13トレ	不明	
37	SK67	E6d5	14トレ	弥生	土器積層
38	SK68	E6e2	13トレ	不明	
39	SK69	E6e4	13トレ	不明	
40	SK70	E6e5, E6e6	13トレ	不明	
41	SK71	E6e5, E6e6	13トレ	不明	
42	SK72	E6e6	13トレ	不明	
43	SK73	E6e6	13トレ	不明	
44	SK74	E6e6	13トレ	不明	
45	SK75	E6e6	13トレ	不明	
46	SK76	E6e3	13トレ	不明	
47	SK77	E6e2	13トレ	不明	
48	SK78	E6e2	13トレ	不明	
49	SK79	E6d2, E6e2	23トレ	中世	墓域
50	SK80	E6f2, E6g2	23トレ	中世	墓域
51	SK81	E7f1, E7f2	18トレ	弥生	土器積層
52	SK83	E7e1, E7f1	18トレ	弥生	土器積層
53	SK84	F6e4, F6e5	15トレ	弥生	
54	SK85	E7e1	18トレ	不明	
55	SK86	E7e6	10トレ	不明	
56	SK87	E7e8, E7e9	10トレ	中世	墓域
57	SK88	E7e9	10トレ	中世	墓域
58	SK89	E7e5	10トレ	不明	
59	SK90	E7e8	10トレ	不明	
60	SK91	E7e8	10トレ	不明	
61	SK92	E7e8	10トレ	中世	墓域
62	SK93	C5i6	12トレ	不明	
63	SK94	C5h3	12トレ	不明	
64	SK95	C5h3	12トレ	不明	
65	SK96	E6e4, E6e5	13トレ	不明	
66	SK97	E6e6	13トレ	不明	
67	SK98	E6e5	13トレ	不明	
68	SX6	E8e7, E8e8	10トレ	不明	墓域
69	SX7	E6j5	14トレ	不明	

第Ⅰ層

第Ⅰ層は現在の耕作土で、締まりは弱い。灰褐色。

第ⅠB1層は水田耕作の床土の層で、かなり堅く締まる。暗褐色。

第ⅠB2層も同様に水田耕作の床土で、堅く締まるが第ⅠB1層と比べると弱い。暗褐色で第ⅠB1層と比べるとやや黒みが強い。このため遅れて第ⅠB層を2つに分層したものである。

第ⅠC層は調査区域南西端に設定した第11トレンチの11・12区にのみ見られる層で、水田耕作の床土層の一部であるが黄褐色粒子を含有するため、第ⅠB層とは異なる扱いとした。暗褐色で堅く締まる。

第Ⅱ層

第Ⅱ1層は遺物包含層で褐色土。締まりは強い、粘性中。この層が失われているトレンチも多い。

第Ⅱ2層は遺物包含層で暗褐色土。締まりは強い、粘性中。普遍的に存在する。

第Ⅱ3層は遺物包含層で暗褐色土。締まりは強い、粘性中。ただし第Ⅱ2層と比べると締まりはやや弱く、黒みはやや強い。

第ⅡB層は暗褐色土と黄褐色ローム土の混合層であり、ローム粒子が不均一に混じる、第Ⅲ層への漸移層である。締まり中。

2 下位層 (第5図)

第10トレンチ11・12区内のE9c5区は遺構が所在しないため、基本土層確認用のテストピットを掘削している。地表面から180cmまで調査した。土層断面図は、第10トレンチの土層断面図と併せて示した。

第Ⅲ層

橙色(7.5YR6/8)ローム層である。締まりは強く、最上面に今市スコリア(Nt-I)と考えられる橙色の火山礫を混入する。なおNt-Iの上位にはほぼ同一期に降灰した七本桜バミス(Nt-S)と呼ばれる白色火山灰が堆積しているはずであるが、上層に取り込まれたためか層としては認められなかった。確認できる層厚は8～10cmである。

第Ⅳ層

第ⅣA層は平成18年の調査時に確認されている橙色(7.5YR6/8)のローム層で、当時は第Ⅳ層としていたが、以下分層可能であるため分層した。黒土が粒状に少量混じる。確認できる層厚は16～18cmである。

第ⅣB層は橙色(7.5YR6/8)のローム層である。黒土が粒状に極少量混じる。確認できる層厚は7～14cmである。

第ⅣC層は橙色(7.5YR6/8)のローム層である。粘性強。確認できる層厚は9～15cmである。

第ⅣD層は黄橙色(7.5YR7/8)のローム層である。粘性強。砂が少量混じる。確認できる層厚は10～26cmである。

第ⅣE層は浅黄橙色(7.5YR8/4)のローム層である。粘性強。砂が混じる。確認できる層厚は5～28cmである。

第ⅣF層は明褐色(7.5YR7/1)のローム層である。砂・粘土・礫が混じる。確認できる層厚は45～55cmである。

第3節 遺構と遺物

本節においては、今回の調査で確認された遺構と遺物をトレンチごとにまとめて解説し、所見を付す。以下、トレンチ順に記す。

1 第10トレンチ (第3～5図)

(1) 調査概要

E6c0区からE9c9区までの区域に、長さ59m、幅2mの南北に長いトレンチを設定した。調査区域の南端に設定したトレンチで、主目的は当遺跡の立地する低位段丘面の南の限界を掴むことである。また、第3トレンチと第11トレンチに挟まれた区域の遺構分布状況の確認も目的の一つである。

しかし、トレンチ全てを調査する必要はないと判断したため、そのうち実際に調査したのはE7c5区からE7c9区にまたがる3・4区 (第3図) の長さ10m、E8c5区からE8c9区にまたがる7・8区 (第4図) の長さ10m、E9c5区からE9c9区にまたがる11・12区 (第5図) の長さ9mの合計29mである。

また、それぞれ、西壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。

なお、第10トレンチ11・12区では、基本土層観察のため、遺構の所在しない箇所にテストピットを設置している (第5図参照)。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

①平安時代

(i) 竪穴住居跡

第13号竪穴住居跡 (S113, 第4・6図)

位置 E8c5区に位置する。第10トレンチ7・8区の第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 竈以外はトレンチ外に延びており確認できないため、不明である。

重複関係 第64号土坑に切られている。

土層 3層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

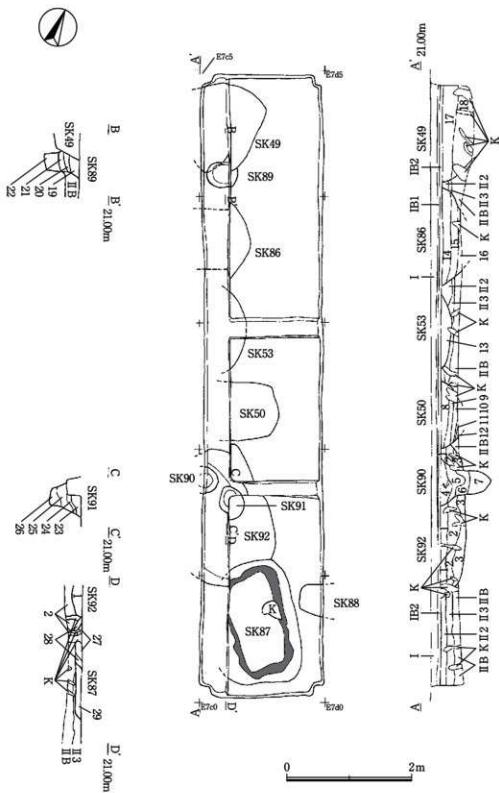
- | | |
|--------------------|---|
| 9 褐色 (75YR 4/4) | ローム粒子少量、Nt-I極少量、締まり中、粘性中 |
| 10 褐色 (75YR 4/4) | ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、Nt-I極少量、締まり中、粘性中 |
| 11 ぶい褐色 (75YR 5/4) | ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、Nt-I少量、Nt-S少量、締まり強、粘性中 |

床 確認していない。

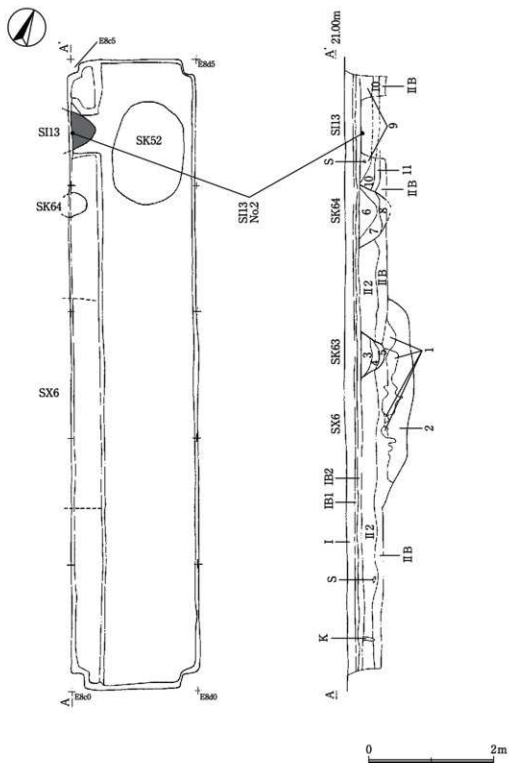
竈 粘土、砂岩で構築されている。煙道は、緩やかに西傾するよう掘り窪められ、掘り方底面は黒褐色になる。東竈である。

柱穴 確認していない。

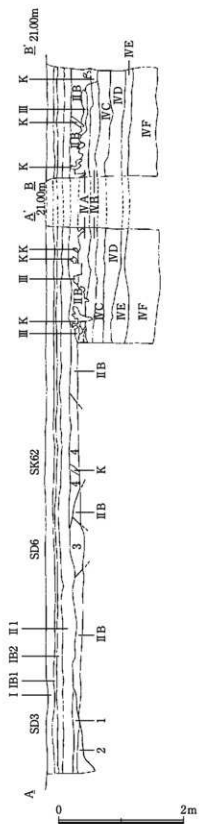
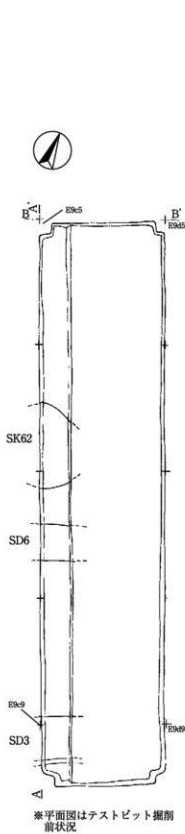
遺物出土状況 土器等11点が出土している。うち土師器2点(甕2)を掲載する (第7図, 第3表)。



第3図 第10トレンチ3・4区実測図

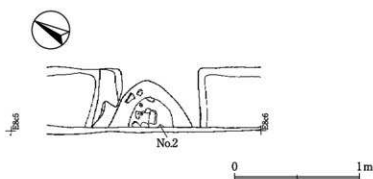


第4図 第10トレンチ7・8区実測図



第5図 第10トレンチ11・12区実測図

所見 出土遺物及び形状から、平安時代の堅穴住居跡と考えられる。



第6図 第13号堅穴住居跡実測図



第7図 第13号堅穴住居跡出土遺物実測図

第3表 第13号堅穴住居跡出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第7図	1	土師器	甕	口縁～ 胴部, 5%	[30.0] 胴部わずかに内彎。頸部は緩やかに屈曲し、口縁がやや外傾。内外面ナデ。内面わずかに輪積み痕	メノウ粒少量、メノウ塵・チャート粒・雲母細粒微量	やや不良	外面にふい 橙色。内面に ふい黄橙色	カマド 内	3片	PL21 他同一個多 数。同一 個体の胴 部に煤が 付着
	2	土師器	甕	口縁～ 頸部, 5%以 下	体部内彎・内傾。頸部でくの字状に屈曲、口縁部外反・外傾。口縁端部わずかにつまみあげ。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ塵・泥岩塵・チャート粒・雲母細粒微量	良好	内外面にふ い黄橙色	覆土中	—	PL21 他同一個 体片多 数。トレ ンチ壁面 にも残存

②中世

(i) 土坑

第50号土坑 (SK50, 第3図)

位置 E7c7区に位置する。第10トレンチ3・4区の第II2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は短軸102cm、長軸の方位はN-65°-Eの隅丸長方形である。

土層 5層からなり、人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------|---|
| 8 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子中量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 9 黒褐色 (75YR3/2) | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 10 褐色 (75YR4/3) | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強 |
| 11 黒褐色 (75YR3/2) | ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 12 褐色 (75YR4/3) | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが, 形状や覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

第52号土坑 (SK52, 第4図)

位置 E8c5区, E8c6区に位置する。第10トレンチ7・8区の第II2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸160cm, 短軸112cm, 長軸の方位はN-15°-Eの楕円形である。覆土にはローム粒子・ローム小ブロックを多く含む。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが, 形状や覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

第87号土坑 (SK87, 第3図)

位置 E7c8区, E7c9区に位置する。第10トレンチ3・4区の第II2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸195cm, 短軸130cm, 長軸の方位はN-38°-Wの隅丸長方形で, 深さは12cmである。粘土貼土坑である。

重複関係 第92号土坑を切っている。

土層 3層からなる。土坑内に黒褐色土(29層)を入れた上で, 粘土(28層)を貼っている状況が確認できる。覆土(27層)は締まりがやや弱く, 人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | |
|------------------|--|
| 27 黒褐色 (10YR2/2) | ローム粒子少量, Nt-S極少量, 粘土小ブロック少量, 締まりやや弱, 粘性やや弱。粘土貼土坑内部の覆土である |
| 28 褐色 (10YR4/1) | ローム粒子中量, 粘土大ブロック中量, 粘土中ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり強, 粘性強。粘土貼りの本体である |
| 29 黒褐色 (10YR3/1) | 粘土中ブロック少量, ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 締まりやや強, 粘性やや強 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが, 形状や覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

第88号土坑 (SK88, 第3図)

位置 E7c9区に位置する。第10トレンチ3・4区の第II2層上面で確認できた。

規模と形状 東部がトレンチ外に延びるが, 平面は長軸不明, 短軸50cm, 長軸の方位はN-74°-Eの隅丸長方形と考えられる。覆土は粘土質である。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できないが, 覆土の状況からは中世の墓塚の可能性が考えられる。

第92号土坑 (S K 92, 第3図)

位置 E7c8区に位置する。第10トレンチ3・4区の第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は長軸205cm、短軸155cm、長軸の方位はN-42°-Wの隅丸長方形で、深さは40cmである。

重複関係 第87・90・91号土坑に切られる。

土層 3層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 (75YR3/2) ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
- 2 暗褐色 (75YR3/3) ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
- 3 暗褐色 (75YR3/4) ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状や覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

(ii) 溝跡

第3号溝跡 (SD3, 第5図)

位置 E9c8区、E9c9区に位置する。第10トレンチ11・12区の第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 溝中央がトレンチ外となる。確認できるだけで上端の幅133cm、深さ33cmある。走向はN-65°-Eでトレンチに概ね直交する。

土層 土層は2層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 (75YR3/4) ローム粒子少量、Nt-I極少量、締まり強、粘性中
- 2 暗褐色 (75YR3/3) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、Nt-I極少量、締まり強、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物は伴わないが、形状から中世の区画溝と考えられる。位置、形状、走向などから、第1次確認調査において第11トレンチ11・12区で確認された第3号溝と同一と判断した。

第6号溝跡 (SD6, 第5図)

位置 E9c7区に位置する。第10トレンチ11・12区の第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できる。

規模と形状 上端の幅94cm、走向はN-69°-Eでトレンチに概ね直交する。確認できる深さは21cmである。

重複関係 第62号土坑に切られている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

- 3 褐色 (75YR4/3) ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、小礫少量、Nt-I極少量、締まり強、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物は伴わないが、形状から中世の区画溝と考えられる。

③時期不明

(i) 土坑

第49号土坑 (SK49, 第3図)

位置 E7c5区に位置する。第10トレンチ3・4区の第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できる。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、長軸150cm、短軸105cm、長軸の方位はN-53°-Eの隅丸長方形と考えられる。

重複関係 第89号土坑を切っている。

土層 覆土は2層からなり、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 17 暗褐色 (75YR3/3) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中。遺物・骨片を含む
- 18 暗褐色 (75YR3/4) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S少量、締まり中、粘性中。遺物・骨片を含まない

遺物出土状況 土器等51点、骨片11点が出土している。うち縄文土器4点(深鉢4)を掲載する(第8図, 第4表)。上層から遺物が出土したが、下層からは出土しない。骨片も上層に多く、下層にはない。上層からのみ出土する縄文土器は、いずれも混入の可能性が高く、時期判断には至らない。

所見 時期は特定できず、性格も不明である。



第8図 第49号土坑出土遺物実測図

第4表 第49号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第8図 1	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	外傾気味。口縁端部平坦。外面に横走沈線2条、上位に縄文帯、中位は磨消。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒微量	良好	明赤褐色	覆土上層	—	PL21 後期末～ 晩期初頭
2	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内彎、外傾。外面縄文・結節縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・凝灰岩砂粒・雲母細粒微量	やや不良、一次焼成	外面黒褐色・内面灰褐色	覆土上層	—	PL21 晩期前葉 ～中葉
3	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内彎気味、わずかに外傾。外面に波状と直線状の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色、内面灰白色、内部褐色	覆土上層	—	PL21 後・晩期 粗製土器
4	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内彎、外傾。外面捩糸文、内面ナデ	メノウ粒少量、チャート礫・雲母微量	普通	外面にふい内面黒褐色	覆土上層	—	PL21 後・晩期 粗製土器。内面炭化物付着

第53号土坑 (SK53, 第3図)

位置 E7c6区, E7c7区に位置する。第10トレンチ3・4区の第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は径117cmのほぼ円形で、深さは17cmである。底面は皿状で、ゆるやかに立ち上がる。

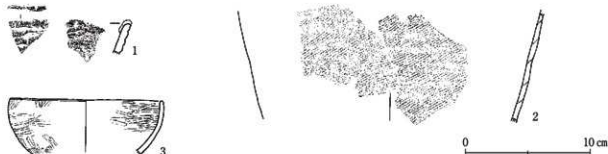
土層 1層からなり、堆積状況は不明である。

土層解説

13 暗褐色 (7.5YR3/3) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 綿まり中, 粘性中

遺物出土状況 土器等44点, 骨片1点が出土している。うち縄文土器3点(浅鉢1, 深鉢1, 小型深鉢1)を掲載する(第9図, 第5表)。ただし, これらの土器はいずれも混入の可能性が高く, 時期判断には至らない。

所見 時期は特定できず, 性格も不明である。



第9図 第53号土坑出土遺物実測図

第5表 第53号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第9図 1	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	外傾。口縁端部にB突起。外面羊歯状文。突起部内面に粘土貼付け。沈線。内外面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量, 石英粒・金雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒色。内部褐灰色	サブトレ内	—	PL21 晩期前葉
2	縄文土器	深鉢	胴部, 10%	—	直線的。外傾。現存上部径[32]cm前後。外面縄文・結節縄文, 一部に輪積み痕。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・泥岩礫・雲母細粒微量	良好, 一部二次焼成	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色・黒褐色。内部赤褐色。にぶい黄橙色	覆土中壁面	8片	PL21
3	縄文土器	小型浅鉢	口縁~胴部, 15%	[120] (4.4)	胴部内彎, 外傾。口縁部でわずかに内傾。内外面ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色。内面褐灰色。にぶい褐色	サブトレ内	—	PL21

第62号土坑 (SK62, 第5図)

位置 E9c6区に位置する。第10トレンチ11・12区の第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるため不明である。確認できるだけで上端の幅は213cmある。

重複関係 第6号溝を切っている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

- 4 褐色 (75YR 4/3) ローム大ブロック多量、ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、Nt-I少量、Nt-S少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 土器等3点が出土している。うち土師器1点(高台付坏1)を掲載する(第10図、第6表)。ただし、この土器は混入の可能性が高く、時期判断には至らない。

所見 重複関係から中世以降と考えられるが時期は特定できず、性格も不明である。



第10図 第62号土坑出土遺物実測図

第6表 第62号土坑出土遺物観察表

種別	種別	器種	部位・残存率	口径・高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第10図	1	土師器	高台付坏 口縁~ 体部、 10%	[16.0]	外輪、内彎、口縁部でわず か外反。外面ロクロナデ。 内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒・メ ノウ礫少量、 雲母細粒・ 海綿骨針微 量	普通	外面灰褐色・ にぶい褐色、 内面黒色	覆土中	—	PL21 高台付は 推定

第63号土坑 (SK63, 第4図)

位置 E8c7区に位置する。第10トレンチ7・8区の西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 セクションで確認できる上端の幅は73cm、深さは47cmである。

重複関係 第6号性格不明遺構を切っている。

土層 3層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 3 黒褐色 (75YR 3/1) ローム粒子極少量、締まり中、粘性中
4 褐色 (75YR 4/4) ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、Nt-I極少量、締まり中、粘性中
5 褐色 (75YR 4/4) ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、Nt-I極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第64号土坑 (SK64, 第4図)

位置 E8c6区に位置する。第10トレンチ7・8区の第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面はセクションも併せて見ると径96cmのほぼ円形である。

重複関係 第13号堅穴住居跡を切っている。

土層 3層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 6 黒褐色 (75YR 3/2) ローム粒子少量、Nt-I極少量、締まり中、粘性中
7 暗褐色 (75YR 3/3) ローム粒子中量、Nt-I極少量、締まり中、粘性中
8 暗褐色 (75YR 3/3) ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、Nt-I極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 重複関係から平安時代以降と考えられるが時期は特定できず、性格も不明である。

第86号土坑 (SK86, 第3図)

位置 E7c6区に位置する。第10トレンチ3・4区の第II2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は径154cmのほぼ楕円形と考えられる。深さは34cmで、ゆるやかに立ち上がる。

土層 3層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 14 暗褐色 (7.5YR3/4) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
15 褐色 (7.5YR4/3) ローム粒子中量, ローム小アブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
16 褐色 (7.5YR4/4) ローム粒子多量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強

遺物出土状況 土器等2点が出土している。うち縄文土器1点(小型鉢1)を掲載する(第11図, 第7表)。ただし、この土器は混入の可能性が高く、時期判断には至らない。

所見 時期は特定できず、性格も不明である。



第11図 第86号土坑出土遺物実測図

第7表 第86号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第11図 1	縄文土器	小型鉢か	口縁~胴部, 10%	— — —	内壁, 内頤。外面縄文, 横走沈線2条, 間を磨消し, 下位にも沈線1条。内面ナデ	メノウ粒少量, 灰色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面にふい赤褐色, 内面・内部黒褐色	覆土中	—	PL21 海綿骨針 顕著

第89号土坑 (SK89, 第3図)

位置 E7c5区に位置する。第10トレンチ3・4区の第II2層上面で確認できる。

規模と形状 平面は径50cmの円形で、深さは54cmである。底面は平坦で、径26cmである。

重複関係 第49号土坑に切られている。

土層 4層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 19 暗褐色 (7.5YR3/3) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
20 黒褐色 (7.5YR3/2) ローム小アブロック少量, ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
21 暗褐色 (7.5YR3/3) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
22 褐色 (7.5YR4/3) ローム粒子中量, ローム小アブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第90号土坑 (SK90, 第3図)

位置 E7cs区に位置する。第10トレンチ3・4区の第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は上端の径75cmの円形で、深さは77cmである。

重複関係 第92号土坑を切っている。

土層 4層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 4 暗褐色 (7.5YR3/3) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
 5 暗褐色 (7.5YR3/4) ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
 6 褐色 (7.5YR4/3) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強
 7 暗褐色 (7.5YR3/4) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強

遺物出土状況 土器等3点が出土している。うち縄文土器1点(深鉢1)を掲載する(第12図, 第8表)。ただし、この土器は混入の可能性が高く、時期判断には至らない。

所見 時期は特定できないが、形状から柱穴と考えられる。



第12図 第90号土坑出土遺物実測図

第8表 第90号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第12図	1	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	直線的, 外傾, 薄手, 外面横走沈線3条と縄文帯2段, 磨消縄文による無文帯2段, 内面ナデ	メノウ粒少量, 凝灰岩礫, 金雲母・黒雲母・海綿骨針微量	良好, 堅緻	サンドイッチ状, 内外面灰黄褐色, 内部褐灰色	覆土中(サブトレイ)	—	PL21 晩期初頭

第91号土坑 (SK91, 第3図)

位置 E7cs区に位置する。第10トレンチ3・4区の第Ⅱ層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径103cmの円形で、深さは50cmである。

重複関係 第92号土坑を切っている。

土層 4層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 23 黒褐色 (7.5YR3/2) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中, 表面に灰が極少量混じる
 24 暗褐色 (7.5YR3/3) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
 25 黒褐色 (7.5YR3/2) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
 26 黒褐色 (7.5YR3/2) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 中世以降と考えられるが、時期は特定できない。形状から柱穴と考えられる。

(ii) 性格不明遺構

第6号性格不明遺構 (S X 6, 第4図)

位置 E 8 c 7区, E 8 c 8に位置する。第10トレンチ7・8区の第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるため、不明である。確認できるだけで上端の幅は312cm、深さは45cmある。立ち上がりは緩やかで、南側は特に緩やかである。

重複関係 第63号土坑に切られている。

土層 2層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 明黄褐色 (10YR 7/6) N t - S層, 混入物なし
- 2 橙色 (7.5YR 6/8) N t - I層, 混入物なし

遺物出土状況 出土していない。

所見 第ⅡB層以下にあり、N t - S層、N t - I層により埋められていることから、旧石器時代の所産の可能性もある。ただし自然地形である可能性も捨てきれず、結論を導くには至らなかった。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する (第13・14図, 第9表)。

遺物出土状況 土器等909点、石器等11点、骨片8点、炭化物6点、鉄製品3点が出土している。うち縄文土器38点 (深鉢13, 浅鉢9, 鉢7, 小型鉢5, 小型浅鉢3, 壺1), 土師器2点 (坏2), 須恵器2点 (壺1, 壺1), 土製品1点 (土偶1), 石器・石製品11点 (砥石3, 石棒2, 石鎌2, 調整痕のある剥片1, 石剣1, 磨石1, 石錘1) を掲載する。第1次調査の第4・5トレンチで見られた傾向と同様、縄文晩期の遺物が多く確認されている。

(3) 所見

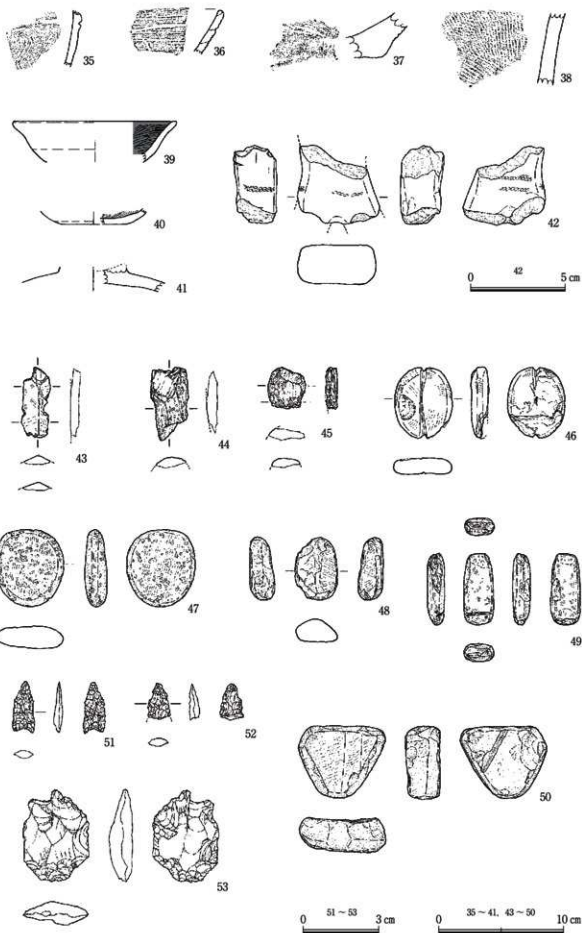
サブトレンチ内の第Ⅲ層が南傾することを想定して設定したトレンチであるが、明確な傾斜は現れなかった。第1次確認調査において、第3号溝跡は第11トレンチで確認されていたが、その走向を押さえたことで、この溝跡が、同じく第1次確認調査において第3トレンチで確認された第4号溝跡と同一と考えられるに至った。いずれも南側の立ち上がりが確認されておらず、周辺地形も考え合わせると、第3・4号溝としたのは人為的な遺構ではなく、西の台地側から東の久慈川低地に向う緩やかな谷地形の北端を形成する自然地形の可能性がある。ロームが途切れることをもって当遺跡の載る低位段丘面の限界を捉えようとしたのであるが、ロームが途切れないまま低位段丘の南限に至っている可能性が考えられる。

また、これまで調査したトレンチと同様、平安時代の竪穴住居跡、中世墓壙も確認されており、これらの時代の遺構は、低位段丘面のほぼ全域にわたって広がっていることが分かる。

なお、出土遺物の傾向としては、第1次調査の第4・5トレンチで見られたように、縄文晩期の土器や石棒等が圧倒的に多い。さながら縄文晩期遺跡の様相を呈している。



第13図 第10トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第14図 第10トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)

第9表 第10トレンチ遺構外出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第13図	1	縄文土器	胴部、5%以下	—	わずかに外反、やや外傾。外面縄文。内面丁寧なナデ	繊維土器。メノウ粒少量、凝灰岩砂粒・雲母微量	やや不良	外面・内面黒色、内面にぶい黄褐色	E7c5付近挿土中	—	PL22前期
	2	縄文土器	口縁部、5%以下	—	外反、わずかに外傾。外面縄文(器表摩耗により不明瞭)を地文に縦位の平行沈線2条、間を磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒、灰色砂粒・雲母微量	やや不良、外面摩耗著	サンドイッチ状。外面灰白色、内面灰黄褐色。内面褐色	E7c7、I B層	—	PL22
	3	縄文土器	胴部、5%以下	—	わずかに外反、外傾。波状口縁の波頭部下部。三角形区画文を形成する刻文帯に豚鼻状貼瘤。その下の横帯には縄文・地文に沈線による円文・弧状文。その下に豚鼻状貼瘤。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、長石粒、灰色砂粒・雲母微量	良好	外面黒色。内面内暗赤褐色	E7c9、II層上面	—	PL22安行2式
	4	縄文土器	胴部、5%以下	—	精製。外反、外傾。外面は横走沈線で区画し、上に斜位の刻線・ミガキで区画し横位の刻線文帯。下に無文帯(ミガキ)、縦位の刻線と刻文帯。内面ミガキ	砂質。泥岩粒中量、石英・長石・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好、堅緻	外面黒色。内面黒褐色	E7c8サブトレ、II層	—	PL22後期後葉～晩期初頭
	5	縄文土器	口縁部、5%以下	—	わずかに外反、やや外傾。口縁部外面に下を横走沈線で区画された縄文帯。沈線下ミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面にぶい橙褐色	E7c7、I B層	—	PL22後期後葉～晩期前葉
	6	縄文土器	口縁部、5%以下	—	内彎気味。わずかに内傾。外面に縄文帯。下を横走沈線で区画し磨り消し。内面ミガキ	メノウ粒少量、白色砂粒、雲母細粒・海綿骨針微量	良好	内外面灰黄褐色	E7c6、II層上面	—	PL22後期後葉～晩期前葉
	7	縄文土器	胴部、5%以下	—	外傾。外面は縄文帯と磨消帯を区画する横走沈線上に、切り込みで隆起させた2個1組の瘤。内面ミガキ	メノウ粒少量、褐色砂粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内面褐色	E7c8サブトレ、II層	—	PL22後期後葉～晩期初頭
	8	縄文土器	口縁部、5%以下	—	直線的。外傾。外面縄文に平行な横走沈線2条。上位の沈線上に切り込みを入れ、瘤を形成。内面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒、灰色砂粒・雲母微量	良好	内外面褐色。内面褐色。中心部赤灰色	E8c7、I B層	—	PL22安行3a式
	9	縄文土器	小型鉢、口縁部、5%以下	[130] (49)	外傾。外反。口縁部外面に平行な横走沈線で区画された。上から縄文帯、磨消による無文帯、縄文帯に列点文。内面ミガキ	メノウ粒少量、凝灰岩砂粒・雲母細粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面黒褐色	E7c8東西サブトレ、II層	—	PL22後期後葉～晩期初頭
	10	縄文土器	口縁部、5%以下	—	内傾。複合口縁。口縁部外面に縦位の連続キザミ、口縁部下に十字状沈線。左にも沈線。杵状区画連続か。内面ナデ	メノウ粗粒中量、チャート粒少量、泥岩粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内面褐色	E8c6、I B層	—	PL22後期後葉～晩期初頭
	11	縄文土器	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。口縁部外面にヘラ状工具による連続刺突文。内外面ミガキ	メノウ粒・白色砂粒・雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色	E7c8、I B層	—	PL22後期後葉～晩期初頭
	12	縄文土器	小型鉢、口縁部、5%以下	—	内彎。内傾。器壁薄い。外面横走と弧状の沈線。間にヘラ状工具による2段の連続刺突文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色。内面にぶい褐色	E7c7、II層上面	—	PL22

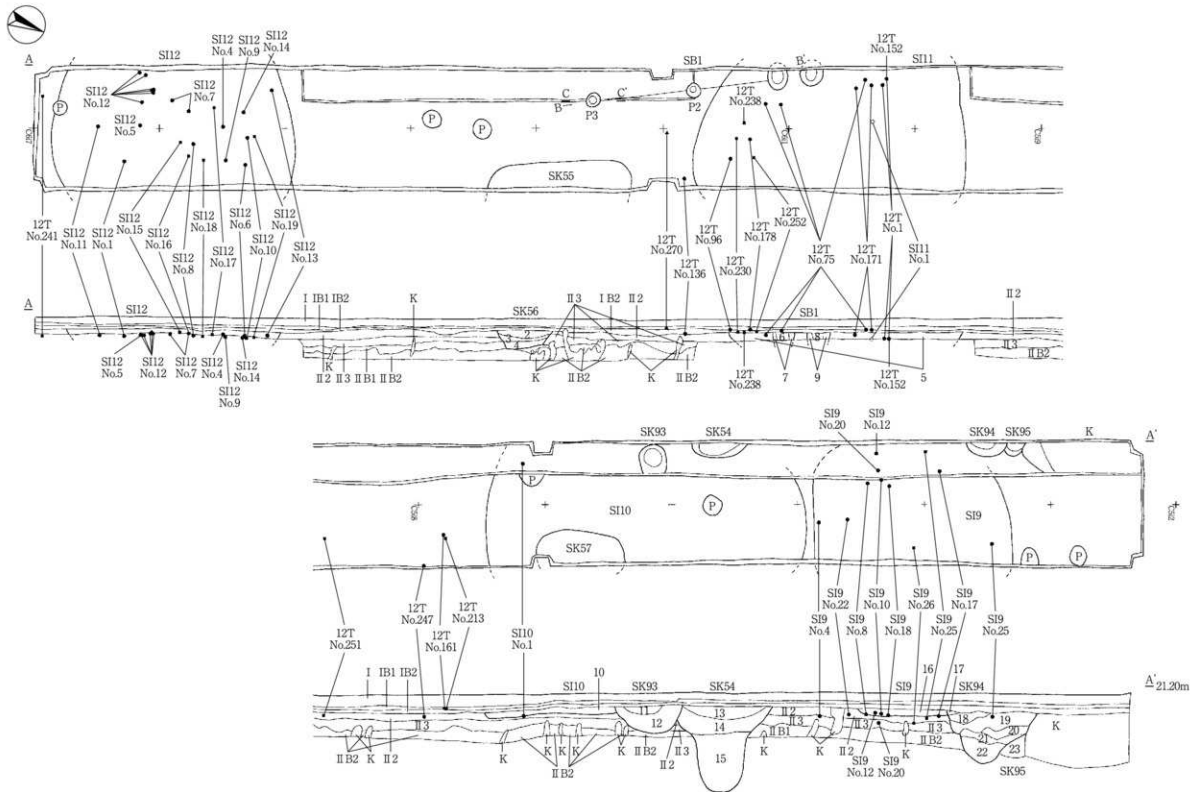
種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第13図	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内埴、内傾。外面ヘラケズリ。口縁部に細い横走沈線2条。下に右上がりの沈線1条。沈線の合流点に弧状沈線(円圏文の一部)。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・褐色砂粒・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐色	E7c7、I B層	—	PL22 晩期初頭か
13	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内埴、内傾。外面ヘラケズリ。口縁部に細い横走沈線2条。下に右上がりの沈線1条。沈線の合流点に弧状沈線(円圏文の一部)。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・褐色砂粒・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐色	E7c7、I B層	—	PL22 晩期初頭か
14	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内埴。外傾。縦波状口縁。外面に横走沈線2条と三叉文の一部。内外面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒・灰白色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色・灰褐色。内部にぶい赤褐色。中心部褐色	E7c9、I B層	—	PL22 後期末～ 晩期前葉
15	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内傾。内埴。上部外反。外面沈線と磨消縄文によるレンズ状区面に縄文部を挟み対向する三叉文。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面明赤褐色。内部褐色	E7c6、I B層	—	PL22 安行3a3式
16	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内埴。大きく外傾。外面磨消縄文による入組文の類か。内面ミガキ。外面20%剥離	メノウ粒少量、泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好、二次焼成	外面・内部黒褐色。内面灰褐色	E7c6、I B層	—	PL22 晩期、 外面・剥 離面に炭 化物付着
17	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	精製。内埴気味。わずかに外傾。波状口縁。口縁部外面に沈線で区画した縄文帯。下位に横走沈線1条。内外面無文・内面ミガキ。黒色処理	メノウ粒・褐色砂粒・雲母微量	良好	内外面黒色。外面一部にぶい黄褐色	E7c6サブトレ、II層	—	PL22 後期後葉 ～晩期前 葉
18	縄文土器	小型鉢	口縁部、5%以下	—	精製。内埴。外傾。波状口縁。外面に磨消縄文による入組文か。内面ミガキ。内外面黒色処理	精良。メノウ粒・灰褐色砂粒・雲母微量	良好	内外面黒色	E7c7、II層上面	—	PL22 安行3a3式 か
19	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに外傾。口縁部肥厚。口縁部外面に縄文帯。その下に弧状沈線文。内面ミガキ。内外面赤褐色塗彩	メノウ粒少量、石英礫・チャート粒・褐色砂粒・黒雲母微量	良好	内外面明赤褐色。内部褐色	E7c5、I B層	—	PL22 後期後葉 ～晩期前 葉
20	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	縦波状口縁。波頂部口縁端部にキザミ。外面縄文を地文に。下を横走沈線で区画した波頂部に玉抱き三叉文。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内部明赤褐色。中心部褐色	E7c6、I B層	—	PL22 晩期前葉
21	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内埴。外面に沈線による円文。中心に刺突。その脇から2本の横走沈線。内面ナデ。泥漿塗布か	メノウ粒少量、泥岩粒・石英粒・海綿骨針微量	普通	外面にぶい黄褐色・褐色。内面にぶい黄色	E7c9、II層上面	—	PL22 晩期前葉
22	縄文土器	小型浅鉢	口縁部、5%以下	—	内埴。外傾。波状口縁波頂部。波頂に若干の凹み。外面波に沿って縄文帯。下位にメガネ状浮帯文。内面ケズリ。のち粗いミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面褐色。内面にぶい褐色	E7c5～c9、II層上面	—	PL22 晩期中葉
23	縄文土器	小型浅鉢	胴部、5%以下	—	精製。内埴。外傾。波状口縁波頂部。外面三角形区面に斜位の細条線。横走沈線で区画した下にメガネ状浮帯文(施文順:突起右の沈線→突起貼り付け→左の沈線)。内面ミガキ	精良。メノウ粒・雲母細粒微量	良好、焼けムラ	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色・黒褐色。内部黒褐色	E7c5～c9、II層上面	—	PL22 晩期中葉
24	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内埴。外傾。胴部外面に上を凹ませた丸い突起を貼りつけ。基部に縦に孔を貫通。突起の左右を帯状に隆起させ、帯の上下と帯中央に沈線。内外面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩粒・灰褐色砂粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面暗赤褐色。内部褐色	E7c9、I B層	—	PL22 晩期
25	縄文土器	鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内埴。内傾。外面横走沈線文はレンズ状沈線文か。内面ナデ	メノウ粒少量、褐色砂粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面・内部黒褐色。内面にぶい褐色	E7c6、I B層ほか	2片	PL22 安行3c～ 3d式 外面炭化 物付着

種別	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第13回	26	縄文 土器	小型 鉢	胴部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口徑器高底径	精製。器壁薄い。内彎、外頰。外面磨消縄文による半歯状文、横走沈線の下に縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、灰色砂粒・褐色砂粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい赤褐色、内部褐色	E7c7、II層上面	—	PL22 晩期前葉
	27	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	外面に横走沈線3本。一部に2溝間の截痕。その下に縄文を施文。内面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒微量	良好	内外面黒褐色、内面一部褐色	E8c5、I B層	—	PL22 後期後葉 —晩期初頭
	28	縄文 土器	鉢	口縁部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	わずかに内彎、外頰。波状口縁。口縁部外面に縄文帯、その下に沈線で区画しながら列点文と三叉文。内面ミガキ	メノウ粒少量、灰色砂粒・雲母・海綿骨針微量	普通	外面にふい褐色、内面褐色、内部黒色	E8c8、I B層	—	PL22 晩期前葉
	29	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	内彎、大きく外頰。外面に磨消縄文による入組文。内面ミガキ	メノウ粒少量、雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、一部褐色、内部褐色	E7c7、II層上面	—	PL22 晩期前葉
	30	縄文 土器	壺	口縁部、 5%以下	[110]	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	わずかに内彎、外頰。外面に横走沈線、その下に低い突起の両脇から延びる横走沈線。内外面ミガキ	精良。メノウ粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色、内面黒褐色、内部黒褐色	E7c6、II層上面	—	PL22 後期後葉 —晩期初頭
	31	縄文 土器	小型 浅鉢か	口縁部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	水平方向ほとんど彎曲せず。外頰、頸部で屈曲して口縁部強く外頰。口縁部部ミガキ。内外面ナデ、一部に輪積み痕	メノウ粒少量、褐色砂粒・黒色砂粒・雲母微量	良好	内外面にふい褐色	E7c6、I B層	—	PL22
	32	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	胴部内彎・外頰、頸部で屈曲して外反。外面ミガキ、無文。内面ナデ、一部ミガキ状	メノウ粒中量、石英粒少量、チャート粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面褐色、内面黒褐色、内部褐色	E7c7、I B層	3片	PL22 胴部外面 炭化物付着
	33	縄文 土器	小型 鉢	口縁部、 5%以下	[110] (55)	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	器壁薄い。底部から屈曲して立ち上がり、外反・外頰無文。内外面ナデ、粗いミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩礫・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好、焼けムラ	内外面にふい黄褐色、一部褐色、黒褐色	E7c6、II層上面	—	PL23
	34	縄文 土器	深鉢	口縁部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	わずかに内彎、内頰。複合口縁。口縁端部にキザミ(器表覓れで不明瞭)、口縁部外面に2条の短条線、胴部外面に横位の条線文。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒少量、黒色砂粒・褐色砂粒微量	やや不良。脆い	サンドイッチ状。内外面褐色(内面ほとんど剥落)、内部褐色	E7c5、I B層	—	PL23 後・晩期 粗製土器
第14回	35	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	わずかに内彎、内頰。外面に途中で途切れる横走沈線2条、その下に波状条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、灰色砂粒・雲母微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい褐色、内面にふい褐色、内部褐色	E7c9、II層上面	—	PL23 後・晩期 粗製土器
	36	縄文 土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	わずかに内彎、外頰。外面に横位の、ち一部斜位の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、黒色砂粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色、内面にふい褐色、内部褐色	E8c7、I B層	—	PL23
	37	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	平底。胴部大きく外頰。外面撫余文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英礫・凝灰岩粒・褐色砂粒・雲母微量	普通	外面灰黄褐色、内面褐色、内部黒色	E8c8、I B層	—	PL23 後・晩期 粗製土器
	38	縄文 土器	深鉢	胴部、 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	わずかに外反、外頰。外面に縦位のち斜位の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英礫・泥岩礫・雲母微量	良好	外面にふい黄褐色、内面黒色	E8c7サブトレ、II層	—	PL23 内面炭化 物付着
	39	土師器	坏	口縁部、 5%	[130] (33)	—	—	—	—	—	—	
					口縁部	内彎・外頰。口縁部付近外反。外面ロクロナデ、内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、メノウ礫・褐色砂粒・泥岩粒微量	普通	内外面にふい褐色、内面一部黒色	E8c5、I B層	—	PL23

挿入	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第14図	40	土師器	坏	底部、5%	— — [5.0]	平底。回転ヘラ切り。体部内彎、外傾。体部外面回転ヘラケズリ。内面ミガキ、黒色処理	メノウ粒少量、石英塵・石英粒・チャート粒・褐色砂粒・黒雲母微量	良好	外面にふい 橙色・褐灰色、 内面黒色	E7c5、 I B層	—	PL23
	41	須恵器	蓋	天井部、5%	— — —	大きく内傾。内彎。環状つまみ。外面に自然釉。内面ロクロナデ	メノウ粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好、還元炎焼成	内面灰色、釉 灰オリーブ色	E8c6、 I B層	—	PL23

挿入	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第14図	42	土偶	(42)	(43)	—	(379)	胴下半部。胴上半部以上・脚部欠損。胴は扁平に作り、2脚が付く。3面の胴上部に縄文瓦痕1～2条	メノウ粒少量、雲母微量	良好	外面に ふい黄 褐色 内部褐 灰色	E7c8、 I B層	—	PL23 折損

挿入	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第14図	43	石剣	(5.5)	(2.2)	0.8	(9.8)	粘板岩	明瞭な直線の稜線をもつ。軸直交に近い方向の研磨調整痕	E9c5、 I B層	—	PL23 小破片
	44	石棒 未成品	(5.7)	(3.0)	(0.8)	(15.7)	粘板岩	一部に残る表面に敲打痕。図中央部の括弧は石棒の原形を反映している可能性	E7c6、 I B層	—	PL23 小破片
	45	石棒未 成品	(3.2)	(2.9)	(0.9)	(10.5)	粘板岩	一部に残る表面に敲打痕。図下部の括弧は石棒（または石剣）の原形を反映している可能性	E8c5、 I B層	—	PL23 小破片
	46	石鎌	5.6	4.5	1.3	(44.2)	ホルンフェルス	扁平な自然礫を一部整形して利用。長軸方向に研磨による溝	E7c7 サブレ II層	—	PL23 一部欠損
	47	磨石	6.1	5.3	1.8	75.8	多孔質安山岩	扁平な自然礫を利用。表裏に使用痕	E8c6 サブレ II層	—	PL23 完存
	48	砥石 (砥石)	5.0	3.3	2.0	39.8	砂岩	楕円形の扁平な礫を使用。砥面1面の手持ち砥石。1側縁に敲打痕	E8c9、 I B層	—	PL23 完存
	49	砥石か (石剣 再加工 品)	5.6	2.4	1.3	31.0	粘板岩	隅丸の短冊状。不完全ながら6面全面に研磨痕。1端近くの1面に軸直交方向の刻線。石剣破損品を再利用した手持ち砥石か	E7c5、 I層	—	PL23 完存
	50	砥石	5.7	6.8	2.7	120.2	砂岩	三角形の扁平な礫を使用。1面を砥面として利用。浅い溝状の使用痕3条。2頂点は敲打に使用の可能性。表面の細い溝は後世の耕作等による傷	E8c8、 I B層	—	PL23 完存
	51	石鎌	2.0	0.9	0.3	0.5	メノウ	明黄褐色で透明感のある良質なメノウを使用。無茎。やや長い三角形。扱いは小さい	E7c8、 II層上 面	—	PL23 完存
	52	石鎌	(1.4)	(0.9)	(0.4)	(0.4)	メノウ	乳白色で透明感のある良質なメノウを使用。基部欠損。背面の調整がやや粗く未成のまま折断の可能性	E7c8、 II層上 面	—	PL23 一部欠損
	53	調整痕 のある 剥片 (接器 未成品 か)	3.6	2.6	0.9	9.1	赤玉石	剥片のはほぼ全局から剥離。剥離は不安定	E8c7、 I層	—	PL23 完存



第15図 第12トレンチ実測図

0 2m

2 第12トレンチ (第15図)

(1) 調査概要

C5h2区からC6h6区、C5i2区からC6i6区までの区域に、長さ29.5m、幅2mの南北に長いトレンチを設定した。調査区域の北西端に設定したトレンチで、主目的は第5トレンチ北側の遺構分布状況の確認である。特に第1次確認調査の際、第5トレンチで遺物が多く出土した、縄文時代晩期について注意を払った。

また、西壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。

なお、第12トレンチで確認された竪穴住居跡4基(第9～12号竪穴住居跡)については、プランに山砂を敷いてから、掘り上げた表土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

①縄文時代

(i) 竪穴住居跡

第9号竪穴住居跡 (S19, 第15図)

位置 C5h3区、C5h4区、C5i3区、C5i4区に位置する。第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面は径310cmのほぼ円形と考えられる。壁高は12cmで、外傾して立ち上がっている。

重複関係 第94号土坑に切られている。

土層 1層からなり、堆積状況は不明である。

土層解説

16 黒褐色(10YR3/1) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、焼土極少量、1～2mm程度の骨片極少量、締まりやや強、粘性やや弱、土器片・礫含む

床 ほぼ平坦である。

竈 確認していない。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器等259点、石器等6点が出土している。うち縄文土器22点(浅鉢8、深鉢5、鉢3、小型鉢2、壺1、小型浅鉢1、皿1、注口土器1)、石器・石製品6点(砥石2、石剣1、磨石1、凹石1、石鏃1)を掲載する(第16・17図、第10表)。

所見 出土遺物及び形状から、縄文時代晩期の竪穴住居跡と考えられる。

第10号竪穴住居跡 (S110, 第15図)

位置 C5h4区からC5h7区、C5i4区からC5i7区に位置する。第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

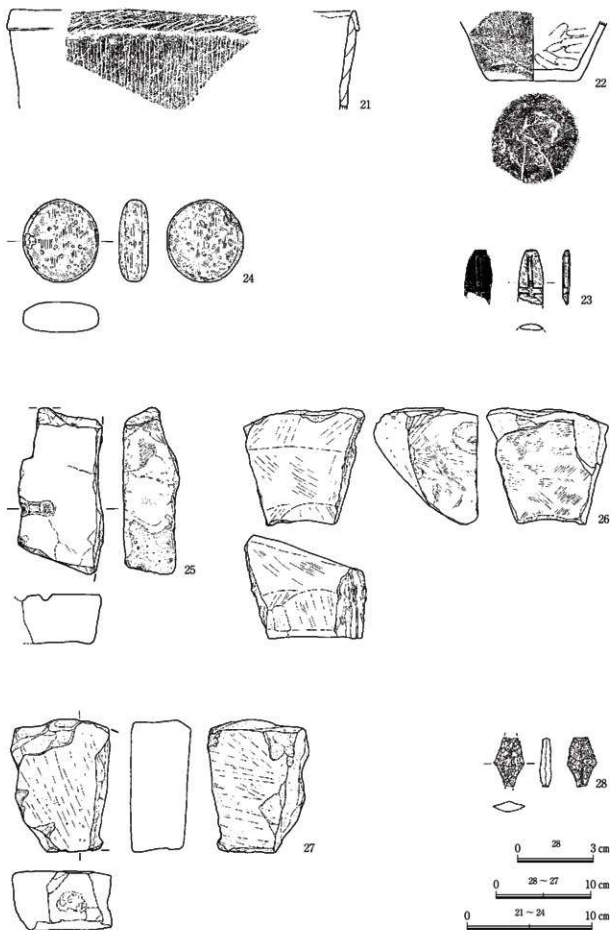
規模と形状 平面は径504cmのほぼ円形と考えられる。壁高は10cmで、外傾して立ち上がっている。

重複関係 第54・57・93号土坑に切られている。

土層 1層からなり、堆積状況は不明である。



第16图 第9号竖穴住居跡出土遺物実測図(1)



第17图 第9号竖穴住居跡出土遺物実測図(2)

第10表 第9号竪穴住居跡出土遺物観察表

種因	種別	器種	部位・残存率	口径高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第16因	1	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	わずかに内彎。外面肥厚させた口縁に指注文、これにより口縁小波状。胴部縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、炭灰岩礫・雲母粒微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。一部黒褐色。内部褐色	覆土中	—	PL24 後期末～晩期初頭
	2	縄文土器	浅鉢	口縁部5%以下	—	外傾わずかに内彎。口縁端部に横長の瘤を貼り付け、キザミ。ほか無文。外面と口縁端部ミガキ。内面ナデ。	メノウ粒少量、メノウ礫・海綿骨針微量	良好	内外面黒褐色。内部赤褐色。中心部褐色	覆土中	—	PL24 安行式
	3	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	胴部外傾。くの字に屈曲し口縁部は強く内傾。外面縄文施文の後、横走沈線。縦長の突起を貼り付けその上にも縄文と沈線で施文	メノウ礫・粒少量、白雲母細粒・海綿骨針微量	内外面褐色。一部黒褐色	内外面褐色。一部黒褐色	覆土中	—	PL24
	4	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	外傾。内彎気味。外面縄文、口縁部に横走沈線。沈線上に2個一組の貼瘤。下部にもう1段の横走沈線か。内面ナデ	メノウ粒少量、雲母・黒色礫微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内部褐色	覆土中	—	PL24 後期末～晩期初頭
	5	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	胴部下内傾。屈曲し口縁部内彎気味に外傾。口縁部外面縄文。屈曲部に沈線。胴部磨消。内面ナデ	メノウ粒少量、金雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面暗黄褐色。内面暗褐色	覆土中	—	PL24 晩期
	6	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	外傾。下半部内彎気味。上半外反気味。外面弧状沈線に区画された縄文と磨消縄文による文様帯(三叉文か)。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英礫・金雲母粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面にぶい赤褐色。内部褐色	覆土中	—	PL24 晩期初頭
	7	縄文土器	小型鉢	胴部、5%以下	—	外傾。弧状沈線による文様(三叉文か)。細密沈線を充填	メノウ粒少量、雲母微量	普通	黒褐色	覆土中	—	PL24 後期末～晩期初頭
	8	縄文土器	鉢	口縁部、5%	—	外傾。わずかに内彎。外面口縁部と下位に縄文帯。その間に沈線による弧線文・三叉状文による文様帯。内面ミガキ	メノウ粒・灰色砂粒少量、雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色。内面褐色	覆土中	—	PL24 晩期前葉か
	9	縄文土器	小型鉢か	胴部、5%以下	—	強く内傾。外面細い突帯上に細かい連続キザミ。その下に細かい連続利突。内面ナデ	メノウ粒少量、雲母細粒微量	良好	内外面にぶい赤褐色	覆土中	—	PL24 精製土器
	10	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、15%	[320] (7.2)	口縁～胴部外傾。胴部内彎。途中で屈曲し口縁部直線的。口縁端部にB突起。胴部外面横走沈線2条。間に弧状沈線。外面全面ミガキ。内面ナデ。粘土輪積み痕	メノウ粒少量、メノウ礫・灰色砂粒微量	良好	外面黒褐色。内面灰黄褐色	覆土中	—	PL24 晩期前葉。内外面に炭化物付着顕著
	11	縄文土器	鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内彎。外傾。縄文を地文に上方に結節縄文、下方に横走沈線で区画した磨消縄文。内面ナデ	チャート粒中量、金雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色。外面一部にぶい褐色	覆土中	—	PL24 晩期前葉～中葉
	12	縄文土器	鉢	口縁～胴部、15%	[220] (8.3)	大きく外傾。胴部直線的。口縁部わずかに内彎。口縁端部に突起(B突起の一部か)。外面無文。胴部ケズリ。口縁部外面～内面ナデ	メノウ粒中量、メノウ礫・チャート粒少量、雲母細粒微量	普通	内外面黒褐色。外面一部にぶい赤褐色	覆土中	—	PL24 内面炭化物付着
	13	縄文土器	浅鉢	口縁部5%以下	—	外傾。口縁端部に羊歯状文、小波状を呈す。外面横走沈線2条。その下に縄文と弧状沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、雲母細粒微量	普通、焼けムラ	外面黒褐色。にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色	覆土中	—	PL24 晩期前葉

種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考		
第16図	14	縄文 土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。口縁部内面に羊歯状文に類似する立体的な文様。外面横走沈線。内面ナデ	メノウ粒・チャート粒少量、褐色礫、黒色砂粒微量	良好	内外面浅黄褐色。一部サンドイッチ状、内面褐色	覆土中	—	PL24 晩期前葉
	15	縄文 土器	浅鉢	胴～底部10%	—	大きく外傾内彎。外面雲形磨消縄文。底部ミガキ。内面ナデ	メノウ粒中量、チャート粒少量、黒雲母微量	良好	外面黒褐色、内面にぶい黄褐色	覆土中	—	PL24 晩期中葉
	16	縄文 土器	壺	肩部	—	強く内傾。わずかに内彎。外面に二溝間の截痕。その下に雲形縄文。内面ケズリ	メノウ粒少量、石英礫、雲母細粒微量	良好	外面黒褐色、内面褐色	覆土中	—	PL24 晩期中葉
	17	縄文 土器	浅鉢	口縁部、5%	[230]	大きく外傾内彎。外面にはほぼ均等な間隔で横走沈線5条。1条目と3条目の間に縄文と突起。2条目は突起の左右に延びる。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒少量、石英礫微量	良好	にぶい黄褐色	覆土中	—	PL24 内外面赤色顔料付着。大洞C2式
	18	縄文 土器	小型浅鉢	頭～胴部、10%	(4.3)	胴部強く内彎しながら外傾して立ち上がり、屈曲して頭部外傾外反。無文。内外面ミガキ。器厚薄い	メノウ粒・灰色砂粒少量、メノウ礫・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色、内面褐色。内部にぶい黄褐色	覆土中	—	PL24 晩期
	19	縄文 土器	皿	口縁部、5%	[170]	大きく外傾。内彎気味。無文。内外面ミガキ。器厚薄い	石英粒・雲母粒・灰色砂粒少量、金雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内部褐色	覆土中	—	PL24
	20	縄文 土器	注口 土器	注口部	—	長さ45cm。大型の注口。本体側から先端にかけわずかに下に反りながら細くなる。筒状の注口を本体外面に貼り付け粘土で補強。外面ミガキ	石英粒・長石粒少量、金雲母・海綿骨針微量	良好、 焼けムラ	にぶい黄褐色。一部黒褐色	覆土中	—	PL24 赤色顔料付着か
第17図	21	縄文 土器	深鉢	口縁～胴部、10%	(7.8)	わずかに外傾。複合口縁。外面口縁部は斜め方向、胴部は斜め方向の縦方向の擦糸文。内面ナデ	メノウ礫少量、褐色砂粒微量	良好	外面にぶい赤褐色。内面黒褐色。にぶい黄褐色	覆土中	—	PL24 後・晩期の粗製土器
	22	縄文 土器	深鉢	胴～底部、10%	(4.8)	平底。胴部外傾・直線的。胴部外面擦糸文。内面ナデ。底部内外面ナデ	メノウ粒少量、黒雲母細粒・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい黄褐色	覆土中	3片	PL24 内面炭化物付着

種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (厚さ) (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第17図	23	石剣	(4.3)	(1.9)	(0.5)	(5.9)	粘板岩	頭部破片か。敲打による整形後磨研仕上げ。敲打痕が一部残る。端部近くを刻線により区画し、二重線による十字状の刻線。端部の区画と交わる部分は突き出る。	サブトレ内	—	PL24 一部残存
	24	磨石	6.6	6.1	2.5	141.3	多孔質安山岩	円に近い楕円形。表裏面に磨り面。側面の摩耗は少なく、整形のみか	サブトレ内	—	PL24 完存
	25	凹石	17.6	(9.1)	5.7	(949)	凝灰質砂岩	平らな大型硯を使用。図の左側面・下面は破断面。表面に3か所の凹み。2か所は溝状につながる。残りのよい1か所は径1.7cmの円形で深さ0.7cm	覆土中	—	PL25 一部残存。右側面と裏面スス付着
	26	砥石	(12.8)	(12.4)	(11.0)	(1.896)	砂岩	表裏面砥面。側面3面は破断面。うち1面に副次的な砥面。表面の破断面にかかる部分に凹み。凹石としても使用か	覆土中	—	PL25 一部残存
	27	砥石か	(14.1)	(10.8)	(6.3)	(1.645)	安山岩	右側面は破断面。表裏面やや平滑。表裏面と側面の一部には油脂または有機質状のものが浸みこんだような跡	サブトレ内	—	PL25 一部残存
	28	石巖	(1.9)	1.1	0.5	(0.8)	メノウ	有茎。両面とも丁寧な調整剥離。縁辺は交互剥離	覆土中	—	PL24 両端欠損

土層解説

10 黒褐色(10YR2/2) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 焼土・炭化物極少量, 締まりやや弱, 粘性やや弱, 土器片含む

床 ほぼ平坦である。

竈 確認していない。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器等59点が出土している。うち縄文土器4点(深鉢2, 浅鉢1, ミニチュア土器1), 土製品1点(土器片円盤1)を掲載する(第18図, 第11表)。

所見 出土遺物及び形状から, 縄文時代晩期の堅穴住居跡と考えられる。

第11号堅穴住居跡(S111, 第15図)

位置 C5h9区からC6h1区, C5i9区からC6i1区に位置する。第II2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面は径420cmのほぼ円形と考えられる。壁は外傾して立ち上がっている。

重複関係 第1号掘立柱建物跡に切られている。

土層 1層しか確認できず, 堆積状況は不明である。

土層観察

5 黒褐色(10YR3/2) ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 炭化物極少量, 締まりやや弱, 粘性やや弱, 土器片・礫含む, やや粘土質

床 確認していない。

竈 確認していない。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器1点が出土している。うち縄文土器1点(鉢1)を掲載する(第19図, 第12表)。

所見 出土遺物及び形状から, 縄文時代晩期の堅穴住居跡と考えられる。

第12号堅穴住居跡(S112, 第15図)

位置 C6h4区からC6h6区, C6i4区からC6i6区に位置する。第II2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面は径380cmのほぼ円形と考えられる。壁は外傾して立ち上がっている。

土層 1層しか確認できず, 堆積状況は不明である。

土層観察

1 黒褐色(10YR3/2) ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 炭化物極少量, 締まりやや弱, 粘性やや弱, 土器片・礫含む, やや粘土質

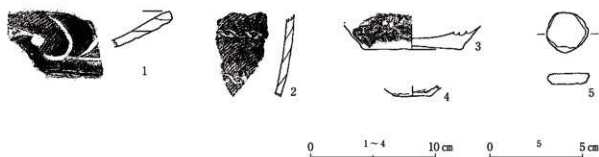
床 確認していない。

竈 確認していない。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器等91点, 石器等5点が出土している。うち縄文土器12点(深鉢4, 浅鉢4, 鉢1, 注口土器1, 壺1, 皿1), 土製品2点(耳栓1, 土器片円盤1), 石器・石製品5点(石剣1, 石棒1, 石錘1, 磨石1, 石鎌1)を掲載する(第20・21図, 第13表)。

所見 出土遺物及び形状から, 縄文時代晩期の堅穴住居跡と考えられる。



第18図 第10号竪穴住居跡出土遺物実測図

第11表 第10号竪穴住居跡出土遺物観察表

神岡	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第18図	1	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%	—	大きく外傾。内彎気味。口縁端部に指頭によるキザミ。外面弧状沈線文。一部に縄文を充填。沈線の結節点に丸い凹み。口縁端部～内面ミガキ	メノウ粒少量、灰色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面に赤い黄褐色。内部褐色	サブトレ内	—	PL25 安行3a式か
	2	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	外傾。やや内彎。外面縄文に結節縄文。内面ナデ	メノウ粒・灰色砂粒少量、雲母微量	普通、下位二次被熱	外面明赤褐色・灰黄褐色。内面灰褐色	サブトレ内	—	PL25 内面炭化物付着
	3	縄文土器	深鉢	胴～底部, 5%	[3.8]	平底。胴部外傾。胴部外面に条線文。底部内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ屑・チャート塵・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面黒褐色。内面に赤い黄褐色。内部褐色	覆土中	—	PL25 後・晩期の粗製土器
	4	縄文土器	ミナツ7土器	胴～底部, 10%	[1.4]	平底。胴部大きく外傾。内外面ナデ。調整が荒く凸凹	メノウ粒少量、チャート塵・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面黒褐色。内部褐色	サブトレ内	—	PL25 内面・一部外面赤色顔料付着

神岡	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第18図	5	土器片 円盤	22	21	—	2.8	小型。不整形。無文の土器片を磨って整形	メノウ粒少量、金雲母・海綿骨針微量	普通	にぶい黄褐色	サブトレ内	—	PL25 一部キズ



第19図 第11号竪穴住居跡出土遺物実測図

第12表 第11号竪穴住居跡出土遺物観察表

神岡	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第19図	1	縄文土器	鉢か	胴部上半, 5%	—	外傾。内彎。外面磨消縄文手法による雲形文。内面ナデ。積み痕が一部残る	メノウ粒少量、雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色・黒褐色。内面褐色	覆土中	—	PL25 大洞C1式

②中世

(i) 土坑

第55号土坑 (SK55, 第15図)

位置 C6i2区, C6i3区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 東部がトレンチ外に延びるが、平面は長軸153cm、長軸の方位はN-28°-Wの楕円形と考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状及び覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

第57号土坑 (SK57, 第15図)

位置 C5i6区, C5i7区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は長軸143cm、長軸の方位はN-59°-Eの楕円形と考えられる。

重複関係 第10号竪穴住居跡を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状及び覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

③近世

(i) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (SB1, 第15・22図)

位置 C6h1区, C6h2区に位置する。第II2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と構造 西部がトレンチ外に延びるが、確認された桁は2間で、規模は297cmである。桁行方向はN-16°-E、柱間寸法はP1-P2間が138cm、P2-P3間が159cmである。

重複関係 第11号竪穴住居跡を切っている。

柱穴 3箇所確認した(第22図)。

P1

規模と形状 平面は径33cmの円形である。

土層 2層からなり、7は柱穴埋土で人為堆積、6は柱穴抜き取り痕で堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | |
|---|---------------|--|
| 6 | 黒褐色 (25YR3/2) | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、Nt-S極少量、Nt-I極少量、締まりやや強、粘性やや強、柱痕に粘土質の土が入ったもの |
| 7 | 黒褐色 (10YR3/2) | ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、炭化物極少量、締まりやや弱、粘性弱 |

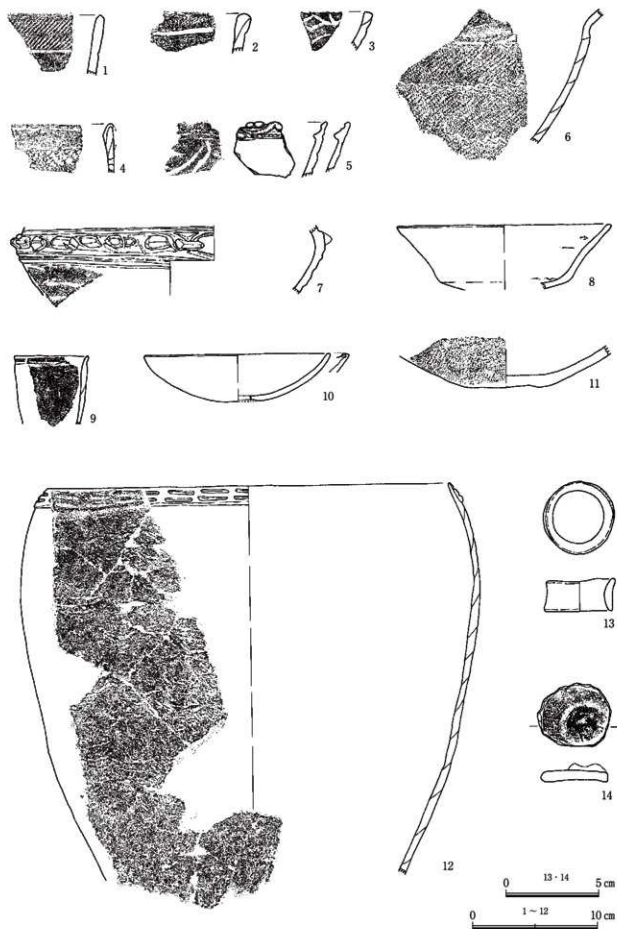
P2

規模と形状 平面は径23cmの円形で、深さは38cmである。

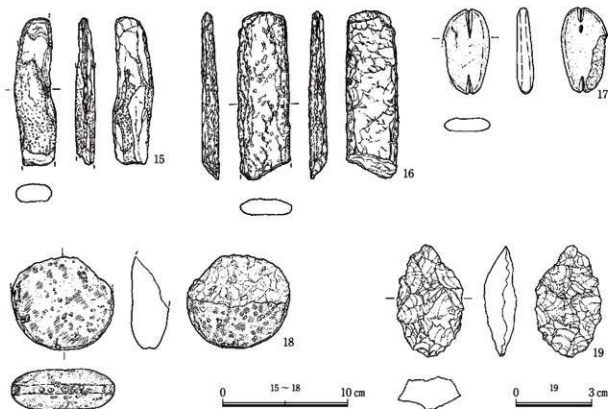
土層 7層からなり、6は柱穴埋土、1~5は柱抜き取り痕の埋土、7は根当たりで、すべて人為堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|---------------|---|
| 1 | 黒褐色 (10YR3/2) | ローム中ブロック中量、ローム小ブロック中量、ローム粒子少量締まり中、粘性やや強 |
| 2 | 黒褐色 (10YR3/1) | ローム粒子極少量、締まり弱、粘性中 |
| 3 | 黒色 (10YR2/1) | ローム粒子極少量、締まり極めて弱、粘性中 |
| 4 | 黒褐色 (10YR2/2) | ローム粒子少量、締まり弱、粘性中 |
| 5 | 黒褐色 (10YR3/2) | ローム粒子少量、締まりやや弱、粘性強 |



第20图 第12号竖穴住居跡出土遺物実測図(1)



第21図 第12号竪穴住居跡出土遺物実測図(2)

第13表 第12号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第20図 1	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	直線的, 外傾。口縁部外面縄文, 下位を横走沈線で区画し, 磨消縄文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色, 一部にぶい橙色。内部灰黄色	覆土中	—	PL26 後期末～晩期初頭
2	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎気味, 外傾。口縁部外面を横走沈線で区画し, 上は縄文を残し, 下は磨消縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量, チャート粒・黒色砂粒・雲母微量	良好	内外面灰黄褐色	覆土中	—	PL26 土器片円盤の可能性
3	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎, 外傾。口縁端部面取り。外面菱形状と弧状の沈線。内面ミガキ	メノウ粒少量, 泥岩?砂粒・黒色砂粒・雲母微量	良好	内外面黒褐色・褐灰色	覆土中	—	PL26 晩期前葉～中葉
4	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内彎, わずかに内傾。口縁部内側に肥厚。外面約2cm幅の貼付口縁剝離痕, 胴部縄文。内面ナデ。	メノウ粒少量, 石英粒・雲母細粒・長石粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色, 内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	覆土中	—	PL26 修理孔1孔(径5mm, 外側からの片側穿孔)
5	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内彎気味, 外傾。外面縄文を地文に弧状沈線内磨消。口縁端部と内面に立体的な雲形文	精良。メノウ粒・凝灰岩粒微量	やや不良。表面摩耗	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内部灰白色。内部褐灰色	覆土中	—	PL26 晩期前葉
6	縄文土器	鉢	胴～胴部, 10%	— — —	胴部内彎・外傾, 胴部で屈曲し外反。外面縄文に結節縄文3条。胴部は縄文をなで消し, 無文。内面ナデ	メノウ粒少量, チャート粒・褐色砂粒・雲母微量	普通	外面黒色・にぶい褐色。内面にぶい黄褐色・黒褐色	覆土中	—	PL26 晩期前葉～中葉

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第20図	7	縄文 土器	注口 土器 か 胴部 10%	— — —	内埴、大きく外傾。最大径 肩部26cm前後。最大径部分 外面に彫刻的磨消文。胴部 に磨消縄文による雲形文。 内面粗いミガキ	メノウ粒・石 英粒少量、黒 色砂粒・雲 母細粒・海綿 骨針微量	良好	サンドイッチ 状。外面にふ い黄褐色。内 面灰黄褐色。 内部黒色	覆土中	2片	PL26 大淵C1式 か	
	8	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 底部 20%	[17.0] (5.1) [10.0]	器壁薄く精製。丸底。胴部 内外反。外傾。口縁端部面取り。 内外面ミガキ。内面わずかに 輪積み痕	メノウ粒少 量、黒色砂粒・ 石英粒・雲母 細粒微量	良好、 焼けム ラ	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄褐色。 一部黒褐色。 内部褐色	覆土中	—	PL26
	9	縄文 土器	壺	口縁～ 頸部 5%	[5.8] (5.4) —	器壁薄く精製。わずかに外 傾してやや内埴気味に立ち 上がり。口縁部でわずかに外 反。口縁部外面に横走沈線 状の段。内外面丁寧なミガ キ・黒色処理	メノウ粒少 量、黒色砂粒・ 雲母細粒・海綿 骨針微量	良好	内外面黒褐 色	覆土中	—	PL26 晩期後葉
	10	縄文 土器	皿	口縁～ 底部 40%	[14.6] 3.7 [3.0]	小さな上げ底。口縁～胴部 内埴、大きく外傾。器厚薄い。 内外面ミガキ。無文。口縁 部内面の一部に細い沈線。 文様の一部か	メノウ粒・石 子雲 母細粒微量	良好、 焼けム ラ	内外面にふ い黄褐色。内 面一部黒色	覆土中	—	PL26
	11	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 底部 20%	— [5.0]	底部やや上げ底。胴部内埴 し大きく外傾。外面縄文。 内面・底面外面ミガキ	メノウ粒少 量、黒色砂粒・ 泥母砂粒・雲 母細粒微量	良好	外面黒色。内 面褐色	覆土中	—	PL26
	12	縄文 土器	深鉢	口縁～ 胴部 10%	[32.0] (30.9) —	胴部内埴・外傾。口縁部内埴・ 内傾。器厚薄い。胴部最大 径36.5cm。複合口縁。複合口 縁部分に横方向の短条痕(2 本本葉。幅文は1本ずつ)。 外面網目状捺糸文。一部輪 積み痕。内面ナデ	メノウ粗粒 中量、石英粒・ 雲母細粒・海 綿骨針微量	やや不 焼けム ラ	外面黒褐色・ 内面にふい 黄褐色・灰白 色。内面にふ い黄褐色。褐 灰色	覆土中	8片	PL26 後～晩期 粗製土 器。他に 接合しな い同一個 体あり

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第20図	13	耳栓	3.9 (径)	1.7 (厚さ)	2.7	(8.8)	薄い粘土板による 環状の耳栓。粘土 板は外反。	メノウ粒少 量、灰色砂粒	普通	サンドイッ チ状。内外面 にふい黄褐色。 内面黒色	サブト レ内	—	PL27 一部欠損
	14	土器片 円盤	3.9	3.3	—	10.5	環状貼付文のある 縄文土器胴部を 転用。弧状沈線に 沿って周辺折断整 形。	メノウ粒少 量、灰色砂粒・ 石英粒・海綿 骨針微量	良好	サンドイッ チ状。外面褐 灰色。内面灰 褐色。内部明 赤褐色。芯部 にふい褐色	サブト レ内	—	PL26

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第21図	15	石剣未 成品	(11.6)	3.3	1.5	(74.2)	粘板岩	長い扁平礫を敲打整形	覆土中	—	PL26 折損
	16	石棒 (石剣 か)未 成品	(13.2)	4.1	1.4	(114.3)	粘板岩	粗削りして長い扁平礫を作り、1面と側 面を敲打整形。表面は敲打痕なし	覆土中	—	PL26 折損
	17	石錘	6.8	(3.6)	1.3	(41.6)	砂岩	不整形円形の扁平礫を使用し、両端に溝 を切る	覆土中	—	PL26 一部破損
	18	磨石	(7.3)	8.2	3.2	(188.0)	多孔質 安山岩	やや扁平な円礫を利用	覆土中	—	PL27 一部欠損
	19	石鏃未 成品か	4.4	2.7	1.3	12.1	赤玉石	木葉形。表裏面に両側縁からやや雑な剥 離調整。側縁交互剥離	覆土中	—	PL26 完存

- 6 黒褐色 (10YR 2/3) ローム粒子少量, ローム中ブロック少量, 締まりやや強, 粘性中
 7 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, 締まりやや弱, 粘性強

P 3

規模と形状 平面は径24cmの円形で, 深さは37cmである。

土層 6層からなり, 11～13は柱穴埋土, 8・9は抜き取り痕の埋土, 10は根当たりであり, すべて人為堆積である。

土層解説

- 8 黒褐色 (10YR 3/2) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, N t-S極少量, 骨粉極少量, 締まりやや強, 粘性やや強
 9 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子少量, 焼土極少量, N t-S極少量, 締まりやや弱, 粘性強
 10 暗褐色 (10YR 3/3) ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 締まり強, 粘性強
 11 黒褐色 (10YR 3/1) ローム粒子少量, N t-S極少量, 締まり強, 粘性やや強
 12 黒色 (10YR 2/1) ローム粒子極少量, N t-S極少量, 骨粉極少量, 締まりやや強, 粘性強
 13 ぶい黄褐色 (10YR 4/3) ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 締まりやや弱, 粘性強

遺物出土状況 土器等10点が出土している。うち縄文土器1点(浅鉢1), 陶器1点(折縁皿1), を掲載する(第23図, 第14表)。

所見 出土遺物及び形状から, 近世の掘立柱建物跡と考えられる。

④時期不明

(i) 土坑

第54号土坑 (SK54, 第15図)

位置 C5h5区に位置する。第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが, 平面は円形と考えられる。深さは135cmである。

重複関係 第93号土坑に切られている。

土層 3層からなり, 15層は人為堆積, 13・14層は自然堆積である。

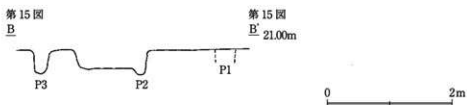
土層観察

- 13 黒褐色 (10YR 3/1) ローム粒子少量, 礫少量, ローム小ブロック極少量, N t-S極少量, 締まり強, 粘性やや弱
 14 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子極少量, ローム小ブロック極少量, N t-S極少量, 3mm程度の骨片極少量, 締まりやや強, 粘性やや弱
 15 黒褐色 (10YR 3/2) ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック少量, 5mm程度の骨片極少量, 締まりやや弱, 粘性強

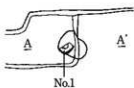
遺物出土状況 土器等36点が出土している。うち縄文土器2点(深鉢1, 浅鉢1), 土器1点(坏1)を掲載する(第24図, 第15表)。ただし, いずれも混入の可能性が高く, 時期判断には至らない。

所見 時期は特定できないが, 形状から柱穴の可能性が考えられる。

①エレベーション



②P2 確認状況



③P2 完掘状況



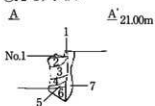
↑Coz2

↑Coil
Slim

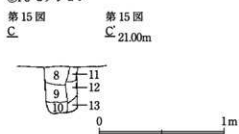
↑Coz2

↑Coil
Slim

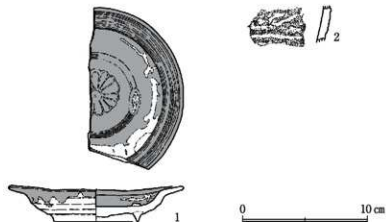
④P2 セクション



⑤P3 セクション



第22図 第1号掘立柱建物跡実測図



第23図 第1号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第14表 第1号掘立柱建物跡出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第23図	1	陶器	折鉢 口縁部～高台 50%	[13.8] 2.8 [6.8]	平底から内彎して立ち上がり、屈曲して強く外傾。口縁部内面と見込みに同心円状掻き目。中心部に推定16弁の陰刻花文。内外面回転ヘラケズリ。三角高台貼り付け。その周辺水挽き。内面～外面上部緑釉施軸（刷毛塗り）	石英多量	良好、堅緻	(器胎) 灰白色 (軸) オリーブ灰色。橙色	P2, I層	—	PL27 織部, 17世紀か
2	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%以下	— — —	わずかに内彎。外傾。外面入組み状沈線文と刺突文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・灰色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。表面付近橙色。内部褐灰色	P3, II層	—	PL27 晩期前半か



0 5 cm

第24図 第54号土坑出土遺物実測図

第15表 第54号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第24図	1	縄文土器	浅鉢 胴部上半, 5%以下	— — —	外傾から強く内彎して内傾のち外反して立ち上がる。外面半円状文。内面ナデ	メノウ粒少量、雲母細粒微量	良好	外面・内部黒褐色。内面灰黄褐色	サブトレ内	—	PL27 大淵IC式
2	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内彎。内傾。複合口縁。外面摺糸文 (口縁部横位。胴部横位・斜位)。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	サブトレ内	—	PL27 後～晩期粗製土器
3	土師器	坏	口縁部, 5%以下	— — —	外傾。内彎。口縁部で外反。外面ロクロナデ。内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面・内部褐灰色。内面黒色	サブトレ内	—	PL27

第56号土坑 (S K 56, 第15図)

位置 C 6 i 2区, C 6 i 3区に位置する。西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 セクションで確認できる上端の幅は90cm, 深さ27cmである。

土層 3層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層観察

- 2 黒褐色 (10Y R 3/2) ローム粒子中量、礫少量, N t-S極少量, 締まり強, 粘性强
 3 黒褐色 (10Y R 2/2) ローム粒子少量, N t-S極少量, 締まりやや強, 粘性やや弱
 4 黒色 (10Y R 2/1) ローム粒子極少量, N t-S極少量, 締まりやや弱, 粘性やや弱

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第93号土坑 (SK93, 第15図)

位置 C5i6区に位置する。第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面は円形になると考えられる。セクションで確認できる上端の幅は108cmである。

重複関係 第10号竪穴住居跡及び第54号土坑を切っている。

土層 2層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層観察

- 11 黒色 (10YR 2/1) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まりやや弱, 粘性やや弱
 12 黒褐色 (10YR 3/2) ローム粒子中量, ローム小ブロック極少量, 締まりやや弱, 粘性やや強

遺物出土状況 土器等6点が出土している。うち縄文土器1点(鉢1)を掲載する(第25図, 第16表)。ただし混入の可能性が高く, 時期判断には至らない。

所見 時期は特定できず, 性格も不明である。



第25図 第93号土坑出土遺物実測図

第16表 第93号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第25図 1	縄文土器	鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎, はは直立。外面無文, ケズリのち粗いナデ。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・チャート粒・褐色礫・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色, 内部褐灰色	覆土中	—	PL27 晩期初頭

第94号土坑 (SK94, 第15図)

位置 C5h3区に位置する。第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが, 平面は円形になると考えられる。セクションで確認できる上端の幅は144cm, 深さは84cmである

重複関係 第9号竪穴住居跡及び第95号土坑を切っている。

土層 6層からなり, ブロック状の人為堆積である。

土層観察

- 17 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子極少量, Nt-S極少量, 締まりやや強, 粘性中
 18 暗オリーブ褐色 (2.5YR 3/3) ローム粒子中量, Nt-S極少量, Nt-I極少量, 炭化物極少量, 締まり強, 粘性やや強
 19 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, 焼土極少量, Nt-S極少量, 締まりやや弱, 粘性中
 20 黒色 (10YR 2/1) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 締まり強, 粘性やや強
 21 にぶい黄褐色 (10YR 4/3) ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり強, 粘性強
 22 黒色 (10YR 1.7/1) ローム粒子極少量, ローム小ブロック極少量, 3mm程度の骨片極少量, 締まりやや弱, 粘性強

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず, 性格も不明である。

第95号土坑 (SK95, 第15図)

位置 C5h3区に位置する。第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるが、平面は円形になると考えられる。

重複関係 第94号土坑に切られている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層観察

23 黒色 (10YR 2/1) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 2mm程度の骨片極少量, 締まりやや強, 粘性強, 上部にロームブロックが集中する

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する (第26～38図, 第17表)。ただし、これらの出土状況には偏りがあり、第I B層中でも、遺物の集中する位置にはその直下に竪穴住居跡が確認されるため、遺構外出土として扱った遺物も、それらの遺構に帰属する可能性が考えられる。これについては観察表中に記した。

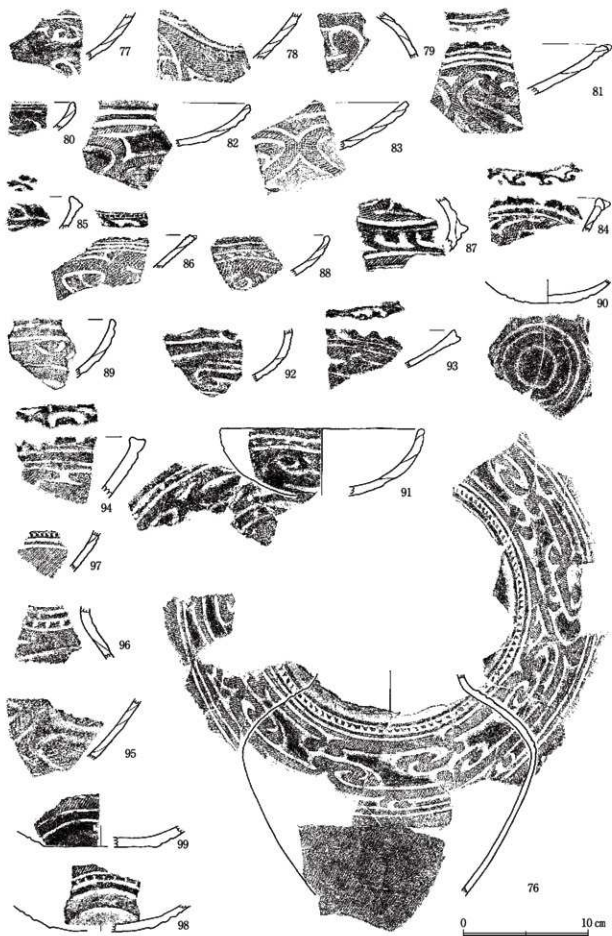
遺物出土状況 土器等4,888点, 石器等71点, 鉄製品3点, 骨片20点, 炭化物6点, 古銭1点が出土している。うち縄文土器176点 (浅鉢78, 深鉢51, 壺17, 鉢11, 小型浅鉢5, 注口土器4, 台付鉢3, 広口壺2, 異形土器1, 手燭形土器1, 小型壺1, 台付浅鉢1, ミニチュア土器1), 弥生土器3点 (壺2, 小型壺1), 土師器3点 (坏2, 甕1), 灰釉陶器1点 (高台付坏1), 須恵器1点 (壺1), 陶器1点 (丸皿1), 青磁1点 (碗1), 土製品12点 (土器片円盤8, 土偶4), 石器・石製品71点 (磨石16, 石鏃12, 石錘11, 敲石11, 石剣7, 石刀3, 凹石2, 砥石2, 石棒1, 小型磨製石斧1, 台石1, 石皿1, 勾玉1, 垂飾1, 鉢脚部1), 古銭1点 (皇宋通寶1) を掲載する。



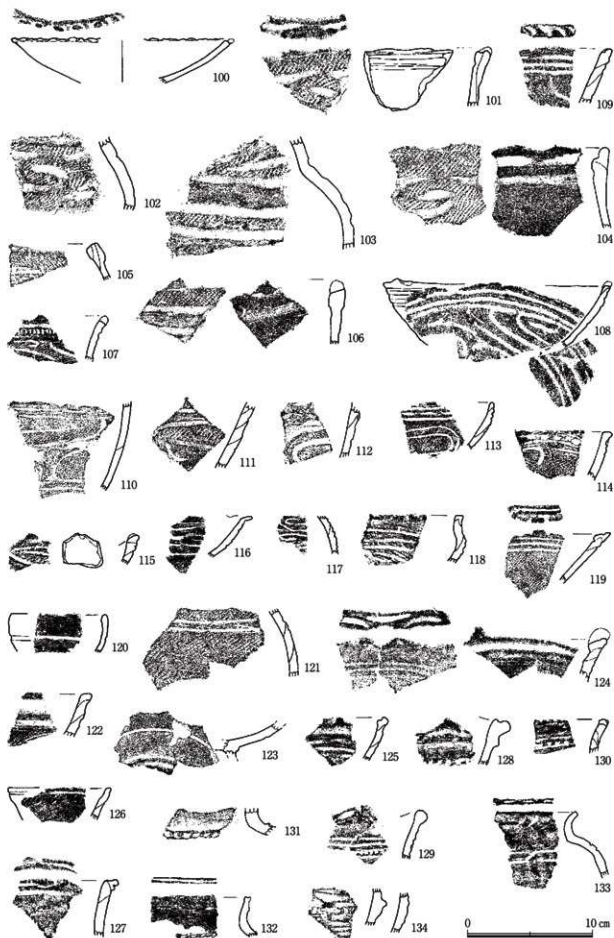
第26図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



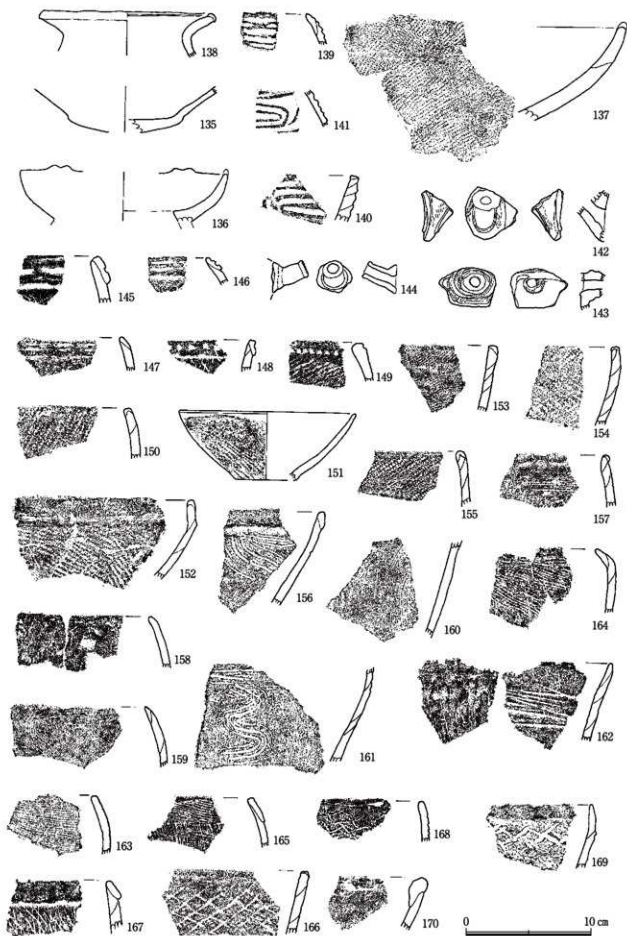
第27図 第12トレンチ遺構外出土物実測図(2)



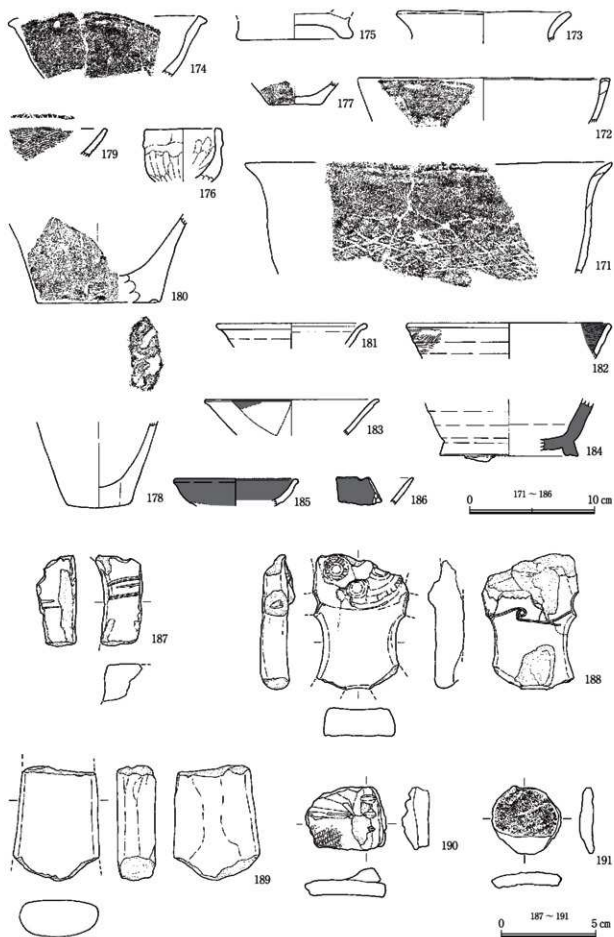
第28図 第12トレンチ遺構外出土物実測図(3)



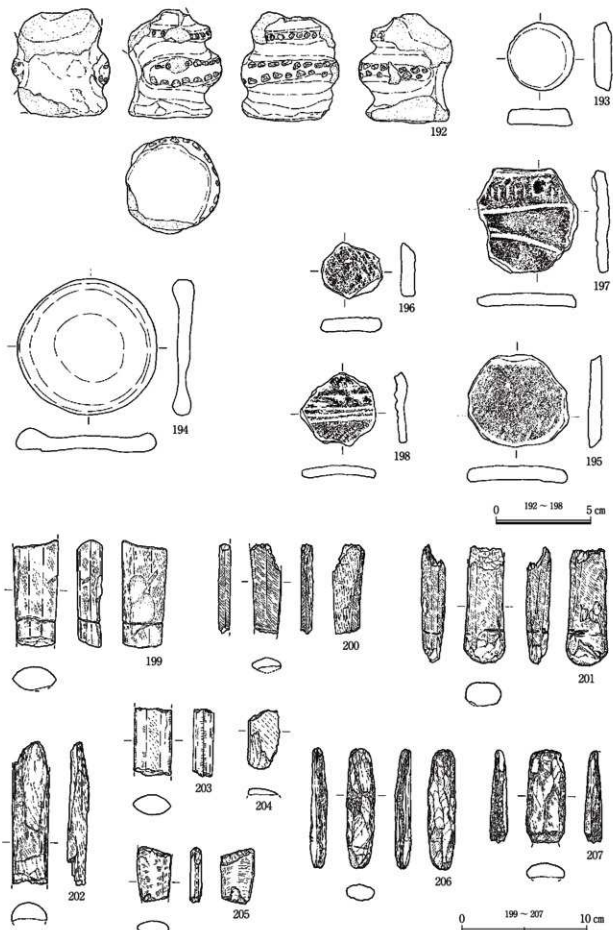
第29図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(4)



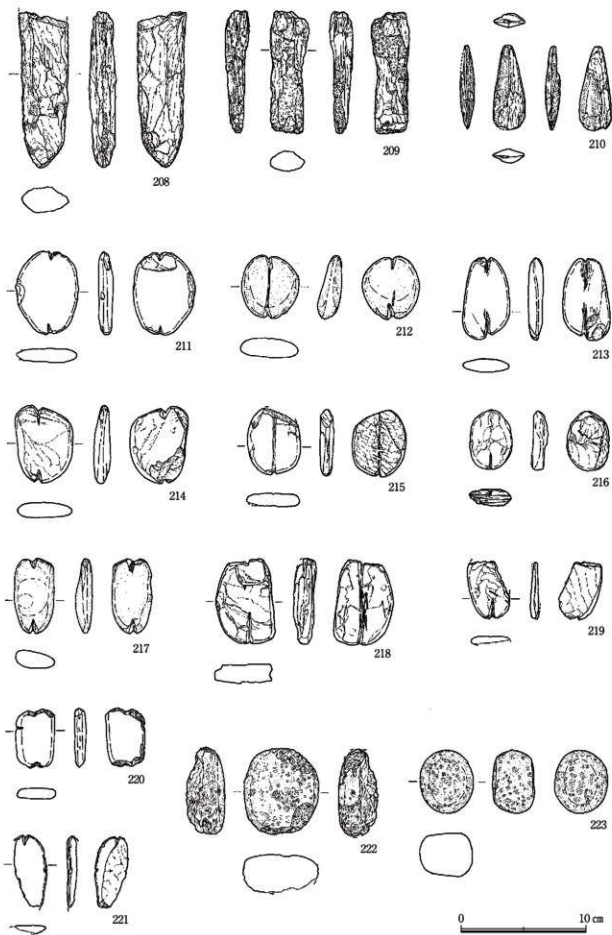
第30図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(5)



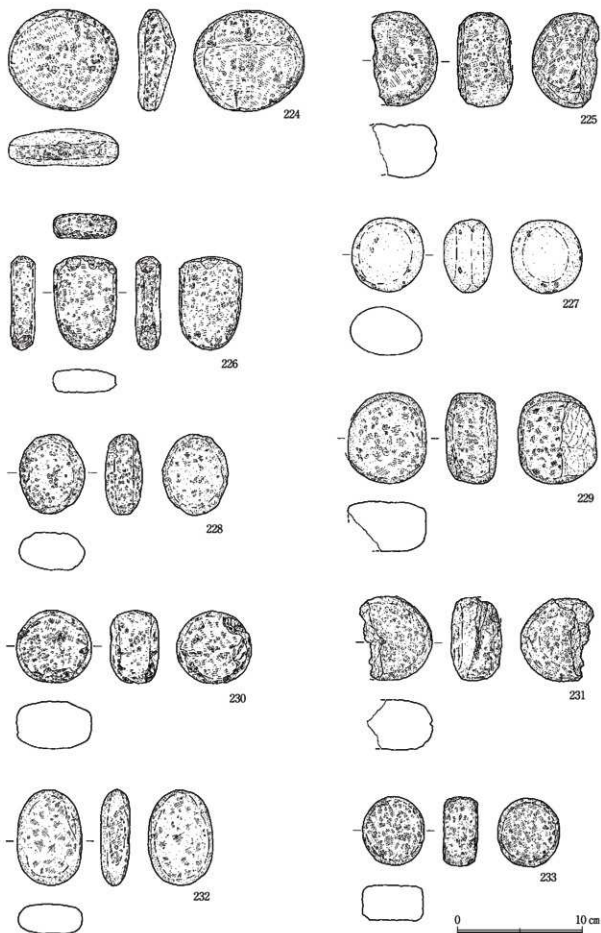
第31図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(6)



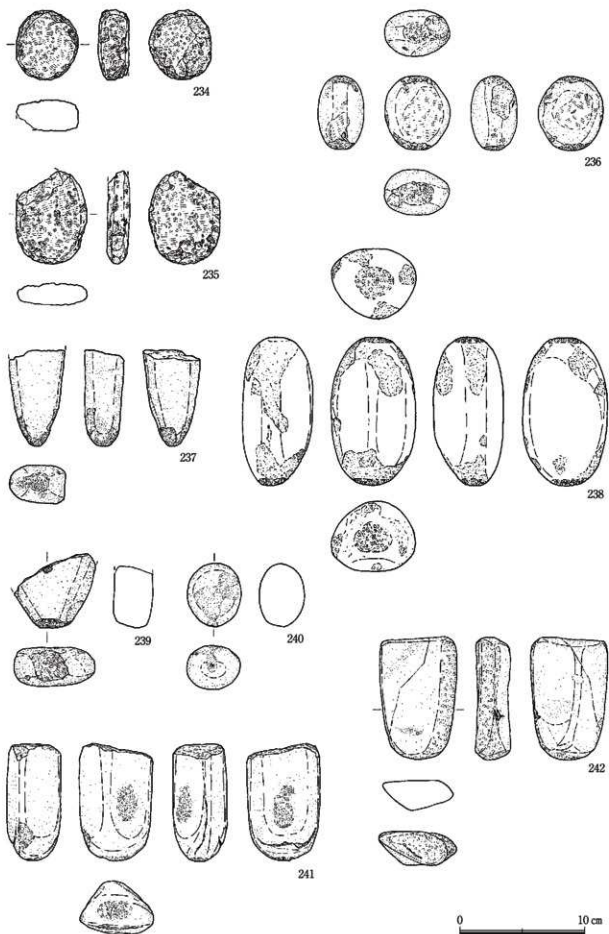
第32図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(7)



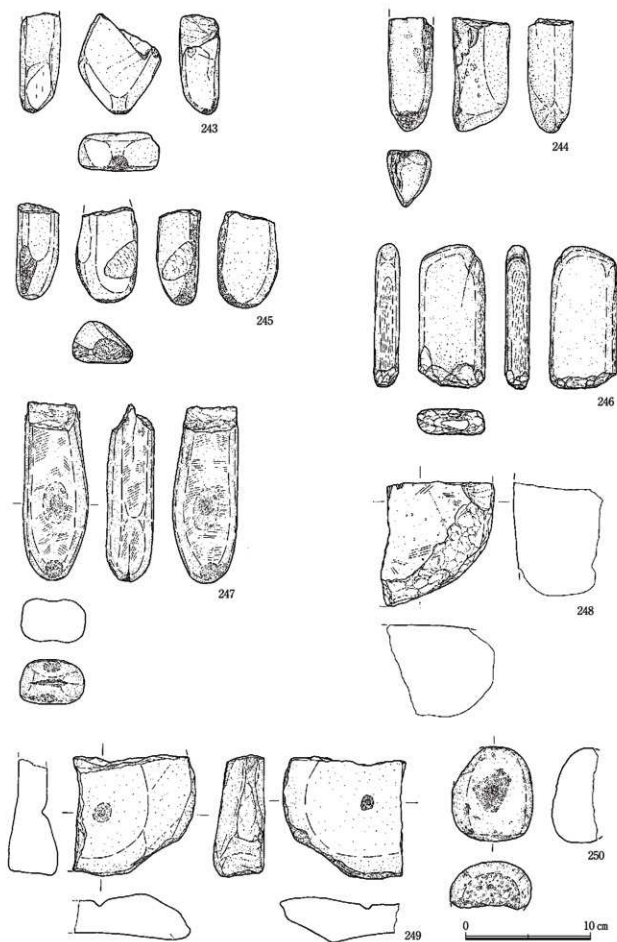
第33図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(8)



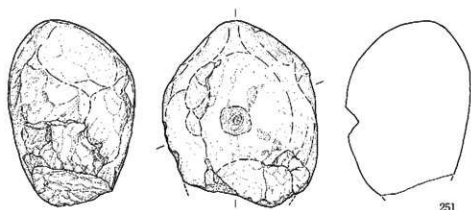
第34図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(9)



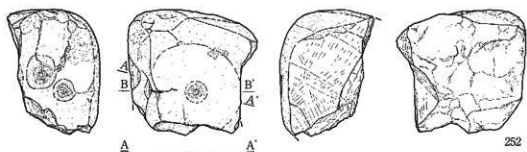
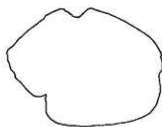
第35図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(10)



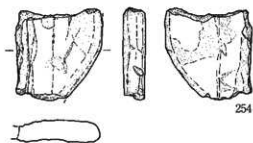
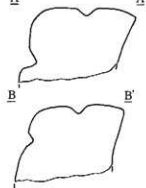
第36図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(11)



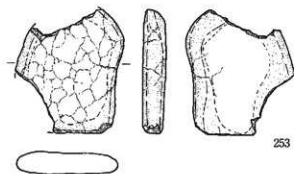
251



252



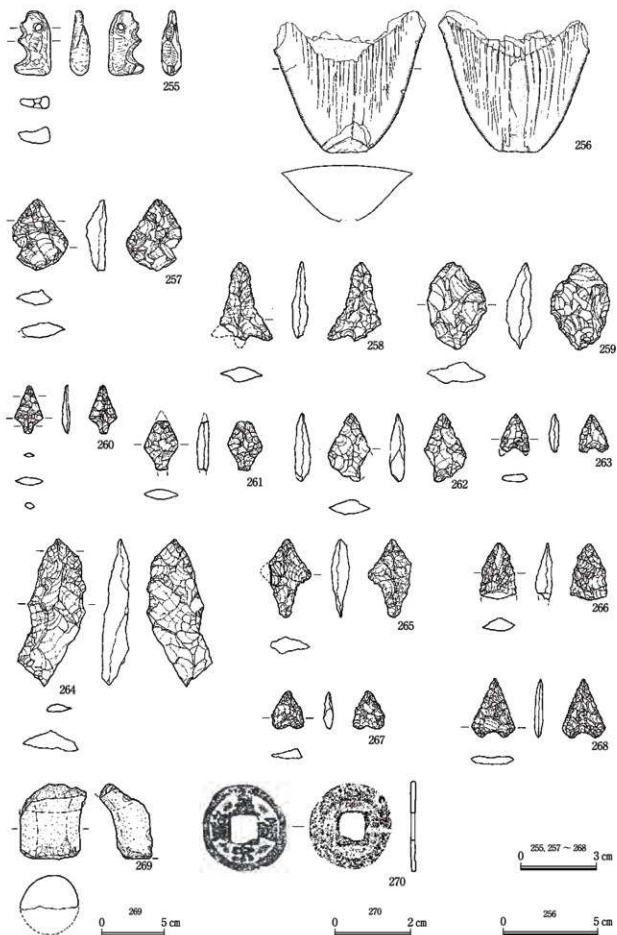
254



253



第37図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図 (12)



第38図 第12トレンチ遺構外出土遺物実測図(13)

第17表 第12トレンチ遺構外出土遺物観察表

採回	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第26回				[26.0]							
1	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	— —	内傾。口縁部外面ミガキ、突帯で区切り。胴部外面縄文。内面ミガキ	メノウ粒中量、黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	にぶい黄橙色	C5h0・I B層	12片(一部復元)	PL27中期、外面に炭化物付着S11に帰属の可能性あり
2	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	— —	外反、外傾。外面粘土紐貼り付けにより区画後縄文施文。ナデにより無文部形成。内面ナデ、縦の条痕1条	メノウ粒少量、黒色砂粒微量	良好	にぶい橙色	C5h0・i0, I B層	—	PL27加曾利E式
3	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	— —	外反、外傾。内外面に太い横走沈線1本ずつ。内外面ナデ	メノウ粒中量、チャート礫・黒色砂粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄橙色、内部黒褐色	C5h8・i8, I B層	—	PL27中期
4	縄文土器	深鉢か	胴部、5%以下	— —	外傾か。外面横位の結節縄文が連続する。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート礫・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい橙色、内面灰褐色、内部浅黄橙色	C5h6・i6, I B層	—	PL27
5	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	— —	胴部から屈曲して外傾。波状口縁。波頂部に粘土を巻き、波状口縁に沿って沈線。波頂部下に三角形の区画文。その下に横走沈線3本を引き、その間の隆帯にキザミ。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英・雲母微量	良好	外面・内部黒褐色、内面褐色	C5h2・i2, I B層	—	PL27後期後葉、他同一個体片ありS19に帰属の可能性あり
6	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	— —	外傾。波状口縁。波頂部を肥大させ、端部に凹み。口縁部に沿って連続の刻目と沈線。波頂部から下に向かつて刻文帯を貼り付け。内面ミガキ	メノウ粒少量、金雲母・海綿骨針微量	良好	褐色、黒褐色	C5h1・i1, I B層	—	PL27後期後葉、海綿骨針顕著S11に帰属の可能性あり
7	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	— —	わずかに内傾。外傾。外面無文。口縁端部から内面に粘土紐を斜めに貼り、口縁端部の紐端部を粘土紐で巻き突起状に作る。内外面ナデ	メノウ粒少量、黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外明赤褐色、内部にぶい橙色	C5h7・i7, I B層	—	PL28後期後葉か、S10に帰属の可能性あり
8	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	— —	外傾。波状口縁。波頂部に粘土を巻き、沈線を一周。口縁に沿った列点文と沈線。波頂部から真下に延びる2列の列点文で区画される。内面ミガキ	メノウ粒中量、黒色砂粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色、内面にぶい黄褐色、内部褐色	C5h2・i2, I B層	—	PL27後期後葉、海綿骨針顕著S19に帰属の可能性あり
9	縄文土器	壺(注口土器か)	頸部、5%以下	— —	外反、内傾。外面に突起の両脇から刻文帯が2本、その下にもう一本刻文帯。内面ナデ	メノウ粒少量、金雲母・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色、内面黒褐色、内部褐色	C6h4・i4, II層	—	PL28後期後葉、安行式
10	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	— —	外傾。口縁部を肥大させ、外面に指頭による押圧文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・金雲母・海綿骨針微量	やや不焼が甘い	外面にぶい黄褐色、内面褐色	C6h1・i1, I B層	—	PL28後期末～晩期、海綿骨針顕著S11に帰属の可能性あり

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第26田	11	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内髷、外傾。複合口縁。口唇部外面に連続押圧文が施され、口縁部が小波状を呈す。胴部外面縄文、内面ナデ、粗いミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒・金雲母微量	普通	外面黒褐色、内面黒色	C5h1・i1, I B層	—	PL28 後期末～晩期初頭。口縁部外面に炭化材付着。SI11に帰属の可能性あり
	12	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。肥厚させた口縁部に指頭による押圧文、その下は縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、黒色砂粒・金雲母微量	良好	外面にぶい赤褐色、内面灰褐色・黒褐色	C5h2・i2, I B層	—	PL28 後期末～晩期初頭。SI9内に帰属の可能性あり
	13	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内傾。口縁部を肥厚させ、外面に棒状工具で下から上に向けてキザミ、胴部外面縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部褐色	C6h2・i2, I B層	—	PL28 後期末～晩期初頭
	14	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。口縁部を肥厚させ、外面に棒状工具で下から上に向けてキザミ、一部に輪積み痕	メノウ粒中量、メノウ礫・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部黒褐色	C5h7・i7, I B層	—	PL28 後期末～晩期初頭。SI101に帰属の可能性あり
	15	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。口縁部外面に縦位の連続キザミ、その下に横走沈線1条	メノウ粒少量、チャート粒・褐色砂粒微量	良好	にぶい黄褐色	C6h2・i2, I B層	—	PL28 後期末～晩期初頭
	16	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。口縁部内面を肥厚させ、外面沈線状のキザミ。内面ナデ	メノウ粒中量、灰色砂粒・褐色雲母・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	灰黄褐色	C6h1・i1, I B層	—	PL28 後・晩期初頭。類似土器SI11に帰属の可能性あり
	17	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。口縁端部に横長の貼瘤、直下外面に縦長の貼瘤と口縁部外面にキザミ。その下位に刻文帯による区画文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内面にぶい黄褐色	C6h5・I B層	—	PL28 安行2～3a式。SI12に帰属の可能性あり
	18	縄文土器	異形土器または注口器か	口縁部、5%以下	—	内傾。口縁端部に貼瘤、沈線2条。口縁部外面に変帯。変帯上面に縦位の沈線が連続して引かれる。内面ミガキ	メノウ粒中量、灰色砂粒少量、メノウ礫微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内部褐色。芯部にぶい黄褐色	C5h9・i9, I B層	—	PL28 安行2式。SI101に帰属の可能性あり
	19	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内髷、外傾。外面縄文の横走沈線2条。1条目の横上に左右からの切り込みによる貼瘤状文。2条目以下は磨消。内面ミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒・金雲母・海綿骨針微量	良好	黒褐色、一部灰白色	C6h4・i4, I B層	—	PL28 晩期初頭
	20	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	やや内傾。口縁端部平面。外面縄文、横走沈線2条の間を磨消。内面ミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒・金雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色、内部褐色	C5h5・i5, I B層	—	PL28 晩期初頭。SI101に帰属の可能性あり
	21	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内髷、外傾。外面縄文に横走沈線2条、沈線間を磨消。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰褐色、内部褐色	C5h4・i4, I B層	—	PL28 晩期初頭。SI9に帰属の可能性あり
	22	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	[312]	外傾。口縁部肥厚。外面に横走沈線1条。内外面ミガキ	メノウ少量、雲母細粒・泥岩粒微量	良好	黒褐色、一部褐色・灰褐色	C5h9・i9, I B層	—	PL28 晩期初頭。SI101に帰属の可能性あり

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第26図	23	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。口縁部わずかに比厚。端部平坦。外面縄文施文後、横走沈線2条、間を磨消。内面ミガキ	メノウ粒少量、灰色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外外面黒褐色。内部にぶい橙色。芯部褐色	C6h2・i2, I B層	—	PL28 晩期初頭
	24	縄文土器	小型浅鉢	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面に二つ一組の瘤。その両端から横に各3条の沈線でレンズ状の文様。内面ナデ	メノウ粒少量、黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外外面黒褐色。内面にぶい赤褐色。内部褐色	C5h8・i8, I B層	—	PL28 晩期初頭 SI101に帰属の可能性あり
	25	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	下部は内彎、上部は外反。内彎する部分の外面に突起。突起の端部に横位のキザミ3段。貼瘤の変形か。内面ナデ	メノウ粒少量、赤褐色塵・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面橙褐色。内部褐色	C6h6・i6, I B層	—	PL28 安行3a式 SI121に帰属の可能性あり
	26	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面縄文に突起貼り付け。内面ナデ	メノウ粒中量、石英塵・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内部にぶい橙色。芯部褐色	C5h1・i1, I B層	—	PL28 晩期前葉 一中葉 海綿骨針顕著 SI111に帰属の可能性あり
	27	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内彎。外傾。波状口縁。波頂は2個1組か。口縁端部に沈線。口唇部にキザミ。外面横走沈線と弧状沈線。弧状沈線内剥離痕があり、突起物を貼り付けたか。内面ミガキ	メノウ粒中量、黒色塵・砂粒少量、海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄色。内部黒褐色	C5h1・i1, I B層	—	PL28 安行3c式 SI111に帰属の可能性あり
	28	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。波状口縁。外面波頂部下に沈線で縦長の楕円。その下に横位の弧状沈線で楕円区画。区内ミガキ。内面ナデか	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。外外面にぶい黄褐色。内面灰黄色。内部灰黄色	C5h1・i1, I B層	—	PL28 安行3c式 海綿骨針顕著 SI111に帰属の可能性あり
	29	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。平縁。外面横走沈線2条。その下に弧状沈線文。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート塵・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面灰黄褐色。内面黒褐色	C5h1・i1, I B層	—	PL28 晩期前葉 SI111に帰属の可能性あり
	30	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面沈線と磨消縄文による入組み状の文様。内面ミガキ	メノウ粒少量、砂岩塵・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内部にぶい橙色。芯部褐色	C5h8・i8, I B層	—	PL28 晩期前葉 SI101に帰属の可能性あり
	31	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面上位に沈線と玉拍三又文か。中位にメガネ状浮帯文。下位に縄文。上・中位外面と内面ミガキ	精良。メノウ粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内部にぶい褐色	C6h4・i4, I B層	—	PL28 晩期前葉 一中葉
	32	縄文土器	壺か	胴部、5%以下	—	内彎・内傾する胴部から屈曲して外傾。頸部縄文、胴部外面磨消縄文手法により半弧状の縄文帯。内面ミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。直下にぶい橙色。内部褐色	C6h5・i5, I B層	—	PL28 安行2～3a式 SI121に帰属の可能性あり
	33	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	口縁部外傾、胴部で屈曲して内彎。口唇部外面に縄文帯。その下は菱形構成の磨消縄文か。内面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒・黒色砂粒・金雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内部褐色	C6h2・i2, I B層	—	PL28 安行3b式
第27図	34	縄文土器	浅鉢	胴部、10%	—	内彎。外傾。途中で屈曲して外反。屈曲部外面に沈線。上は斜位の平行沈線に区画された縄文帯。下は縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、灰色砂粒少量、赤褐色砂粒微量	やや不良。焼けが甘く、ムラ	サンドイッチ状。外外面にぶい橙色。内面褐色。内部灰褐色	C6h5・i5, I B層	—	PL28 安行2～3a式か SI121に帰属の可能性あり

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第27図	35	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	胴部内彎・内傾。縦やかに屈曲して口縁部わずかに内彎・内傾。波状口縁。外面磨消縄文と縦位の結節回転文。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面褐色。内部にぶい橙色。芯部褐色	C5h1・i1, I B層	—	PL28 安行3b式 SI11に帰属の可能性あり
	36	縄文土器	手觸形土器	台部、20%	—	台部片。周辺部を欠き、皿の一部が残る。周辺部に現状で4孔(挟りか)。下面に磨消縄文手法による獸手状・円・半円形の文様。人面を意匠か。台部上面の皿の基部に沈線2周。皿部内面ナデ	精良。粒子細かい。メノウ粒・石英粒微量	良好	褐色・黒褐色	C6h2・i2, I B層	—	PL28 安行3a～3b式か
	37	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	[23.4]	外傾。胴部内彎。口縁部外反。口縁端部にB突起貼り付け。口縁部外面に縄文。屈曲部に沈線。胴部外面に弧状沈線に区画された縄文帯と磨消。内面ミガキ	メノウ粒少量、金雲母細粒微量	良好	外面黒褐色、内面褐色	C5h8・i4, I B層	—	PL28 安行3b式 SI10に帰属の可能性あり
	38	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内彎。内傾。口縁部やや肥厚。口縁部外面に沈線で楕円形区画。中を磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量、褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面褐色。内面にぶい赤褐色。内部赤灰色	C5h2・i2, I B層	—	PL28 晩期前葉 SI9に帰属の可能性あり
	39	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内彎。内傾。外面磨消縄文による玉抱き三叉文。内面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩粒・黒色砂粒・雲母・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	内外面灰黄褐色。にぶい黄褐色。一部にぶい橙色	C5h4・i4, I B層	—	PL28 晩期前葉 SI9に帰属の可能性あり
	40	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。波状口縁。波頂部に深いキザミ。波頂部から弧状沈線で区画された縄文帯が伸びる。周りは磨り消し。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、金雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内部にぶい橙色。芯部褐色	C5h8・i8, I B層	—	PL29 晩期前葉 SI10に帰属の可能性あり
	41	縄文土器	注口土器	口縁部、10%	[60]	内彎。内傾。外面弧線文と横走沈線で区画し、縄文を施文。その中に三叉文と貼筒。内面ナデ	メノウ粒、黒色砂粒少量、褐色砂粒・雲母微量	普通	外面灰白色、内面黄褐色	C6h4・i4, I B層	—	PL29 安行3a～3b式
	42	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。波状口縁。口縁部外面に縄文。波頂部から弧状沈線。その下磨り消し。内面ミガキ	精良。メノウ粒・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部灰黄褐色	C6h1・i1, II層	—	PL29 安行3a～3b式 SI11に帰属の可能性あり
	43	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	外傾。外面に縄文と磨消縄文による三叉文。内面へラ状工具によるナデ	精良。メノウ粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい褐色。内部褐色	C5h8・i5, 排土中	—	PL29 安行3a～3b式
	44	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	外傾。内彎。外面に縄文と磨消縄文による三叉文。内面ミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	C5h4・i4, I B層	—	PL29 安行3a～3b式 SI9に帰属の可能性あり
	45	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。波状口縁。波頂部を円筒状にして端部中心を凹ませる。外面縄文。波頂部下に三叉文と横走沈線。内面ミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内部にぶい赤褐色。芯部赤灰色	C6h4・i4, I B層	—	PL29 安行3a～3b式
	46	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。波状口縁。波頂部端部にキザミ。波頂部外面に三叉文、その下に縄文。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒・褐色砂粒・金雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色	C6h6・i6, I B層	—	PL29 安行3a～3b式 SI12に帰属の可能性あり

挿入	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第27図	47	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	— — —	外傾。縦波状口縁。外面に弧状文が2段、その下に三叉文。内面ミガキ	メノウ粒少量、褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部にぶい橙色。芯部褐灰色	C6h5・i5, I B層	—	PL29 安行3a式 海綿骨針 顕著 SI12に帰属の可能性あり
	48	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	— — —	わずかに外反。外傾。外面縄文に沈線2条。沈線端に円盤状の粘土を貼り付け。内面ナデ	やや粗悪。メノウ粒中量、チャート粒・泥岩粒・泥岩・黒色砂粒・雲母・海綿骨針微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面灰黄色。内部褐灰色	C6h4・i4, I B層	—	PL29
	49	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	— — —	わずかに内彎。大きく外傾。外面に連続する半弧状の沈線文と横走沈線2条。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内部褐灰色	C5h2・i2, I B層	—	PL29 晩期前葉 SI9に帰属の可能性あり
	50	縄文土器	鉢	胴部、5%以下	— — —	ほぼ直立。外反。外面に三又入組文。下部に縦位の糸線文。内面ナデ	メノウ粒・石英粒少量、泥岩粒・海綿骨針微量	普通	外面黒色。内面灰黄褐色	C6h6・i6, I B層	—	PL29 安行3d式 SI12に帰属の可能性あり
	51	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	— — —	内彎。外傾。外面沈線文、三又入組文か。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい橙色。内面にぶい黄褐色。内部褐灰色	C6h0・i0, I B層	—	PL29 安行3d式 SI11に帰属の可能性あり
	52	縄文土器	浅鉢	胴部～底部、25%	— — —	底は丸底。底は厚く胴部は薄い。胴部内彎。外傾。上部で外反か。外面縄文施文後、上下を横走沈線で区画し、その間に入組文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色(底部)	C6h3・i3, I B層	—	PL29 晩期中葉
	53	縄文土器	壺	胴部、5%以下	— — —	内彎。内傾。外面上下を横走沈線で区画した間に菱形構成の沈線文か。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰白色。内面にぶい橙色。内部褐灰色	C5h2. サブレ、II層	—	PL29 安行3d式
	54	縄文土器	台付鉢	台部、5%以下	— — —	内彎。内傾。ハの字形の台部。基部は厚く作る。外面菱形構成の沈線文か。透かし1か所。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・赤褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面橙黄色。内面灰褐色。内部褐灰色	C6h1・i1, I B層	—	PL29 安行3c. d式 SI11に帰属の可能性あり
	55	縄文土器	台付鉢	台部、5%以下	— — —	ハの字の台部。土器片の両端に切れ込み。透かしか。外面V字状に屈曲する沈線と縄文。横走沈線2条。内面粗いミガキ	メノウ粒中量、黒色砂粒・雲母微量	やや不良	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部にぶい橙色。芯部灰黄褐色	C6h1・i1, I B層	—	PL29 安行3c. d式 SI11に帰属の可能性あり
	56	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	— — —	胴部から屈曲して大きく外傾。わずかに内彎。外面羊歯状文。丁寧なミガキ。内面ナデ	精良。メノウ粒・石英粒微量。一部粘土斑間に褐色の薄い層	良好	外面黒色。内面黒褐色	C5h8・i8, I B層	—	PL29 大淵BC式
	57	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	— — —	外反。外傾。口縁端部にキザミ。外面羊歯状文。内面ケズリ。一部ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色礫微量	良好	外面黒色。内面黒褐色	C5h1・i1, I B層	—	PL29 大淵BC式 SI11に帰属の可能性あり
	58	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	— — —	内彎気味。外傾。口縁端部に沈線。口唇部外面を張り出させ刻み。その下に横走沈線2条。内面風化により調整不明	メノウ粒少量、チャート礫・灰色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒褐色	C5h0・i0, I B層	—	PL29 晩期前葉 か SI11に帰属の可能性あり

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第27田											
59	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	— — —	外傾する胴部から屈曲して大きく外傾。わずかに内彎。外面羊歯状文と縄文。頸部に2溝間の截痕。内面ミガキ	メノウ粒少量、 金雲母・ 泥岩粒微量	良好	外面褐灰色、 内面黒褐色、 内面直下灰 白色	C6h0・ i0, I B 層	—	PL29 大淵BC 式 SI11に帰 属の可能性あり
60	縄文 土器	鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	外反、外傾。口縁端部に粗いキザミ。口縁下外面羊歯状文か。内面ナデ	メノウ粒少量、 チャート 粒微量	やや不 良。焼 けムラ	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色、 内部褐色	C5h4・ i4, I B 層	—	PL29 晩期前業 か SI9に帰 属の可能性あり
61	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	精製。器壁薄い。内彎、外傾。口縁端部キザミ。口縁部外面に羊歯状文。胴部外面縄文に結節縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英礫・ 金雲母細粒 微量	良好	内外面黒褐 色	C6h1・ i1, I B 層	—	PL29 大淵BC 式 SI11に帰 属の可能性あり
62	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	— — —	胴部内彎、外傾。屈曲して口縁部大きく外傾。外面羊歯状文。内面口縁直下に横走沈線1条。ナデ	メノウ粒少量、 泥岩粒	二次 焼成	外面にぶい 褐色。内面褐 灰色。一部に ぶい褐色	C6h1・ i1, I B 層	—	PL29 晩期前業 SI11に帰 属の可能性あり
63	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	外反、外傾。外面横走沈線5条。下位は羊歯状文か。内面丁寧なミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・ 海綿骨針微 量	良好	サンドイッチ 状。内外面褐 灰色。内部浅 黄褐色。芯部 黒色	C6h0・ i0, I B 層	—	PL29 晩期前業 SI11に帰 属の可能性あり
64	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	外傾。口縁端部にB突起貼り付け。突起の付け根から斜めに沈線。外面に2溝間の截痕。内面ミガキ。器表に赤褐色顔料塗布か	メノウ粒少量、 黒色砂粒 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい褐色。内 部褐色	C5h9・ i9, I B 層	—	PL29 晩期前業 SI10に帰 属の可能性あり
65	縄文 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	わずかに内彎。内傾。上端は頸部への接続部。接続部外面に緩やかなキザミをもつ低い突起。胴部外面2溝間の截痕と羊歯状文。内面ナデ	メノウ粒少量、 石英粒・ 雲母細粒・海 綿骨針微量	良好	外面暗灰色、 内部灰白色、 内部一部黒 色	C6h6・ i6, I B 層	—	PL29 大淵BC 式 SI12に帰 属の可能性あり
66	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%以下	— — —	器壁薄い。内彎、外傾。外面変形した羊歯状文か。内面ミガキ	メノウ粒少量、 金雲母細 粒微量	良好	内外面黒褐 色	C5h8・ i8, I B 層	—	PL29 大淵BC 式 SI10に帰 属の可能性あり
67	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	[15.8] — —	内彎、外傾。外面に羊歯状文が変形した磨消雲形縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、 雲母細粒 微量	良好、 焼けム ラ	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。一部 黒色。内部黄 灰色	C5h0・ i0, I B 層	—	PL29 晩期前業 —中業 SI11に帰 属の可能性あり
68	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %以下	— — —	内彎。大きく外傾。外面雲形文。内面ナデ	メノウ粒少量、 赤褐色砂 粒・雲母細 粒微量	普通、 焼けム ラ	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色、 内面一部黒 色。内部黄灰 色	C5h0・ i0, I B 層	—	PL29 晩期前業 SI11に帰 属の可能性あり
69	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	やや小型。外傾。胴部内彎、屈曲して口縁部直線的。口縁部外面2溝間の截痕と縄文帯。胴部外面連続三叉文。内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英礫・ 雲母細粒微 量	良好	外面灰黄褐 色。内面黒色、 内部褐色	C5h6・ i6, I B 層	—	PL29 晩期中業 SI10に帰 属の可能性あり
70	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	小型。器厚薄い。内彎、外傾。口縁端部にキザミ。口縁部外面に2溝間の截痕。胴部との境界に横走沈線2条。胴部外面網目状断糸文。内面ミガキ	メノウ粒少量、 赤褐色礫 微量	良好	内外面にぶい 黄褐色。外面 一部褐色	C6h6・ i6, I B 層	—	PL29 晩期中業 SI12に帰 属の可能性あり

種別	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第27回	71	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	わずかに内彎。外傾。口縁端部に瘤。外面に横走沈線3条。上3条間に2～3個1組の刺突。下位に縄文。外面赤彩。内面横走沈線1条。ナデ	メノウ粒少量、黒色砂粒微量	普通	外面にぶい黄褐色。内面・内部黒色	C5h4・i4, I B層	—	PL29 晩期前葉。赤色顔料付着S19に帰属の可能性あり
	72	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内彎。外傾。口縁は肥厚し端部に沈線1条。外面にキ守ミ。外面に沈線3条。上2条間に二個一組の刺突。劣化により調整不明	前褐色礫・メノウ粒少量、石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	やや不良。焼き甘く、ムラ	外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色	C5h5・i5, I B層	—	PL29 S110に帰属の可能性あり
	73	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	直線的。外傾。外面結節縄文をもつ縄文帯2段。段間無文。内面へラ状工具によるナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色・褐灰色。内面にぶい褐色。内部褐灰色	C5h8・i8, I B層	—	PL29 晩期前葉 S110に帰属の可能性あり
	74	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内彎気味。外傾。外面結節縄文をもつ縄文帯2段。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・砂岩礫・雲母細粒・海綿骨針微量	普通。焼けムラ	内外面にぶい褐色。外面一部にぶい黄褐色	C5h8・i8, I B層	—	PL29 晩期前葉 S110に帰属の可能性あり
	75	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	外傾。外面磨消縄文手法による雲形文。磨消部を丁寧に彫去。内面ミガキ	メノウ粒・石英粒・凝灰岩粒・海綿骨針微量	やや不良	外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内面直下褐色。志部灰白色	C6h3・i3, I B層	—	PL30 大淵C1式 S111に帰属の可能性あり
第28回	76	縄文土器	壺	頸～胴部、70%	(173)	胴部内彎・外傾。屈曲して肩部内彎・内傾。屈曲して最大径する頸部が立ち上がる。内径大径胴～肩部変換点で23.2cm。頸部外面ミガキ。肩部2溝間の截直と磨消縄文手法による雲形文。横走沈線で区切り。胴部外面縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面褐灰色。にぶい褐色。一部黒混。内面にぶい褐色。内部褐色。志部褐灰色	C5h0・i0, I層～II層	32片、他同一個体2片	PL29 大淵C1式 S111に帰属の可能性あり
	77	縄文土器	浅鉢	胴部、5%	—	内彎。外傾。外面磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐褐色。内部灰白色・褐灰色	C6h6・i6, I B層	—	PL30 大淵C1式
	78	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・黒色砂粒微量	良好	内外面褐灰色。内面灰褐色。志部褐灰色	C5h5・i5, I B層	—	PL30 大淵C1式 S110に帰属の可能性あり
	79	縄文土器	壺	肩部、5%以下	—	内彎。内傾。外面磨消縄文手法による雲形文。内面ナデ	精良。メノウ粒少量。チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐灰色	C6h0・i0, I B層	—	PL30 大淵C1式 S111に帰属の可能性あり
	80	縄文土器	小型浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内彎。大きく外傾。口縁部外面に細い横走沈線3条。磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキ	精良。メノウ粒・泥岩砂粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面黒色。内部褐灰色	C6h1・i1, I B層	—	PL30 大淵C1式 S111に帰属の可能性あり
	81	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%	—	わずかに内彎。大きく外傾。口縁端部に羊歯状を思わせる立体的な文様。端部外側は突起状。外面半内形のX字文。内面口縁直下に横走沈線1条。その下位をミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面褐灰色	C6h5・i5, I B層	—	PL30 大淵C1式 S112に帰属の可能性あり
	82	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、10%	—	内彎。大きく外傾。外面口縁部に横走沈線2条。胴部半内形のX字文。内面ミガキ	メノウ粒少量。チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐灰色。内部埋珪褐灰色。志部褐灰色	C6h6・i6, I B層	—	PL30 大淵C1式 S112に帰属の可能性あり

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第28図	83	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	内甕、大きく外傾。口縁部 外面沈線か、胴部外面半 内形のX字文。内面ミガキ	メノウ粒少量、 雲母細粒・海綿骨針 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面褐 灰色。内部黄 灰色。芯部褐 灰色	C6h4・ i4, I B 層	—	PL30 大割C1式
	84	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %以下	—	直線的、外傾。口縁部を内 外に突出させ、端部に立体的 な雲形文。胴部外面磨消縄 文手法によるX字文。内 面ミガキ	メノウ粒少量、 チャート 粒・海綿骨針 微量	良好	外面灰黄褐 色。内面にふ い黄褐色	C6h6・ i6, I B 層	2片	PL30 大割C1式 海綿骨針 跡あり S112に燻 属の可能性あり
	85	縄文 土器	浅鉢	口縁 部、5 %以下	—	内甕、外傾。口縁部を内側 に突出させ、端部に立体的 な雲形文。胴部外面に磨消 縄文手法による雲形文。内 面ミガキ	メノウ粒少量、 チャート 粒・海綿骨針 微量	良好	外面にふい 黄褐色。内面 灰黄褐色	C5h9・ i9, I B 層	—	PL30 大割C1式 S110に燻 属の可能性あり
	86	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	—	内甕、外傾。口縁部を肥厚 させ、端部に立体的な文様 と2条期の敷痕。外面横走 沈線2条。胴部外面磨消縄 文手法による雲形文。内面 ミガキ	メノウ粒少量、 チャート 粒・砂岩粒・ 海綿骨針微量	良好	内外面にふ い黄褐色。内 面に黒斑	C5h9・ i9, I B 層	—	PL30 大割C1式 S112に燻 属の可能性あり
	87	縄文 土器	壺または注 口土器	肩～胴 部、5 %以下	—	外傾する胴部から屈曲して 内傾する肩部。内甕、肩部 半内形の雲形文。最大径部 分に羊歯状文に類する立体的 な文様。胴部縄文を沈線 区画。内面ミガキ	メノウ粒少量、 泥岩粒・灰 色砂粒微量	良好	外面にふい 黄褐色。内面、 内部褐灰色	C6h6・ i6, I B 層	—	PL30 大割C1式 S112に燻 属の可能性あり
	88	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	—	内甕、大きく外傾。口縁部 外面横走沈線3条。下段糸間に 連続刺突、胴部磨消縄文 手法による雲形文。器表荒 れ。内面ナデか	メノウ粒少量、 チャート 粒・黒色砂粒 微量	やや不 良、焼 き甘い	内外面にふ い黄褐色	C6h5・ i5, I B 層	—	PL30 大割C1 またはC 2式 S112に燻 属の可能性あり
	89	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%	—	内甕、大きく外傾。外面口 縁部に横走沈線1条。胴部に 磨消縄文手法による雲形文。 内面ナデ	メノウ粒中 量、石英礫 ・黒色砂粒・海 綿骨針微量	普通、 焼けム ラ	サンドイッチ 状。内外面灰 黄色。内面 褐灰色	C6h6・ i6, I B 層	—	PL30 大割C1式 S112に燻 属の可能性あり
	90	縄文 土器	浅鉢	胴～底 部、10 %	(1.9) 2.7	丸底。底部周辺外面に沈線3 周、胴部外面磨消縄文手法 による雲形文。内面ミガキ	メノウ粒少量、 チャート 粒・黒色砂粒・ 砂岩粒微量	やや不 良、焼 き甘い	外面にふい 黄褐色。内面 灰黄褐色	C6h5・ i5, I B 層	2片	PL30 大割C1式 S112に燻 属の可能性あり
	91	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 底部、 15%	[160] (5.3)	内甕、外傾。口縁部と底部 外面にそれぞれ横走沈線2 条、2条間に刺突。胴部外面 に磨消縄文手法による雲形 文。内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英礫・ チャート粒・ 黒色砂粒・海 綿骨針微量	二次 焼成	サンドイッチ 状。内外面明 赤褐色。一部 褐灰色。内部 にふい橙色。 芯部褐灰色	C6h5・ i5, I B 層	3片	PL30 大割C1式 S112に燻 属の可能性あり
	92	縄文 土器	浅鉢	胴部、 5%	—	内甕、大きく外傾。外面雲 形文。内面ミガキ	メノウ粒中 量、雲母細粒・ 黒色砂粒・赤 褐色砂粒微量	やや不 良	サンドイッチ 状。内外面褐 色。内部灰褐 色	C5h1・ i1, I B 層	—	PL30 大割C1式 S11に燻 属の可能性あり
	93	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	わずかに内甕、大きく外傾。 口縁部を肥厚させ、端部を 立体的な羊歯状文状に作る。 外面小波状、胴部外面雲形 文。内面摩耗により調整不 明	メノウ粒少量、 黒色砂 粒・雲母細粒 微量	普通	外面にふい 橙色。内面、 内部褐灰色	C5h0・ i0, I B 層	—	PL30 大割C1式 S11に燻 属の可能性あり
	94	縄文 土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	—	器厚厚い。大型か。内甕、 外傾。口縁部を肥厚させ、 端部に立体的な文様。外面 磨消縄文手法による雲形文。 内面ミガキ	メノウ粒中 量、チャート 粒・石英礫 ・黒色砂粒微量	普通	内外面灰黄 褐色	C6h3・ i3, I B 層	—	PL30 大割C1式

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第28因	95	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%	—	内甕, 大きく外傾。外面磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキ。外面器表荒れ	メノウ粒少量, チャート粒・泥岩粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	やや不良。焼き甘い	外面にぶい黄褐色・灰黄色。内面にぶい橙色	C6h3・i3, 1 B層	—	PL30 大洞Cl式
	96	縄文土器	壺	頸～胴部, 5%以下	—	内甕・内傾する肩部から屈曲して頸部下端に至る。外面肩上部に2溝間の截痕。下位に磨消縄文手法による雲形文。縄文はほとんど摩耗。内面ナデ	メノウ粒少量, 泥岩粒・雲母・褐色砂粒・海綿骨針微量	やや不良	外面灰黄褐色一部褐色。内面にぶい褐色	C6h1, 1 B層	—	PL30 大洞Cl式 SI11に帰属の可能性あり
	97	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%以下	—	器厚薄い。小型か。内甕大きく外傾。外面2溝間の截痕。横走沈線。縄文。内面ミガキ	精良。メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	良好	外面にぶい褐色。内面・内部褐灰色	C6h3・i3, 1 B層	—	PL30 大洞Cl式
	98	縄文土器	浅鉢	胴～底部, 5%	— [10.0]	九底気味の平底。胴部内甕横文。大きく外傾。胴部外面縄文・内部2溝間の截痕・横走沈線。底部外面ミガキ。内面ミガキ	精良。メノウ粒・雲母細粒・黒色砂粒微量	普通, 焼けムラ	外面にぶい黄褐色。一部褐色・褐灰色。内面・内面にぶい黄褐色	C6h6・i6, 1 B層	—	PL30 大洞Cl式 SI12に帰属の可能性あり
	99	縄文土器	浅鉢	胴～底部, 10%	— [9.0]	平底。胴部内甕・大きく外傾。胴部外面横走沈線と磨消縄文手法による雲形文か。底部外面ミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量, 黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	内外面黒褐色	C6h5・i5, 1 B層	—	PL30 大洞Cl式
第29因	100	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部, 10%	— [17.4]	大きく外傾。内甕。口縁部で外反。口縁端部に裝飾的な文様を彫刻。胴部外面無文。内外面ミガキ	メノウ粒少量, チャート粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好, 焼けムラ	サンドイッチ状。外面にぶい橙色・褐色。内面にぶい黄褐色・黒斑。内部褐灰色	C5h1・i1, 1 B層	—	PL30 大洞Cl式 SI11に帰属の可能性あり
	101	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	器厚やや厚い。外傾。口縁端部に沈線。横長のB突起を磨消しを貼り付け。外面太い沈線と磨消縄文手法による雲形文。内面口縁部下に横走沈線。ミガキ	メノウ粒少量, チャート粒・黒色砂粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色。芯部にぶい黄褐色	C6h2・i2, 1 B層	—	PL30 前甕式 No.102・103と同一個体か
	102	縄文土器	深鉢	胴部, 5%以下	—	器厚やや厚い。内甕。内傾。上部で屈曲して外反。外面太い沈線と磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキ	メノウ粒中量, チャート粒・泥岩粒・黒色砂粒少量, 褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面灰褐色。内面灰黄褐色。内部褐色。芯部にぶい黄褐色	C6h2・i2, 1 B層	—	PL30 晩期中葉。前甕式 No.101・103と同一個体か
	103	縄文土器	深鉢	胴部, 5%	—	器厚やや厚い。内甕。内傾か。途中で屈曲して内甕気味内傾して頸部に。胴下部外面は横走沈線と区画し、磨消と縄文を交互に施文。上部は磨消雲形縄文。内面ミガキ	メノウ粒中量, チャート粒・泥岩粒・黒色砂粒少量, メノウ礫・褐色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面灰褐色。内面灰黄褐色。内部褐色。芯部にぶい黄褐色	C6h2・i2, 1 B層	—	PL30 晩期中葉。前甕式 No.101・102と同一個体か
	104	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに外傾。外反。口縁部縦波状口縁。口縁端部に凹線。外面縄文に、太い沈線で雲形文。内面太い横走沈線1条, ミガキ	メノウ粒中量, 黒色砂粒少量, 褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい赤褐色。内面にぶい褐色	C6h3・i3, 1 B層	—	PL31 前甕式
	105	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内傾。内甕。波状口縁。口縁部を肥厚させ、外面磨消縄文。内面ナデ	メノウ粒少量, 黒色砂粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい赤褐色。外面直下黒褐色	C6h3・i3, 1 B層	—	PL30 前甕式か
	106	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	ほぼ直立。口縁端部に三角の突起を貼り付け。外面太い沈線で区画された磨消縄文。内面口縁直下太い横走沈線。内面ミガキ	メノウ粒少量, 褐色砂粒・雲母細粒微量	普通	外面にぶい橙色・褐灰色。内面・内部黒褐色	C5h8・i8, 1 B層	—	PL31 前甕式 SI101に帰属の可能性あり

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第29田	107	縄文土器	小型 浅鉢	口縁部、5%以下	—	外反、外傾。波状口縁。口縁端部に波頂部の両脇から沈線。外面にへら状工具による連続刺突。その下に磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面黒色	C5h0・i0, I B 土中	—	PL31 大洞C2式 SI11に帰属の可能性あり
	108	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、20%	[18.0] (4.9)	内彎、大きく外傾。口縁端部にB突起貼り付け。外面横走沈線2条の下に磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキ	メノウ粒中量、チャート粒・石英粒・泥岩粒微量	やや不良、焼けムラ	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面に黄褐色。内部灰褐色。内面褐色。内部褐色	C5h0・i0, I B 層	3片	PL31 大洞C2式 SI11に帰属の可能性あり
	109	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	外反気味、外傾。口縁端部に平円と弧状の突帯を組み合わせた立体的な文様。外面横走沈線3条と磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキか。器壁短れ	メノウ粒少量、メノウ礫・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	やや不良、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内面褐色。内部褐色	C5h9・i9, I B 層	—	PL31 大洞C2式 外面炭化物付着 SI10内に帰属の可能性あり
	110	縄文土器	鉢	胴部、5%	—	内彎、外傾。外面磨消縄文手法による雲形文。内面ナデ	メノウ粒少量、雲母細粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。外面黄灰色。内面褐色。内部明褐色。芯部褐色	C5h8・i8, I B 層	2片	PL31 大洞C2式 SI101に帰属の可能性あり
	111	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	わずかに内彎、外傾。外面に磨消縄文手法による崩れた雲形文。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・金雲母・灰色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面に黄褐色。内面灰褐色。内部褐色	C6h1・i1, I B 層	—	PL31 大洞C2式 SI11に帰属の可能性あり
	112	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内彎、外傾。外面磨消縄文手法による雲形文。赤色塗彩。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面に黄褐色。内部灰白色	C5h2・i2, サブII層	—	PL31 大洞C2式 赤色顔料付着
	113	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内彎、外傾。口縁部外面に横位のキザミ。胴部外面に弧状沈線で区画された網目状沈線文。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母微量	普通	サンドイッチ状。内外面黄褐色。内部褐色	C6h5・i5, I B 層	—	PL31 大洞C2式 SI12内の可能性あり
	114	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内彎、外傾。口縁部外側に肥厚。外面に横走沈線3条、上2条間に棒状工具による連続刺突。その下に縄文と粗雑な弧状沈線の一部。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面黄褐色。内面に黄褐色。芯部褐色	C5h7・i7, I B 層	—	PL31 晩期中葉 SI101に帰属の可能性あり
	115	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内彎、外傾。波状口縁。波頂部にキザミ。外面磨消縄文手法による雲形文。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・灰色砂粒微量	良好	内外面明赤褐色	C5h9・i9, I B 層	—	PL31 大洞C2式 SI101に帰属の可能性あり
	116	縄文土器	小型浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内彎、大きく外傾。口縁部外側に屈曲。波状口縁か。外面沈線による文様と磨消、ニ又文か。胴下部に縄文。内面ミガキ	メノウ粒中量、チャート粒・泥岩粒微量	普通	外面に赤褐色。灰褐色。内面黒色	C5h4・i4, I B 層	—	PL31 晩期前葉 SI9に帰属の可能性あり
	117	縄文土器	小型壺か	胴部、5%以下	—	内彎。外面沈線による細かい雲形文。内面ナデ	メノウ粒少量、雲母細粒微量	普通	外面褐色。内面に黄褐色	C6h6・i6, I B 層	—	PL31 晩期中葉 SI12に帰属の可能性あり
	118	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内彎・外傾する胴部から屈曲し外反・直立する口縁部。口縁部外面ミガキ。胴部縄文を地文に横走沈線と弧状沈線。内面ミガキ	精良。メノウ粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色・褐色。内部褐色	C6h2・i2, I B 層	—	PL31 晩期中葉

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第29田											
119	縄文土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	わずかに外反気味・大きく外傾。口縁部内側に肥厚させ、横走沈線1条。端部にB突起(一方割線)。口縁部外面横走沈線3条。胴部縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒・灰色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部黒褐色	C6h3・i3, I B層	—	PL31 大割C2式
120	縄文土器	小型浅鉢	口縁～ 胴部、 20%	[7A] — —	胴部内傾から内彎して口縁部内傾。口縁部外面ミガキ。胴部縄文を地文に横走沈線2条。内面ナデ	メノウ粒少量、黒色砂粒・赤褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内部にぶい橙色	C5h7・i7, I B層	—	PL31 晩期 SI101に帰属の可能性あり
121	縄文土器	鉢か	胴部、 5%	— — —	内彎。内傾。外面縄文を地文に横走沈線2条とその間を磨り消し。内面ミガキ	メノウ粒少量、褐色砂粒・灰色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面褐灰色	C5h2・3サブトレ、II層	2片	PL31 晩期中業か
122	縄文土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	内彎。外傾。口縁部外面をナデで凹ませ、その下に太い横走沈線1条。胴部外面縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面浅灰色、内面黒褐色	C5h8・i8, I B層	—	PL31 晩期 SI101に帰属の可能性あり
123	縄文土器	台付浅鉢	胴～底 部、5 %以下	— — —	胴部内彎、大きく外傾。下部に脚台を貼り付け、外面に粘土を足し、段差を作る。胴部外面縄文を地文に横走沈線で区画し磨消縄文	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面褐灰色	C6h0・i0, I B層	2片	PL31 晩期中業 SI11に帰属の可能性あり
124	縄文土器	浅鉢	口縁部、 5%以下	— — —	外反。外傾。波状口縁。口縁部内側に肥厚させ。端部に横位のキザミ。外面横走沈線3条。内面横走する突線。外面ナデ。内面ミガキ	メノウ粒中量、メノウ礫・石英粒微量	普通	外面暗灰黄褐色。内面灰黄褐色・黒褐色	C6h4・i4, I B層	2片	PL31 大割C2式
125	縄文土器	浅鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	— — —	内彎。外傾。口縁部で外反。端部B突起(一方欠損)。外面太く浅い横走沈線2条。内縁ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・ぶい橙色土・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内部褐灰色	C6h2・i2, I B層	—	PL31 晩期中業か
126	縄文土器	壺	口縁部、 5%以下	[80] — —	外傾。端部直下外面に横走沈線1条。その下位に縄文帯。その下位無文か。内面ナデ。器表風化顕著	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・黒色砂粒微量	やや不良。焼き甘い	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部黒色	C5h2・3サブトレ、II層	—	PL31 晩期か
127	縄文土器	壺	口縁部、 5%以下	— — —	直線的。わずかに外傾。端部を外側に突出させ。小突起を付ける。端部と外面に沈線。メガネ状浮帯文か。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩礫・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい橙色。内部褐灰色	C6h2・i2, I B層	—	PL31 晩期中業 一後業
128	縄文土器	壺か	口縁部、 5%以下	— — —	直線状。わずかに外傾。波状口縁。口縁端部に沈線。外面に浮帯文で波状部分を三角に区画。その下位にヘラ状工具による連続刺突。内外面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒・黒色砂粒微量	良好	外面褐灰色。内面にぶい橙色	C5h5・i5, I B層	—	PL31 晩期中業 一後業 SI101に帰属の可能性あり
129	縄文土器	広口壺	口縁部、 5%以下	— — —	わずかに外反。外傾。波状口縁。口縁端部に波頂部の脚筋から沈線。外面に横走沈線2条。その下位にヘラ状工具による連続刺突。その下に縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒・黒色砂粒微量	良好	外面にぶい褐色。内面にぶい赤褐色	C5h3・i3, I層	—	PL31 晩期中業
130	縄文土器	浅鉢か	口縁部、 5%以下	— — —	胴部から屈曲して立ち上がる口縁部。わずかに外反。外傾。波状口縁か。口縁端部外面側にキザミ。外面ミガキ。横走沈線2条。間にヘラ状工具による連続刺突。内面ミガキ	メノウ粒・石英粒・黒色砂粒微量	普通	外面にぶい橙色。内面・内部褐灰色	C5h1・i1, I B層	—	PL31 晩期中業 SI11に帰属の可能性あり
131	縄文土器	壺	頸部、 5%以下	— — —	内傾する肩部から屈曲して立ち上がる頸部。肩部との境や下下に突帯を作り、ヘラ状工具による連続刺突。内面頸部ミガキ。肩部ナデ	メノウ粒少量、石英礫・チャート粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄色。内部褐灰色	C5h3・i3, I B層	—	PL31 晩期中業

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第29田	132	縄文土器	壺	口縁～ 肩部、5%以下	—	内彎気味で大きく内傾する 肩部から屈曲して立ち上がる 口縁部。頸部から口縁部 わずかに外反・外傾。口縁部 外面弱磨痕。本来突出か、 端部に沈線。肩部に連続刺 突。外面・頸部内面ミガキ、 肩部内面ナデ	メノウ粒少量、 黒色砂粒・雲 母細粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面灰 黄褐色。内部 褐灰色	C5h7・ i7, I B 層	—	PL31 SI101に帰 属の可能性あり
	133	縄文土器	壺	口縁～ 胴部、5%	—	内彎・内傾する胴部から 屈曲して外反・外傾する頸部 ～口縁部。口縁端部に並 で切れる2条の横走沈線。内 外面ナデ。拓本上の斜めの 線は割れ目	メノウ粒少量、 チャート粒 量、泥岩粒微 量	普通	外面・内部褐 灰色。内面灰 黄色	C6h5・ i5, I B 層	2片	PL31 SI12に帰 属の可能性あり
	134	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内彎、外傾。外面に突起、 その両脇から弧状沈線。下 位に横走沈線。内面ミガキ	メノウ粒少量、 メノウ礫、 石英粒、灰色 砂粒・褐色砂 粒・雲母細粒 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面灰 黄色。内部褐 灰色	C5h2・ i3, サブ トレ、 II層	—	PL31 SI12に帰 属の可能 性あり
第30田	135	縄文土器	浅鉢	胴～底 部、5% [90]	—	丸底から段を持って大きく 広がる胴部。内外面無文、 ミガキ	メノウ粒少量、 石英礫、 石英粒・チャ ート粒・黒色 砂粒・雲母 細粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面黒褐 色・灰褐色。 内面灰黄褐色。 内部にぶい 橙色。芯部 褐灰色	C5h2・ i2, I B 層	3片	PL31 SI9に帰 属の可能性あり
	136	縄文土器	壺	口縁 部、5%以下	[162]	頸部から強く屈曲して内湾 しながら大きく広がる口縁 部。口縁端部にB突起。無文。 外面ナデ、内面ミガキ	メノウ粒少量、 石英粒・ チャート粒・ 雲母細粒微 量	普通	サンドイッチ 状。内外面褐 褐色	C6h2, I B層	—	PL31 晩期中業
	137	縄文土器	浅鉢	口縁～ 胴部、10%	—	内彎、大きく外傾。口縁端 部にB突起。外面縄文。内 面ナデ	メノウ粒少量、 褐色礫・石 英粒・雲母細 粒・海綿骨針 微量	やや不良	外面褐灰色、 内面灰黄褐色	C6h5・ i5, I B 層	2片	PL32 後、晩期 粗敷土器 外面全面・ 口縁端 部炭化物 付着 SI11に帰 属の可能性あり
	138	縄文土器	壺	口縁～ 肩部、5%	[134]	外反・内傾する肩部からく の字に屈曲しわずかに外反気 味に大きく開く口縁部。薬 差が肥厚し口縁部内面と段 差。無文。内外面丁寧なミ ガキ	メノウ粒少量、 灰色砂粒 量、灰色砂粒 量、雲母細粒 微量	良好	サンドイッチ 状。外面灰褐 色・黒褐色。 内面灰黄褐色。 内部橙色。 芯部褐灰色	C5h8・ i8, I B 層	3片	PL31 SI101に帰 属の可能性あり
	139	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内彎、内傾。外面工字文、 横走沈線。内面ミガキ	メノウ粒少量、 メノウ礫、 黒色砂粒・褐 色砂粒微量	やや不 良、不 焼き 甘い	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 内部褐灰色	C5h2・ i3, サブ トレ、 II層	—	PL31 大洞A式
	140	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	外傾、内彎。外面工字文、 内面ナデ	メノウ粒少量、 メノウ礫・黒色砂粒 微量	普通	サンドイッチ 状。外面灰黄 褐色。内面に ぶい黄褐色。 内部褐灰色	C5h6・ i6, I B 層	—	PL31 晩期後業 SI101に帰 属の可能性あり
	141	縄文土器	壺	肩部、5%以下	—	器厚薄い。わずかに内彎、 強く内傾。外面に工字文、 外面赤彩か。内面ミガキ	メノウ粒少量、 雲母・黒色 砂粒・灰色 砂粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面黒 褐色。内部褐 灰色	C5h0・ i0, I B 層	—	PL32 大洞A式 外面赤色 顔料付着 SI11に帰 属の可能性あり
	142	縄文土器	注口土器	注口部、5%以下	—	胴部に貼り付けられた注口 の基部。基部長3.9cm、幅30 cm、内径8mm。注口部下位を 弧状沈線で区画し、内側ミ ガキ。外側縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、 チャート粒・ 黒色砂粒・雲 母細粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色。 内部褐灰色	C6h3・ i3, I B 層	—	PL32

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第30区											
143	縄文土器	注口土器	注口部、5%以下	—	胴部に貼り付けられた注口の基部。段状に作る。基部長2.3cm、幅3.6cm、内径8mm、外面ミガキ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	普通	内外面・内部褐色。外面直下にぶい黄褐色	C5h6・i6, I B層	—	PL32 晩期 SI101に帰属の可能性あり
144	縄文土器	注口土器	注口部、5%以下	—	胴部に貼り付けられた注口。貼付部分で剥離。長2.7cm、長さ1.5cm、内径7mmの楕円筒状で注口先端と基部に粘土紐を巻く。基部長2.2cm、幅2.7cm。内外面ナデ	メノウ粒少量、黒色砂粒・雲母細粒微量	普通、やや焼き甘い	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	C6h2・i2, 排土中	—	PL32
145	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。複合口縁。複合部外面に横位の沈線を途切れさせ、工字状を呈す。外面に弧状条線文の一部、ミガキ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒褐色	C5h2・i2, I B層	—	PL32 後・晩期 SI9に帰属の可能性あり
146	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。複合口縁。口縁部外面に横位の2条単位の短条痕。内外面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・雲母微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	C5h4・i4, II層	—	PL32 後・晩期 粗製土器 SI9に帰属の可能性あり
147	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。複合口縁。口縁部外面に横位の2本単位の短条痕。内面ナデ。外面器表荒れて調整不明	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	やや不良、焼き甘い	外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色	C5h6・i6, I B層	—	PL32 粗製土器 SI12に帰属の可能性あり
148	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷気味。わずかに外傾。複合口縁。口縁部外面棒状工具による連続刺突。胴部外面網目状撫糸文。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	普通	内外面にぶい褐色。内部灰白色	C6h2・i2, I B層	—	PL32 後・晩期 粗製土器
149	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。口唇部外面に細めの棒状工具による連続刺突。以下縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒微量	普通	内外面にぶい褐色。内部灰白色	C6h7・i7, 排土中	—	PL32 後・晩期
150	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、やや内傾。外面縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面褐色。内部褐色	C5h4・i4, I B層	—	PL32 後・晩期 粗製土器 SI9に帰属の可能性あり
151	縄文土器	浅鉢	口縁部～底部、20%	[14.0] (5.4) [4.8]	器厚薄い。底部から立ち上がり内髷しながら大きく開く。外面縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩粒・雲母細粒微量	やや不良、焼けムラ	外面にぶい褐色。内面にぶい黄褐色。黒褐色	C6h5・i5, I B層	—	PL32 後・晩期 粗製土器 SI12に帰属の可能性あり
152	縄文土器	深鉢	口縁部～胴部、5%以下	—	内髷・外傾して立ち上がり、口縁部で内傾。口縁部外面縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、砂岩礫・黄褐色砂粒微量	やや不良、焼けムラ	外面灰白色、褐色。内面灰黄色	C5h0・I B層	5片	PL32 後・晩期 粗製土器 SI11に帰属の可能性あり
153	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	胴部内髷気味。口縁部外反気味。全体やや外傾。口縁部をわずかに肥厚せし基部を平らに成形。外面縄文。内面ミガキ。輪積み痕	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	やや不良、焼き甘い	サンドイッチ状。外面褐色。内面褐色。内部灰白色	C5h6・i6, I B層	—	PL32 SI9に帰属の可能性あり
154	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、外傾。外面縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母暗赤褐色粒	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内部褐色。内部褐色	C5h6・i6, I B層	—	PL32 後・晩期 粗製土器 SI101に帰属の可能性あり
155	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内傾、内髷。外面縄文。赤彩か。内面ミガキ	精良。メノウ粒少量。黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい褐色。内部褐色	C6h0・i0, I B層	—	PL32 後・晩期 粗製土器 SI11に帰属の可能性あり

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考		
第30区	156	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内髷、外傾。複合口縁。外面条線文。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・赤褐色砂粒微量	良好	外面褐灰色、内面にぶい黄褐色、内部黒褐色	C6h0・i0, I B 層	1	—	PL32 SI11に帰属の可能性あり
	157	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。外面横位の条線文とその下に斜位の条線文。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒・泥岩粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	やや不良、焼き甘い	外面にぶい橙、内面にぶい黄褐色	C5h0・i0, I B 層	1	—	PL32 粗製土器 SI11に帰属の可能性あり
	158	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内傾、内髷。外面縦位の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面にぶい褐色、内面にぶい橙色、内部黒褐色	C5h0・i0, I B 層	2片	—	PL32 後・晩期 粗製土器 SI11に帰属の可能性あり
	159	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内傾、内髷。外面縦位の波状条線文。内面ナデ	メノウ粒中量、チャート粒・雲母細粒・黒色砂粒・赤褐色砂粒微量	普通	外面にぶい黄褐色、内面黄褐色。内面直下にぶい黄褐色、内部褐灰色	C5h1・i1, I B 層	1	—	PL32 後・晩期 粗製土器 SI11に帰属の可能性あり
	160	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	—	外傾。外面縦位の波状条線文。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面褐灰色、内面にぶい褐色、内部にぶい褐色、芯部褐灰色	C6h1・i1, I B 層	4片	—	PL32 後・晩期 粗製土器 海綿骨針 顕著 SI11に帰属の可能性あり
	161	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%	—	口縁部は端部を欠く。外傾、内髷。外面に横位の条線文と、縦位の波状条線文。内面ナデ	メノウ粒中量、チャート粒・泥岩粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色、灰褐色、内面にぶい黄褐色	C5h8・i8, I B 層	1	—	PL32 後・晩期 粗製土器 外炭化物 付着
	162	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	外傾。外面粗いナデをし縦位の条線文。輪積み痕顕著。内面ナデに横位の条線	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒(水晶含有)、雲母細粒微量	普通	外面灰褐色、内面灰黄褐色	C6h3・i3, I B 層	1	—	PL32 後・晩期 粗製土器
	163	縄文土器小	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。外面若干右下がりの条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・チャート礫・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色、内部	C5h7・i7, I B 層	3片	—	PL32 SI10に帰属の可能性あり
	164	縄文土器	鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内髷・外傾する胴部から屈曲して内傾する口縁部。外面撫糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面褐灰色	C5h7・i7, I B 層	2片	—	PL32 後・晩期 粗製土器 SI10に帰属の可能性あり
	165	縄文土器	浅鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、内傾。複合口縁。口縁部外面斜位の撫糸文。胴部外面縦横の撫糸文。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面にぶい褐色、内部灰黄褐色	C5h7・i7, I B 層	1	—	PL32 海綿骨針 顕著 SI10に帰属の可能性あり
	166	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷気味。外傾。外面網目状撫糸文。内面ナデ。外面器表荒れ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	やや不良、焼き甘い	外面明赤褐色、にぶい黄褐色。内面にぶい褐色、黒褐色	C5h4・i4, I B 層	1	—	PL32 内面炭化物 付着 SI10に帰属の可能性あり
	167	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内髷、やや内傾。複合口縁。口縁部外面ナデ。胴部外面網目状撫糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・灰色砂粒微量	やや不良、焼けムラ	外面黒色、にぶい黄褐色、内面にぶい黄褐色	C5h9・i9, I B 層	1	—	PL32 後・晩期 粗製土器 SI10に帰属の可能性あり

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第30区	168	縄文土器	浅鉢 口縁部、5%以下	— — —	内甕、わずかに内傾。外面網目状捺糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、泥岩粒・雲母細粒	普通	外面黒褐色、内面灰褐色、褐色	C5h1・i1, I B層	—	PL32 後・晩期粗製土器S11に帰属の可能性あり
	169	縄文土器	深鉢 口縁部、5%以下	— — —	内甕、内傾。外面口縁部下縁積み痕、胴部粗い網目状捺糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、灰色砂粒微量	やや不良、焼けムラ	サンドイッチ状。外面灰黄褐色・黒褐色、内面にふい橙色。内部褐色	C6h6・i6, I B層	—	PL33 後・晩期粗製土器S112に帰属の可能性あり
	170	縄文土器	深鉢 口縁部、5%以下	— — —	内甕、外傾。外面無文。口縁部内面に粘土を貼り付け肥厚させる。内外面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・石英粒微量	やや不良、焼き甘い	サンドイッチ状。外面灰黄褐色、内面にふい橙色。内部褐色	C5h8・i8, I B層	—	PL33
第31区	171	縄文土器	深鉢 口縁部、10%	[290] (8.8) —	内甕・外傾する胴部から外反・外傾する口縁部。口縁部外面ナデ、胴部網目状捺糸文。内面ナデ	メノウ粒中量、メノウ礫・泥岩礫・チャート粒・雲母細粒微量	やや不良	外面にふい黄褐色、内面褐色	C5h0・I B層	13片	PL33 後・晩期粗製土器S111に帰属の可能性あり
	172	縄文土器	浅鉢 口縁部、5%	[209] — —	内甕、外傾。口縁部平坦。無文。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい橙色。内面にふい黄褐色。内部褐色	C5h9・i9, I B層	—	PL33 後・晩期粗製土器S110に帰属の可能性あり
	173	縄文土器	広口壺か 口縁部、5%以下	[138] — —	外反・外傾。無文。内外面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・石英粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい橙色。内部褐色	C5h0・i0, I B層	—	PL33 S111に帰属の可能性あり
	174	縄文土器	浅鉢 口縁部、5%	[146] (4.9) —	外傾。内甕する胴部から緩い稜を持って外反する口縁部。口縁部平坦。一部内外に突出。突出部下に小孔1対(焼成前穿孔)。内外面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内部黒褐色	C6h6・i6, I B層	2片	PL33 S112に帰属の可能性あり
	175	縄文土器	台付鉢か 底部、5%以下	— 9.0	胴部との接合面できれいに剥離。底部内面・台部外面ナデ。底部外面～台部内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面灰黄褐色。内部にふい橙色	C5h4・i4, I B層	—	PL33 晩期中葉S19に帰属の可能性あり
	176	縄文土器	ミナ7土器 口縁部、40%	[5.6] (4.2) —	胴部内甕。口縁部に粘土を貼り付けた上からナデ。無文、調整難。指ナデ痕顕著	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、褐色砂粒・海綿骨針微量	やや不良、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面灰白色。外面一部黒色。内部褐色	C6h4・i4, I B層	—	PL33
	177	弥生土器か	小型壺か 底部、5%	— [4.2]	平底。外面捺糸文か。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、泥岩礫・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰白色。内面浅黄褐色。内部黒褐色	C5h9・i9, I B層	—	PL33 内面赤色顔料付着
	178	弥生土器か	壺か 胴部、5%	— (6.8) 5.2	やや丸みを帯びた分厚い平底。胴部わずかに内傾、外傾。無文。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	外面褐色。内面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色	C6i1, I B層	—	PL33 外面煤付着
	179	弥生土器	壺 口縁部、5%以下	— — —	内甕、外傾。口縁部にキザミ。外面拂指波状文。内面ミガキ	メノウ粒少量、黒色砂粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色。内面にふい黄褐色	C5h6・i6, I B層	—	PL33 十三台式

種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考		
第31回	180	土師器	甕	体～底部、5%以下	— [7.0] [9.6]	分厚い(厚さ21cm)平底。体部わずかに内彎気味(外面外反)、外傾。体部外面へラケズリ。内面ナデ。底面粗い網代痕か	メノウ粒少量、石英粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、黒褐色。内部褐灰色	C5h8・i8, I B層	—	PL33 内外面・破断面に炭化物付着 SI101:燧炭の可能性あり
	181	土師器	環	口縁部、5%以下	[11.8] — —	外傾。体部内彎。口縁部で外反。内外面口クロナデ	精良。メノウ粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	内外面にぶい橙褐色	C6h0・i0, I B層	—	PL33 平安
	182	土師器	環	口縁部～体部、5%以下	[15.8] — —	内彎・外傾する体部からわずかに外反する口縁部。ロクロ成形後、内外面ミガキ	精良。メノウ粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	内外面灰黄色。内面一部黒褐色	C5h5・i5, 排土中	—	PL33 平安
	183	灰軸陶器	高台付環	口縁部～体部、5%以下	[13.6] — —	わずかに内彎・外傾する体部からわずかに外反する口縁部。ロクロ調整。内面全面と外面の一部に軸	精良。粒子をほとんど認めず。石英細粒微量	良好	内外面灰白色	C5h6・i6, I B層	—	PL33 平安
	184	須恵器	壺	体～底部、5%以下	— [11.0]	平底に高台貼り付け。胴部外傾。内外面、底部内面に自然軸。高台に目軸着	メノウ粒・石英粒・黒色粒微量	良好	器胎灰色。釉灰オリーブ色	C5h5・i5, I B層	—	PL33
	185	陶器	丸皿	口縁部～体部、20%	[9.8] — —	内彎。大きく外傾。口縁部外反。ロクロナデ。内外面長石軸	精良。石英粒微量	良好、堅緻	器胎灰白色。釉灰黄色	C6h1・i1, 排土中	—	PL33 瀬戸・美濃系(志野焼) 16世紀末～17世紀前半
	186	青磁	碗	口縁部、5%以下	— — —	直線的。外傾。内外面施釉	精良	良好、堅緻	器胎灰白色。釉灰オリーブ色	C6h1・i1, 排土中	—	PL33 龍泉割か13世紀後半～14世紀前半か

種別	器種	長さ(mm)	幅(mm)	口径(mm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合	備考	
第31回	187	土偶(脚部)	(4.8)	(2.4)	—	(18.5)	左脚部片か。厚さ(2.1)cm。内股内彎。前面に横位の沈線2条。内股側に横位の沈線現状1条	メノウ粒少量。褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	表面灰黄色・黒褐色。内面褐色	C5h1・i1, I B層	—	PL33 一部残存
	188	土偶(顔の一部と胴部)	(7.2)	(5.1)	—	(55.6)	ミミズク土偶。板状の体部に顔の輪郭を示す隆帯と目・口を示すボタン状の粘土を貼り付け。隆帯と目の縁に刻み。背面に入組文。脚部左右とも欠損。厚さ1.8cm	精良。粒子細かい。メノウ粒・石英粒・褐色砂粒微量	良好	褐灰色	C5h4・i4, I B層	—	PL33 一部残存 SI9:燧炭の可能性あり
	189	土偶(胴部)	(6.1)	(4.6)	—	(70.2)	厚めの板状で、腹側がやや盛り上がる。腹・背面ともに無文。ミガキ。脚は棒状粘土を2本胴部に差し込んで成形。胴部下端に棒状粘土の一部残存	メノウ粒少量。石英粒・雲母細粒微量	良好	灰黄褐色。ぶい橙褐色。褐色	C6h2・i2, I B層	—	PL33 一部残存
	190	土器片(内盤)	3.3	4.3	—	15.0	後期末～晩期初頭の縄文土器胴部を転用。周縁を折って整形。不整形円形。外面、縦長の貼瘤に横位のキザミ。縄文を沈線でごまかして磨り消し。内面ミガキ	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	良好	外面・内面褐色。内面灰黄褐色	C5h8・i8, I B層	—	PL33 完存

種図	器種	長さ (mm)	幅(mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合	備考
第31図	土器片 円盤	3.6	3.6	—	(7.8)	縄文土器の胴部を転用。周縁を磨って整形か。外面縄文。内面ミガキ。輪積み痕で一部剥離	メノウ粒少量、メノウ塵・石英粒・チャート粒微量	良好	にぶい 藍色	C5h4・ i4, I B 層	—	PL33 一部欠損 SI9に帰 属の可能性あり
第32図	土偶 (脚部)	高さ (5.8)	厚み (5.2)	—	(142.8)	調整の粗密から左脚と判断。太い粘土棒を胴部に接合して成形。接合部で剥離。脚は内腔側に彎曲。粘土を外側から前後に(下段全周)3段まき付け、中段の凸部には2列の棒状工具による連続刺突。仕上げがやや粗雑で凹凸が目立つ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒微量	良好	表面にぶ い黄褐色 内部褐色	C6h1・ i1, 排土 中	—	PL33 一部残存
193	土器片 円盤	3.6	3.5	—	11.9	ミニチュア土器の底部を転用。胴部側面を磨って調整。円形。土器内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・赤褐色砂粒微量	良好	外面黄褐色、内面 灰褐色	C6h1・ i1, I B 層	—	PL33 完存 SI11に帰 属の可能性あり
194	土器片 円盤	7.2	7.4	—	58.6	上げ底の土器底部を転用。表裏と周縁を丸く磨って調整。円形	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒微量	良好	外面灰黄 褐色、内 面にぶい 橙色	C6h5・ i5, I B 層	—	PL34 完存 SI12に帰 属の可能性あり
195	土器片 円盤	4.9	5.3	—	21.1	縄文土器の胴部を転用。周縁を折って整形。不整形円形。外面縄文か。内面ナデ。器体軟質、表面風化	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	やや不 良、焼 き甘い	内外面に ぶい黄褐色、内面 一部橙色	C5h1・ i1, I B 層	—	PL34 完存
196	土器片 円盤	3.0	3.2	—	6.9	縄文時代の後・晩期の深鉢胴部を転用。周縁を折って整形。不整形円形。外面朱線文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	良好	サンドイ ッチ状、 外面に ぶい黄褐色、内面 にぶい橙 色、内部 褐色	C5h2・ i2, 排土 中	—	PL33 完存
197	土器片 円盤	5.6	5.3	—	21.6	縄文時代晩期初頭の深鉢胴部を転用。不整形円形。外面に連続キギミと貼膚。弧状沈線。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	良好	外面 褐色 ・黒色、 内面にぶ い赤褐色	C5h0・ i0, I B 層	—	PL34 完存 SI11に帰 属の可能性あり
198	土器片 円盤	3.8	3.9	—	8.2	縄文土器浅鉢胴部を転用。不整形円形。外面半衝状文、沈線で区画、チャート粒微量。内面ナデ	メノウ粒少量、外面	良好	内外面褐 灰色	C6h2・ i2, 排土 中	—	PL34 大洞BC 式

種図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第32図	199	石剣	(8.5)	(3.6)	(2.0)	(52.2)	流紋岩質 凝灰岩	断面杏仁形で一端がわずかに細い棒状。両側縁に稜。ほぼ長軸方向の擦痕	C6h1・ i1, I B 層	2片	PL34 一部残存 SI11に帰 属の可能性あり
200	石刀	(7.1)	(2.5)	(1.0)	(20.7)	緑色片岩	断面算盤玉状で一端は稜、他端は平面。表面研磨調整痕顕著	C5h7・ i7, I B 層	—	PL34 一部残存	
201	石剣	(9.3)	3.2	1.8	(84.0)	粘板岩	石剣先端か。断面楕円形。整形の敲打痕をごく一部残す。軸に斜交する研磨により調整。先端は若干幅を増し、先端から約2.5cmに軸直交方向の刻線	C5h2・ i2, I B 層	—	PL34 一部残存	
202	石棒	(11.3)	2.9	(1.5)	(60.1)	粘板岩	断面推定楕円形。器表は主として主軸方向かわわず斜交方向の研磨調整により滑らか	C5h0・ i0, I B 層	—	PL34 破片 SI11に帰 属の可能性あり	
203	石剣	(5.3)	3.0	1.6	(46.2)	緑色片岩	断面整った杏仁形。表面研磨調整	C6h2・ i2, I B 層	—	PL34 一部残存	

種図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第32図	204	石刀	(4.6)	(2.5)	(0.5)	(8.2)	緑色片岩	両端折損し、摂理により剥離した破片。刃部側面・横磨削調整。研磨方向は、刃部は軸に斜交、横はほぼ平行	C6h4・ 4, I B層	—	PL34 一部残存
	205	石刀か	(4.3)	(2.7)	(0.9)	(19.1)	粘板岩	断面長楕円形で、一方がやや尖る。尖る先端付近の副縁がわずかに弧を描き、他の副縁は直線的。器表は研磨調整	S11付 近排土中, I層	—	PL34 破片
	206	石剣 未成品	(9.5)	(2.2)	(1.3)	(38.3)	粘板岩	石剣破損品と推定されるが、両端も敲打により整形。石剣以外の可能性も。残存する器表には敲打痕、一部研磨痕。表裏に磨りによる細く断続する溝	C6h5・ 5, I B層	—	PL34 一部残存 S112に帰属の可能性あり
207	石剣 未成品	(7.3)	(3.0)	(1.4)	(41.7)	粘板岩	石剣頭部か。図上は端部、図下は括れ、括れ部で折損し裏面が摂理により剥離した破片。断面楕円形。器表に敲打痕・研磨痕。研磨方向は軸と斜交。括れの研磨は軸直交方向	C6h3・ 3, I B層	—	PL34 一部残存	
第33図	208	石剣 未成品	(12.4)	(3.8)	(2.2)	(138.5)	粘板岩	石剣先端部。断面楕円形で先端は尖る。両副縁を中心に敲打痕。粗磨り後敲打整形の初期で破断か	C5h0・ 10, I B層	—	PL34 一部残存
	209	石剣 未成品	(9.6)	(3.0)	(1.8)	(59.0)	粘板岩	頭部付近の破損品。残存する器表には敲打痕、括れ部の一部に擦痕	C5h2・ 12, I B層	—	PL34 一部残存
	210	小型磨 製石斧	6.6	2.5	1.2	(18.5)	粘板岩	扁平な石材を利用。軸に斜交（一部直交）する研磨により整形。裏面の大きな剥離により放棄か。	C5h2・ 12, I層	—	PL34 一部欠損
	211	石錘	6.5	4.9	1.1	54.2	粘板岩	扁平な不整形楕円形の礫を利用。表裏面の長軸方向両端に磨りによる溝。表面の破損は溝形成以前	C5h7・ 17, I層	—	PL34 完存
	212	石錘	5.0	4.5	1.9	(47.3)	砂岩	扁平な不整形楕円形の礫を使用。長軸方向の両端部に磨りによる溝	C5h0・ 10付近 排土中	—	PL34 ほぼ完存 S111に帰属の可能性あり
	213	石錘	(6.5)	3.7	1.1	(36.7)	粘板岩	扁平な不整形楕円形の礫を使用。両端表裏面に磨りによる溝。溝周辺に溝を外れた磨り痕	C5h8・ 1 B層	—	PL34 一部欠損
	214	石錘	6.1	4.5	(1.2)	(49.2)	蓮青石 ホルンフ エルス	扁平で不整形楕円形の礫を利用。両端部に磨りによる長軸方向の溝	C6h2・ 12, I B層	—	PL34 一部欠損
	215	石錘	(5.2)	4.2	1.0	(35.8)	ホルンフ エルス	扁平な楕円形の礫を利用。礫は表面は平滑、裏面は凹凸ある自然面。表裏面に長軸方向の溝	C6h2・ 12付近 排土中	—	PL34 一部欠損
	216	石錘 (未成 品か)	4.7	3.4	1.2	(24.3)	ホルンフ エルス	扁平な楕円形の礫を利用。1面の1端に認められる溝は自然の摂理を利用しているが人為的。他にはなく未成品の可能性あり	C6h6・ 1層	—	PL34 一部欠損 S112に帰属の可能性あり
	217	石錘	(5.9)	3.1	1.4	(33.8)	砂岩	扁平な不整形楕円形の礫を利用。両端部に磨りによる長軸方向の溝	C6h7・ 17付近 排土中	—	PL34 ほぼ完存
	218	石錘	6.7	4.7	1.7	(68.3)	ホルンフ エルス	扁平な不整形長方形の礫を利用。表裏面両短辺に磨りによる長軸方向の溝。表面は溝が交錯。やや雑	C6h1・ 11, I B層	—	PL35 一部欠損 S111に帰属の可能性あり
219	石錘	(4.5)	(3.4)	(0.7)	(10.9)	粘板岩	大きく破損。扁平な楕円形の礫を利用（推定）。一端に磨りによる長軸方向の溝。軸に斜交する溝は後世の繕作等による破損	C5h7・ 17, I B層	—	PL34 一部欠損	
220	石錘	4.6	3.1	0.9	20.4	ホルンフ エルス	扁平な礫を利用。長辺を磨り長方形に整形。短辺中心部に打撃と磨りにより溝を形成	C5h3・ 13, I層	—	PL35 完存 S19に帰属の可能性あり	
221	石錘	(5.6)	(2.6)	(0.8)	(11.3)	ホルンフ エルス	大きく破損。扁平な楕円形の礫を利用（推定）。一端に磨りによる長軸方向の溝	C5h7・ 17, I B層	—	PL35 一部欠損	
222	磨石	6.9	5.9	3.2	(110.1)	多孔質 安山岩	扁平な楕円礫を利用。副縁を整形。表面を使用。裏面は大きく剥離	C5h3・ 13付近 排土中	—	PL35 一部欠損	
223	磨石	5.0	4.2	3.4	100.5	多孔質 安山岩	楕円礫の表裏に磨り面を形成した厚みのある小型の磨石。側面は整形または使用	C5h0・ 10, I層	—	PL35 完存	

押図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第34図	224	磨石	8.8	8.0	3.0	270.0	多孔質 安山岩	扁平な礫を利用。周縁の一部を整形し、 ほぼ円形。表裏面を使用	C6h5・ i5, I B 層	—	PL35 完存 SI12に燻 属の可能性あり
	225	磨石	7.5	(5.2)	4.4	(210)	多孔質 安山岩	不整形円形。側面は磨りにより整形。表裏 面に使用痕	C5h9・ i9, I B 層	—	PL35 60%残存 SI11に燻 属の可能性あり
	226	磨石	7.4	5.0	2.0	110.6	多孔質 安山岩	扁平な不整形長方形の礫を利用。縁辺を一 部整形。表裏面に使用痕	C6h7・ i7付近 排土中	—	PL35 完存
	227	磨石	5.9	5.7	3.8	193.4	安山岩	わずかに扁平な円礫を利用。表裏面を使 用	C6h5・ i5, I B 層	—	PL35 完存 SI12に燻 属の可能性あり
	228	磨石	6.4	5.2	3.0	107.3	多孔質 安山岩	やや扁平な楕円形の礫を利用。側面の磨 りは整形痕か。表裏面にわずかな使用痕	C6h2・ i2, I 層	—	PL35 完存
	229	磨石	7.2	(6.2)	4.2	(268)	多孔質 安山岩	隅丸方形。側面は磨りによる整形または 使用痕。表裏面に使用痕	C5h5・ i5, I B 層	—	PL35 70%残存 SI10に燻 属の可能性あり
	230	磨石	6.0	5.7	3.9	184.0	多孔質 安山岩	やや扁平な礫を利用。周縁を整形。表裏 面を使用	C6i1	—	PL35 完存 SI11に燻 属の可能性あり
	231	磨石	6.6	(5.7)	4.0	(171.5)	多孔質 安山岩	やや扁平な礫を利用。一部側面を整形し ほぼ円形。表裏面に使用痕	C6h4・ i4, I 層	—	PL35 70%残存
	232	磨石	7.6	5.1	2.3	115.8	多孔質 安山岩	扁平な楕円形の礫を利用。表裏面と長側 面の1面を使用。使用による摩耗は少な い	C5h5・ i5, I B 層	—	PL35 完存 SI10に燻 属の可能性あり
	233	磨石	5.4	4.9	2.8	113.3	多孔質 安山岩	平面楕円形で厚さ一定の整った形。全面 を使用または整形	C6h2・ i2, I B 層	—	PL35 完存
第35図	234	磨石	5.5	5.0	2.5	(79.9)	多孔質 安山岩	扁平な礫を利用。周縁を加工し、楕円形 につくる。小型。表裏面を使用	C6h5・ i5, I B 層	—	PL35 一部欠損 SI12に燻 属の可能性あり
	235	磨石	(7.4)	5.7	1.9	(96.9)	多孔質 安山岩	扁平な楕円形の礫を利用。表裏面を使用	C6h7・ i7付近 排土中	—	PL35 一部欠損
	236	磨石・ 敲石	5.9	5.2	3.7	156.1	安山岩	やや扁平な楕円礫を利用。両端を敲石と して、表裏面と一部側面を磨石として使 用	C6h1・ i1付近 排土中	—	PL35 完存
	237	敲石	(7.6)	(4.5)	(3.1)	(147.7)	砂岩	長楕円形の礫を利用。端部に使用痕	C5h4・ i4, I B 層	—	PL36 一部残存 SI9に燻 属の可能性あり
	238	磨石・ 敲石	11.7	6.7	5.5	593	安山岩	断面三角形に近い楕円礫を利用。表裏に 平滑な磨り面を形成。磨りの方向は長軸 にはば直交。両端に敲石としての使用痕	C6h1	—	PL36 完存 SI11に燻 属の可能性あり
	239	敲石・ 凹石	(5.9)	(6.4)	3.1	(142.2)	砂岩	扁平な礫を利用。1端に敲石としての使 用痕。表面に凹み。表裏面と左側面はや や平滑で、磨石として使用の可能性	C6h5・ i5, I B 層	—	PL36 一部残存
	240	敲石か	5.0	3.7	3.6	100.0	砂岩	卵形の礫を利用。1面に敲きによるかと 思われる剥離	C5h8・ i8付近 排土中	—	PL36 完存
241	敲石	9.3	5.8	4.3	336	砂岩	断面三角形の長い自然礫が折れたものを 利用。先端部2側面先端部近く側縁に使 用痕。被熱して赤化	C6h6, II 層	—	PL36 完存 SI12に燻 属の可能性あり	

押図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第35図 242	敲石	9.8	6.1	2.8	237	砂岩	断面三角形の扁平な礫を利用。1端と側縁に使用痕	C5h5・ 15付近 排土中	—	PL36 完存
第36図 243	敲石 (砥石)	(7.9)	6.5	3.2	(178.7)	砂岩	扁平な菱形の礫を利用。1端に敲石としての使用痕(径13mm)。他端は破損のため不明。1面に平滑な砥面	C6h2・ 12付近 排土中	—	PL36 一部欠損
244	敲石	(9.0)	3.5	5.5	(204)	砂岩	断面三角形の棒状礫を利用。1側面の端部に使用痕	C5h0・ 10付近 排土中	—	PL36 一部残存
245	敲石	(7.6)	4.8	3.4	(168.9)	砂岩	断面三角の長楕円形礫を利用。端部と一部側縁に使用痕。右側面の不自然な剥離は後世の農業機械等によるもの	C6h2・ 12付近 排土中	—	PL36 一部欠損
246	敲石 (砥石)	11.3	5.4	2.0	237	ホルン フェルス	不整長方形の扁平な礫を利用。一端に使用痕。2側面の一部平滑。敲石以前に砥石として使用か。敲打面にも一部平滑な面が残る	C5h7・ 17, I B 層	—	PL36 完存
247	敲石 (凹石・ 磨石)	(14.1)	5.1	3.7	(420)	砂岩	長い自然礫を利用。一端の頂部をわずかに外れた表裏面に使用痕。表裏面のわずかな凹みは凹石または敲石としての使用痕。表裏面と両側縁に擦痕。磨石(または砥石)としての使用痕か	C5h8, I B層	—	PL36 一部残存
248	台石か	(9.8)	(9.1)	7.3	(835)	硬質砂岩	扁平な大型礫を利用。表面は一部を除き剥離。被熱によるものか。残存面には一部擦痕状の条痕	SI11付 近 I 層 排土中	—	PL36 一部残存
249	石皿 (凹石)	(9.6)	(9.7)	4.0	(455.0)	砂岩	扁平な中型礫を利用。表裏面を石皿として使用。凹みは現状で表裏面各1か所。表面の凹みは径17mm。裏面の凹みは径12mm。深さはともに4mm	C6h4・ 14, I B 層	—	PL36 一部残存
250	敲石・ 凹石	7.5	6.4	(3.5)	(216)	多孔質 安山岩	不整楕円礫を利用。一端を使用(他端も使用か)。中央のわずかな凹みは凹石としての使用痕	C5h0・ 10, I B 層	—	PL36 60%残存
第37図 251	凹石	(14.8)	12.2	9.9	(2140)	片麻岩	大型の礫を利用。明確な凹み1か所とやや不明確な凹み1か所	C5h9, I B層	—	PL37 一部欠損
252	凹石・ 砥石	(10.2)	(9.9)	(7.4)	(857)	砂岩	礫を利用。現状で2面に3か所の凹み。凹みの周辺は平滑。1面に大きく湾曲する砥面	C6i1	—	PL37 一部残存 SI11に帰 属の可能性あり
253	砥石	(9.8)	(8.6)	1.9	(124.4)	砂岩	扁平な礫を利用。表裏面に砥面。表面の亀裂は被熱のためか	C6h3・ 13, I B 層	—	PL36 70%残存
254	砥石	(7.3)	(6.8)	1.8	(124.4)	砂岩	扁平な礫を利用。表裏面に砥面。側面も一部砥面として利用か	排土中	—	PL36 一部残存
第38図 255	勾玉	2.6	1.4	0.8	3.4	滑石	緑色がかった灰色。異形。突起が3個認められるが、2個は頭部の裝飾か。扁平な礫を利用し、磨りにより調整。頭部の剥離は調整前。頭部に1孔。穿孔は2方向から	C5h7・ 17, I B 層	—	PL37 完存
256	垂飾か	(7.5)	(8.0)	(3.0)	(119.2)	メガロドン 歯化石	メガロドンの歯の化石。歯根が残存しないので不明であるが、類例から垂飾の可能性が考えられる	C5h7・ 17, I B 層	—	PL37 一部欠損 付章参照
257	石鏝未 成品	2.8	(2.2)	0.8	(3.8)	メノウ	赤褐色から半透明のメノウを利用。先端部左側縁は交互剥離しているが、右側縁は表面のみ調整。基部形成中に破損か。	C5h0・ 10, I B 層	—	PL37 一部欠損
258	石鏝	(3.1)	(2.1)	0.6	(1.9)	珪質頁岩	風化部分が表裏に残存。薄い剥片状の礫を利用か。有茎。将棋駒状の先端部と大きく広がる翼状の鏝身が特徴	C5h0・ 10, I B 層	—	PL37 一部欠損 SI11に帰 属の可能性あり
259	石鏝未 成品か	3.5	2.4	1.0	7.2	メノウ	厚みのある剥片を調整。裏面先端部に主要剥離が残る。石槍状だが調整が粗く、調整初期の石鏝未成品と推定	C5h0・ 10, I 層	—	PL37 完存 SI11に帰 属の可能性あり
260	石鏝	(1.9)	1.1	0.3	(0.5)	メノウ	半透明のメノウを利用。有茎。小型で薄い。全体に丁寧な剥離調整。側縁は交互剥離。基部は欠損	C5h6・ 16, I B 層	—	PL37 一部欠損 SI101に帰 属の可能性あり

押円	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第38回	261	石鍬	(1.9)	1.4	0.5	(1.1)	チャート 有茎。全体に丁寧な剥離調整。側縁は交互剥離。先端と基部を欠損	C5h3・ 3, I B層	—	PL37 一部欠損 SI9に帰属の可能性あり
	262	石鍬	2.7	(1.7)	0.6	(2.1)	メノウ 半透明のメノウを利用。尖基鍬。調整がやや粗い。側縁は交互剥離	C6h5・ 5, I B層	—	PL37 一部欠損 SI12に帰属の可能性あり
	263	石鍬	(1.5)	1.2	0.3	(0.6)	メノウ 赤褐色のメノウを利用。無茎。小型。側縁の調整は浅く。剥離角が大きい。側縁は交互剥離。両脚端部を欠損	C5h8・ 8, I B層	—	PL37 一部欠損
	264	石鍬未 成品か	5.8	2.5	1.1	10.7	メノウ 横長剥片の1端の表面と一部表面に調整を加え尖頭状に加工	C5h7・ 7, I層	—	PL37 完存
	265	石鍬	3.1	(1.7)	0.7	(2.2)	メノウ 半透明のメノウを利用。有茎。尖る側を先端と見た。鍬身は短く厚い。調整は丁寧で側縁は交互剥離。茎は長く薄く、調整がやや粗い	C6h4・ 4, I層	—	PL37 一部欠損 SI9に帰属の可能性あり
	266	石鍬	(2.2)	1.5	(0.7)	(1.7)	メノウ 半透明で一部赤褐色のメノウを利用。調整がやや粗く、厚い。表面先端部に一次調整剥離面を残す。側縁は交互剥離	C6h5・ 5, I B層	—	PL37 一部欠損 SI12に帰属の可能性あり
	267	石鍬	1.5	1.3	0.4	0.6	メノウ 半透明のメノウを利用。無茎。小型。調整がやや粗く一部に厚みを残す。側縁は交互剥離	C5h6・ 6, I B層	—	PL37 完存
	268	石鍬	2.3	1.7	0.3	0.9	メノウ 半透明のメノウを利用。無茎。側縁と脚端部は直線的。全体に丁寧な剥離調整で薄い。側縁は交互剥離	C5h8・ 8, I B層	—	PL37 完存
	269	鉢脚部	(5.9)	5.3	径 (4.7)	(109.7)	凝灰岩 脚付き鉢(火鉢か)脚部。円筒形。脚の長さは4cm程度か	C5h0・ 10付近 掘土中	—	PL37 一部残存

押円	銭種	径 (cm)	厚さ (mm)	孔径 (cm)	重量 (g)	初铸年	出土 状況	備考
第38回	270	皇宋通寶	2.4	1.0	0.7	20 1039 (北宋・宝元2)	C6i1 I B層	PL37 銅銭。私铸銭。铸上りが悪く、不整形で文字等も铸潰れが激しい。特に「皇」は铸潰れが激しく、外形から推定

(3) 所見

縄文時代晩期の第9～12号竪穴住居跡が確認され、非常に多くの遺物が出土したことで、この時代の集落が所在していたことが判明した。第1章第1節で述べたとおり、当初泉坂下遺跡が着目され学術調査されたのは、石棒製作遺跡の可能性が考えられたからであった。縄文時代晩期の集落の確認は、泉坂下遺跡の石棒製作遺跡としての可能性を確かなものとした。ただし、第9～12号竪穴住居跡の調査は、一部サブレンチを入れたものの、概ね平面での確認に留まっているため、今後十分な裏付けを進めていく必要がある。

なお、第12トレンチでは第1B層から古代サメ類カルカロドン メガロドンの歯化石が出土している。第1B層は水田耕作の影響を受けている層であるが、この化石は状況から第10号竪穴住居跡に帰属する可能性が考えられる。特殊な遺物であるため専門家に判断を仰ぎ、玉稿を付章に掲載した。

また、中世の遺構等のほか、近世の掘立柱建物跡が確認されたことは、遺跡の土地利用の変遷を考えるうえで興味深いものがある。

3 第13トレンチ (第39・40図)

(1) 調査概要

E5c3区からE6c6区までの区域に、長さ27.5m、幅2mの南北に長いトレンチを設定した。主目的は第4トレンチの北側、第6トレンチと第12トレンチに挟まれた区域の遺構分布状況の確認である。

しかし、トレンチ全てを調査する必要はないと判断したため、そのうち実際に調査したのはE5c3区からE5c6区にまたがる1・2区(第39図)の長さ7.5m、E6c2区からE6c6区にまたがる5・6区(第40図)の長さ10mの合計17.5mである。

また、西壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。

なお、1・2区では水田造成に伴っての盛土と考えられる2つの層が確認されている。地権者の話によると、かつてはこの付近が窪地で、周囲と合わせて1枚の水田とするため造成したとのことであり、この層はその際に形成された現代の攪乱である(第39図)。

土層解説

- 11 灰褐色(7.5YR4/2) ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、締まり中、粘性中、現代のゴミが混じる
- 12 灰褐色(7.5YR4/2) ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、締まり中、粘性中、1層よりざらつきがある

また第58号土坑では、遺構保護のため遺物出土面または礫群の上面まで掘削は止め、一部の遺物を採取した後、山砂を2～5cmほど土坑全体に敷き、水をかけて数分間馴染ませた後、掘り上げた表土をかけて埋め戻している

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

①近世

(i) 土坑

第58号土坑(SK58, 第40・41図)

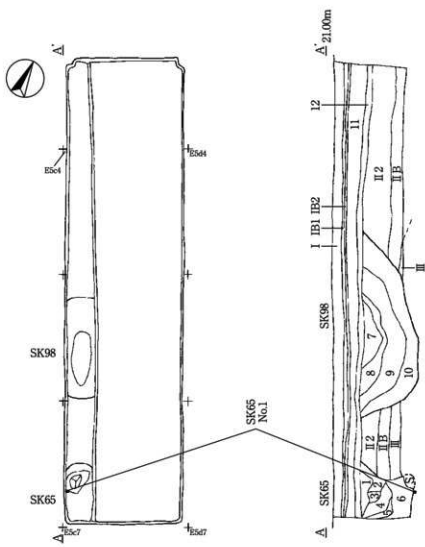
位置 E6c3区、E6c4区に位置する。第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 西部がトレンチ外に延びるため長軸の長さは不明、短軸は161cm、長軸の方位はN-67°-Eの楕円形と考えられる。

土層 遺構保護のため、掘削を途中で止めており、確認できたのは20層である。すべて人為堆積である。2・3は南壁に、9・13は天井に、15・18・20・23は北壁にそれぞれ貼られた粘土またはそれが崩落した粘土ブロックである。天井の粘土ブロックは南向きに崩落したようである。北壁付近には礫群があり、同様に南向きに崩落したものと考えられる。この礫群は取り上げずに埋め戻した。

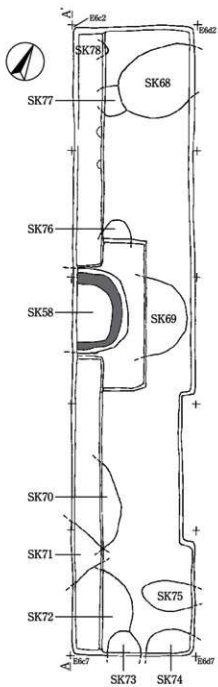
土層解説

- 1 暗褐色(7.5YR3/3) ローム粒子極少量、Nt-S極少量、締まり弱、粘性弱、粘土貼りの
- 2 灰褐色(7.5YR4/2) 灰色粘土大ブロック多量、ローム粒子少量、炭化物少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性強、土坑南壁に貼られた粘土であるが混合物が多い
- 3 灰褐色(7.5YR5/2) 灰色粘土ブロック、締まり中、粘性強、土坑南壁に貼られた粘土である
- 4 褐色(7.5YR4/4) ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性弱
- 5 褐色(7.5YR4/6) ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性弱、4と同一のブロック内だが色が味がる

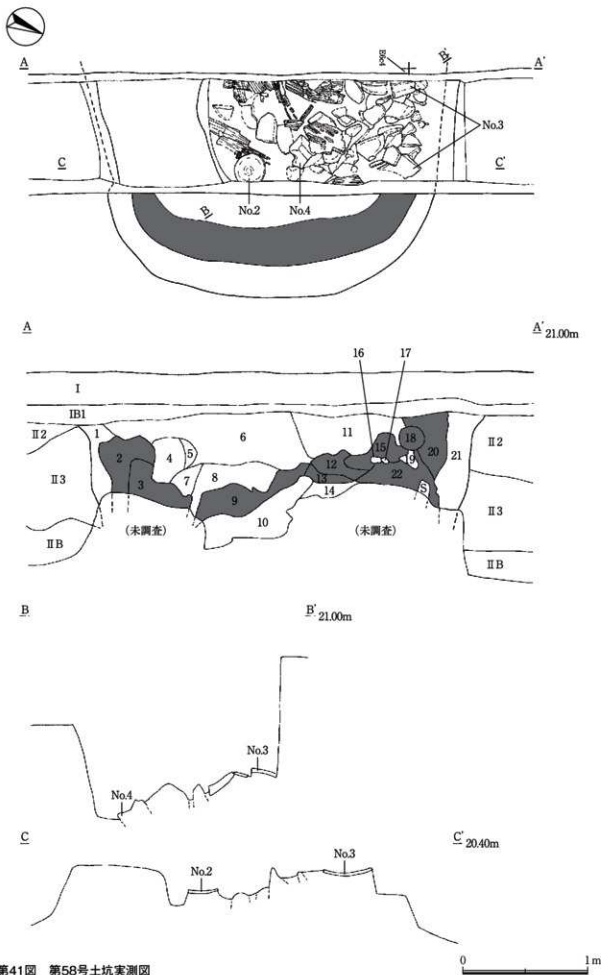


第39図 第13トレンチ1・2区実測図

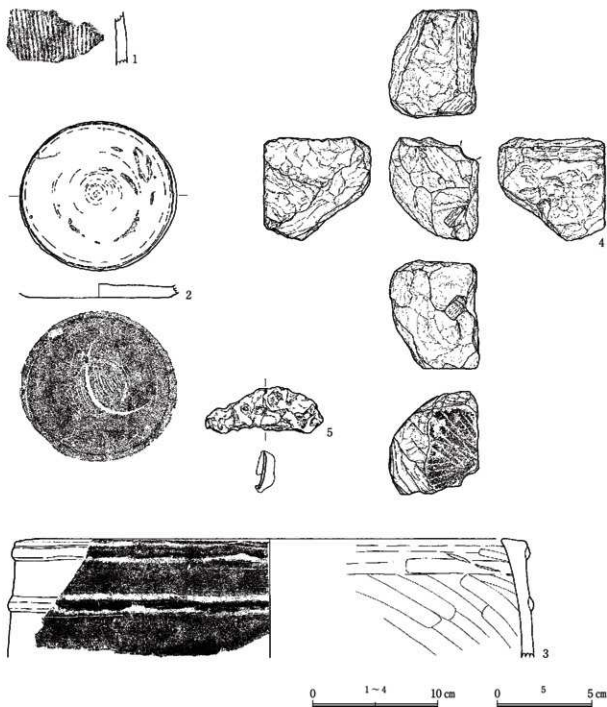
0 2m



第40図 第13トレンチ5・6区実測図



第41图 第58号土坑实测图



第42図 第58号土坑出土遺物実測図

- | | |
|--------------------|--|
| 6 褐色 (7.5YR 4/3) | ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, N t-S極少量, 締まり中, 粘性弱 |
| 7 暗褐色 (7.5YR 3/4) | ローム粒子少量, N t-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 8 暗褐色 (7.5YR 3/3) | ローム粒子少量, N t-S極少量, 締まり中, 粘性中, 8と同一のブロック内だが色味が暗い |
| 9 灰褐色 (7.5YR 5/2) | 灰色粘土中ブロック中量, 灰色粘土小ブロック少量, 締まり中, 粘性強, 土坑天井に張られた粘土が崩落したもの, 遺物はこの層の下側から出土する |
| 10 黒褐色 (7.5YR 3/2) | ローム粒子少量, 炭化物少量, N t-S極少量, 締まり中, 粘性中, 遺物含む |
| 11 褐色 (7.5YR 4/3) | ローム粒子少量, N t-S少量, 締まり中, 粘性弱, 6と比べてN t-Sが目立つ |
| 12 暗褐色 (7.5YR 3/4) | 灰色粘土小ブロック少量, 締まり中, 粘性中 |
| 13 灰褐色 (7.5YR 5/2) | 灰色粘土中ブロック中量, 灰色粘土小ブロック少量, 締まり中, 粘性強, 土坑天井に張られた粘土が崩落したもの, 遺物はこの層の下側から出土する |
| 14 暗褐色 (7.5YR 3/4) | ローム粒子少量, 締まり中, 粘性中, 遺物含む, 10と色味が違う |
| 15 灰褐色 (7.5YR 5/2) | 灰色粘土大ブロック多量, 灰色粘土中ブロック少量, 締まり中, 粘性強, 土坑北壁に貼られた粘土が崩落したもの |

- 16 ぶい黄褐色 (10YR 6/4) ロームブロック、締まり弱、粘性中
 17 ぶい黄褐色 (10YR 6/4) ロームブロック、締まり弱、粘性中
 18 灰褐色 (7.5YR 5/2) 灰色粘土小ブロック中量、締まり中、粘性強、土坑北壁に貼られた粘土が崩落したもの
 19 暗褐色 (7.5YR 3/3) ローム粒子極少量、締まり中、粘性中
 20 褐色 (7.5YR 4/3) ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、N t-S少量、灰色粘土中ブロック少量、締まり中、粘性弱、土坑北壁に貼られた粘土が崩落したもの
 21 暗褐色 (7.5YR 3/3) ローム粒子極少量、N t-S極少量、締まり弱、粘性弱
 22 灰褐色 (7.5YR 5/2) 灰色粘土中ブロック中量、灰色粘土小ブロック少量、締まり中、粘性強、土坑北壁に貼られた粘土が崩落したもの

遺物出土状況 土器等22点、石器等1点、鉄製品1点、骨片11点、炭化物1点が出土している。うち須恵器1点(甕1)、陶器1点(深皿1)、瓦質土器1点(火鉢1)、石製品1点(石臼1)、鉄製品1点(不明1)を掲載する(第42図、第18表)。いずれも副葬品と考えられる。また、礫群や遺物の上面には、板状に加工された針葉樹と考えられる木片が遺存している。

所見 天井まで粘土が貼られていた粘土貼土坑で、出土遺物から17世紀の所産と考えられる。第58号土坑では、サブトレンチ内から多量の遺物が確認されたことにより、遺構保護の観点から、遺物出土面または礫群の上面までサブトレンチの掘削を止めた。

第18表 第58号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第42図	1	須恵器	甕	胴部、5%以下	—	—	—	—	—	—	—
					わずかに内彎。外面平行タタキ、内面ナデ調整	石英粒少量、灰色塵・海綿骨針微量	良好。外面のみ還元	外面褐灰色、内面にぶい赤褐色	覆土中	—	PL38
	2	陶器	深皿	底部、20%	—	—	—	—	—	—	—
					輪積み成形(底部周囲に粘土板割離痕)。外面糸切り後、回転ヘラケズリ。内面ロクロナデ、内面全面鉄釉。内外面に凹形のトチン跡	石英粒多量、石英塵・褐色塵少量	良好	外面浅黄色、内面黄褐色(軸筋あり、軸が厚くかかった場所は暗褐色)	覆土中	—	PL38 14～15世紀
	3	瓦質土器	火鉢	口縁部、10%	[40.0]	—	—	—	—	—	—
					内傾。内彎。口縁端部平坦。外面突帯2条貼り付け。ミガキ・黒色処理。内面ナデ調整	石英粒少量、メノウ粒・褐色砂粒・雲母微量	瓦質焼成、良好。焼けムラ	サンドイッチ状。内外面黄灰色・灰色、外面一部・内面灰黄色	覆土中	—	PL38 15～16世紀

挿図	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	備考	
第42図	4	石臼(上臼)	(10.3)	(9.4)	11.4	(1135)	安山岩	上面・磨面・側面のそれぞれ一部が残存。中心(推定)に円孔が上下に貫通。上面は扇縁部がやや高まる。玉縁は破損。磨面はほぼ平坦。目は3方向(1方向は破断線に破断)確認でき、その角度は約45°で、目のバケーンは八分画七溝式。側面には中央やや上に挽き木を打ち込む柄孔が1孔、ほぼ水平に穿たれる。柄孔は斜位の方形(奥で1辺1.5cm)で、深さ2.4cm	覆土中	PL38 残存率20%。穀臼

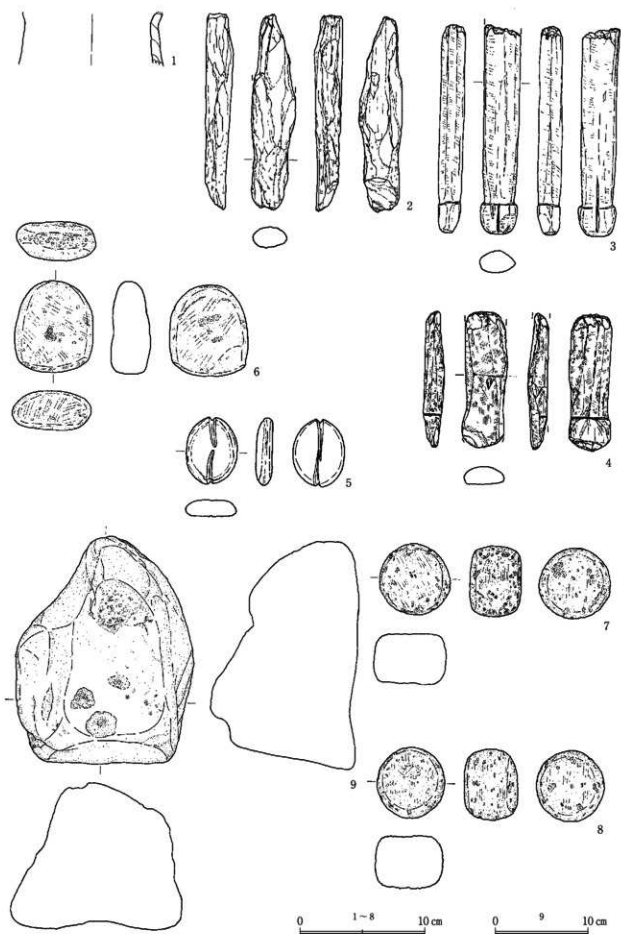
挿図	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第42図	5	不明	6.3	2.3	0.1	(14.2)	板状で半月形に近いが、錆が激しく原状不明。鍛造か。	覆土中	—	PL38

②時期不明

(i) 土坑

第65号土坑 (SK65, 第39図)

位置 E5c6区に位置する。第三層上面及び西壁のセクションで確認できた。



第43图 第65号土坑出土遗物实测图

規模と形状 大部分がトレンチ外となるため平面の形状は不明だが、オーバーハングする掘り込みであり、確認できる開口部の径は60cm、底面の径は68cmではほぼ平坦、深さは84cmである。

土層 6層からなり、ブロック状の人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 (75YR3/2) ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
- 2 暗褐色 (75YR3/3) Nt-S少量、ローム粒子極少量、締まり中量、粘性中
- 3 黒褐色 (75YR3/2) ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
- 4 暗褐色 (75YR3/3) ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中
- 5 褐色 (75YR4/6) ローム粒子少量、締まり中、粘性中
- 6 暗褐色 (75YR3/3) ローム粒子中量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック中量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 土器等2点、石器等8点が出土している。うち土師器1点（小型壺1）、石器・石製品8点（磨石3、石刀1、石棒1、砥石1、石錘1、凹石1）を掲載する（第43図、第19表）。

第19表 第65号土坑出土遺物観察表

種別	種別	器種	部位・残存率	口径・高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第43図	1	土師器か	口縁～頭部、5%以下	[110] — —	頭部直線的でやや内傾。口縁部で外反。内外面ナメ調整	メノウ粒・石英粒少量、チャート粒・褐色礫・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい黄褐色	覆土中	—	PL38 海綿骨針顕著

種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第43図	2	石棒 (石剣か) 未成品	(15.5)	(3.4)	(2.2)	(133.0)	粘板岩	頭部下のくびれ部に敲打によるやや丁寧な整形痕。研磨痕なし	底面付近	—	PL38 折損
3	石刀か	(16.5)	2.9	1.9	(176.6)	絹雲母片岩	断面不整形楕円形で一側面に稜。先端近くがくびれ、男根状。先端部表裏面に細い溝。全体に軸線斜交の加工痕	底面付近	—	PL38 折損	
4	砥石 (石剣)	(10.7)	3.3	(1.5)	(88.1)	粘板岩	破損した石剣を敲打整形して砥石に転用。砥面は縦破断面に2面と側面の一部の1面。石剣としては剣部と頭部の境界に細い溝を有し、敲打整形の研磨調整	底面付近	—	PL38 折損	
5	石錘	5.3	4.0	1.3	41.4	ホルンフェルス	楕円形の扁平礫を使用した有溝石錘。溝は長軸方向にほぼ全周	底面付近	—	PL38 完存	
6	磨石・砥石	7.2	6.2	3.1	195.3	多孔質安山岩	楕円形に近い不整形扁平礫を使用。1端に使用痕著しい磨り面。他端に敲打痕。表裏面に磨り面（加工痕か）、中央は砥石としての使用痕か	底面付近	—	PL39 完存	
7	磨石	5.6	5.6	4.0	162.5	多孔質安山岩	低い円柱状。表裏面に磨り面	底面付近	—	PL39 完存	
8	磨石	5.6	5.3	4.2	154.9	多孔質安山岩	低い円柱状。表裏面と側面に磨り面	底面付近	—	PL39 完存	
9	凹石	24.1	19.0	15.5	7,790	石英斑岩	不整形な大型礫を利用。平坦面を下にして安定させた場合の頂部に凹み3か所	底面付近	—	PL38 完存	

所見 その形状から、縄文時代の袋状土坑の可能性を考えていたが、土師器が出土し、時期・性格を把握には至らなかった。

第68号土坑 (SK68, 第40図)

位置 E6c2区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸150cm、短軸102cm、長軸の方位はN-37°-Eの楕円形と考えられる。

重複関係 第77号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第69号土坑 (SK69, 第40図)

位置 E6c4区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 西部が確認できていないが、平面は概ね楕円形となるものと考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第70号土坑 (SK70, 第40図)

位置 E6c5区, E6c6区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分が確認できていないため、不明である。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第71号土坑 (SK71, 第40図)

位置 E6c5区, E6c6区に位置する。第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分が確認できていないため、不明である。セクションから確認できる上端の幅は239cm、深さは56cmである。

重複関係 第70・72・97号土坑に切られている。

土層 4層からなり、南側から流れ込んだ状況から、人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------|--|
| 3 暗褐色 (75YR3/2) | ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 4 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 5 褐色 (75YR4/3) | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 6 暗褐色 (75YR3/3) | ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第72号土坑 (SK72, 第40図)

位置 E6c6区に位置する。第Ⅱ2層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分が確認できていないため、不明である。セクションで確認できる深さは13cmである。

重複関係 第73号土坑に切られ、第71号土坑を切っている。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
|-----------------|-----------------------------|

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第73号土坑 (SK73, 第40回)

位置 E6c6区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 南部が確認できていないが、平面は概ね円形となるものと考えられる。

重複関係 第72号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第74号土坑 (SK74, 第40回)

位置 E6c6区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 南部がトレンチ外に延びるが、平面は概ね円形となるものと考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

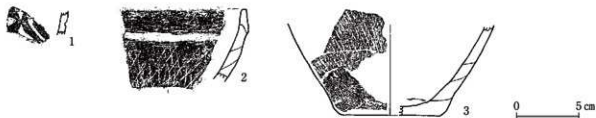
第75号土坑 (SK75, 第40回)

位置 E6c6区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 東部がトレンチ外に延びるが、平面は長軸90cm程度、短軸45cm、長軸の方位はN-73°-Eの楕円形となるものと考えられる。

遺物出土状況 土器等13点が出土している。うち縄文土器3点(鉢1, 深鉢1, 浅鉢1)を掲載する(第44回, 第20表)。ただしこれらの土器は、いずれも混入の可能性が高く、時期判断には至らない。

所見 時期は特定できず、性格も不明である。



第44回 第75号土坑出土遺物実測図

第20表 第75号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第44回 1	縄文 土器	鉢か	胴部, 5%以下	—	外面磨消縄文によるメガネ 状文。内面ミガキ	メノウ粒少 量, メノウ 礫・雲母細粒 微量	良好	内外面黒褐 色	覆土中	—	PL39 外面赤色 顔料付着
2	縄文 土器	浅鉢	口縁~ 胴部, 5%	—	外縁, 内彎。口縁部外面は 繊維質工具による荒いミガ キ, やや肥厚。胴部外面網 目状擦糸文。内面ナデのち 荒いミガキ	メノウ粒少 量, メノウ礫 石英礫・雲母 細粒微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色, 内部褐灰色	覆土中	—	PL39
3	縄文 土器	深鉢	胴~底 部, 5 %	(72) [78]	平底。胴部外縁, 内彎気味。 胴部外面擦糸文, 内面ナデ, 輪積み痕	メノウ粒少 量, メノウ礫・ 凝灰岩礫・雲 母細粒・海綿 骨針微量	普通	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄褐色, 内部褐灰色	覆土中	3片	PL39 他同一個 体多数

第76号土坑（SK76, 第40図）

位置 E6c3区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 南部が確認できていないが、平面は径45cm程度の概ね円形になると考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第77号土坑（SK77, 第40図）

位置 E6c2区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径45cm程度の概ね円形になると考えられる。

重複関係 第68号土坑に切られている。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第78号土坑（SK78, 第40図）

位置 E6c2区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分が確認できていないため、不明である。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第96号土坑（SK96, 第40図）

位置 E6c4区、E6c5区に位置する。西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分が確認できていないため、平面は不明である。上端の幅は159cm、深さは60cmである。

土層 2層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

7 黒褐色 (7.5YR3/2) ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

8 暗褐色 (7.5YR3/3) ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第97号土坑（SK97, 第40図）

位置 E6c6区に位置する。西壁のセクションで確認できる。

規模と形状 大部分が確認できていないため、平面は不明である。上端の幅は83cm、深さは45cmである。

土層 1層からなり、堆積状況は不明である。

土層解説

2 黒褐色 (7.5YR1/3) ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

第98号土坑 (SK98, 第39回)

位置 E5c5区に位置する。第Ⅲ層上面及び西壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分が確認できていないため、平面は不明である。上端の幅は297cm、深さは87cmである。

土層 4層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | |
|----|---------------|---|
| 7 | 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子少量, Nt-S少量, 締まり中, 粘性中 |
| 8 | 黒褐色 (75YR3/1) | ローム粒子少量, Nt-S少量, 締まり中, 粘性中 |
| 9 | 黒褐色 (75YR3/2) | ローム粒子少量, Nt-S少量, 締まり中, 粘性中 |
| 10 | 暗褐色 (75YR3/3) | ローム粒子少量, Nt-S少量, ローム小ブロック極少量, 締まり中, 粘性中 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

B 遺構外出土遺物

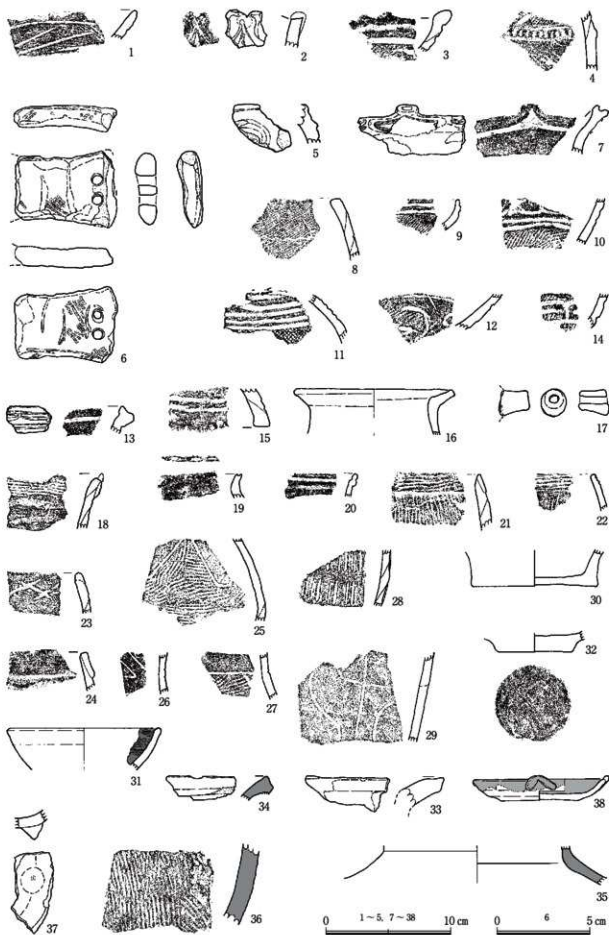
遺構外で確認された遺物について解説する。(第45～47図, 第21表)

遺物出土状況 土器等1308点, 石器等28点, 骨片3点, 鉄製品2点が出土している。うち縄文土器24点(深鉢7, 浅鉢5, 鉢4, 壺3, 注口土器2, 手燭形土器1, 小型浅鉢1, 台付鉢1), 弥生土器6点(壺6), 土師器3点(坏2, 甕1), 須恵器3点(甕2, 大甕1), 瓦質土器1点(香炉1), 陶器1点(燈明皿1), 石器・石製品28点(石鎌8, 石刀4, 石剣4, 磨石4, 凹石2, 石棒1, 石錘1, 敲石1, 砥石1, 異形石器1, 石錐1)を掲載する。

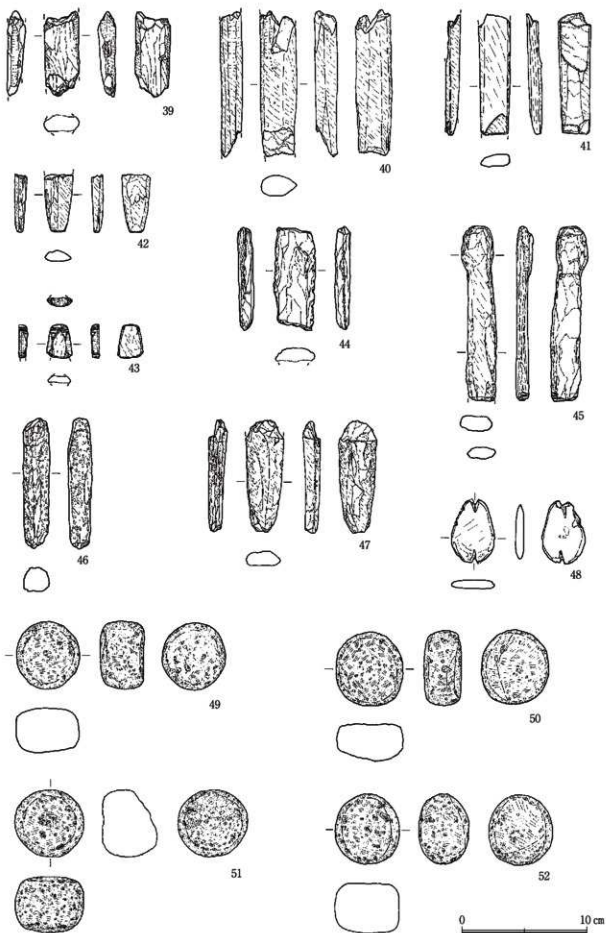
(3) 所見

第4トレンチの北側, 第6トレンチと第12トレンチに挟まれた区域の遺構分布状況の確認を主目的としたトレンチである。E5c3区からE5c6区にまたがる1・2区においては、水田造成に伴って盛土された状況も確認できた。

多くの土坑が確認されたが、そのほとんどは時期を特定することはできなかった。第58号土坑は、多くの遺物を伴う粘土貼土坑で、出土遺物から17世紀の所産と考えられ、これは第12トレンチで確認された掘立柱建物跡とほぼ同時期ということになる。



第45図 第13トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第46図 第13トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)



第47図 第13トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)

第21表 第13トレンチ遺構外出土遺物観察表

種目	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第45回	1	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内壁、大きく外傾。外面縄文を施した後、口縁部に横走沈線1条。胴部に斜位の沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面にぶい褐色、内面にぶい黄色	E6c6、I B層	—	PL39 後期中・後葉か
	2	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	外傾。波状口縁の波頂部、端部にキザミを入れて2つの山を形成。外面に出形の沈線、頂点に凹み、貼り付け痕か。内面ナデ	メノウ粒、雲母粒・褐色砂粒	普通	外面黄灰色、内面にぶい黄褐色	E6c2 サブトレ、II層	—	PL39 安行3C式か
	3	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内壁、外傾。口縁端部にB突起、外面太い横走沈線2条、下段に縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・赤褐色砂粒微量	良好	外面黒色、内面灰黄褐色、内部褐色	E6c2 II層	—	PL39 前浦式か
	4	縄文土器	鉢	胴部、5%以下	—	内壁、内傾。外面上方は縄文に弧状沈線、キザミをつけた横位の条帯で区切り、その下斜位の条痕文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状、内外面灰黄褐色、内部褐色	E6c4、II層	—	PL39 安行3a式
	5	縄文土器	注口土器か	口縁部、5%以下	—	内壁、内傾。外面に丸い粘土を貼り付け、中に沈線を引いて二重の円にする。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ塵・石英粒・チャート粒微量	やや不良、焼きムラ	内外面浅黄色、一部黒色	E5c5、I B層	—	PL39 安行3a式
	6	縄文土器	手燗形土器	胴部、20%	—	わずかに彎曲する板状。長い筒形で、長さ(5.4)cm、幅(4.1)cm。端部近くに貫通孔2か所。端部面は外反、表裏・側面は縄文を地文に細い沈線2条で区画。孔の周囲を沈線で縁取り	精良。黒褐色砂粒・泥岩粒微量	やや不良、焼き甘い	ぶい黄褐色	E5c4、I B層	—	PL39
	7	縄文土器	鉢	口縁～胴部、5%	—	外反、外傾。波状口縁、波頂部先端に環状突起。口縁部外面に突起をつくり、その両脇から沈線による三角形区画文か(弱隆)。胴部ミガキ。内面ミガキ。横走沈線1条。波頂部下は形に合わせて三角形の凹み	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・灰色砂粒微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状、外面褐色、内面にぶい黄褐色。内面、灰黄褐色。内部褐色	E6c5、II層	—	PL39 大洞C2～A式
	8	縄文土器	深鉢	口縁部	—	内壁、内傾。外面縄文に、口縁端部近くとその3センチ下に結節縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・泥岩粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面黒色、内部褐色	E6c6、II層	—	PL39 晩期前葉
	9	縄文土器	小型浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内壁、外傾。外面縄文に横走沈線2本。内面ミガキ	メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	良好	内外面にぶい褐色	E6c2、II層	—	PL39 晩期
	10	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内壁、外傾。外面磨消縄文手法による雲形文の一部、2条の沈線で区切り、その下縄文。内面ミガキ	メノウ粒中量、石英粒・褐色砂粒・雲母微量	普通	内外面黒褐色、外面一部にぶい褐色	E6c2、II層	—	PL39 晩期中葉大洞C2式
	11	縄文土器	壺	胴部、5%以下	—	内壁、内傾。外面に弧状沈線、雲形文の一部か。その下に横走沈線3条、その下に縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面・内部黒褐色、内面褐色	堆土中(SK58付近)	—	PL39 大洞C2式か
	12	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内壁、大きく外傾。外面磨消縄文雲形手法による赤色塗彩。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状、外面褐色、内面灰白色、内部灰白色。芯部褐色	E6c6、I B層	—	PL39 大洞C2式 外面赤色顔料付着

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第45図	13	縄文土器	鉢か	口縁部, 5%以下	— — —	外脣。外面にメガネ状付帯文。その下に横走沈線1条。内面横走沈線1条	メノウ粒少量, 石英粒・褐色砂粒微量	良好	内外面灰黄褐色	E5c5, I層	— —	PL39 晩期
	14	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%以下	— — —	内脣。外脣。外面縄文を地文に。太い沈線で工字文を構く。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	内外面明黄褐色	E6c2, II層	2片	PL39 晩期後葉
	15	縄文土器	台付鉢か	台部, 5%以下	— — —	内脣。内脣。外面縄文に横走沈線2条。中・下段は磨り消し。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通	サンドイッチ状。外面浅灰色。内面褐灰色。内部浅黄褐色。芯部褐灰色	E6c5, II層	—	PL39 晩期
	16	縄文土器	壺か	口縁～頸部, 5%以下	[122] — —	内脣気味で内脣する頸部から屈曲して外脣する口縁部。頸部小さく内脣に屈曲。口縁部内外面・頸部外面ミガキ, 頸部内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面暗灰褐色。内部にふい赤褐色	E5c4, I層	—	PL39 晩期中葉か
	17	縄文土器	注口土器	注口部, 5%以下	— — —	無文。ナデ調整。接合面で剥離。基部径21cm, 長さ22cm, 内径0.6cm	メノウ粒少量, 石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	灰黄褐色・にふい橙色	E6c6, II層	—	PL39
	18	縄文土器	鉢	口縁部, 5%以下	— — —	外反。外脣。複合口縁に成形後。口縁端部を指で凹ませた波状口縁。複合部の外面に横位の捺糸文。その下は無文。ナデ。内面ミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒微量	普通	内外面黒褐色	排土中(SK58付近)	—	PL39
	19	縄文土器	壺か	口縁部, 5%以下	— — —	外反。外脣。口縁端部に破綻状の沈線(横長のキザミ)。内外面ナデ	メノウ粒少量, 砂岩礫・石英粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	やや不焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部褐灰色	E6c6, I層	—	PL39 晩期
	20	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに外脣。複合口縁。口縁部内外面に横走沈線1条。内外面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	外面にふい黄褐色。内面黒色	E6c5, I層	—	PL39 内外面赤色顔料付着 晩期
	21	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内脣。内脣。複合口縁。口縁部の複合部外面に横位の捺糸文。胴部外面縦位の赤糸文。内面ナデ	メノウ粒少量, 灰色砂粒・チャート粒・雲母細粒微量	普通, 焼けムラ	外面灰白色・淡褐色・黒色。内面にふい黄褐色	E6c4, II層	2片	PL40 後・晩期 粗製土器 内面に赤色顔料付着
	22	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	器厚薄。内脣。内脣。外面口縁部横位の。胴部縦位の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面にふい褐色。内部褐灰色	E6c3, II層	—	PL40 後・晩期 粗製土器
	23	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内脣。内脣。外面網目状捺糸文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・灰色砂粒・褐色砂粒微量	やや不焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にふい褐色。内部黒色	E5c4サブレ, II層	—	PL40 後・晩期 粗製土器
	24	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内脣。内脣。複合口縁。無文。内外面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部黒色	E6c5, I層	—	PL40 後・晩期 粗製土器
	25	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内脣。内脣。外面磨消縄文手法によるヒトテ状文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・灰色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部灰黄褐色	E6c3, II層	—	PL40 No.26・27・30と同一個体か 外面炭化物付着

挿入図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第45図	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	外反。外面磨消縄文。ヒトデ状文か。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部灰黄褐色	E6c3、II層	—	PL40 No.25・27・30と同一個体か
26	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	外反。内傾。外面磨消縄文。ヒトデ状文か。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内部灰黄褐色	E6c3、II層	—	PL40 No.25・27・30と同一個体か
27	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面3条単位の短条痕。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内部褐色	E6c2サブトレ、II層	2片	PL40
28	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎気味。外傾。外面沈線で縦位の直線1条と両側に曲線が1条ずつ、波線か。外面ナデも輪積み痕顕著。内面丁寧なナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色、一部黒褐色。内面にぶい黄褐色、内部褐色	E5c5サブトレ、II層	2片	PL40 外面に炭化物付着
29	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	平底から外反・外傾して立ち上がる胴部。内外面ナデ、底面ケズリ気味のナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラ	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、内面の一部、内部褐色	E6c4、II層	4片	PL40 No.25同一個体の可能性
30	弥生土器	壺	胴部、5%以下	[10.0]	内彎・外傾して立ち上がり、口縁部でわずかに外反。外面口クロナデ、内面ミガキ黒色処理	精良。メノウ粒・雲母細粒・泥岩粒・褐色砂粒・白色粒子微量	良好	外面にぶい褐色。内面黒褐色。内部褐色	E6c3、II層	—	PL40 平安。底部内面に赤褐色顔料付着
31	土師器	坏	口縁部、5%	—	平底から体部が大きく外傾して立ち上がる。内外面口クロナデ。底面回転系切り	精良。雲母細粒少量。メノウ粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	やや不良、焼き甘い	内外面にぶい褐色	E5c5、I B層	—	PL40 平安
32	土師器	坏	底部、20%	5.8	器壁が厚い。大型か。外反。底面から体部へ境界に円錐形の脚を貼り付け。おそらく3脚	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒、褐色砂粒微量	良好	内外面褐色。内部にぶい褐色	E6c3、I B層	—	PL40 平安。9世紀か
33	土師器	甕	口縁部、5%以下	—	外反。外傾。複合口縁。内外面口クロナデ。内面一部外面に自然軸付着	石英粒少量、石英礫・メノウ礫微量	良好	胎土灰色。釉灰オリーブ色	E6c3、II層	—	PL40
34	須恵器	甕	口縁部、5%以下	—	内彎気味に大きく内傾する肩部から屈曲して外反する頸部。内面口クロナデ。外面自然軸付着	石英・長石・黒色粒子微量	良好	内面・内部灰色。釉オリーブ灰色	E6c3、I B層	—	PL40
35	須恵器	甕	胴部、5%以下	(3.0)	器厚13～14mm。外面平行タタキ。内面ナデ	石英・長石・雲母微量	良好、堅緻	内外面灰色	E5c3サブトレ、II層	—	PL40 7～8世紀
36	須恵器	大甕	胴部、5%以下	—	平底から大きく外傾して立ち上がる。内外面口クロナデ。底面から体部への境界に円錐形の脚を貼り付け。おそらく3脚	石英粒・石英礫・長石粒微量	良好	内外面灰色	E5c6、I B層	—	PL40 16～17世紀
37	瓦質土器	香炉	体部、5%以下	—	平底。体部内彎。外傾。内外面口クロナデ。底面回転ヘラケズリ。口縁部外面に逆V字形の粘土紐を貼り付け燈心置とする。内面と口縁部外面に施釉(胎釉? 錆釉? 鉄釉?)。口縁部外面に目跡2[推定3]跡	精良。石英粒微量	良好、堅緻	胎土灰白色。釉オリーブ褐色	E5c3サブトレ、II層	—	PL40 江戸中期瀬戸・美濃系
38	陶器	燈明皿	口縁部、90%	10.0 2.0 6.0							

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第46図 39	石刀	(6.8)	2.8	(1.4)	(36.4)	粘板岩	一部に器表が残り、1個縁は平坦、他の個縁は稜を持つ。軸に対して直交に近い、または斜交する擦痕(調整痕)	E6c3、II層	—	PL40 一部残存
40	石刀	(11.6)	2.9	1.7	(89.9)	粘板岩	1個縁は稜をもち、断面丸みをもった楔状。軸に斜交する磨りによる調整	E5c6 サブトレ、II層	—	PL40 一部残存
41	石刀	(9.6)	(2.5)	(1.0)	(42.1)	緑色片岩	扁平。1個縁は稜をもち、他の個縁は平坦、断面楔状。軸にわずかに斜交する、またはほぼ平行する磨りによる調整	E5c6 サブトレ、II層	—	PL40 一部残存
42	石剣	(4.6)	(2.3)	(0.9)	(12.6)	粘板岩	扁平に仕上げられた石剣先端部片。先端はすばまり、幅1.1cm。両個縁に稜、1面には緩やかながら扇状の稜、軸に斜交する調整痕顯著	1・2区 排土中	—	PL40 一部残存
43	石剣	(2.7)	(2.0)	(0.6)	(4.9)	粘板岩	彫刻をもつ柄頭または先端部。端部に2本の刻線、楕円形推定4個を浮彫り。段差を付けて把手または剣身に移行。	1・2区 排土中	—	PL40 一部残存
44	石剣未 成品	(8.1)	(3.2)	(1.1)	(45.5)	粘板岩	断面長楕円形か。長個縁に敲打痕と剥離痕。整形段階で破損か	E6c6、 I B層	—	PL40 一部残存
45	石剣未 成品	(13.8)	2.5	1.3	(60.0)	粘板岩	扁平。柄頭部が幅広く厚い。個縁は敲打、一部磨りによる整形の、表面は磨りによる整形の初期段階	1・2区 排土中	—	PL40 一部残存
46	石棒未 成品	10.3	2.0	1.9	64.9	粘板岩	小型棒状の未成品。両端は折損ではない(折損後再加工の可能性はあり)。両側面に敲打痕	E6c5、 I B層	—	PL40 完存
47	石刀未 成品	(8.9)	(3.0)	(1.4)	(48.4)	粘板岩	敲打と磨りによる調整途中の石刀先端部。1個縁はにぶい稜をもち、他の個縁は丸みをもつ。	排土中 (SK55 付近)	—	PL40 一部残存
48	石鎌	(5.0)	3.4	0.6	(16.4)	ホルンフ ェルス	扁平な楕円礫を利用。両端に磨りによる切込み	E5c3 付近排 土中	—	PL40 一部欠損
49	磨石	5.4	5.0	3.6	135.4	多孔質 安山岩	円礫を利用。縁辺を整形。不整円筒形、平面の一部は未整形・未使用	E6c4、 I B層	—	PL41 完存
50	磨石	5.9	5.3	3.0	107.6	多孔質 安山岩	扁平な礫を利用。周辺を調整。表面は材料の礫の緩い後稜を残す。ほぼ全面を使用	E5c5、 I B層	—	PL41 完存
51	磨石	5.5	5.4	4.4	153.8	多孔質 安山岩	不整円礫を利用。不整円筒形に整形。裏面は未整形・未使用部分が多い	1・2区 排土中	—	PL41 完存
52	磨石	5.6	5.1	4.0	153.1	多孔質 安山岩	不整円礫を利用。不整円筒形に整形	1・2区 排土中	—	PL41 完存
第47図 53	敲石	8.2	5.8	5.4	349	砂岩	角柱状の礫を利用。1端に使用痕、他の端部は折損	E6c4、 I B層	—	PL41 一部残存
54	凹石 (敲石)	(8.0)	6.9	(2.1)	(195.0)	砂岩	長方形に近い扁平な礫を利用。表面に連続する円形の凹み2か所。深さ2mm。裏面は剥離。端部に敲石としての使用痕	排土中 (SK58 南側)	—	PL41 一部残存
55	凹石	13.1	7.7	3.3	375	凝灰岩	扁平な不整形礫を利用。表裏両面にやや大きな不整形の凹み。深さ4mm	E6c5、 I層	—	PL41 完存
56	砥石	(8.8)	(4.0)	5.0	(26.4)	砂岩	薄板状の礫を利用。3辺折断、1個縁は両刃状で彎曲。磨積具状だが、刃部の擦痕(使用痕)が刃部平行のため砥石と判断。石器製作で折断や漆切り等に使用か	E6c2、 II層	—	PL41 一部残存
57	異形 石器	(2.3)	1.2	0.4	(0.8)	メノウ	折断した剥片端部を利用。表面は自然面、裏面は第一次剥離面。両端を握み状に加工。握みの1つは一部破損。装身具か	E6c4、 I B層	—	PL41 一部欠損
58	石鎌	2.9	1.1	0.6	1.3	メノウ	縦長剥片を利用し、個縁からの調整剥離により鎌部を細く作る。鎌部断面変形。握み状の頭部は一部に調整剥離	E5c3、 I B層	—	PL41 完存
59	石鎌	2.0	1.1	0.3	0.5	メノウ	有茎。薄い剥片を利用。個縁に調整剥離。表面中央部に第一次剥離面。	E5c4、 I B層	—	PL41 完存
60	石鎌	3.2	1.5	0.7	2.7	メノウ	有茎。凸基。分厚い。個縁に調整剥離。表面中央部に第一次剥離面。被熱により表面白化。白化していない一部新しい剥離は再加工か	E5e4、 I B層	—	PL41 完存
61	石鎌未 成品	(2.1)	1.6	0.5	(1.4)	メノウ	双脚か。脚部付近で折損。先端部付近は比較的丁寧な調整剥離。脚部付近は粗い調整、または未調整	E6c3、 I B層	—	PL41 一部残存

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第47図 62	石鏃未 製品	30	18	0.7	3.8	メノウ	剥片を利用。両側縁から調整剥離をするも表面の中心部に自然面を残す。	E6c6, II層	—	PL41 完存
63	石鏃未 成品	30	28	0.9	4.3	メノウ	有茎。側縁に調整剥離。表面基部付近に第一次剥離面を残す。調整やや粗い	E5c4, I B層	—	PL41 完存
64	石鏃未 成品	(20)	20	5.0	(16)	メノウ	薄い剥片を利用。調整は粗い。表面の中央部には第一次剥離面を残す。基部を欠損	E5c5, I B層	—	PL41 一部残存
65	石鏃未 成品	29	20	0.7	4.1	メノウ	剥片を利用。側縁から調整。調整は粗い。表面中央部に第一次剥離面を残す。	E5c4 サブト レ, II 層	—	PL41 完存
66	石鏃未 成品	25	19	0.7	3.0	メノウ	扁平な剥片を利用。側縁を丸く作る。無茎鏃の基部の抉りを作成中に破損か。	E6c6, I B層	—	PL41 完存

4 第14トレンチ (第48図)

(1) 調査概要

E6d5区からE6j5区までの区域に、長さ14m、幅2mの東西に長いトレンチを設定した。主目的は第1次確認調査の際、第4トレンチ東部で確認された第4号性格不明遺構が、南北に延びる溝であるか否かの確認である。また、再葬墓遺構が確認されている第1トレンチ西側の遺構分布状況の確認も、目的の一つである。

後述するが、遺構の損傷を避けるため、第14トレンチにおいては、サブトレンチの掘削を東端から2mまでで中断している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

① 弥生時代

(i) 土坑

第67号土坑 (SK67, 第48・49図)

位置 E6d5区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は長軸66cm、短軸44cm、長軸の方位はN-49°-Wの楕円形で、深さは12cmである。

土層 2層からなり、人為堆積である。2の中央には高まりがある (第49図)。

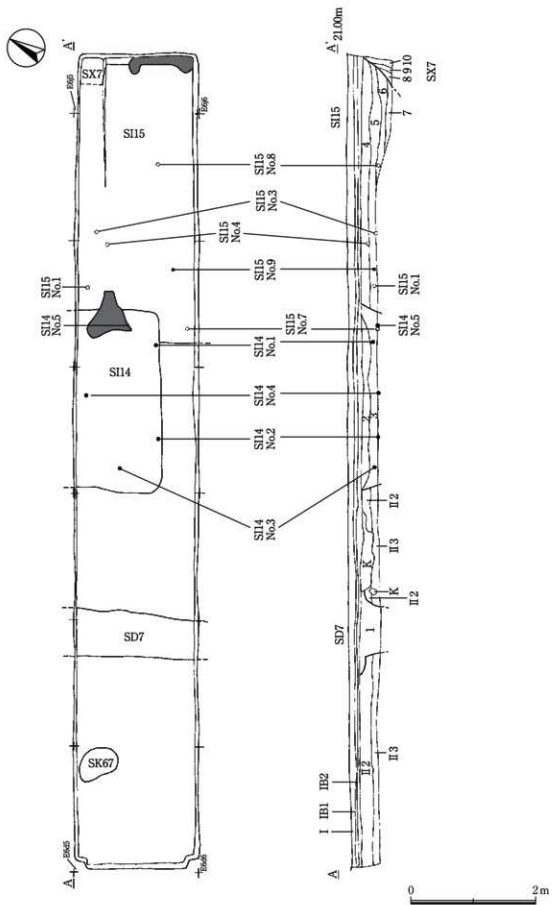
土層観察

- 1 黒褐色 (10YR2/1) ローム粒子含まない、2層より軟らかく灰色味を帯びる
- 2 黒褐色 (10YR1.7/1) ローム粒子少量、1層より粘性が強い、中央に高まりがある

遺物出土状況 土器等19点が出土している。うち弥生土器4点 (鉢2、小型鉢1、筒形土器1)、土製品1点 (管状土錘1) を掲載する (第50図、第22表)。

4個体確認された弥生土器の埋没過程については、次のように考察する。まず、土坑底部に埋土が中央に高まりをもって形成された。その上に、西寄りでは土器4の小片が外面を下にして置かれ、すぐ上に土器3の破片群が口縁部を揃えて東向に置かれた。なお土器4の破片は口縁部が北寄りに置かれている。南東寄りでは土器1が東北向に横転しており、埋設時土器1の中は空洞であったが、割れ目から土が入り、周囲が高く中央が凹む形となったときに1回目の破片が落ちて立ち、さらに土が入り平面ができたときに2回目の破片が落ちて寝た状態となる。すなわちこれらの土器が異なる壊れ方で、土坑埋没前にすでに壊れていたと考えられる。

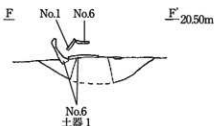
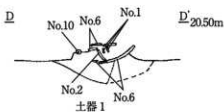
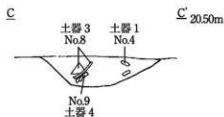
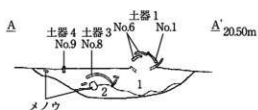
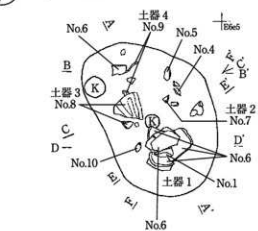
所見 第67号土坑は、確認のため一部遺構を掘り込み、出土遺物を採取して調査した。出土遺物から、弥生時代中期の土器棺墓と考えられる。



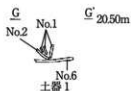
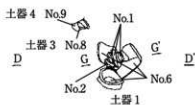
第48図 第14トレンチ実測図



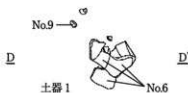
① 出土状況



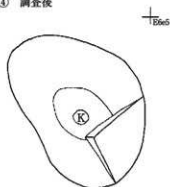
③ 上層の土器片除去後



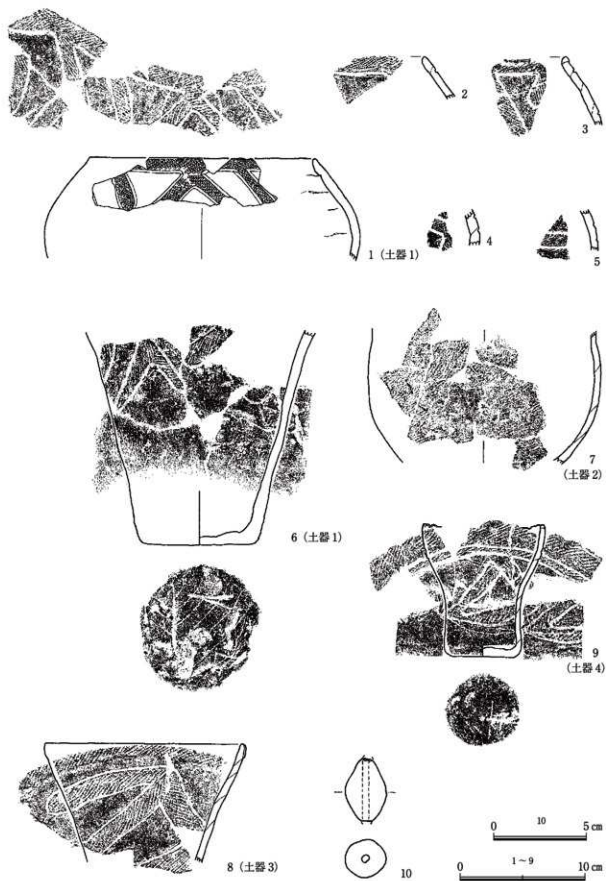
③ 中層の土器片除去後



④ 調査後



第49図 第67号土坑実測図



第50图 第67号土坑出土遗物实测图

第22表 第67号土坑出土遺物観察表

埴垣	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考		
第50号	1	弥生土器	鉢	口縁部, 5%	[18.0]	平底。胴部はわずかに外反。外傾。肩部で屈曲して、口縁部内彎内傾。口唇部でわずかに外反。外面口縁部～胴部中位までは磨消縄文によるヒトデ状文。胴部下位ヘラケズリのちナデ。内面ナデ。輪積み痕顕著。底部外面木葉痕	メノウ粒少量。メノウ礫・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	普通二次焼成	外面にふい赤褐色・暗黄褐色。内面橙褐色	覆土上部	8片	PL42土器1	
				口縁部, 5%以下	—					—	土器2内	—	PL42土器1
				口縁部, 5%以下	—					—	—	—	—
				胴部, 5%以下	—					—	—	—	—
				胴部, 5%以下	—					—	—	—	—
				胴部, 5%以下	—					—	—	—	—
4	胴部, 5%以下	—	—	—	—	—	—	覆土下部	—	PL42土器1			
5	胴部, 5%以下	—	—	—	—	—	—	覆土下部	—	PL42土器1			
6	胴部, 5%以下	—	—	—	—	—	—	覆土上部	21片	PL42土器1。胴部中位外面被熱による剥離。炭化物付着			
7	弥生土器	小型鉢	頸～胴部, 20%	(10.5)	胴部内彎・外傾。頸部わずかに屈曲して直立。最大径胴部上位 [18.4] cm。頸部外面無文。胴部磨赤文。内面ナデ。一部ミガキ	メノウ粒少量。メノウ礫・石英粒・雲母細粒微量	良好	内外面明赤褐色。にふい赤褐色	覆土下部	8片	PL42土器2		
8	弥生土器	鉢	口縁部, 10%	[15.5] (9.4)	外反。外傾。外面口唇部を肥厚させ縄文帯。胴部全体に磨消縄文によるヒトデ状文。内面ミガキ	メノウ粒少量。雲母・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色。内面暗褐色	覆土下部	4片	PL42土器3 14トレ No.12と同一個体。遺構外出土遺物に同一個体。口縁部付近外面に炭化物付着		
9	弥生土器	筒形土器	口縁～底部, 60%以下	10.5 9.6 6.0	小型。器壁薄い。平底。胴部はほぼ垂直に立ち上がり、中位から上で開く。中位で外反。上位で内彎。口縁端部棒状工具によるキサミ。口縁部外面縄文と横走沈線2条。胴部磨消縄文手法による三角文と円文(?)。底部外面木葉痕か。内面ナデ。一部輪積み痕を残す	メノウ粒少量。黒色礫・雲母・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄色・にふい黄褐色。内部褐灰色	覆土上部及び下部	14片	PL42土器4 胴下部外面に炭化物付着		
埴垣	器種	長さ(cm)	幅(cm)	口径(cm)	重量(g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第50号	管状土鉢	(3.3)	22	0.4	(10.1)	太く短い。両端は急に細くなる。外面ナデ	メノウ粒少量。チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	にふい黄褐色	覆土上部	—	PL42 ほぼ完存	

②平安時代

(i) 竪穴住居跡

第14号竪穴住居跡 (S114, 第48図)

位置 E 6 g 5区, E 6 h 5区に位置する。第II 2層上面及び北壁セクションで確認できた。

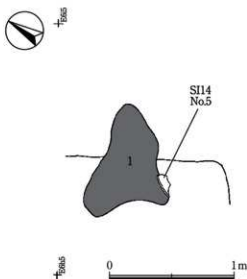
規模と形状 北部がトレンチ外に延びるため、短軸の長さは不明、長軸は290cm、長軸の方位はN-69°-Eの隅丸長方形と考えられる。

重複関係 第15号竪穴住居跡を切っている。

土層 2層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 2 暗褐色 (7.5YR 3/4) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 締まり強, 粘性中
 3 暗褐色 (7.5YR 3/3) ローム粒子少量, ローム小ブロック極少量, Nt-S極少量, 締まり強, 粘性中, 5層より暗い



第51図 第14号竪穴住居跡電実測図

床 確認していない。

竈 東壁南寄りに付設されている。須恵器大甕片が補強材に用いられている (第51図)。

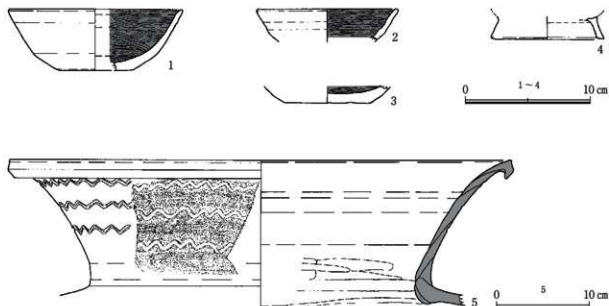
竈土層解説

- 1 黄褐色 砂質粘土

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 出土した土師器4点 (坏2, 碗1, 高台付坏1), 須恵器1点 (大甕1) を掲載する (第52図, 第23表)。

所見 出土遺物及び形状から、平安時代の竪穴住居跡と考えられる。



第52図 第14号竪穴住居跡出土遺物実測図

第23表 第14号竪穴住居跡出土遺物観察表

種目	種別	器種	部位・残存率	口径高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第52図	1	土師器	碗	口縁～底部、20%	[138] (4.8) [6.0]	平底から体部が内彎外傾して立ち上がる。ロクロ成形。外面ナデ、内面ミガキ・黒色処理	精良。メノウ細粒・雲母細粒・褐色礫微量	良好	外面褐灰色・にぶい橙色。内面黒色	E6h5 確認面	2片	PL42
	2	土師器	坏	口縁部、5%	[112] (2.6) —	外傾。体部内彎、口縁部外反。外面ロクロナデ。内面ミガキ・黒色処理	精良。メノウ少量、褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面褐灰色・にぶい褐色。内面黒色	E6g5 確認面	—	PL42
	3	土師器	坏	底部、10%	— (1.4) [6.8]	平底。体部大きく外傾。内彎。外面ナデ。底部外面手持ちヘラケズリ。内面ケズリ・ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、石英粒・雲母・海綿骨針微量	普通	外面褐灰色。内面黒色	E6g5 確認面	—	PL42 内面炭化物付着
	4	土師器	高台付坏	台部。	— (1.8) [9.0]	ハの字状に開く足高の貼付高台。内外面ロクロナデ。貼付け部分で剥離	精良。メノウ細粒・雲母細粒・灰色砂粒微量	良好	内外面褐灰色・にぶい黄橙色	E6g5 確認面	2片	PL42
	5	須恵器	大甕	口縁～肩部、20%	[532] (15.6) —	強く内傾する体部から屈曲して頸部が外反外傾して立ち上がる。口縁端部は下に屈曲。輪積み成形。外面・口縁部内面ロクロナデ。体部内面ナデ。頸部外面椎状工具による3条の波状文。肩部外面・頸部内面に自然輪	石英細粒・雲母粒少量、石英礫・泥岩礫微量	良好	内外面灰色	E6h5 確認面 電極脇	3片	PL43 SI15出土遺物と接合

第15号竪穴住居跡（S I 15, 第48図）

位置 E 6 h 5区から E 6 j 5区に位置する。第Ⅱ 2層上面及び北壁セクションで確認できた。

規模と形状 北部及び南部がトレンチ外に延びるため平面は不明、長軸は440cm、長軸の方はN—67°—Eと考えられる。

重複関係 第14号竪穴住居跡に切られ、第7号性格不明遺構を切っている。

土層 4層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 4 暗褐色 (7.5Y R 3/4) ローム粒子少量, N t-S極少量, 締まり強, 粘性中
- 5 暗褐色 (7.5Y R 3/3) ローム粒子少量, N t-S極少量, 締まり強, 粘性中
- 6 暗褐色 (7.5Y R 3/3) ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, N t-S極少量, 締まり強, 粘性中
- 7 暗褐色 (7.5Y R 3/4) ローム粒子中量, ローム小ブロック中量, N t-S極少量, 締まり強, 粘性中

床 確認していない。

竈 東壁に付設されている (第53図)。

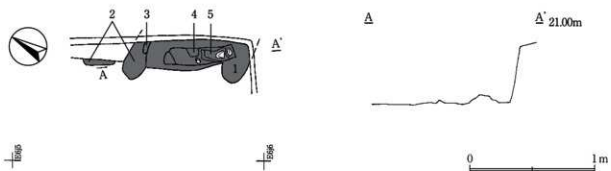
竈土層解説

- 1 黄褐色 砂質粘土, 黒色土少量, 砂少量
- 2 黄褐色 粘土塊
- 3 黄褐色 砂質粘土, 被熱してやや赤みが強い
- 4 黄褐色 砂質粘土, 被熱してやや赤みが強く, 表面に集めた黒色粒子がある
- 5 黄色 砂質粘土

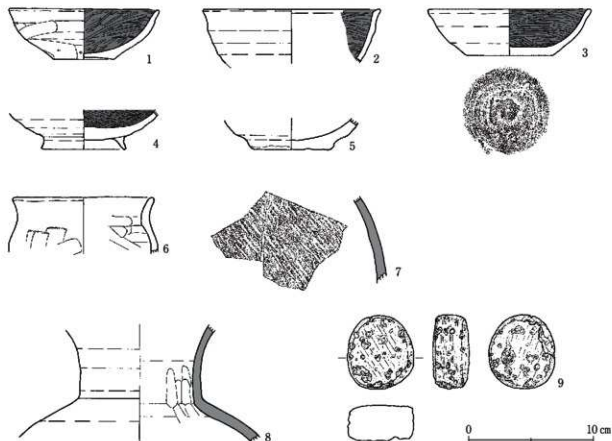
柱穴 確認していない。

遺物出土状況 土器等16点、石器1点が出土している。うち土師器6点（坏4、高台付坏1、小型甕1）、須恵器2点（甕1、壺1）、石器1点（磨石1）を掲載する（第54図、第24表）。

所見 出土遺物及び形状から、平安時代の堅穴住居跡と考えられる。



第53図 第15号堅穴住居跡電実測図



第54図 第15号堅穴住居跡出土遺物実測図

第24表 第15号堅穴住居跡出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第54図 1	土師器	坏	口縁～ 底部、 30%	[11.8] 4.0 [4.8]	上げ底気味。体部内罫、外罫。 外面ロクロナデ、一部ナデ。 下位ヘラケズリ。内面ミガキ・ 黒色処理。底面回転ヘラケズリ	メノウ粒・石英粒・ 石英・石英・ 褐色砂粒・泥 岩粒・雲母微 量	良好	外面灰褐色・ にふい赤褐色 内面黒色、 内部にふい 赤褐色	E6h5 確認面	—	PL43 9世紀中 ころ

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第54図	2	土師器	口縁～ 底部、 5%	— —	[140] 体部外傾。内彎。口縁部外反。外面ロクロナデ。内面ロクロナデのち粗いミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面にぶい黄褐色・黒色 内面黒色	E6j5 確認面	—	PL43
	3	土師器	口縁～ 底部、 7.0%	— 3.7 6.7	[130] 平底。体部内彎・外傾。口縁部でわずかに外反。外面ロクロナデ。内面ミガキ・黒色処理。底面回転ヘラ切り	メノウ粒少量、メノウ礫・石英礫・泥岩粒・雲母微量	良好、一部二次焼成	外面灰黄褐色・内面黒色・一部にぶい黄褐色	E6i5 確認面	—	PL43 9世紀中ごろ
	4	土師器	高台付 底部、 50%	— (2.9) [6.4]	ハの字状に開く貼り付け高台。体部内彎、外傾。外面ロクロナデ。内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、褐色砂粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面褐灰色、内面黒色、内部明赤褐色	E6h5 確認面	—	PL43 9世紀中ごろ
	5	土師器	体部～ 底部、 20%	— (2.4) [6.4]	平底。体部内彎・外傾。内外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後粗いナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好、焼けムラ	内外面にぶい橙色 一部褐灰色	E6j5 確認面	—	PL43
	6	土師器	小型 口縁～ 肩部、 10%	— [110] (4.5) —	体部内彎。頸部でゆるやかに屈曲し、口縁部外反・外傾。体部外面ヘラケズリのちナデ、口縁部内外面・内面ナデ	メノウ粒・チャート粒少量、雲母細粒・褐色砂粒微量	良好	内外面にぶい橙色	E6j5 確認面	—	PL43
	7	須恵器	胴部、 5%以下	— —	内彎、内傾。外面平行タタキ、自然軸。内面当て具痕（無文）、ナデ	メノウ粒・石英粒・黒色砂粒・雲母・海綿骨針微量	還元炎焼成	外面オリーブ黒色、軸灰オリーブ色、内面にぶい褐色、内部黄灰色	E6h5 確認面	3片	PL43
	8	須恵器	頸部～ 肩部、 10%	— —	頸部径9.5cm。肩部は内彎、強く内傾。頸部は直立し上方で外反。内外面ロクロナデ。内面の一部に指ナデ	石英粒少量、長石粒・海綿骨針微量	良好	内外面灰褐色	E6i5 確認面	2片	PL43 海綿骨針顕著

挿図	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第54図	9	磨石	5.8	5.2	2.8	(118.8)	多孔質安山岩	やや扁平な不整形。全面研磨整形	E6h5 確認面	—	PL43 一部欠損、混入

③中世

(i) 溝跡

第7号溝跡 (SD7, 第48図)

位置 E6e5区, E6f5区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 一部攪乱を受けているが、確認できる上端の幅132cm, 確認面からの深さ34cmである。走向はトレンチにほぼ直交し、N-18°-Wを向く。これは付近の等高線とほぼ平行である。

壁は、底面から22cm付近で大きく外傾する。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層観察

1 暗褐色 (75YR3/4) ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、Nt-S極少量、締まり中、粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物は伴わないが、形状から中世の区画溝と考えられる。第7号溝は、第23トレンチでもその走向が確認されている。

④時期不明

(i) 性格不明遺構

第7号性格不明遺構 (S×7, 第48図)

位置 E6j5区に位置する。第Ⅱ2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模及び形状 大部分がトレンチ外に延びるため不明である。

重複関係 第15号竪穴住居跡に切られている。

土層 3層からなり、人為堆積である。

土層解説

8 褐色 (7.5YR 4/4) ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 締まり強, 粘性中

9 黒色 (7.5YR 2/1) ローム粒子極少量, 締まり中, 粘性中

10 極暗褐色 (7.5YR 2/3) ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 出土していない。

所見 重複関係から平安以前とは考えられるが、遺物を伴わないため時期は特定できず、性格も不明である。

B 遺構外出土遺物

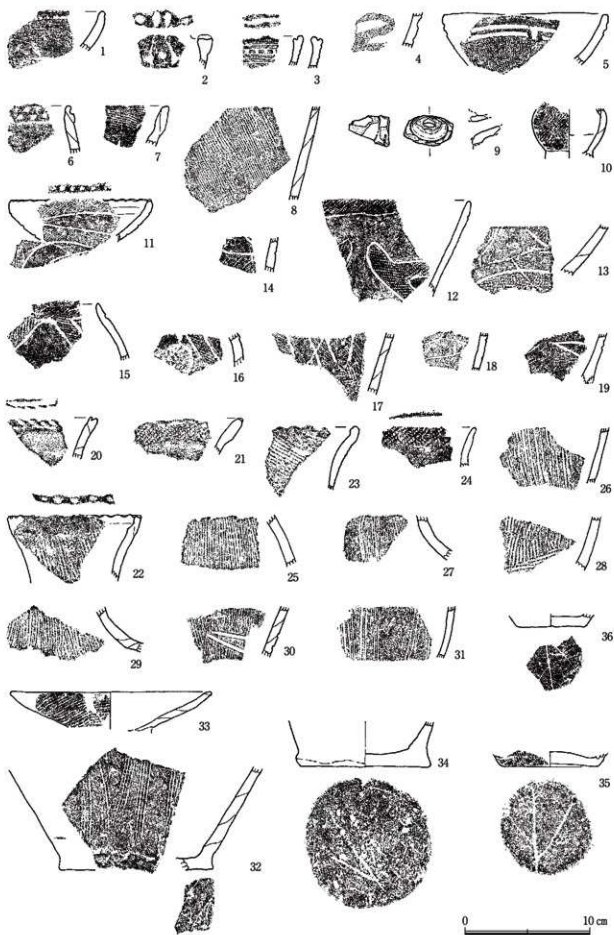
遺構外で確認された遺物について解説する (第55～57図, 第25表)。

遺物出土状況 土器等2,009点, 石器等17点, 骨片8点, 骨角器1点, 鉄製品3点が出土している。

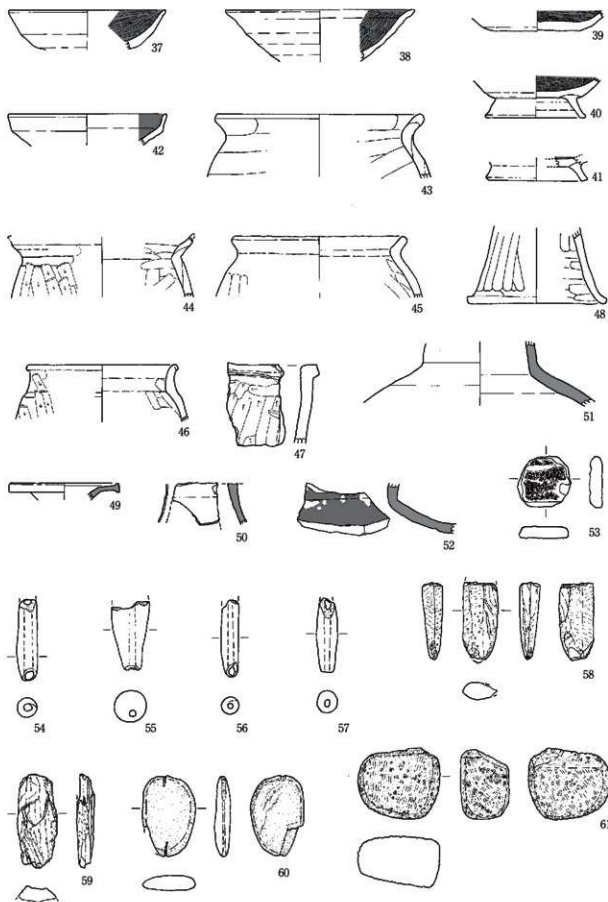
うち縄文土器10点 (深鉢5, 浅鉢3, 注口土器1, 壺1), 弥生土器26点 (壺16, 鉢6, 浅鉢1, 小型鉢1, 高坏1, 小型壺1), 土師器12点 (甕4, 坏3, 高台付坏2, 盤1, 甌1, 高坏1), 須恵器4点 (壺2, 小型壺1, 高坏1), 土製品5点 (管状土錘4, 土器片円盤1), 石器・石製品17点 (石鎌10, 石剣1, 石棒1, 石錘1, 磨石1, 敲石1, 砥石1, 石錐1), 骨角器1点 (不明骨角製品1) を掲載する。

(3) 所見

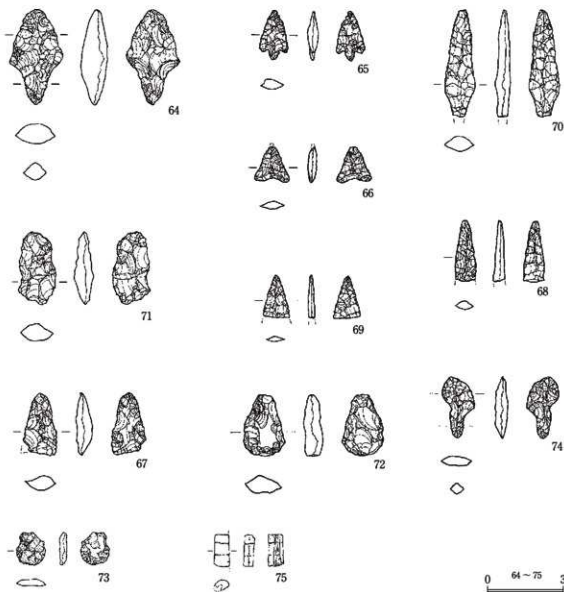
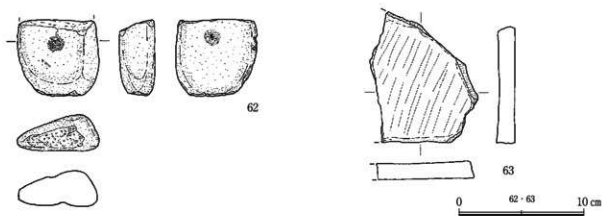
第4トレンチ東部で確認された第4号性格不明遺構の走向を確認するために設置したトレンチであるが、溝跡が所在すると想定される位置に平安時代の竪穴住居跡2軒が確認された。このため、先述のとおり遺構保護の観点からサブトレンチの掘削を東端から2m程度で中断しており、第4号性格不明遺構の走向を確認することはできなかった。これにより、さらに北方に新たにトレンチを設定して調査した。なお、再葬墓遺構は確認できなかった。平安時代の竪穴住居跡により破壊された可能性があるものの、第1トレンチ西側には再葬墓遺構が所在しない公算が高くなった。一方、土器棺墓1基が確認されており、第4トレンチ西部で確認されていた土器棺墓群が、北はここまで延びていることが窺える。



第55図 第14トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第56図 第14トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)



第57図 第14トレンチ遺構外出土物実測図(3)

第25表 第14トレンチ遺構外出土遺物観察表

種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考		
第55図												
1	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	内髷、外頰。口唇部外面に押し文、その下無文、粗いナデ。内面丁寧なナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	外サンドイッチ状。外面に内面灰褐色。内部褐色	E6d5、II層	—	PL43 阿玉台式	
2	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	外頰。波状口縁波頂部。端部にキザミ2つ。外面に玉括ぎ三叉文。内面ナデ	メノウ粒少量、黒色砂粒・凝灰岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐色	E6h5、II層	—	PL43 安行3a式	
3	縄文土器	浅鉢	口縁部5%以下	—	内髷、外頰。口縁端部に沈線。外髷と内髷にひとつずつ左向きをずらした突起。外面横走に沈線5条、2条目と3条目の間に連続刺突。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色。内面にぶい褐色。内部褐色	E6d5、II層	—	PL43 大淵C1式	
4	縄文土器	浅鉢	胴部5%以下	—	わずかに内髷、外頰。外面磨消縄文手法による雲形か。内面ミガキ	メノウ粒少量、凝灰岩粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部にぶい褐色	E6j5、I B層	—	PL43 前浦式	
5	縄文土器	浅鉢	口縁部・胴部5%	[128]	内髷、外頰。口縁部外面変形工字文。胴部外面縄文。内面ミガキ。外面赤色塗彩	メノウ粒・メノウ塵・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐色	E6e5、II層	—	PL44 晩期末	
6	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	内頰。複合口縁。内髷気味の胴部から外反気味の口縁部。口縁部外面に市松状に2段の連続刺突。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒少量、メノウ塵・チャート粒微量	やや焼き甘い	サンドイッチ状。外髷にぶい褐色。淡黄褐色。内面褐色。内面にぶい褐色。中心部黒褐色	E6j5サブレII層	—	PL43 晩期	
7	縄文土器	深鉢	口縁部5%以下	—	外頰。口縁部で内髷に屈曲。複合口縁。口縁部外面熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部黒褐色	E6e5、II層	—	PL43	
8	縄文土器	深鉢	胴部5%以下	—	外頰。外面密な熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート・泥岩粒微量	良好	外面褐色。内面褐色。内部にぶい褐色	E6e5、II層	—	PL44	
9	縄文土器	注口土器	注口部5%以下	—	横長の注口。基部で横29cm、縦2.0cm。内径横1.0cm。縦0.8cm。わずかに上向き。外面ミガキ。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒微量	普通	内外面褐色。淡黄褐色	E6j5、II層	—	PL43	
10	縄文土器	壺(三ツ子器)	胴部25%	—	内髷、外頰。外面縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒微量	良好	外面明赤褐色。内面赤褐色	E6d5、II層	—	PL43	
11	弥生土器	浅鉢(台付)	口縁部・胴部10%	[110]	(34)	内髷、外頰。口縁端部にキザミ。外面磨消縄文による三角連繫文か。内面ミガキ	精良。メノウ粒・石英粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐色	E6d5、II層	2片	PL44
12	弥生土器	鉢	口縁部・胴部10%	—	外反・外頰する胴部からやや内髷気味の口縁部。口唇部外面を肥厚させ縄文帯。胴部全体に磨消縄文手法によるヒトデ状文。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色。内面褐色	E6d5、II層	—	PL44 SK67のNo8と同一面体	
13	弥生土器	鉢	胴部5%以下	—	内髷、大きく外頰。外面ヒトデ状文もしくは三角連繫文。内面ミガキ	メノウ粒少量、チャート粒・石英粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい褐色。内面褐色	E6d5、I B層	2片	PL44	

種別	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第55図	14	弥生土器	鉢か	胴部5%以下	—	外傾か。外面ヒトデ状文か、赤色顔料付着。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒、黒色砂粒微量	良好	外面灰褐色、内面にぶい橙色	E6d5, II層	—	PL44
	15	弥生土器	鉢	口縁部5%以下	—	内彎内傾。外面ヒトデ状文、内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状、内外面褐色、内部褐色	E6e5, II層	—	PL44 SK67のNo.1～6個と同一体かNo.16外面炭化物付着。器表一部剥離
	16			胴部5%以下	—	内傾、内彎。外面ヒトデ状文、内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒微量	普通	サンドイッチ状、内外面褐色、内部褐色	E6d5, II層	2片	
	17			胴部5%以下	—	外傾。外面ヒトデ状文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・泥岩粒微量	普通	サンドイッチ状、内外面灰黄褐色、内部褐色	E6d5・e5, II層	2片	
	18	弥生土器	壺か	胴部5%以下	—	外傾か。磨消縄文手法によるヒトデ状文か三角連繫文、内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・雲母・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状、内外面にぶい黄褐色、内部黒褐色	E6g5, II層	—	PL44
	19	弥生土器	小型鉢	胴～底部5%以下	—	底部からやや内彎・外傾して立ち上がる胴部。外面細粒の附加条縄文に脱角の沈澱区画をし磨り消し。三角連携文か。内面ナデ	メノウ粒・石英粒少量、灰色砂粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状、内外面褐色、内面にぶい褐色、中心部褐色	E6e5, I B層	—	PL44 龍門寺式
	20	弥生土器	壺	口縁～頸部5%以下	—	外反・外傾。口縁端部に沈澱を引き、外側に斜位のキザミ。小波状を呈す。頸部外面無文。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・海綿骨針微量	良好	外面明赤褐色、内面灰黄褐色	排土中	—	PL44
	21	弥生土器	壺	口縁部5%以下	—	外反気味。外傾。口縁部小波状・肥厚。口縁部外面縄文、頸部無文。内面ナデ	メノウ粒中少量、チャート礫・石英粒・海綿骨針微量	やや不焼、良き甘い	外面にぶい黄褐色、橙色、内面褐色	E6h5, I B層	—	PL44
	22	弥生土器	壺	口縁～頸部5%以下	[10.4] (5.3)	外反・外傾する頸部から内彎気味の口縁部。小波状口縁。頸部外面条痕文。口縁部内面凹線と隆起線。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート礫・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状、外面褐色、内面明赤褐色、内部明黄色	E6f5, II層	—	PL44
	23	弥生土器	壺	口縁～頸部5%以下	—	外反・外傾する頸部から内彎気味の口縁部。小波状口縁。頸部外面条痕文。口縁部内面凹線と隆起線。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート礫・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状、外面明赤褐色、内面褐色、内部明黄色	E6e5, II層	—	PL44 No.22と同一体か
	24	弥生土器	壺	口縁～頸部5%以下	—	外傾・外反。口縁部外面縄文、頸部外面無文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒、チャート粒微量	良好	外面にぶい黄褐色、内面明黄褐色・橙色	E6f5, II層	—	PL44
	25	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	内彎。内傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒、黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面褐色、内面にぶい黄褐色	E6f5サプトレ内, II層	—	PL44
	26	弥生土器	壺	胴部5%以下	—	内彎。外傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒、灰色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面灰黄褐色、内面褐色	E6f5サプトレ内, II層	—	PL44
	27	弥生土器	壺	頸部5%以下	—	外反。内傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒、泥岩・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい赤褐色、内面にぶい黄褐色・黄色、内部褐色	E6f5サプトレ内, II層	—	PL44

挿入	種別	器種	部位・残存率	口径高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第55図	28	弥生土器	胴部5%以下	—	内彎、外傾。外面縦位と横位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒、石英粒、海綿骨針微量	良好	内外面にぶい黄褐色	E6Ⅴ、I B層	—	PL44	
	29	弥生土器	胴部5%以下	—	外反、内傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒、チャート粒、海綿骨針微量	良好	外面・内面褐色、内面ぶい橙色	E6Ⅴ、II層	—	PL44	
	30	弥生土器	胴部5%以下	—	わずかに内彎、外傾。縦位の条痕文に深い沈線2条。内面丁寧なナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒、雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色、内面褐色。内部褐色	E6Ⅴ、II層	—	PL44	
	31	弥生土器	胴部5%以下	—	内彎、外傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒、雲母、海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色、内面褐色	E6Ⅴ、II層	—	PL44	
	32	弥生土器	胴部底、10%	—	平底。胴部外傾して立ち上がる。底面木葉痕。胴部外面条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒、砂岩礫微量	良好	外面灰黄褐色、内面にぶい赤褐色、黒褐色。底面黒褐色	E6Ⅴ、II層	—	PL44	
	33	弥生土器	高坏	口縁～環部、10%	[16.0] (3.1)	わずかに内彎、大きく外傾。外面縄文。内面丁寧なミガキ。脚台斜離・欠損	メノウ粒少量、石英粒、チャート粒、雲母細粒微量	普通焼けムラ	内外面にぶい黄褐色・黒褐色。内部褐色	E6Ⅴ、II層	6片	PL44
	34	弥生土器	壺か	底部5%	—	平底。胴部外反・外傾して立ち上がる。底面木葉痕。ヘラケズリ。内外面粗いナデ	メノウ粒中量、石英粒、チャート粒、黒色砂粒微量	やや不良。焼いけムラ	外面にぶい赤褐色・灰褐色。内面にぶい橙色・黒色。底面黒褐色	E6Ⅴ、II層	—	PL45 内面赤褐色の付着物
	35	弥生土器	壺か	胴下部～底部、5パーセント	—	平底から胴部が外傾して立ち上がる。胴部外面条痕文。沈線1条か。底面木葉痕。内面ナデ。器面荒れ	メノウ粒少量、石英粒、チャート粒、黒色砂粒、海綿骨針微量	やや不良。焼いけ甘い	外面・底面にぶい黄褐色。内面褐色	E6Ⅴ、I B層	—	PL45 海綿骨針顕著
	36	弥生土器	小型壺	底部5%以下	—	平底。胴部外傾。底面木葉痕。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒、チャート粒微量	やや不良。焼いけ甘い	外面暗赤褐色。内面・内部明赤褐色	E6Ⅴ、II層	—	PL44 SK67のNo.7と同一体の可能性
第56図	37	土師器	坏	口縁～体部、10%	—	体部内彎、外傾。口縁部わずかに外反。外面口クロナデ。内面ミガキ、黒色処理	精良。メノウ粒、メノウ礫、雲母細粒、黒色砂粒微量	良好。一部二次焼成	外面にぶい黄褐色・灰黄褐色。一部灰褐色	E6Ⅴ、II層	—	PL45 9～10世紀
	38	土師器	坏	口縁～体部、10%	—	体部内彎、大きく外傾。口縁部わずかに外反。外面口クロナデ。内面ミガキ、黒色処理	メノウ粒少量、石英粒、泥岩粒微量	普通。一部二次焼成	サンドイッチ状。外面浅黄褐色。内面黒褐色。一部明赤褐色。中心部褐色	E6Ⅴ、II層	—	PL45 内面炭化物付着。外面墨書か墨痕
	39	土師器	坏	体部～底部、10%	—	平底。胴部大きく外傾。内彎。底面糸切り後ヘラケズリ。体部外面ヘラケズリ。内面ミガキ、黒色処理	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒、砂岩粒、雲母細粒微量	良好	外面にぶい褐色。内面黒色	E6Ⅴ、II層	—	PL45 9世紀
	40	土師器	高台付坏	体部～高台部、30%	—	平底から体部が内彎・外傾して立ち上がる。底面にハの字状に開く足高台貼り付け。外面口クロナデ。内面ミガキ、黒色処理	精良。メノウ粒、石英粒、雲母細粒、黒色砂粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面黒色	E6Ⅴ、II層	—	PL45 10世紀
	41	土師器	高台付坏	底～高台部、10%	—	平底にハの字に開く高台貼り付け。外面口クロナデ。内面ミガキ、黒色処理	精良。メノウ粒、石英粒、雲母細粒、黒色砂粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面黒色	E6Ⅴ、II層	—	PL45 9～10世紀

種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第56図	42	土師器 盤	口縁～ 体部 5%	[12.4] — —	大きく外傾する体部から屈曲して立ち上がる口縁部。外面ロクロナデ。内面ミガキ、黒色処理。	メノウ粒少量、石英粒、褐色砂粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面黒色	E6e5, II層	—	PL45 8～9世紀
	43	土師器 甕	口縁～ 胴部 5%	[16.0] (5.0) —	内傾・内彎する胴部からくくの字に屈曲する。口縁部外傾。内外面ナデ。外面炭化物付着	メノウ粒少量、石英粒、チャート粒、泥岩礫微量	良好	内外面浅黄褐色。内面にぶい黄褐色	E6i5, II層	—	PL45 外面炭化物付着
	44	土師器 甕	口縁～ 体部 5%以下	[14.6] (4.8) —	内彎・内傾する胴部から頸部でくの字に屈曲し外傾する口縁部。口縁端部つまみ上げ。口縁部・体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ	メノウ粒・石英粒・長石粒・褐色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰褐色。内面にぶい黄褐色。内部明赤褐色	E6i5, II層	—	PL45 9～10世紀
	45	土師器 甕	口縁～ 体部 5%以下	[13.4] (4.9) —	体部内彎、内傾。頸部でくの字に屈曲し、口縁部外傾。内外面ナデ	メノウ粒少量、砂岩粒、灰色砂粒・黒色砂粒微量	良好	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色	E6i5, II層	—	PL45 口縁部内面に炭化物付着
	46	土師器 甕	口縁～ 体部 5%以下	[11.6] (4.5) —	内彎・内傾する体部から頸部で緩やかに屈曲し、外反・外傾する口縁部。口縁部内外面・体部内面ナデ。体部外面ヘラケズリ	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	内外面にぶい黄褐色	E6i5, II層	—	PL45
	47	土師器 瓶	口縁～ 体部 5%以下	— — —	やや内彎、わずかに外傾する体部から屈曲して突帯状に張り出す口縁部。口縁端部平坦。口縁端部ヘラケズリ。口縁部外面ミガキ。体部外面ヘラケズリ。頸部外面内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・石英粒・チャート粒・凝灰岩粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部にぶい橙色	E6i5, II層	—	PL45
	48	土師器 高坏	脚部 5%	— (6.3) [11.0]	外反する端部から内傾して直線的に立ち上がる。外面ヘラナデ。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒・凝灰岩粒微量	やや不焼 良。焼き甘い	外面にぶい黄褐色。内面にぶい黄褐色	E6e5, II層	3片	PL45
	49	須恵器 小型壺	口縁部 5%以下	[8.6] — —	外反、大きく外傾。口縁端部内傾に強く屈曲。内外面ロクロナデ。内面自然軸付着	メノウ粒微量	還元炎焼成	胎土：灰色。胎軸：灰オリープ色	E6j5, II層	—	PL45
	50	須恵器 高坏	台部 5%以下	— — —	外反・内傾して立ち上がる台部。4か所にスリットが入る。内外面ロクロナデ	精良。石英粒微量	還元炎焼成	内外面灰色	E6g5, II層	—	PL45
	51	須恵器 壺	頸～肩 部 5%以下	— — —	大きく内傾・内彎する肩部から屈曲してやや内傾して立ち上がる頸部。内外面ロクロナデ	石英粒・海綿骨針微量	還元炎焼成	内外面褐灰色	E6j5サブトレ I B層	—	PL45
	52	須恵器 壺	頸～肩 部 5%以下	— — —	大きく内傾・外反する肩部から屈曲してやや外反気味に立ち上がる頸部。内面指ナデ。外面自然軸	石英粒・長石粒微量	還元炎焼成	胎土：灰色。胎軸：灰オリープ色	E6d5, I B層	—	PL45

種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第56図	53	土器片 内盤	3.0	2.7	—	6.2	縄文土器片を転用。周囲を折断して整形。不整形断面。厚さ6.6mm。土器片外面に沈澱2条。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・黒色砂粒微量	普通	土器片外面黒褐色。内面灰黄褐色	E6f5, I B層	—	PL45 完存
	54	管状 土鐘	(4.3)	1.1	0.4	(3.9)	全体に細身。棒に粘土板を巻き付けて成形。外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通	褐灰色	E6g5サブトレ I内II層	—	PL45 一部欠損
	55	管状 土鐘	(3.6)	(2.1)	0.3	(8.8)	やや大型。中央で太くなる。外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・海綿骨針微量	良好	にぶい黄褐色	E6i5, II層	—	PL45 一部欠損

押円	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第56図	管状 土鍾	(4.1)	0.9	0.3	(32)	全体に細身。外面ナデ	精良。メノウ 粒・チャート 粒・泥岩粒微 量	良好	にぶい 黄褐色	E6i5, II 層	—	PL45 一部欠損
57	管状 土鍾	(3.9)	1.3	0.3	(39)	中央でやや太くなる。外 面ナデ	精良。メノウ 粒・泥岩粒・ 褐色砂粒・海 綿骨針微量	普通	褐灰色	E6f5	—	PL45 一部欠損

押円	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第56図	石剣	(6.0)	(2.7)	(1.5)	(32.6)	粘板岩	先端部破片。両側縁ににぶい稜。軸直交 に近い研磨調整	E6i5, I B層	—	PL46 一部残存
59	石鏃未 成品	(7.4)	(3.2)	(1.4)	(36.7)	粘板岩	断面円形と推定される表面の一部が残存。 表面に敲打痕	E6h5	—	PL46 一部残存
60	石鏃	6.3	4.2	1.3	(44.6)	砂岩	扁平な河原石を利用。両端に磨りによる 浅い切れ目。節理で破損	E6c5 付近拂 土中	—	PL46 一部欠損
61	磨石	6.5	5.5	3.9	164.9	多孔質 安山岩	やや扁平な礫を利用。不整な立方体、5 面に調整痕・使用痕。1面は破断面の可 能性もあり	E6c5 付近拂 土中	—	PL46 完存
第57図	砥石・ 凹石	(6.0)	6.3	2.8	(150.2)	砂岩	扁平な硬質砂岩を利用。表表面に径12mm 前後、深さ2～3mmの凹み。端部に砥石と しての使用痕	E6h5 付近拂 土中	—	PL46 一部欠損
63	砥石	(10.5)	(8.6)	1.3	(204)	凝灰岩	扁平な硬質の凝灰岩を利用。表面のほぼ 全面と表面の一部に砥面。表面の砥面は 中央部がわずかに凹む	E6i5, I B層	—	PL46 一部欠損
64	石鏃	3.8	2.1	1.0	6.5	メノウ	凸基有茎鏃。大型で分厚い。個縁交互剥 離	E6g5 サブテ レ内。 II層	—	PL46 完存
65	石鏃	2.0	1.1	0.4	0.6	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用した凹 基有茎鏃。丁寧な調整を施すが一部素材 時の剥離面を残す	E6j5 サブテ レ内。 II層	—	PL46 完存
66	石鏃	(1.4)	1.4	0.3	(0.5)	赤玉石	凹基無茎鏃。丁寧な剥離調整。刃部交互 剥離	E6g5, II層	—	PL46 一部欠損
67	石鏃	2.4	(1.4)	0.7	(1.8)	メノウ	無茎。平基か。先端部が五角形錐状。個 縁交互剥離	E6d5, II層	—	PL46 一部欠損
68	石鏃	(2.5)	(0.9)	(0.5)	(0.8)	チャート	基部欠損。細身。丁寧な整った調整	E6h5, II層	—	PL46 一部残存
69	石鏃	(1.7)	(1.1)	(0.3)	(0.5)	チャート	基部欠損。刃部直線的。丁寧な整った調整。 刃部交互剥離	E6g5, II層	—	PL46 一部欠損
70	石鏃	(4.3)	1.2	0.6	(2.7)	チャート	有茎。先端部と基部を欠損。長く整った 形。剥離はやや大きい。基部に黒色付着物。 接着剤か	E6g5, II層	—	PL46 一部欠損
71	石鏃未 成品か	2.9	1.5	0.7	3.0	メノウ	成形段階の未成品。個縁からの剥離は不 安定	E6i5, I B層	—	PL46 完存
72	石鏃未 成品か	2.5	1.7	0.8	3.0	チャート	一部素材時の剥離面を残し。分厚い調整 初期段階の未成品。無茎鏃を意図か	E6g5, I B層	—	PL46 完存
73	石鏃未 成品か	1.9	1.7	0.4	1.7	メノウ	やや良質のメノウを利用。無茎鏃を意図 した未成品か。基部調整は丁寧だが、 先端部は粗い	E6h5, I B層	—	PL46 完存
74	石鏃	2.5	1.4	0.5	1.2	メノウ	短い錐部に楕円形の頭部が斜めに付く。 錐部断面方形	E6g5, II層	—	PL46 完存

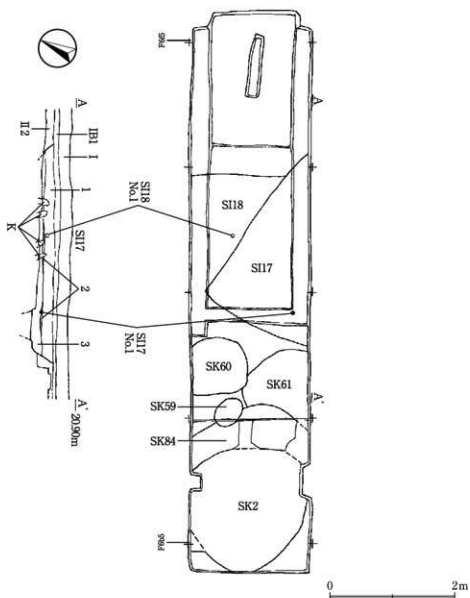
押円	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	重量 (g)	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第57図	不明骨 角製品	(1.8)	0.8	(1.0)	管状の骨に軸直交方向の線刻2条	E6h5, II層	—	PL46 装身具か

5 第15トレンチ (第58図)

(1) 調査概要

F6c5区からF6f5区までの区域に、長さ6.5m、幅2mの東西に長いトレンチを設定した。主目的は、これまでの調査で再葬墓遺構が確認されている、第1トレンチ東側、第8トレンチ北側の遺構分布状況の確認である。これによって、再葬墓遺構分布範囲の北の限界を掴むことを目論んだ。

なお、第15トレンチで確認された再葬墓遺構3基(第59～61号土坑)については、山砂を2～5cmほど土坑全体に敷き、水をかけて数分間馴染ませた後、掘り上げた表土をかけて埋め戻している。



第58図 第15トレンチ実測図

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

① 弥生時代

(i) 土坑

第59号土坑 (SK59, 第58・60図)

位置 F6b5区, F6c5区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

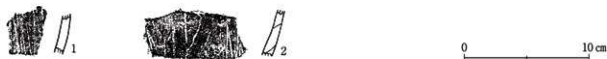
規模と形状 平面は長軸50cm, 短軸37cm, 長軸の方位はN-64°-Wである。

重複関係 第84号土坑を切っている。

遺物出土状況 土器等14点が出土している。うち弥生土器2点(壺2)を掲載する(第59図, 第26表)。再葬のため埋納された土器は以下の1点で, これは取り上げていない。

土器1 大部分が欠損しているが, 壺形土器と見られる。口縁をN-133°-Eに向けて倒れている。

所見 第2号性格不明遺構とされていた遺構であるが, 今次調査により性格が確認されたため呼称を改めている。出土遺物から, 弥生時代中期の再葬墓墓坑と考えられる。



第59図 第59号土坑出土遺物実測図

第26表 第59号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第59図	1	弥生土器	胴部, 5%以下	— —	内彎。わずかに外傾か。外面細かい条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・雲母細粒微量	良好	外面灰黄褐色, 内面にふい黄橙色	SK59, 60にまたがたがたのサブトレ内	—	PL47
	2	弥生土器	胴部, 5%以下	— —	内彎, 外傾。外面条痕文, 一部輪積み痕。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英礫・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄橙色, 内部褐色	覆土中	2片	PL47土器1の一部

第60号土坑 (SK60, 第58・60図)

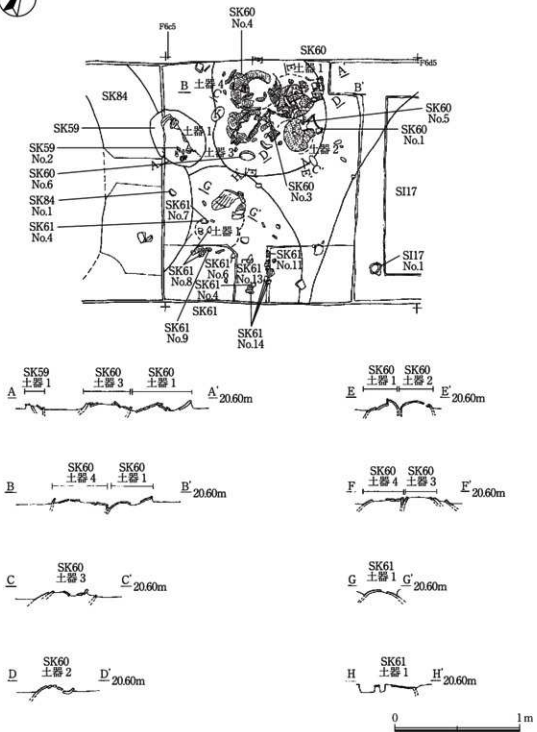
位置 F6c5区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は北部がトレンチ外に延びるため長軸は不明, 短軸88cm, 長軸の方位はN-16°-Wの楕円形である。

重複関係 第61号土坑を切っている。

遺物出土状況 土器等63点が出土している。うち縄文土器6点(深鉢3, 小型鉢1, 注口土器1, 壺1), 弥生土器5点(壺3, 鉢1, 深鉢1)を掲載する(第61図, 第27表)。再葬のため埋納された土器は以下の4点で, これらは取り上げていない。

土器1 口縁部はLR縄文, 頸部は方形の帯縄文, 胴上部は渦文, 胴下部はLR縄文の壺形土器

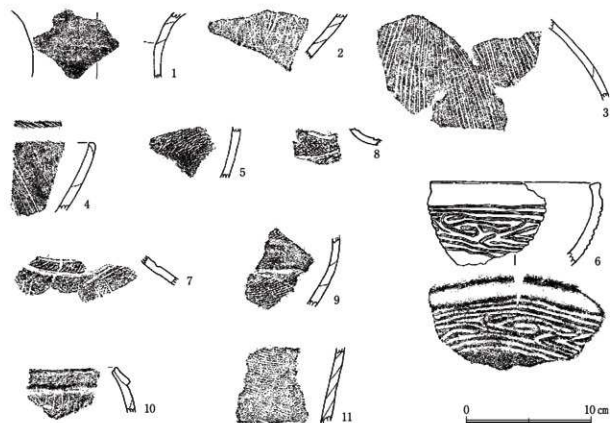


第60図 第59～61号土坑実測図

である。口縁をN-51°-Eに向けて倒れている。胴下部の上に土器4が重なる。
 土器2 口縁部は欠損している。頸部は無文、胴部はL R縄文の壺形土器である。口縁をN-42°-Eに向けて倒れている。
 土器3 口縁部はL R縄文、頸部・胴部は条痕文の壺形土器である。口縁をN-105°-Eに向けて倒れている。胴下部の上に土器4が重なる。
 土器4 口縁部は欠損している。頸部は無文、胴部は条痕文、頸部と胴部の区画は一条帯L R縄

文の壺形土器である。ほぼ直立しており、胴部は土器1と土器3の上に重なる。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓墓塚と考えられる。



第61図 第60号土坑出土遺物実測図

第27表 第60号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・ 残存率	口径器 高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第61図 1	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	外反、外傾。内外面ナデ。 内面にわずかに輪積み痕	メノウ粒少量、石英塵・チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面黒褐色・にぶい褐色。 内面灰黄褐色・にぶい黄褐色	覆土中	—	PL47
2	弥生 土器	深鉢	胴部、 5%以下	— — —	内彎気味、外傾。外面斜位・縦位の条線文。内面ケズリのちナデ	メノウ粒少量、チャート塵・雲母・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色。内面にぶい褐色	覆土中	—	PL47 一部外面に炭化物付着
3	弥生 土器	壺	肩部、 5%以下	— — —	内彎、内傾。外面くつきりとした斜位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、褐色砂粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面黄褐色。内部褐色	覆土中	3片	PL47 土器3の一部か
4	弥生 土器	鉢	口縁部、 5%以下	— — —	わずかに内彎、外傾。口縁端部付近でやや強く内彎。口縁端部に条痕状のキザミ。外面粗い斜位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	外面褐色。内面にぶい黄褐色	覆土中	—	PL47 土器4の一部か
5	弥生 土器	壺か	胴部、 5%以下	— — —	内彎、やや外傾。外面上半部系文。外面下半・内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面明褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	覆土中	—	PL47 土器2の一部か

採回	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第61回	縄文土器	小型鉢	口縁～胴部、25%	[13.4] (6.6) —	内脣、外傾。口縁部は無文の外面を外反させ、胴部は平坦。胴部は沈線による入組文と三又文。底部近くは無文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫少量、石英礫・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面黒褐色。内部明赤褐色	覆土中	—	PL47 晩期中～後葉
7	縄文土器	壺	頸～胴部、5%以下	— — —	内脣気味の肩部から外反する頸部。強く内傾。頸部は縄文を2条の横走沈線で区画。肩部は縦位の沈線（または条線）。内面ナデ	メノウ粒少量、褐色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	内外面暗灰黄色	覆土中	3片	PL47 晩期前半か
8	縄文土器	注口土器か	頸～胴部、5%以下	— — —	外反、強く内傾。外面縄文を横走沈線と弧状の沈線で区画。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・雲母・海綿骨針微量	良好	外面黒色。内面褐色	覆土中	2片	PL47 晩期前半か
9	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	— — —	内脣気味、外傾。外面縄文を磨り消して無文帯。磨消の区画は浅い沈線状。内面ケズリのちナデ	メノウ粒少量、褐色砂粒・雲母・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色。内面黒色	覆土中	—	PL47 外面炭化物付着
10	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	— — —	複合口縁。口縁端部に凹線（粘土帯貼り付けを反映か）。内脣、内傾。口縁部外面横位のナデ。胴部外面縦位の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート粒・褐色砂粒・雲母微量	普通	外面暗赤褐色。内面黒褐色	覆土中	—	PL47 後～晩期粗製土器
11	縄文土器	深鉢	胴部、5%以下	— — —	直線的、外傾。外面横位に近い斜位の整糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・チャート礫・雲母微量	普通	外面灰黄褐色。内面黒色	覆土中	—	PL47 内面炭化物付着

第61号土坑 (SK61, 第58・60回)

位置 F6c5区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分が確認できていないが、平面は楕円形になると考えられる。

重複関係 第60・84号土坑に切られている。

遺物出土状況 土器等85点が出土している。うち弥生土器15点(壺15)を掲載する(第62回, 第28表)。再葬のため埋納された土器は以下の1点で、これは取り上げていない。

土器1 頸部に高い突起が一条横走し、上に縄文施文、その下が輪状の膨らみ、胴上部に磨消縄文、胴下部が条痕文の壺形土器である。口縁をN-176°-Wに向けて倒れている。

所見 出土遺物から、弥生時代中期の再葬墓遺構と考えられる。耕作の攪乱により、土器のほとんどが損なわれており、埋納が確認された土器は1点だけであった。

第84号土坑 (SK84, 第58回)

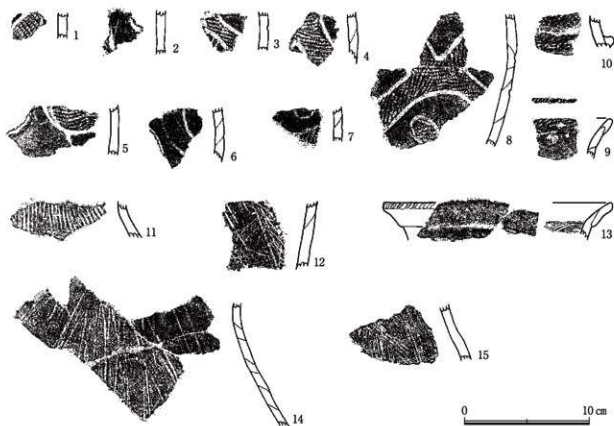
位置 F6c4区, F6c5区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分が確認できていないが、平面は楕円形になると考えられる。

重複関係 第2・7・59号土坑に切られ、第61号土坑を切っている。

遺物出土状況 出土した弥生土器1点(壺1)を掲載する(第63回, 第29表)。

所見 重複関係から弥生時代の所産と考えるが、性格は不明である。



第62図 第61号土坑出土遺物実測図

第28表 第61号土坑出土遺物観察表

神図	種別	器種	部位・ 残存率	口径器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第62図 1~3	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	—	内彎。縄文を沈線で区画し、 磨消縄文によりヒトデ状文 を表現。内面ナデ	メノウ粒少量、 灰色砂粒・雲母細粒 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ぶい黄橙色、 内部褐灰色	覆土中	—	PL47 No.1 同一個体 の一部
4				—						2片	
5				—						SK59 No.1と 接合	
6・7				—						—	
8				—						2片	
9	弥生 土器	壺	口縁部、5 %	—	外反・外傾。口縁部は肥厚 させ端部と外面に縄文を施 文。その下ミガキ。内面ナ デ	メノウ粒少量、 チャート 粒・黒色 砂粒・雲母細粒 微量	良好	サンドイッチ 状。外面にぶ い橙色、内面 にぶい黄橙 色、内部褐灰 色	覆土中	—	PL47 No.1 ~ 8.10と 同一個体か
10	弥生 土器	壺か	頸部、 5%以下	—	内傾。頸部外面に突帯貼り 付け。外面縄文、内面ナデ	メノウ粒少量、 雲母細 粒・凝灰岩礫 微量	良好、 焼けム ラ	外面黄褐色、 内面にぶい 橙色	覆土中	—	PL47 No.1 ~ 9 同一個 体か

挿図	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第62図	11	弥生 土器	頸部、 5%以下	— —	内傾。外反。外面縦位と横 位の条痕文。内面ナデ	精良。メノウ 細粒少量、雲 母細粒・海綿 骨針微量	良好	サンドイッチ 状。内外面明 赤褐色、内部 褐灰色	覆土中	—	PL47
	12	弥生 土器	胴部下 半、5 %以下	— —	外傾。内彎気味。外面雑な 斜位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少 量、凝灰岩 礫・雲母細粒 微量	普通	サンドイッチ 状。外面灰黄 褐色。内面に ぶい黄褐色、 内部褐灰色	覆土中	—	PL47
	13	弥生 土器	口縁 部、5 %以下	[18.0] —	外傾。外反。複合口縁。口 縁端部外側に縄文原体を連 続押捺。内外面ナデ。内面 一部ミガキ状	メノウ粒中 量、メノウ礫 少量、チャー ト粒・雲母細 粒・海綿骨針 微量	やや不 良。焼 けムラ	内外面褐灰 色。一部にぶ い黄褐色	覆土中	SK60 Na15 と接 合	PL47
	14	弥生 土器	頸部、 5%	— —	内傾。外反。外面縦位の条 痕文。内面ナデ。輪積み痕 顕著	メノウ粒少 量、チャー ト粒・雲母細 粒微量	良好	サンドイッチ 状。外面褐色。 内面明黄褐色 。内部褐灰色	覆土中	5片	PL47 他同一個 体多数
	15	弥生 土器	胴部、 5%以下	— —	内傾。外面斜位の条痕文。 内面ナデ	メノウ粒少 量、石英粒・ 雲母細粒・海 綿骨針微量	普通	外面黒褐色。 内面灰黄褐色	覆土中	—	PL47



第63図 第84号土坑出土遺物実測図

第29表 第84号土坑出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・ 残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第63図	1	弥生 土器	胴部、 5%以下	— —	わずか内彎。外傾。外面条 痕文。内面ナデ	メノウ粒少 量、石英礫・ チャー ト粒・雲 母細粒微 量	良好	サンドイッチ 状。外面黒褐 色。内面にぶ い黄褐色。内 部褐灰色	覆土中	—	PL48

②平安時代

(i) 竪穴住居跡

第17号竪穴住居跡 (S117, 第58図)

位置 F6c5区からF6e5区に位置する。第Ⅱ2層上面及び南壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面では北西のコーナーが確認できるだけだが、隅丸長方形になるものとする。

壁高は32cmで、外傾して立ち上がっている。北壁の方位はN-81°-Wである。

重複関係 第18号竪穴住居跡を切っている。

土層 3層確認しているが、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 (10YR 3/1) ローム粒子少量、ローム小ブロック極少量、Nt-S極少量、焼土極少量、締まり中、粘性強
- 2 暗褐色 (10YR 3/3) ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、灰白色粘土中ブロック中量、ローム中ブロック少量、締まりやや強、粘性強、貼床の層である
- 3 黒褐色 (10YR 2/2) ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量、Nt-S極少量、しまりやや強、粘性強

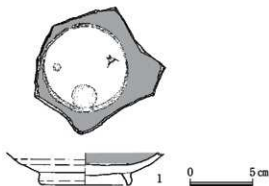
床 セクションで貼床が確認できる。

竈 確認していない。

柱穴 貼床下に1基確認できる。

遺物出土状況 出土した灰釉陶器1点(皿1)を掲載する(第64図, 第30表)。

所見 出土遺物及び形状から、平安時代の竪穴住居跡と考えられる。



第64図 第17号竪穴住居跡出土遺物実測図

第30表 第17号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第64図	1	灰釉陶器	皿	体部～ 底部、 50%	口径 7.0	体部は内彎し大きく外傾して立ち上がる。底部に高台を貼り付け。内外面ロクロナデ。内面に重ね焼きによる高台の軸着後剥離痕、その外側に灰釉。高台の一部にも重ね焼きの際の下置き器の灰釉付着	精良。長石粒少量、雲母、灰色礫微量。見込みに空気の含有による膨らみ	良好	器胎灰白色、軸オリーブ灰色	床面直上	—	PL48

第18号竪穴住居跡 (S I 18, 第58図)

位置 F 6 d 5区に位置する。第II 2層上面及び南壁のセクションで確認できた。

規模と形状 平面では東壁が確認できるだけで、不明である。東壁の方位はN-23°-Wである。

重複関係 第17号竪穴住居跡に切られている。

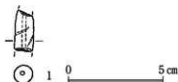
床 確認していない。

竈 確認していない。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 出土した土製品1点(管状土錘1)を掲載する(第65図, 第31表)。

所見 形状から、平安時代の竪穴住居跡と考えられる。



第65図 第18号竪穴住居跡出土遺物実測図

第31表 第18号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第65図 1	管状 土錘	(21)	(1.0)	0.2	(21)	両端折損。太さに差がなく 全体細身。外面長軸方 向のナデ。孔は一定の太 さで貫通	精良。メノウ 粒・灰色砂粒・ 雲母細粒・海 綿骨針微量	良好	にぶい 橙色	確認面	—	PL48

B 遺構外出土遺物

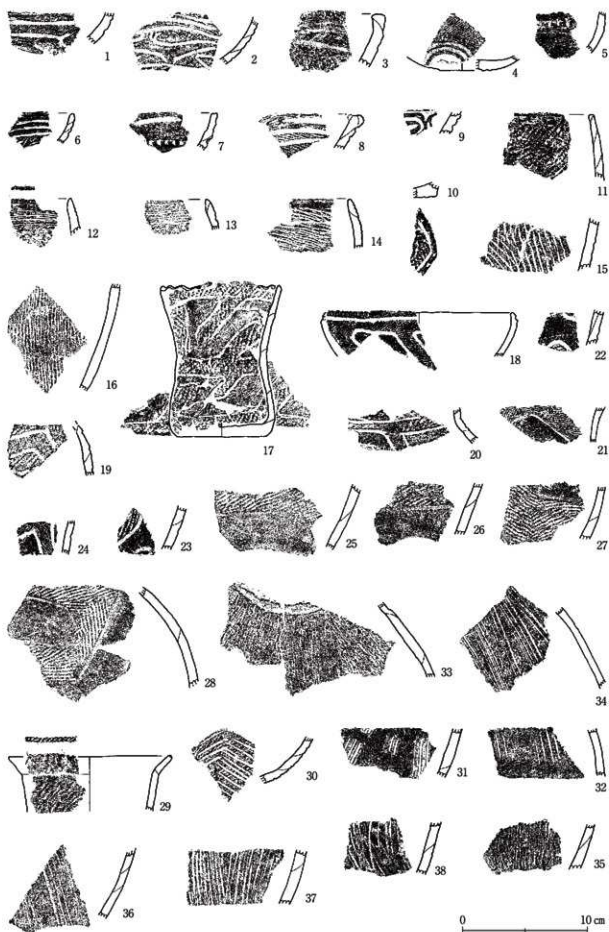
遺構外で確認された遺物について解説する（第66・67図、第32表）。

遺物出土状況 土器等1,858点、石器等6点、骨片18点、炭化物1点、鉄製品3点が出土している。うち縄文土器16点（浅鉢10、深鉢6）、弥生土器29点（壺22、筒形土器3、浅鉢2、小型壺1、小型鉢1）、土師器5点（甕2、高台付坏2、坏1）、須恵器2点（長頸壺1、高台付坏1）、土製品2点（珮形土製品1、管状土錘1）、石器・石製品6点（石鎌2、石剣1、石棒2、凹石1）を掲載する。

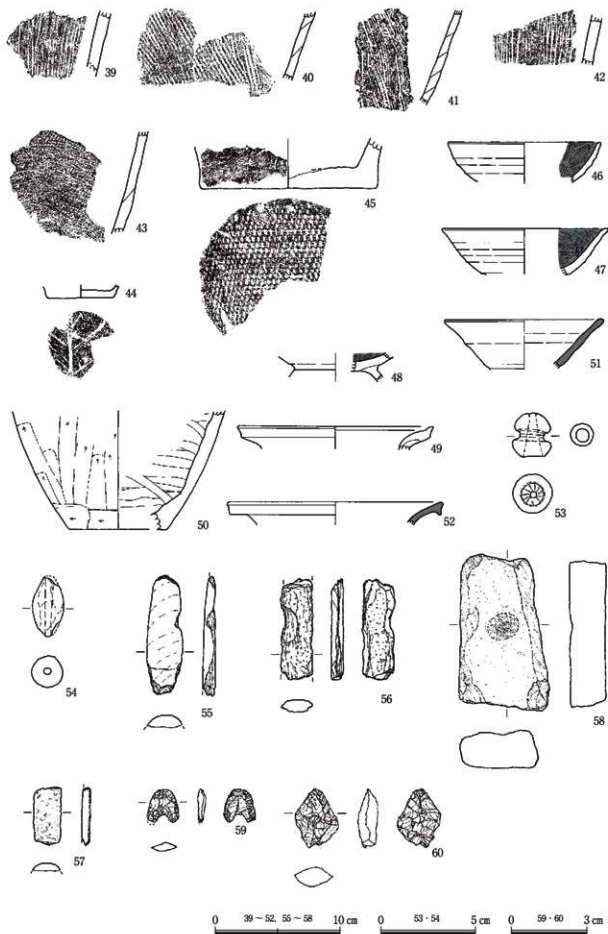
（3）所見

第15トレンチにおいては3基の再葬墓遺構を含む土坑4基、平安時代の竪穴住居跡2軒が確認された。再葬墓遺構が確認されたことにより、再葬墓遺構分布範囲はさらに北に延びることとなった。このトレンチで分布範囲の北の限界を掴もうという目論みは外れ、さらに北方にトレンチを設定しての調査が必要である。

また、平安時代の竪穴住居跡については、当遺跡に広く分布している。しかし、このトレンチでは再葬墓遺構に隣接して確認されており、この住居構築の際に再葬墓遺構が失われてしまったということは、十分に起こりうることである。



第66図 第15トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第67図 第15トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)

第32表 第15トレンチ遺構外出土遺物観察表

種別	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第66回	1	縄文土器	浅鉢 胴部, 5%以下	— —	内甕, 外傾。外面縄文に横走沈線と、入組三叉文の類か。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒、チャート粒、泥岩粒・海綿骨針微量	普通	外面にぶい黄褐色。内面にぶい褐色	F6c5, I B層	—	PL48 安行3c式
	2	縄文土器	浅鉢 胴部, 5%	— —	内甕, 大きく外傾。外面縄文を地文に沈線による雲形文・入組文。内面ミガキ	メノウ粒・石英粒少量、チャート粒、黒色砂粒・雲母細粒微量	やや不良、焼けムラ	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内部褐色	F6d5, II層	—	PL48 安行3d式
	3	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部, 5%以下	— —	内甕, 外傾。口縁端部を肥厚させ、平らに成形。外面横走沈線と磨消縄文手法による雲形文。外面器表荒れ。内面ナデ	メノウ粒中量、石英粒少量、メノウ礫・黒色砂粒・雲母細粒微量	やや不良、焼け甘い	外面褐色・褐色。内面褐色。内部褐色	F6d5, II層	—	PL48 大淵C2式
	4	縄文土器	浅鉢 胴～底部, 5%	— [36]	底部外面を上げ底状にしてミガキ。胴部内甕, 大きく外傾。外面縄文。下端は底部の周囲を2重の沈線で囲む。内面ミガキ	メノウ粒少量、泥岩礫・雲母細粒微量	良好	外面黒色。内面にぶい褐色。中心部褐色。内部褐色	F6c5, d5, II層	—	PL48 大淵C1式
	5	縄文土器	浅鉢 胴部, 5%以下	— —	内甕, 外傾。外面2溝間の截痕。横走沈線1条。縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・石英礫・灰色砂粒微量	普通	内外面褐色	F6c5, I B層	—	PL48 大淵C1式
	6	縄文土器	浅鉢 口縁部, 5%以下	— —	外傾。内甕。外面横走沈線3本、その下に雲形磨消縄文か。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部黒褐色	F6d5, I B層	—	PL48 大淵C1式
	7	縄文土器	浅鉢 口縁～胴部, 5%以下	— —	わずかに内甕, 外傾。口縁端部に横走沈線。外面太い横走沈線2条、下段の溝底にヘラによる連続刺突。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英礫・石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面黄色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	F6d5 南サブトレ, II層	—	PL48 大淵C2式
	8	縄文土器	浅鉢 口縁部, 5%以下	— —	外傾。外面磨余文にメガネ状浮帯文と横走沈線2条。内面口唇部を突出させた部分が剥離、ミガキ	メノウ粒中量、石英粒少量、泥岩粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	普通	外面にぶい褐色。内面・内部褐色	F6c5, I層	—	PL48
	9	縄文土器	浅鉢 胴部, 5%以下	— —	外傾。外面変形工字文。内面ミガキ	精良。メノウ粒・泥岩粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色。内部灰褐色	F6c5, I B層	—	PL48 晩期末
	10	縄文土器	浅鉢 底部, 5%以下	— —	緩やかなコーナーをもつ底部。方形または多角形の底部か。平底。底面網代直コーナーに沿って屈曲する沈線2条。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色。内面黒色。内部明赤褐色	F6d5, II層	—	PL48
	11	縄文土器	深鉢 口縁部, 5%以下	— —	内甕, わずかに内傾。外面一部。内面ナデ。内外面に一部輪積み痕を残す	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面黒色・黒褐色。内面黒褐色	F6d5, II層	—	PL48
	12	縄文土器	深鉢 口縁部, 5%以下	— —	わずかに内甕, わずかに内傾。口縁端部に細い棒状工具でキザミ。外面縦位のち横位の条線文。内面ナデ	メノウ粒・石英粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	F6d5, II層	—	PL48
	13	縄文土器	深鉢 口縁部, 5%以下	— —	内甕・内傾。口縁部外面横位。その下位に縦位の条線文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英礫・石英粒微量	良好	外面灰褐色。内面褐色	F6d5, II層	—	PL48 後・晩期粗製土器

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第66図	14	縄文 土器	深鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎, 内傾。複合口縁。外面 燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 石英粒・黒色 砂粒・褐色砂 粒微量	良好	サンドイッチ 状。内外面灰 白色。内部褐 灰色	F6d5, I B層	—	PL48
	15	縄文 土器	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	内彎気味。外傾。外面燃糸文。 内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・ 褐色砂粒・雲 母・海綿骨針 微量	良好	内外面にふい い黄褐色	F6d5, I 層	2片	PL48
	16	縄文 土器か	深鉢	胴部, 5%以下	— — —	外傾。内彎。外面縦位の細 かい燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 雲母細粒 微量	普通	外面黒褐色, 内面黒褐色・ にふい黄褐色	F6c5, II 層	—	PL48 後・晩期 粗製土器 内外面炭 化物付着
	17	弥生 土器	筒形 土器	口縁～ 底部, 50%	[92] 11.9 7.2	平底から内彎・内傾して立 ち上がり, 緩やかに外反し て胴部上半外傾。口縁部付 近内彎気味。器高中心やや 上で最も細くなる。小波状 口縁。外面磨消縄文手法に よるヒトデ状文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・ 雲母細粒・海 綿骨針微量	良好	内外面にふい い黄褐色	F6c5, II 層	18片	PL48 ほかに同 一物体 2 片
	18	弥生 土器	浅鉢 か	口縁 部, 5%以下	[146] — — —	内彎, 外傾。外面に磨消縄 文によるヒトデ状文。内面 ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・ 褐色砂粒微 量	良好	サンドイッチ 状。外面黒褐 色・灰褐色。 内面褐色。内 部にふい い褐色	F6e5 I B層, 排土中	2片	PL48
	19	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内彎, 内傾。外面磨消縄文 手法によるヒトデ状文。内 面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒微量	普通	外面黒褐色, 内面にふい い赤褐色	F6d5, II 層	—	PL48 同一物体 の可能性 外面に炭 化物付着
	20		壺	頸～ 肩部, 5%	— — —	内彎・内傾する肩部から外 反して立ち上がる頸部。肩 部外面磨消縄文手法による ヒトデ状文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・ 泥岩粒微量	普通	内面にふい い赤褐色。内 面	F6d5, II 層	—	
	21	弥生 土器	筒形 土器 か	胴部, 5%以下	— — —	現存部内径約 5 cm。外反, やや外傾。外面磨消縄文手 法による三角連繋文もしくは ヒトデ状文。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・ 石英粒・海綿 骨針微量	普通	内外面褐色 色	F6d5, II 層	—	PL48
	22	弥生 土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内彎。縄文を沈線で区画し, 磨消縄文によりヒトデ状文 を表現。内面ナデ	メノウ粒少量, 灰色砂 粒・雲母細粒 微量	良好	サンドイッチ 状。内外面に ふい黄褐色。 内部褐色	F6c5, I 層	—	PL48 同一物体 SK61の No. 1～ 8と同一 物体
	23		壺	胴部, 5%以下	— — —					F6c5 排土中	—	
	24	弥生 土器	筒形 土器 か	胴部, 5%以下	— — —	外傾。やや外反。外面磨消 縄文手法によるヒトデ状文。 沈線による区画明瞭。内面 ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・ 雲母細粒微 量	普通	外面黒色・灰 黄褐色。内面 灰黄色	F6c5, II 層	—	PL48

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第66図	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内髷、外傾。外面磨消縄文によるヒトデ状文か。縄文と磨消の間を浅い沈線で区画。内面丁寧なナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面にふい灰黄褐色。内面にふい黄褐色	F6d5、II層	—	PL48 同一個体 一部に炭化物付着
25			胴部、 5%以下	— — —	内髷、外傾。外面磨消縄文手法によるヒトデ状文か。縄文と磨消の間を浅い沈線で区画。内面丁寧なナデ、内面炭化物付着	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色	F6d5、II層	—	
26			胴部、 5%以下	— — —	内髷、外傾。外面磨消縄文手法によるヒトデ状文か。内面丁寧なナデ、一部指頭痕を残す	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色	F6d5、II層	—	
27			胴部、 5%以下	— — —	内傾、内髷。外面磨消縄文手法によるヒトデ状文。縄文と磨消の間を浅い沈線で区画。内面丁寧なナデ、外面赤色顔料と炭化物付着	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	外面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色	F6d5、II層	2片	
28	弥生 土器	小型 鉢	口縁～ 胴部、 5%以下	[128] — — —	胴部外傾。口縁部で屈曲してさらに外傾。外反。口縁端部縄文。口縁部外面ミガキ、胴部外面縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・赤褐色粒微量	良好	外面暗赤褐色。内面・内面にふい赤褐色	F6e5、II層	2片	PL48
29			胴部、 5%以下	— — —	内髷、大きく外傾。外面縦位の浅い条痕文を地文にくの字状に屈曲する条痕文を重ねる。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・泥岩粒・黒色砂粒微量	良好	外面にふい黄褐色。内面明褐色	F6c5 サブトレ	—	PL48 後期か SI17・18 覆土中混入
30	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内髷、外傾。外面縦位の短条痕文。3条単位の施文を上から下に動かして施文、終始が明確でくっきりとした文様。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色・灰黄褐色。内面にふい黄褐色。内部褐灰色	F6d5、II層	—	PL49
31			胴部、 5%以下	— — —	内髷、内傾。外面縦位の短条痕文。4条単位以上の施文を上から下へなでるように動かし施文。浅く終始も不明瞭。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫、石英粒・褐色砂粒・雲母微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色・灰黄褐色。内面にふい黄褐色。内部灰褐色	F6c5、II層	—	PL49
32	弥生 土器	壺	頸～ 胴部、 5%以下	— — —	内髷、内傾。外面斜位の条痕文。頸部無文。ナデ。内面ナデ、輪積み痕を残す	メノウ粒少量、メノウ礫、砂岩粒、褐色砂粒微量	良好	外面褐灰色。内面にふい黄褐色。表面褐灰色	F6d5、II層	2片	PL49 SK60の No.3と 同一個体 の可能性
33			胴部、 5%以下	— — —	内髷、内傾。外面くっきりとした斜位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、褐色砂粒・雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色。内部褐灰色	F6c5、I層	—	PL49 SK60の No.3と 同一個体
34	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内髷、外傾。外面縦位の細かい条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・砂岩礫・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部黒褐色	一括	—	PL49
35			胴部、 5%以下	— — —	内髷、外傾。外面縦位の細かい条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒・雲母微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい黄褐色。内面にふい黄褐色。内部灰黄褐色	F6c5、I層	—	PL49
36	弥生 土器	壺	胴部、 5%以下	— — —	内髷、外傾。外面粗い縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	良好	内外面明赤褐色	F6d5、II層	—	PL49 No.38と 同一個体 の可能性あり
37			胴部、 5%以下	— — —	内髷、外傾。外面粗い縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	良好	内外面明赤褐色	F6d5、II層	—	PL49 No.38と 同一個体 の可能性あり

坪図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第66図	38	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	PL49 No.37と同一個体の可能性あり
第67図	39	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	PL49
	40	弥生土器	壺	胴下半部, 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	PL49 ほか同一個体多数, SI17・18 覆土中混入
	41	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	PL49 土器内外面炭化物付着
	42	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	PL49
	43	弥生土器	壺	胴下半部, 5%以下	—	—	—	—	—	—	—	PL49 ほか同一個体あり
	44	弥生土器	小型壺か	底部, 5%	(1.0)	5.1	—	—	—	—	—	PL49
	45	弥生土器	壺か	底部, 5%	(4.0)	[13.6]	—	—	—	—	—	PL49
	46	土師器	環	口縁～体部, 5%以下	[12.0]	(3.2)	—	—	—	—	—	PL49 9～10世紀
	47	土師器	高台付環	口縁～体部, 5%	[13.0]	(3.6)	—	—	—	—	—	PL49 SI17・18 覆土中の可能性
	48	土師器	高台付環	体～台部, 10%	(2.3)	—	—	—	—	—	—	PL49
	49	土師器	甕	口縁部, 5%以下	[15.4]	(1.8)	—	—	—	—	—	PL49
	50	土師器	甕	体～底部, 10%	(9.4)	[7.7]	—	—	—	—	—	PL49

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第67図	51	須恵器	高台付 口縁～ 体部、 5%	[124] (39) —	外傾。体部わずかに内彎。口縁部外反。ロクロ成形。内外面口クロナデ	メノウ粒・石英粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	還元炭焼成	内外面灰色	F6c5 サブトレ、S17 床直下	—	PL49
	52	須恵器	長頸壺 口縁部、 5%以下	[168] — —	外反。外傾。折り返し口縁。内外面口クロナデ。内面に自然軸	精良。石英粒・黒色砂粒微量	還元炭焼成	器胎灰色。釉灰オリーブ色	F6d5、 I B層	—	PL49

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考	
第67図	53	引形 土製品	2.3	2.1	0.3～ 1.0	7.2	中央部を括れさせた砲弾形。中心を基5部から先端にかけて細くなる孔が貫通。外面はナデ、孔はヘラによる調整	メノウ粒少量。石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通	にぶい 黄橙色・褐 灰色	F6d5、 II層	—	PL49 完存
	54	管状 土罐	(3.1)	1.7	0.4	(5.9)	中央部を太く両端を細く作る。ナデ調整	メノウ粒少量。石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通	灰黄褐色	F6c5、 II層	—	PL49 一部欠損

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考	
第67図	55	石棒	(9.3)	(2.8)	(1.1)	(36.4)	緑色片岩	断面円形の棒状品の一部。表面は研磨により極めて平滑。軸直交方向の細く浅い溝1条。再加工前の溝か	F6b5、 I層	—	PL50 一部残存
	56	石剣未 成品	(8.0)	(2.6)	1.0	(32.1)	粘板岩	長い板状にした素材を両面からと一部個縁から敲打調整。不明瞭ながら両個縁に稜	F6c5、 II層	—	PL50 一部残存
	57	石棒	(4.5)	(2.2)	(0.7)	(11.3)	ホルンフェルス	断面円形の棒状品の一部。裏面も平坦・平滑だが節理面と判断。表面研磨調整	排土中	—	PL50 一部残存
	58	凹石	12.3	7.0	3.0	265	砂岩	短冊状に切断した扁平な礫を利用。1面中央に凹み。凹みは長径2.5cmの不整楕円形。深さ3mm	F6d5、 II層	—	PL50 完存
	59	石鏃	(1.3)	1.2	0.3	(0.5)	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。凹基無茎鏃。片脚先端折損。先端部折損後再加工。	F6d5、 II層	—	PL50 一部欠損
	60	石鏃未 成品	2.4	1.7	0.8	2.7	メノウ	透明感のある良質なメノウを利用。有茎鏃を意図か。銅縁からやや粗い剥離	F6d5、 II層	—	PL50 完存

6 第18トレンチ (第68図)

(1) 調査概要

E7e1区からE7i1区までの区域に、長さ10m、幅2mの東西に長いトレンチを設定した。主目的は第1次確認調査の際、第4トレンチ東部で確認された第4号性格不明遺構が、南北に延びる溝であるか否かの確認である。また、再葬墓遺構が確認されている第1トレンチ西側の遺構分布状況の確認も、目的の一つである。

なお、トレンチ境界付近に所在する遺構の確認のため、E7d1区、E7e2区、E7f2区、E7j1区ではトレンチを拡張して調査した。

また、北壁に沿って50cm幅のサブトレンチを入れてセクション及び下層の遺構を確認している。サブトレンチは第Ⅲ層上面まで掘削することを基本とした。

なお、第18トレンチで確認された土器棺墓2基(第81・83号土坑)については、山砂を2～5cmほど土坑全体に敷き、水をかけて数分間馴染ませた後、掘り上げた表土をかけて埋め戻している。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

① 弥生時代

(i) 土坑

第81号土坑 (SK81, 第69図)

位置 E7f1区、E7f2区に位置する。第Ⅱ2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径111cmの円形である。断面は皿状でゆるやかに立ち上がり、深さは14cmである。

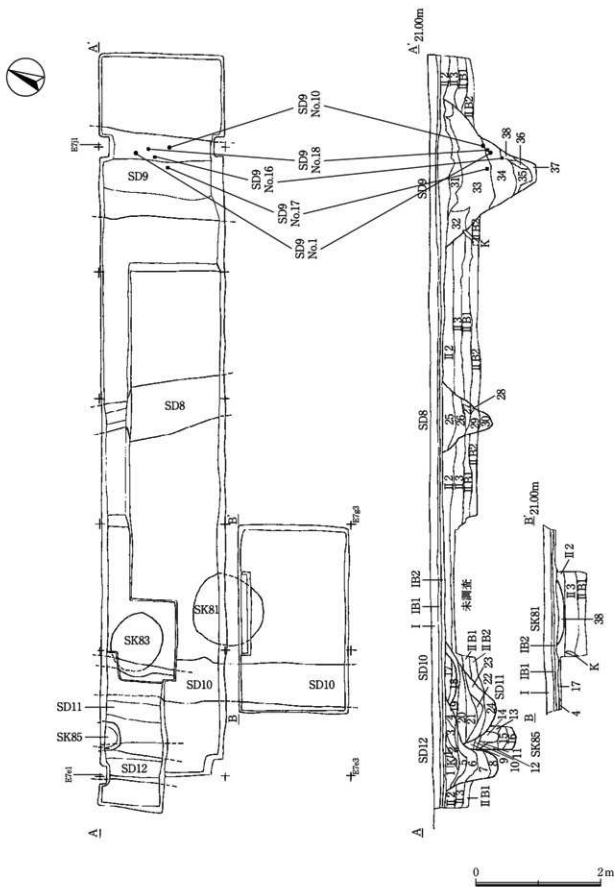
土層 1層からなり、人為堆積である。

土層解説

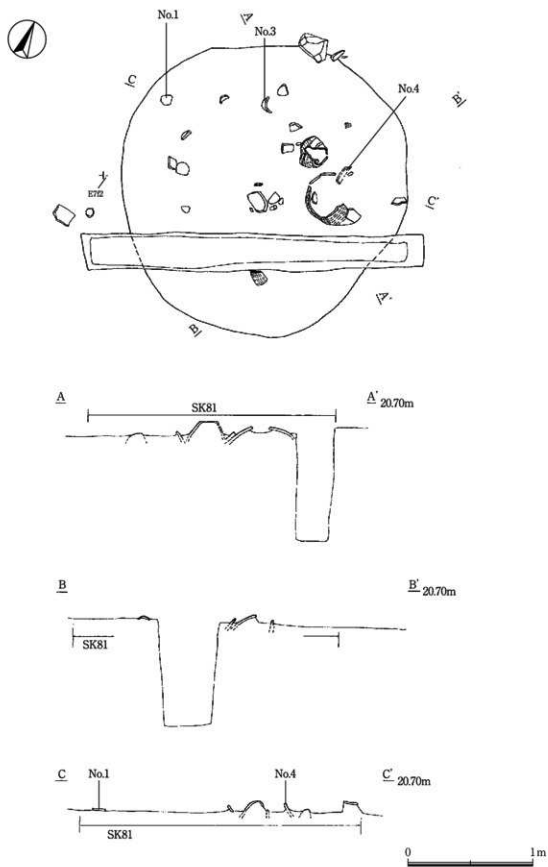
38 暗褐色(75YR3/3) 締まり強、粘性弱

遺物出土状況 土器等78点、石器1点が出土している。うち縄文土器2点(深鉢1、浅鉢1)、弥生土器3点(壺1、小型壺1、浅鉢1)、石器1点(石核1)を掲載する(第70図、第33表)。

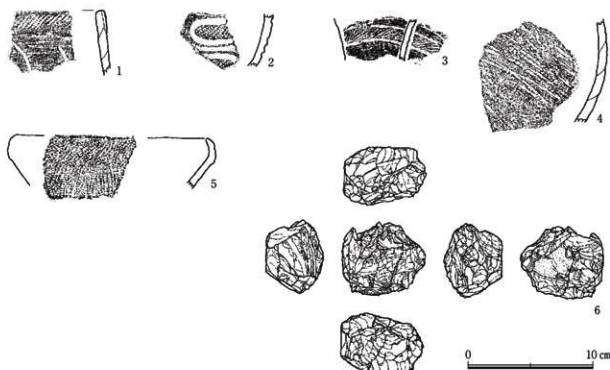
所見 出土遺物及び形状から、弥生時代中期の土器棺墓と考えられる。



第68図 第18トレンチ実測図



第69图 第81号土坑实测图



第70図 第81号土坑出土遺物実測図

第33表 第81号土坑出土遺物観察表

種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第70図 1	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	直線的、やや内傾。貼付口縁外面に縄文帯。胴部弧状沈線。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色。内面灰白色。内面褐色	覆土中	—	PL50
2	縄文土器	浅鉢	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面に弧状沈線と縄文による文様。内面ナデ	メノウ粒少量、褐色礫・石英礫・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内面褐色	覆土中	—	PL50 加曾利E2式か
3	弥生土器	小型壺	頸部、5%以下	—	外反。外傾。外面中位に磨消縄文による縄文帯。上位に弧状沈線による区画の無文部。弧状三角連繋文の類か。内面ナデ	メノウ粒少量、チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい褐色。内面褐色	覆土中	—	PL50 同一個体土中に保存
4	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	内彎。外傾。外面太い附加条縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、褐色礫・石英礫・泥岩礫・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	外面黒褐色。内面黒色	覆土中	—	PL50 外面炭化物付着。同一個体の大部分土中に保存
5	弥生土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	[15.0]	胴部外傾。口縁部で内彎。内傾。外面縄文。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・泥岩礫・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	黒褐色。一部にぶい赤褐色	覆土中	—	PL50

種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第70図 6	石核	5.8	6.5	5.5	161.5	チャート	層状をなし複雑な割れを内在する原石を打面転回しながら打撃	覆土中	—	PL50

第83号土坑 (SK83, 第71図)

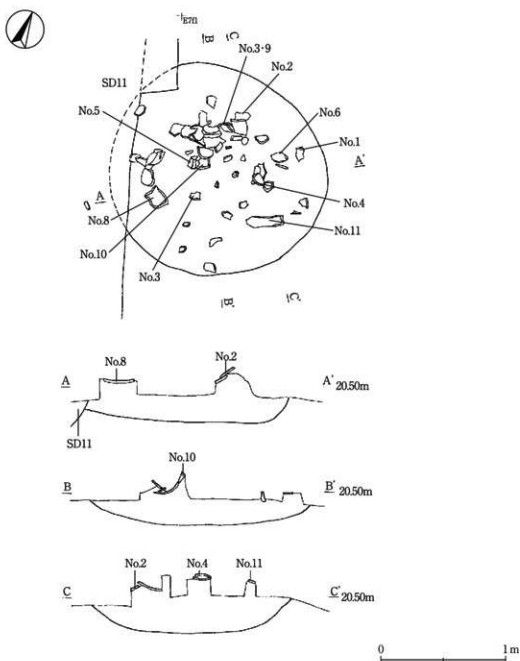
位置 E7e1区, E7f1区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 平面は径85cmの円形である。断面は皿状でゆるやかに立ち上がり、深さは10cmである。

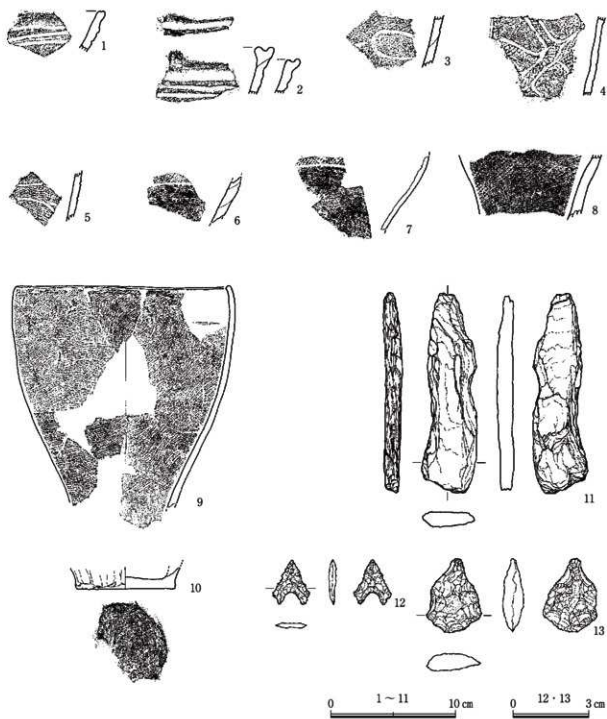
重複関係 第11号溝跡に切られている。

遺物出土状況 土器等113点, 石器等3点, 骨片2点が出土している。うち縄文土器2点(浅鉢2), 弥生土器8点(鉢4, 深鉢2, 小型鉢1, 壺1), 石器・石製品3点(石鏃2, 石剣1)を掲載する(第72図, 第34表)。

所見 出土遺物及び形状から, 弥生時代中期の土器棺墓と考えられる。



第71図 第83号土坑実測図



第72图 第83号土坑出土遗物实测图

(ii) 溝跡

第9号溝跡 (SD9, 第68図)

位置 E7i1区, E7j1区に位置する。第II2層上面及び北壁のセクションで確認できた。
規模と形状 上端の幅235cm, 深さ136cmの断面V字形の溝である。走向はトレンチにはほぼ直交してN-15°-Wで, 第4トレンチで確認された部分(N-46°-W)と変化するが, これは付近の等高線と平行して弧を描くものと考えられる。掘り込みは下部で急斜面になって粘土層を貫き, その下の礫層にまで達し, ここで湧水する。底面の幅は32cmである。
土層 8層からなり, 自然堆積である。8層上面から湧水する。

土層解説

31 黒褐色 (75YR3/2)	ローム粒子中量, Nt-S極少量, 焼土粒子少量, 締まりやや強, 粘性やや強
32 暗褐色 (75YR3/3)	ローム粒子中量, 焼土粒子中量, 砂少量, 締まりやや強, 粘性やや強
33 褐色 (75YR4/3)	ローム粒子中量, 砂少量, 締まりやや弱, 粘性やや強
34 暗褐色 (75YR3/3)	ローム小ブロック中量, 締まりやや弱, 粘性やや強
35 黒褐色 (75YR3/4)	ローム小ブロック少量, この層上面から湧水する
36 暗褐色 (75YR3/3)	ローム小ブロック多量, ローム中ブロック極少量
37 黒褐色 (75YR3/4)	ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック中量
38 黒褐色 (75YR3/2)	混入物なし

遺物出土状況 土器等234点, 石器等61点が出土している。うち縄文土器11点(鉢4, 浅鉢2, 深鉢1, 壺1, 広口壺1, 皿1, ミニチュア土器1), 弥生土器4点(壺1, 広口壺2, 小型壺1), 石器3点(石錘1, 磨石1, 石核1)を掲載する(第73図, 第35表)。

所見 第1次確認調査では念のため第4号性格不明遺構としていた遺構である。しかし走向が確認できて溝であることが判明したため, 遺構番号を付し直した。出土遺物から, 弥生時代後期の所産であり, 埋没時期は周辺の再葬墓等より遅れると考えられる。

②時期不明

(i) 土坑

第85号土坑 (SK85, 第68図)

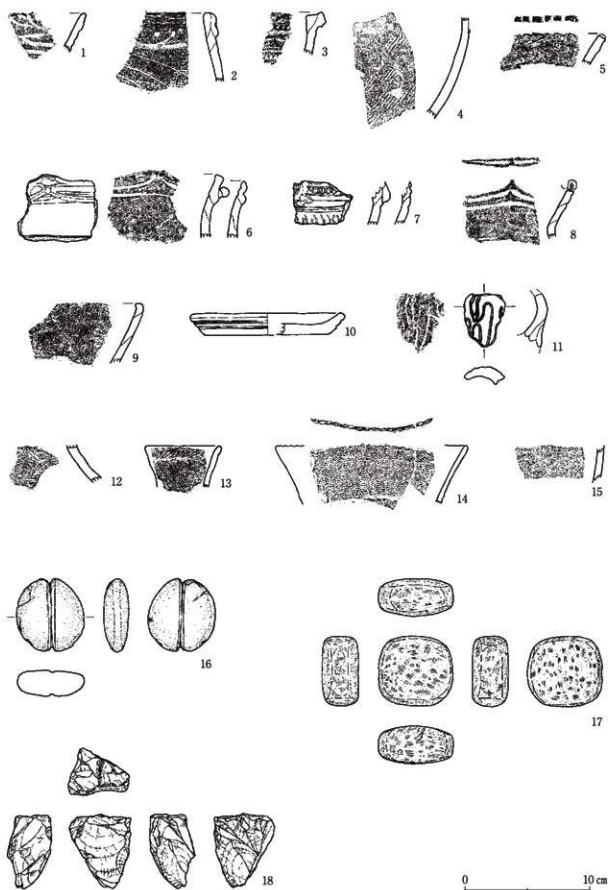
位置 E7e1区に位置する。第II2層上面及び北壁のセクションで確認できた。
規模と形状 平面は径44cmの円形である。確認できる深さは81cmである。
重複関係 第11・12号溝跡に切られている。
土層 8層からなり, 11~13は柱埋土, 14は抜き取り痕, 15・16は根当たり, 9・10は抜き取り後の埋土である。すべて人為堆積である。

土層解説

9 暗褐色 (75YR3/4)	ローム粒子多量, Nt-S少量, 締まり中, 粘性中
10 暗褐色 (75YR3/4)	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, Nt-S少量, 締まり中, 粘性中
11 暗褐色 (75YR3/4)	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, Nt-S少量, 締まり中, 粘性中
12 褐色 (75YR4/6)	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, Nt-S少量, 締まり中, 粘性中
13 褐色 (75YR4/4)	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
14 暗褐色 (75YR3/4)	ローム粒子多量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中
15 褐色 (75YR4/6)	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強
16 におい褐色 (75YR5/4)	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強

遺物出土状況 出土していない。

所見 重複関係から中世以前の所産と考えられる。形状及び覆土の状況から, 柱穴である。



第73图 第9号清跡出土物实测图

第35表 第9号溝跡出土遺物観察表

採回	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第73回											
1	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	— —	内彎気味, 外傾。口縁端部外面羊歯状文, 下位に沈線文。器壁荒れ, 調整痕不明	メノウ粒中量, チャート粒少量, 黒雲母微量	やや不良	外面にぶい橙色, 内面暗黄褐色	覆土中層	—	PL51 晩期中業～後業
2	縄文土器	深鉢	口縁～胴部, 5%以下	— — —	内傾, 胴部やや内彎, 口縁部外反気味。口縁部を貼り付けにより肥厚させ外面に2個1組の刺突。口縁部下に横走沈線。胴部外面ケズリのうち弧状沈線。内面ナデ, 一部粗いミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・黒雲母粒微量	良好, 堅緻	赤褐色	覆土上層	—	PL51 後期後業～晩期前業
3	縄文土器	鉢か	口縁部, 5%以下	— — —	内彎。口縁端部は外に屈曲させ内側に粘土紐を貼り付け, 突帯状。下に連続刺突。胴部に横走沈線2本と連続刺突文。風化により内面の調整痕不明	メノウ粒少量, 雲母細粒微量	普通	黒褐色, 一部灰黄褐色	覆土上層	—	PL51
4	縄文土器	鉢	胴部, 5%以下	— — —	外傾, 内彎。外面の大部分縄文, 上下に磨削による無文部。内面ミガキ	メノウ粒少量, チャート粒・黒雲母粒・海綿骨針微量	普通	外面黒色(炭化物付着部以外), 内面灰黄褐色	覆土上層	—	PL51 炭化部付着, はじけ顕著
5	縄文土器	鉢	口縁部, 5%以下	— — —	外傾, わずかに外反気味。口縁端部にキザミ(ハウを直に入れて斜めに引き上げる)。無文, 内外面ナデ	メノウ粒少量, チャート粒・黒色砂粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好, 一部焼けムラ	サンドイッチ状, 内面にぶい橙色, 内面にぶい黄褐色, 内部褐灰色	覆土下層	—	PL51 晩期中業～後業か
6	縄文土器	壺	口縁～頸部, 5%以下	— — —	外反, 外傾, 波状口縁。波頂は平坦。口縁部外面にメガネ状浮帯文。頸部外面にミガキ。内面波頂部に沿うハの字状沈線と横走沈線。内外面ミガキ	メノウ粒少量, 灰色砂粒・雲母細粒微量	良好	外面黒褐色, 内面にぶい黄褐色	覆土上層	—	PL51 晩期中業～後業
7	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部, 5%以下	— — —	外傾, 内彎。口縁部(端部欠失)外面突起の周縁に横走沈線2条, 上の沈線に連続刺突。突起下に横走沈線, その下に網目状熱糸文。内面ナデ	メノウ少量, チャート礫・灰色砂粒・黒雲母微量	良好	灰褐色	覆土下層	—	PL51 晩期前業～中業か
8	縄文土器	広口壺	口縁～頸部, 5%以下	— — —	外傾, 外反, 波状口縁。口縁端部に沈線。口縁部に沈線2本。1本目は波状口縁に沿う。内外面ナデ, 外面一部ミガキ状	メノウ少量, メノウ礫・チャート粒・黒雲母微量	良好	サンドイッチ状, 内面にぶい黄橙色, 内面一部黒色, 内部褐灰色	覆土下層	—	PL51 晩期中業～後業, 一部外面に赤色顔料付着
9	縄文土器	鉢	口縁～胴部, 5%	— — —	内彎, 外傾。口縁端部内側突出。無文。外面ケズリのちミガキ, 内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状, 内外面内面褐灰色	覆土上層	—	PL51
10	縄文土器	皿	口縁～底部, 15%	[122] 1.7 [10.0]	平底。胴部大きく外傾。胴部外面に一周する横走沈線2条。内外面ナデ, 一部ミガキ状。再利用した浅鉢を加工して再加工か	メノウ粒少量, 灰色砂粒・雲母細粒微量	普通	外面褐灰色, 内面褐灰色	覆土中層	—	PL51 晩期中業～後業
11	縄文土器	ミニ7土器か	胴部, 10%	(42)	外傾, 内彎。深鉢模倣か。外面に沈線文	メノウ粒少量, チャート粒・黒雲母粒微量	普通	外面にぶい黄褐色, 褐灰色, 内面にぶい黄褐色	覆土中層	—	PL51 土製品の可能性あり
12	弥生土器	壺	頸部, 5%以下	— — —	内傾, 外反。外面多方向の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・雲母粒微量	良好	ぶい橙色	覆土中層	—	PL51 中期前半

挿固	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第73区	13	弥生土器	小型壺か	口縁部, 5%	[6.0]	外反, 外傾。口縁端部外面に下位を沈線で区画した縄文帯。その下はミガキ。内面口縁端部ミガキ。下位はナデ	メノウ粒少量, 褐色砂粒・黒雲母・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい橙色。内面にぶい黄褐色。内部褐色	覆土下層	—	PL51 中期前半
	14	弥生土器	広口壺	口縁部, 5%	[14.5]	外傾, 外反。口縁端部糸形押捺。外面播磨波状文(1単位6条)。下位に隆帯。内面ナデ	メノウ粒少量, チャート粒・黒色砂粒微量	良好	外面灰黄褐色。内面にぶい黄褐色	覆土下層	2片	PL51 十王 台面一部炭化物付着
	15	弥生土器	広口壺	胴部, 5%以下	—	内壁, 外傾。器壁荒れ。外面羽状縄文。内面ナデ	メノウ粒少量	やや不貫	外面にぶい橙色。内面・内部褐色	覆土下層	2片	PL51 十王台式

挿固	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第73区	16	石錘	5.8	5.4	2.0	824	砂岩	円形に近い扁平な楕円礫を使用し、表裏面の長軸線上に連続する溝を刻む	覆土中層	—	PL51 完存
	17	磨石	5.9	5.5	2.9	145.8	多孔質安山岩	扁平な円礫を使用し、隅丸の直方体加工。6面全面に使用痕	覆土中層	—	PL51 完存
	18	石核	5.8	4.8	3.4	79.3	デイサイト	打面を転移しながら幅広の剥片を採っている。最終的には上面を打面調整し正面から剥片を剥離し廃棄	覆土中層	—	PL51 完存

(ii) 溝跡

第8号溝跡 (SD8, 第68図)

位置 E7g1区, E7h1区に位置する。第II2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 上端の幅115cm, 深さ78cmの断面V字形の溝である。走向はN-37°-Wで、掘り込みは下部で急斜面になって第III層に達する。

土層 6層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 25 褐色 (75YR5/8) ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 締まりやや強, 粘性やや弱
 26 暗褐色 (75YR3/3) ローム粒子少量, 締まり中, 粘性中
 27 暗褐色 (75YR3/3) Nt-S極少量, Nt-I極少量, 締まりやや弱, 粘性やや強
 28 暗褐色 (75YR3/4) Nt-S極少量, Nt-I極少量, 締まりやや弱, 粘性やや強
 29 黒褐色 (75YR3/2) ローム粒子極少量, 締まりやや弱, 粘性やや強
 30 黒褐色 (75YR3/1) ローム小ブロック極少量, 締まり弱, 粘性やや強

遺物出土状況 出土していない。

所見 第4トレンチのE6f8区, E6g8区において、第6号竪穴住居跡を切っている掘り込みがあったが、第1次確認調査の際はその覆土の状況から遺構として扱わず、攪乱として記録した経緯がある。このほど、その掘り込みと規模、形状、走向まで一致する遺構が出土した。今次調査においては、第1次確認調査時の判断を覆して、この掘り込みは遺構として扱うこととし、新たに遺構番号を付したものが第8号溝跡である。遺物を伴わないため時期は不明である。

第10号溝跡 (SD10, 第68図)

位置 E7e1区, E7e2区に位置する。第II2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 確認できる上端の幅は85cm, 深さは18cm, 断面は皿状でゆるやかに立ち上がる。走向はN-21°-Wで、付近の等高線にはほぼ平行する。

重複関係 第12号溝跡に切られ、第11号溝跡を切っている。

土層 2層からなり、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- 17 褐色 (10YR 4/6) ローム粒子中量, Nt-S少量, 締まりやや強, 粘性やや弱
 18 褐色 (10YR 5/6) ローム小ブロック中量, 締まり中, 粘性やや弱

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状及び重複関係から古代～中世の所産と考えられる。

第11号溝跡 (SD11, 第68図)

位置 E7e1区に位置する。第II 2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 他の遺構に切られているため、上端は、その形状から200cm程度はあるものと推測される。深さは81cm, 断面はV字形である。走向はN-17°-Wで、付近の等高線にほぼ平行する。

重複関係 第10・12号溝跡に切られ、第83・85号土坑を切っている。

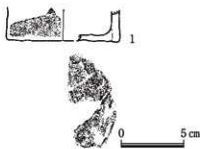
土層 6層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 19 褐色 (7.5YR 4/3) ローム粒子少量, 締まり弱, 粘性弱
 20 暗褐色 (7.5YR 3/4) ローム粒子少量, 締まり弱, 粘性弱
 21 暗褐色 (7.5YR 3/3) ローム粒子極少量, 締まりやや弱, 粘性やや強
 22 極暗褐色 (7.5YR 3/3) ローム粒子極少量, 締まりやや弱, 粘性やや強
 23 黒褐色 (7.5YR 2/2) ローム粒子極少量, 締まりやや弱, 粘性強
 24 黒褐色 (7.5YR 2/2) ローム小ブロック少量, 締まりやや弱, 粘性強

遺物出土状況 土器等35点が出土している。うち弥生土器1点(壺1)を掲載する(第74図, 第36表)。ただし1は混入の可能性が高く、時期判断には至らない。

所見 時期は特定できず、性格も不明である。



第74図 第11号溝跡出土遺物実測図

第36表 第11号溝跡出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第74図	弥生土器	壺か	底部, 5%以下	— — [90]	平底からわずかに外反・内傾 気味に立ち上がる胴部。外面 面撫余文。内面ナデ。底面 木葉痕か	メノウ粒少 チャート 量。チャート 粒・黒雲母微 量	やや不 良	サンドイッチ 状。外面にふ い黄褐色。内 面にふい褐色。 内部黒褐色	サブト レンチ 中	—	PL52

第12号溝跡 (SD12, 第68図)

位置 E7d1区, E7e1区に位置する。第II2層上面及び北壁のセクションで確認できた。
規模と形状 上端の幅120cm, 深さ82cm, 走向はN-19°-Wで, 付近の等高線にはほぼ平行する。
東壁は確認面から30cm程度で急に外傾するが, 西壁は確認面から10cm程度でゆるやかに外傾し,
掘り込みは東西で非対称である

重複関係 第10・11号溝跡及び第85号土坑を切っている。

土層 8層からなり, レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | | |
|---|---------------|--|
| 1 | 暗褐色 (75YR3/3) | ローム粒子少量, 締まり中, 粘性中 |
| 2 | 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子中量, ローム小ブロック中量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 3 | 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子中量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 4 | 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 締まり中, 粘性中 |
| 5 | 暗褐色 (75YR3/4) | ローム粒子中量, ローム大ブロック中量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック少量, 締まり中, 粘性中 |
| 6 | 黒褐色 (75YR3/2) | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強 |
| 7 | 暗褐色 (75YR3/3) | ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強 |
| 8 | 黒褐色 (75YR3/2) | ローム粒子少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性強 |

遺物出土状況 出土していない。

所見 中世以降の所産と考えられるが, 性格は不明である。

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する (第75～78図, 第37表)。

遺物出土状況 土器等1,689点, 石器等21点, 骨片24点, 鉄製品2点が出土している。うち縄文土器33点 (浅鉢16, 鉢7, 深鉢4, 壺2, 小型鉢2, 台付鉢2), 弥生土器20点 (壺14, 筒形土器2, 小型鉢2, 鉢1, 高坏1), 土師器2点 (高台付坏1, 蓋1), 陶器1点 (甕1), 土製品2点 (土偶1, 管状土錘1), 石器・石製品21点 (石鏃6, 剥片4, 敲石3, 石剣2, 石棒1, 独鈷石1, 磨石1, 凹石1, 砥石1, 石錐1) を掲載する。

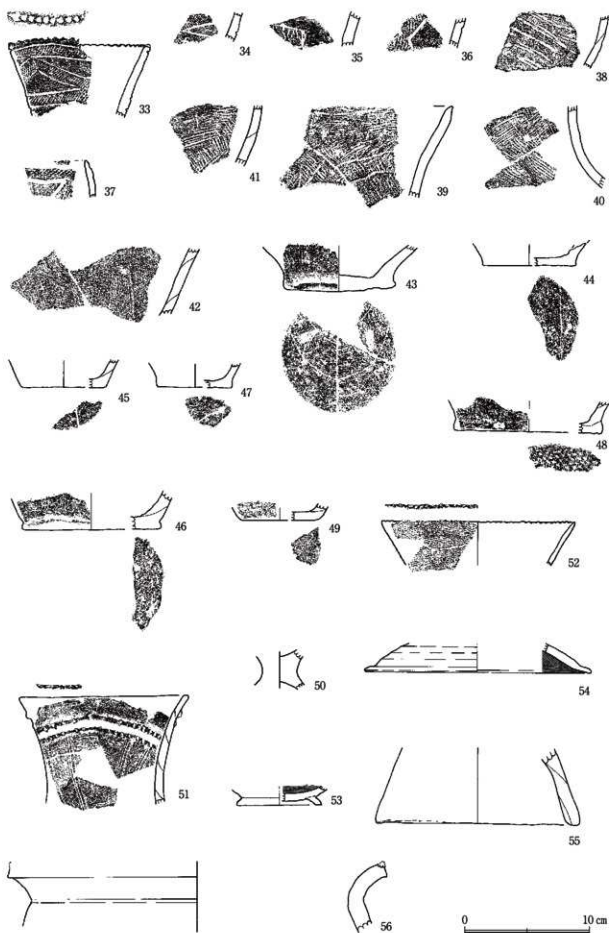
(3) 所見

第4号性格不明遺構が南に延びることが確認でき, 付近の等高線と平行する溝となることが確認できたため, 第9号溝跡として新たに遺構番号を付した。これにより, 第1次確認調査での懸案が一つ解決された。ただし第9号溝跡の南北端は確認できておらず, 今後その確認をする必要性はまだ残されている。この外, 溝跡は4条が確認され, いずれも等高線に概ね平行するが, これらは第9号溝跡から大きく時代を下るものである。

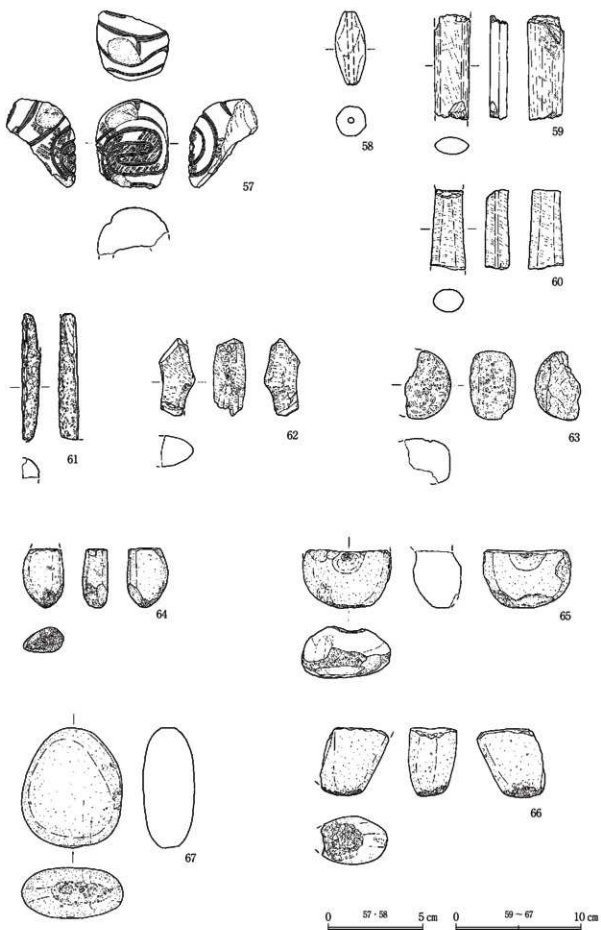
また, 第18トレンチでは土器棺墓が2基確認された。この北に設定され, 第1次確認調査時調査済の第4トレンチでは土器棺墓が3基確認されており, 第14トレンチで確認された1基を合わせて, 計6基が確認されたことになる。付近に群をなしていることは確実である。



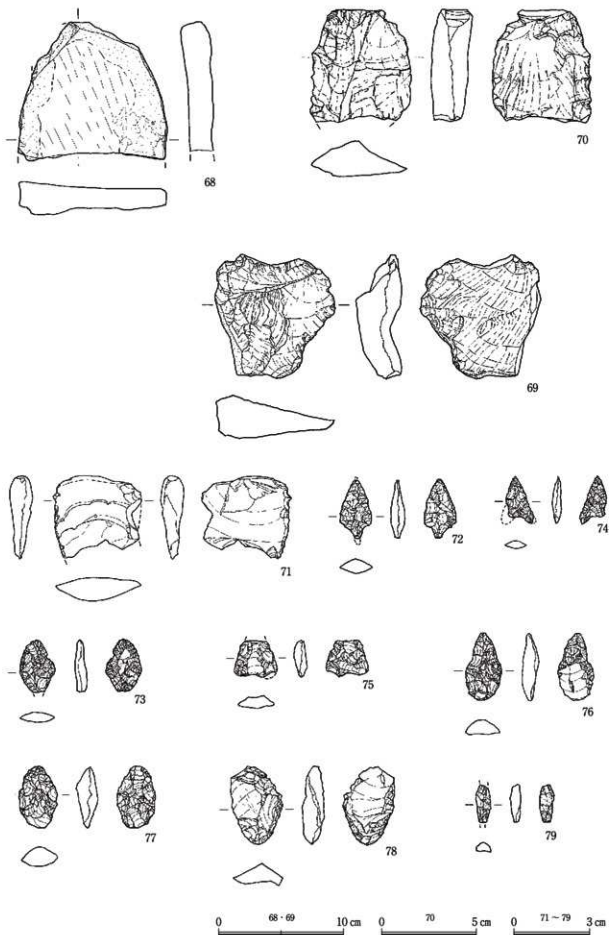
第75図 第18トレンチ遺構外出土遺物実測図(1)



第76図 第18トレンチ遺構外出土遺物実測図(2)



第77図 第18トレンチ遺構外出土遺物実測図(3)



第78図 第18トレンチ遺構外出土物実測図(4)

第37表 第18トレンチ遺構外出土遺物観察表

種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第75区											
1	縄文土器	鉢	口縁部, 5%以下	— — —	外反・外傾する波状口縁の波頂部。波上端先端を凹ませている。波頂外面に彫形の輪状突起帯を貼り付け、下部に突起帯を貼り付け、ナデ・ミガキ。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐色。中心部褐灰色	E7f2, I B層	—	PL52
2	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	— — —	外傾。内彎。口縁端部にB突起。外面横走沈線3条。2・3条目の間に刺突。内面ミガキ	精良。メノウ粒・石英粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面褐色。内部褐灰色	E7j1, II層	—	PL52 晩期前葉
3	縄文土器	鉢	口縁部, 5%以下	— — —	外傾。波状口縁の波頂部。口唇部を肥厚させ、外面に縄文。内面ミガキ	精良。メノウ粒・石英粒・泥岩粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内部褐灰色	E7g1, I B層	—	PL52 安行3a～c式
4	縄文土器	鉢	胴部, 5%以下	— — —	内彎。外傾。外面磨消縄文手法による複雑な文様。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒微量	良好	内外面黒褐色	E7j1, II層	—	PL52 安行3a式か
5	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部, 5%以下	— — —	外傾する胴下半から屈曲し内傾して直線的に口縁部に至る。口縁端部にB突起と沈線。外面磨消縄文手法による彫形枠状文。口縁部内面に太い横走沈線1条。沈線はいずれも広く浅い。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・黒色砂粒微量	良好	外面にふい黄褐色。内面暗褐色	II層一括	—	PL52 前副式
6	縄文土器	鉢	口縁部, 5%以下	— — —	外反。外傾。2条の並行する弧状沈線で区画した縄文帯を口縁部から延ばし、回りを磨り消し。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通	内外面黒褐色	E7f1サブ区, II層	—	PL52 晩期中葉 安行3b～c式
7	縄文土器	台付鉢か	台部, 5%以下	— — —	ハの字形に開脚。端部は肥厚させ丸くつくる。外面菱形構成の細い沈線文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・砂岩礫・石英粒・微量	普通	内外面明赤褐色	E7j1, II層	—	PL52 安行3b～c式か
8	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%以下	— — —	内彎。外傾。外面縄文にボタン状の突起を貼り付け、周囲に沈線で複雑な凹文を掻く。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母微量	普通	サンドイッチ状。内面褐灰色。外面・内面直下にふい褐色。内部褐灰色	排土中	—	PL52
9	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	— — —	内彎。外傾。口縁端部に2つ1組の瘤を貼り付け。外面2溝間の縦直。横走沈線2条。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒微量	普通	内外面黒褐色。外面一部赤褐色	SK83付近	—	PL52 大洞C1式
10	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	— — —	外傾。口縁端部に粘土を貼り付け、半円状文を立体的に成形。外面半円状文。全体にミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	外面黒褐色。内面黒色	E7f1サブ区, II層	—	PL52 大洞BC式
11	縄文土器	浅鉢(片口か)	口縁部, 5%以下	— — —	わずかに内彎。外傾。口縁端部に半円状文を意識した立体的な文様。外面2条の横走沈線の間に連続刺突文。内面ミガキか。器表荒れ	メノウ粒少量、泥岩礫・石英粒・チャート粒微量	やや不良。焼き甘い	サンドイッチ状。内外面褐色。内部黒色	南拡張区, II層	—	PL52
12	縄文土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内彎。強く内傾。外面磨消縄文手法による雲形文。内面粗いナデ。輪幅真鍮著	メノウ粒少量、泥岩礫・チャート粒微量	普通	外面褐灰色。内面黒褐色	SK83付近, II層	—	PL52 大洞C1式

種別	種別	器種	部位・残存率	口径・器高・底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
75	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	精製。器厚薄い。内彎。外頤。外面沈線による入組文。内外面丁寧なミガキ	メノウ粒少量, チャート粒・石英粒微量	良好	内外面にふい黄褐色。外面一部黒斑	E7j1, II層	—	PL52 晩期前葉か
13	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%以下	—	大きく外頤。内彎。外面に粗雑な磨消雲形文。内面ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	外面灰褐色。内面黒灰色	E7j2 サブトレ, II層	—	PL52 大割C2式
14	縄文土器	壺	頸部・肩部, 5%以下	—	大きく内頤・内彎する肩部から屈曲して立ち上がる頸部。外面縄文に縦位の結節縄文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通	外面灰黄褐色。内面にふい黄褐色	E7g1, I B層	—	PL52
15	縄文土器	鉢	頸部, 5%以下	—	外反。外頤。外面に斜位の沈線。波状口縁か。頸部に連続刺突文2段。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・黒色砂粒微量	良好	外面にふい褐色。内面にふい黄褐色。内部黒灰色	E7g1, II層	—	PL52
16	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	内彎。外頤。口縁部平坦。外面に連続刺突文2段。口縁部外面に横。内面ミガキ	メノウ粒中量, 石英粒少量, チャート粒・黒色砂粒・泥岩粒微量	やや不良。焼き甘い	内外面暗灰黄褐色。内面にふい黄褐色	E7j1, II層	—	PL52
17	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに内彎。外頤。口縁部端部に連続キザミと沈線。外面2本の横走沈線の間に連続キザミ。その下に横走沈線2条。内面ミガキか	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色。内面にふい黄褐色。内部黒褐色	南扯張区, II層	—	PL52
18	縄文土器	鉢	口縁部, 5%以下	—	外反。外頤。口唇部外面を突出させ連続キザミ。以下ミガキ。内面は口唇部ミガキ。以下ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	外面灰褐色。内面明褐色	E7g1, I B層	—	PL52
19	縄文土器	浅鉢	口縁部・頸部, 5%以下	—	外反。外頤。波状口縁。口縁端部に粘土を貼り付けて波頂部を形成。波頂部両脇から沈線を引き。その下に突帯を貼り付けて太い沈線。外反部分に連続刺突文。内面波頂部に合わせた沈線とナデ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒微量	普通	外面暗褐色。内面にふい褐色	排土中	—	PL52 表面一部剥落
20	縄文土器	浅鉢	口縁部・胴部, 5%以下	—	外反。外頤。口縁部外面にメガネ状浮帯文。その突出部に上面に穴。胴部外面に連続刺突文と横走沈線。内面太い横走沈線とミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・雲母微量	普通	内外面黒色。内面一部暗赤褐色	E7d1, II層	—	PL52 晩期後葉
21	縄文土器	浅鉢	口縁部・胴部, 5%以下	—	胴部内彎。外頤。口縁部で内面に屈曲して内頤。口縁部外面に縄文。屈曲部に突起。その両脇から沈線。胴部外面工字文。内面ナデ。外面赤色塗彩か	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・黒色砂粒微量	普通	外面赤褐色。内面黒色	E7d1, I B層	—	PL52 晩期後葉
22	縄文土器	浅鉢	口縁部, 5%以下	—	わずかに外反。外頤。外面浮帯工字文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒少量, チャート粒・雲母微量	やや不良。焼き甘い	サンドイッチ状。外面灰黄褐色。内面淡灰褐色。内部黄灰色	E7j1, II層	—	PL52 晩期後葉
23	縄文土器	小型鉢	口縁部・胴部, 5%以下	[104]	わずかに内彎。外頤。外面浮帯文による変形工字文。口縁部直下内面に沈線1条。内面ミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・泥岩粒微量	良好	外面黒色。内面にふい黄褐色	E7f1, I B層	—	PL52 晩期末干納式
24	縄文土器	小型鉢	胴部, 5%以下	—	内彎。外頤。外面横走沈線上位に3条, 下位に5条。内面ミガキ	メノウ粒少量, 石英粒・泥岩粒・雲母・細粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にふい黄褐色。内部黒灰色	E7f1, I B層	—	PL52 晩期末か
25											

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第75図	26	縄文土器	深鉢	口縁～胴部、5%以下	—	内甕、内傾。複合口縁。外面口縁部ナデ。胴部縄文。胴部外面に一部輪積み痕を残す。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	外面灰褐色、内面にぶい褐色	E7j1-Ⅱ層	—	PL52 後・晩期粗製土器
	27	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内甕、内傾。複合口縁。口縁部外面横位の燃糸文、胴部外面縦位の燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒・泥岩粒・泥岩粒微量	良好	外面にぶい黄褐色、内面黒褐色	E7g1-ⅠB層	—	PL52
	28	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内甕、内傾。複合口縁。外面網目状燃糸文。内面ナデ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒微量	普通	内外面黒褐色、内面一部灰褐色	E7j1-Ⅱ層	—	PL52
	29	縄文土器	鉢	口縁部、5%以下	—	内傾。複合口縁。口縁部外面縦溝状に燃糸文を施文。網目状燃糸文か。胴部外面ナデ。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面にぶい橙色、内面にぶい黄褐色、内部褐色	E7i1サブトレ、Ⅱ層	—	PL52
	30	縄文土器	深鉢	口縁部、5%以下	—	内甕、内傾。複合口縁。外面無文、ナデ。一部輪積み痕を残す。内面ナデ	メノウ粒・チャート粒少量、石英粒・黒色砂粒・海綿骨針微量	やや不良、焼き甘い	外面にぶい黄褐色、内面浅黄褐色	SK83付近、Ⅱ層	—	PL52 後・晩期粗製土器
	31	縄文土器	浅鉢	口縁～胴部、5%以下	—	胴部内甕、外傾。口縁部でわずかに外反。無文。内外面ミガキ。外面に一部輪積み痕	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい橙色、口縁部に黒直、内部褐色	E7g1サブトレ、Ⅱ層	—	PL52
	32	縄文土器	浅鉢	口縁～底部、25%	[16.2] 5.3 [6.0]	平底から胴部が内甕・外傾して立ち上がりはほぼ直立して口縁に至る。内外面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通	内外面黒褐色・暗黄褐色、内面直下明褐色、内部黒色	E7g1-ⅠB層	—	PL52
第76図	33	弥生土器	筒形土器	口縁～胴部、5%	[11.0] (5.8)	精製。外傾、外反。口縁部付近で内甕気味。小波状口縁。外面磨消縄文による三角連繋文。内面了平なミガキ。外面赤色塗彩か	精良。メノウ粒・石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通、焼けムラあり	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色、一部黒褐色、内部黒褐色	E7f1-ⅠB層	—	PL52 外面一部に赤色顔料付着
	34	弥生土器	小型鉢か	胴部、5%以下	—	内甕、外傾。外面磨消縄文手法による三角連繋文か。内面ミガキ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面灰黄褐色、内部褐色	E7f1サブトレ、Ⅱ層	—	PL52
	35	弥生土器	筒形土器か	胴部、5%以下	—	外反、外傾。外面磨消縄文手法によるヒトデ状文。内面ミガキ。外面赤色塗彩か	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・海綿骨針微量	普通	外面極暗赤褐色、内面褐色	E7g1-ⅠB層	—	PL52
	36	弥生土器	壺か	胴部、5%以下	—	内甕気味、外傾。外面磨消縄文手法によるヒトデ状文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・雲母細粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色、内面にぶい褐色、内部褐色	E7i1サブトレ、Ⅱ層	—	PL52
	37	弥生土器	鉢か	口縁部、5%以下	—	内甕、内傾。外面磨消縄文手法による三角連繋文またはヒトデ状文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい黄褐色、内面にぶい褐色、内部褐色	埴土中	—	PL52
	38	弥生土器	壺	胴部、5%以下	—	外傾、内甕。外面附加条縄文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・雲母細粒微量	普通	サンドイッチ状。外面灰黄褐色・黒色、内面黒色。内部にぶい黄褐色	E7g1-ⅠB層	—	PL53

埴田	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第76田	弥生土器	壺	口縁～頭部、5%以下	—	外傾。頭部外反、口縁部わずかに内彎。外面口縁部横位。頭部斜位の条痕文。内面ミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	内外面にぶい褐色	E7J1 I B層・II層。南拡張区II層	3片	PL53 No.40・41と同一個体。ほか同一個体片あり
			頭部、5%以下	—	外反。内傾。外面縦杉状の条痕文。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	内外面にぶい褐色	E7J1 II層	2片	PL53 No.39・41と同一個体
			胴部、5%以下	—	外反。外傾。外面縦杉状の条痕文。内面粗いミガキ	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	内外面にぶい褐色	南拡張区 II 層	—	PL53 No.39・40と同一個体
			胴部、5%以下	—	外傾わずかに外反。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	外面にぶい褐色・明赤褐色。内面黒褐色。内部褐灰色	E7J1 I B層	2片	PL53 内面炭化物付着
弥生土器	壺	底部、5%以下	—	平底。胴部外反。外傾。外面条痕文か。内面ナデ。底面木葉痕。	メノウ粒中量、メノウ礫・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	普通	内外面にぶい赤褐色	E7J2 I B層	2片	PL53	
弥生土器	壺	底部、5%以下	—	平底。底面木葉痕（木葉複数使用）。胴部が外反・外傾して立ち上がる。外面ナデ。内面広いナデ	メノウ粒・石英粒少量、チャート粒・泥岩粒・海綿骨針微量	普通	外面にぶい黄褐色。内面・内部褐灰色	E7J1 II層	—	PL53	
弥生土器	壺	底部、5%以下	—	平底。胴部外傾。外面ナデ。内面ナデ。底面木葉痕	メノウ粒少量、メノウ礫・石英粒・黒色砂粒微量	良好	内外面にぶい黄褐色	E7J2 I B層	—	PL53	
弥生土器	壺	底部、5%以下	—	平底。胴部外傾。外面条痕文または墨糸文。内面ナデ。底面木葉痕のほか布目痕または網代痕	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒・黒色砂粒微量	普通	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐灰色	E7J1 I B層	—	PL53	
弥生土器	壺	胴～底部、5%以下	—	平底。胴部外反。外傾。内外面ナデ。底面木葉痕	メノウ粒・石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	やや不良、焼き甘い	サンドイッチ状。内外面にぶい黄褐色。内部褐灰色	南拡張区 II 層	—	PL53	
弥生土器	壺	底部、5%以下	(25)	平底。胴部外反。外傾。外面条痕文か、ナデ。内面ナデ。底面網代痕	メノウ粒少量、石英粒・黒色砂粒微量	普通	外面にぶい黄褐色。内面灰黄褐色	南拡張区 II 層	—	PL53	
弥生土器	小型鉢か	底部、5%以下	—	平底。胴部外傾。外面横文。内面ミガキ。底面布目痕。	メノウ粒少量、石英粒・褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい褐色。内部褐灰色	E7J1 I B層	—	PL53	
弥生土器	高坏	脚部、5%以下	(29)	脚部から环底部にかけての破片。細くくびれる。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・泥岩粒微量	普通	内外面にぶい褐色。脚部内面褐灰色	E7e1 サブトレ II 層	—	PL53	
弥生土器	壺	口縁～頭部、5%	[130]	外反。外傾。口縁端部にキザミ。外面口縁部ナデ。直下に隆帯2条。キザミ。頭部は瓣歯状工具で縦にスリットを入れ横走する櫛描波状文を充填。脚部の単位は4条。内面丁寧なナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒微量	良好	内外面にぶい黄褐色	E7J1 II 層、排土中	5片	PL53 十王台式	

種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第76図	弥生土器	壺	口縁部、5%以下	[15.4] 薄手。わずかに外反。外傾。口縁端部細かいキザミ。外面柳播波状文。脚前1単位6条。内面丁寧なナデ	メノウ粒少量、石英粒微量	良好	内外面にぶい黄褐色	E7j1. II層	3片	PL53 十王台式
53	土師器	高台付杯	体へ高台部5%	— [6.6] 体部内彎・大きく外傾。底部にハの字形に開く高台貼り付け。外面口クロナデ。内面ミガキ・黒色処理	精良。メノウ粒・石英粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面黒色	E7i1. I層	—	PL53
54	土師器	蓋	口縁部、5%	[18.0] — わずかに内彎。強く内傾。口縁部でわずかに屈曲。外面口クロナデ。内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・褐色砂粒微量	良好	外面にぶい黄褐色。内面褐色	E7f1. I層	—	PL53
55	縄文土器か	台付鉢か	台部、5%以下	— [16.0] ハの字形に開脚。上部で内彎。内外面ナデ	メノウ粒少量、石英粒・チャート粒・泥岩礫微量	やや不良。焼き甘い	外面にぶい黄褐色。灰黄褐色。内面灰黄褐色	E7f2. I層	—	PL53
56	陶器	甕	頸部、5%以下	[29.4] (5.4) — 内傾する頸部から外反する口縁部。内外面自然軸	石英粒少量、長石微量	還元炎焼成	外面にぶい赤褐色。内面灰赤色。内部褐色	E7e1. I層	—	PL53 常滑

種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	口径 (cm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第77図	土偶 (肩部)	(4.5)	(3.9)	—	(39.4)	厚さ (3.9) cm。隅丸で、縄文を地文に渦巻状はかの沈線文を施文。内部にナデられた面があり。中空と推定される。沈線部等に赤色顔料が残る。透光土偶	メノウ粒・石英粒・チャート粒微量	普通	外面黒褐色。内面褐色	E7f1付近推土中	—	PL53 一部残存
58	管状土器	3.9	1.6	0.3	(7.8)	中央でやや太く両端で細くなる。表面ナデ	メノウ粒・石英粒・チャート粒微量	良好	ぶい黄褐色	南摂張区、II層	—	PL53 一部欠損

種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考	
第77図	59	石剣	(8.3)	2.8	1.4	(51.4)	粘板岩	両側縁に稜をもつ断面杏仁形の棒状品。図下方がわずかに幅が狭まる。全面、軸に近い方向の研磨調整。一部に敲打痕。軸直交方向の研磨痕を残す	E7f1. I層	—	PL54 一部残存
60	石剣か	(6.3)	(2.7)	(1.9)	(51.9)	砂岩	断面杏仁形の棒状品。図上位でわずかな曲線を擡いで細くなり、欠損部で太くなる様相。頭部近くか。全面、軸に対して斜位の研磨調整	E7f2. I層	—	PL54 一部残存	
61	石棒未成品	(10.0)	(1.5)	(1.6)	(31.2)	粘板岩	断面推定円形の棒状品。図下端付近でややぼまる。基部か。下端は自然面。表面に敲打痕	E7g1. I層	—	PL54 一部残存	
62	独鈷石未成品か	(6.1)	(2.8)	(2.6)	(46.2)	ホルンフェルス	敲打と研磨で割線に突起を作出。図で突起下方が敲打痕が顕著であり、急に細くなる。有角石筴の可能性も	SK83付近サブトレ中、II層	—	PL54 一部残存	
63	磨石	(5.4)	(3.6)	3.6	(66.9)	多孔質安山岩	礫を利用。表裏と側面に磨りによる調整痕または使用痕。低い円筒状。約50%折損	E7f1. I層	—	PL54 一部残存	
64	敲石	(4.5)	3.3	2.0	(45.4)	砂岩	棒状の礫を利用。一端の2割縁に回転運動による打撃痕。他端は欠損するが、同様の使用が窺える打撃痕が一部残る	E7e2. I層	—	PL54 一部欠損	
65	凹石 (敲石)	(4.7)	7.0	(4.1)	(1,71.9)	砂岩	楕円礫を利用。表裏面の中央部に径25mm、深さ6mm程度の円形の凹み。一端に敲石としての使用痕	E7j1. II層	—	PL54 一部残存	
66	敲石	(5.4)	(5.4)	(3.8)	(1,42.5)	砂岩	やや大型の楕円礫を利用。一端に使用痕。折損	E7d1. I層	—	PL54 一部残存	

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第77図 67	敲石	9.5	8.0	4.1	423	砂岩	やや扁平な扇形の鏝を利用。一端に敲石としての使用痕	E7j1, II層	—	PL54 完存
第78図 68	砥石	(11.0)	11.8	2.6	(353)	凝灰岩	節理で割れた扁平な鏝の1面を利用。中央部に砥面	E7h1, I B層	—	PL54 一部欠損
69	剥片	9.8	9.5	3.6	(279.5)	デイサイト	大型。一部自然面を残す。主要剥離面のほかに剥離面2面。剥離面はほぼ全面風化。自然面は灰白色、風化面は黄灰色、新鮮な面は黒色	E7f2, I B層	—	PL54 一部欠損
70	剥片	(5.9)	5.3	2.0	(61.5)	デイサイト	大型。先端部折損。1側縁の裏面側に連続する剥離。調整痕か	SK83 付近 I B層	—	PL54 一部残存
71	調整痕のある剥片	3.3	(3.3)	0.9	(9.2)	珪質頁岩	表裏で剥離方向が逆の剥片。端部と一部側縁折損。側縁に細かい剥離	E7h1, I層	—	PL54 一部残存
72	石鏝	(2.3)	1.2	0.6	(1.0)	オパール	有茎凸基鏝。茎部先端を折損。側縁交互剥離	E7g1, I B層	—	PL54
73	石鏝	(2.1)	1.4	0.5	(1.1)	メノウ	透明感のある良質のメノウを利用。一部に素材時の剥離面を残し形状も不定型であり、未成品か。有茎鏝を意図か。茎部先端折損	E7h1 付近 土中	—	PL54 一部欠損
74	石鏝	(1.9)	(1.2)	(0.4)	(0.5)	メノウ	透明感のある良質のメノウを利用。無茎凹基鏝。脚の先端及び他の脚のほとんどを折損。側縁交互剥離。剥離やや不安定	E7g1 サブト レ II 層	—	PL55 一部欠損
75	石鏝	(1.5)	1.7	0.5	(1.1)	メノウ	透明感のある良質のメノウを利用。無茎凹基鏝。先端部と一脚の先端を折損。側縁交互剥離。剥離やや不安定	E7f1 サブト レ I 層	—	PL55 一部欠損
76	石鏝未 成品	2.7	1.4	0.7	2.1	メノウ	半透明で一部赤橙色の良質のメノウを利用。先端部を中心に調整剥離するも剥離は不安定。基部未調整。有茎鏝を意図か	E7g1, I B層	—	PL55
77	石鏝未 成品	2.4	1.5	0.8	2.7	メノウ	半透明の良質のメノウを利用。全面に調整剥離を加えるが厚さを減らせず、分厚い。有茎鏝を意図か	E7f1, I B層	—	PL55 完存
78	調整痕のある剥片	3.1	2.1	0.9	4.8	メノウ	縦長の剥片を利用。表裏面に素材時の剥離面を残す。表裏の一部側縁に調整剥離。石鏝を意図か	南狭強 区拂土 中	—	PL55 完存
79	石鏝	(1.6)	(0.6)	(0.5)	(0.4)	メノウ	細く、断面三角形。両端折損。石質がやや不良のため鏝部の調整途中で折損か	E7g1, I B層	—	PL55 一部残存

7 第23トレンチ (第79図)

(1) 調査概要

E 6 d 2区からE 6 i 2区までの区域に、長さ12m、幅2mの東西に長いトレンチを設定した。主目的は第1次確認調査の際、第4トレンチ東部で確認された第4号性格不明遺構が、南北に延びる溝であるか否かの確認である。また、再葬墓遺構が確認されている第1トレンチ西側の遺構分布状況の確認も、目的の一つである。

また、必要がないと判断したため、サブトレンチは入れていない。

(2) 遺構と遺物

A 遺構とそれに伴う遺物

確認された遺構とそれに伴う遺物を時代別に解説する。

①平安時代

(i) 竪穴住居跡

第16号竪穴住居跡 (S I 16, 第79図)

位置 E 6 g 2区, E 6 h 2区, E 6 i 2区に位置する。第II 2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるものの、平面は長軸309cm、短軸252cm、長軸の向きN-3°-Eの隅丸長方形と考えられる。確認できる壁高は21cmで、外傾して立ち上がっている。

重複関係 第1号井戸跡に切られている。

土層 2層しか確認できないが、レンズ状の自然堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------|---|
| 2 褐色 (7.5YR 4/4) | ローム粒子極少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |
| 3 褐色 (7.5YR 4/3) | ローム粒子少量, ローム小ブロック少量, Nt-S極少量, 締まり中, 粘性中 |

床 確認していない。

竈 確認していない。東壁にはないため、トレンチ外の北壁に付設されている可能性が考えられる。また竈材と考えられる石材が、遺構中央やや西側の覆土中に見える。

柱穴 確認していない。

遺物出土状況 出土した土師器1点(高台付皿1)を掲載する(第80図, 第38表)。

所見 出土遺物及び形状から、平安時代の竪穴住居跡と考えられる。

②中世

(ii) 土坑

第79号土坑 (S K 79, 第79図)

位置 E 6 d 2区, E 6 e 2区に位置する。第II 2層上面で確認できた。

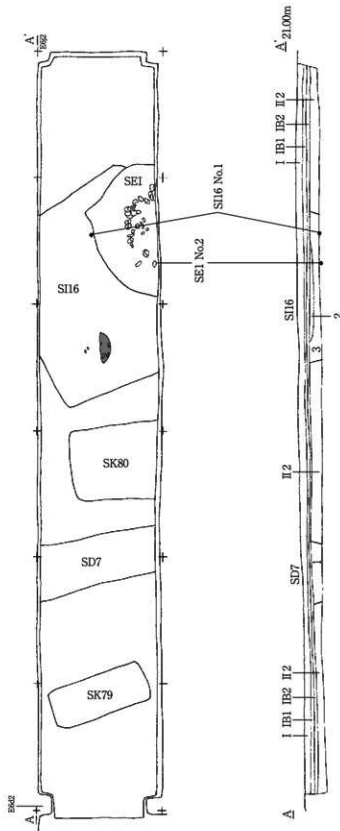
規模と形状 平面は長軸158cm、短軸65cm、長軸の向きN-42°-Eの隅丸長方形である。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状及び覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

第80号土坑 (S K 80, 第79図)

位置 E 6 f 2区, E 6 g 2区に位置する。第II 2層上面で確認できた。



第79図 第23トレンチ実測図



第80図 第16号竪穴住居跡出土遺物実測図

第38表 第16号竪穴住居跡出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第80図	1	土師器	高台付皿	ほぼ完存	12.8 3.1 6.5	体部内彎気味に大きく外傾。口縁でさらに開く。高台は足高で、やや外反するハの字状。外面ロクロナデ。内面ミガキ・黒色処理	精良。メノウ細粒少量。メノウ粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好。一部二次焼成	外面にふい黄褐色。一部黒色。内面黒色。二次焼成部分外面赤褐色。内面にふい黄褐色	覆土中	—	PL55

規模と形状 平面は南部がトレンチ外に延びるため長軸は不明、短軸118cm、長軸の向きN-28°-Eの隅丸長方形と考えられる。

遺物出土状況 出土していない。

所見 遺物を伴わないが、形状及び覆土の状況から中世の墓塚と考えられる。

(ii) 溝跡

第7号溝跡 (SD7, 第79図)

位置 E6e2区, E6f2区に位置する。第II 2層上面及び北壁のセクションで確認できた。

規模と形状 上端の幅75cm, 走向はN-33°-Wを向く。これは付近の等高線とほぼ平行である。

土層 1層しか確認できず、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 (75YR3/2) ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 締まり中, 粘性中

遺物出土状況 土器等15点が出土している。うち縄文土器1点(浅鉢1)を掲載する(第81図, 第39表)。ただし1は混入の可能性が高く、時期判断には至らない。

所見 第14トレンチで確認された溝跡と幅、走向は若干異なるものの、位置関係から同一の溝と判断した。走向が異なるのは、付近の等高線と平行してゆるやかに弧を描くものと考えられる。状況から、中世の区画溝と考えられる。



第81図 第7号溝跡出土遺物実測図

第39表 第7号溝跡出土遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第81図	1	縄文土器	浅鉢	胴部, 5%以下	— — —	内彎ほぼ直立。外面に沈線による工字文。内面ナデ	メノウ粒少量, チャート粒・雲母細粒・海綿骨針微量	普通	サンドイッチ状。外面にふい褐色。内面灰褐色。内部黒色	覆土中	—	PL55 晩期後葉

(iii) 井戸跡

第1号井戸跡 (SE1, 第79図)

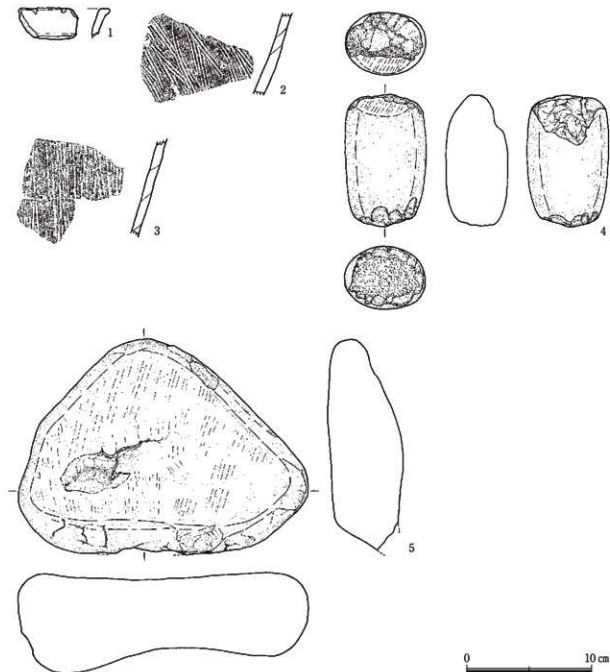
位置 E6h2区, E6i2区に位置する。第II2層上面で確認できた。

規模と形状 大部分がトレンチ外に延びるものの、平面は径210cmの円形と考えられる。

重複関係 第16号竪穴住居跡を切っている。

遺物出土状況 土器等24点, 石器2点が出土している。うち弥生土器2点(壺2), 土師器1点(甕1), 石器2点(敲石1, 台石1)を掲載する(第82図, 第40表)。ただしいずれも混入の可能性が高く, 時期判断には至らない。

所見 状況から, 中世の所産と考えられる。



第82図 第1号井戸跡出土遺物実測図

第40表 第1号井戸跡出土遺物観察表

種別	器種	部位・残存率	口径・高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考	
第82図 1	土師器	甕	口縁部, 5%以下	— — —	外反, 外傾。口縁端部平坦。内外面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・泥岩礫・雲母細粒微量	良好	内外面明黄褐色	覆土中	— — —	PL55
2	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	内彎, 外傾。外面4單位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好, 堅緻	外面にふい黄褐色, 内面明赤褐色	覆土中	— — —	PL55
3	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	— — —	直線的, 外傾。外面条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英礫・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰褐色, 内面にふい赤褐色	覆土中	3片	PL55

種別	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第82図 4	敲石	10.4	6.4	4.9	491	砂岩	楕円柱状の礫を利用。両端を敲打に使用。一端の使用面は破断面に連続するが破断後にも使用。側面の一部にやや平坦な面。磨石または砥石としての使用痕か	覆土中	—	PL55 完存
5	台石	17.1	22.9	8.5	(3,050)	砂岩	大型のほぼ扁平な礫を利用。広く平坦な1面を使用。平滑で砥石としても使用か	覆土中	—	PL55 一部欠損

B 遺構外出土遺物

遺構外で確認された遺物について解説する (第83図, 第41表)。

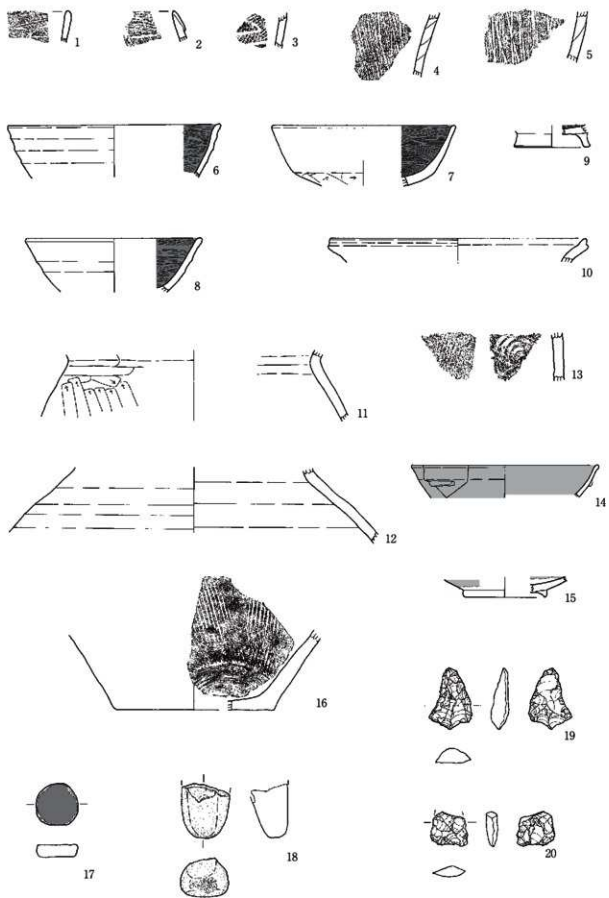
遺物出土状況 土器等456点, 石器3点が出土している。うち縄文土器2点 (深鉢2), 弥生土器3点 (壺2, 小型壺1), 土師器6点 (坏3, 甕2, 高台付坏1), 須恵器2点 (甕2), 灰釉陶器2点 (碗1, 皿1), 陶器1点 (擂鉢1), 土製品1点 (土器片円盤1), 石器3点 (石鎌2, 敲石1) を掲載する。

(3) 所見

第4トレンチ東部で確認された第4号性格不明遺構の走向を確認するために設置したトレンチであるが, 調査を進めると, 溝跡が所在すると想定される位置に平安時代の堅穴住居跡1軒が確認された。このため, 第14トレンチと同様, 第4号性格不明遺構の走向を確認することはできなかった。これにより, さらに北方に新たにトレンチを設定して調査する必要性が生じた。

また, 第23トレンチにおいて, 再葬墓遺構は確認できなかった。第14トレンチの調査結果と合わせて考えると, 第1トレンチで確認された再葬墓遺構以西には, 再葬墓遺構は所在しない可能性が高まったといえる。

なお, 井戸跡が当遺跡で初めて確認されたことで, 中世における土地利用の状況が窺える。



第83図 第23トレンチ遺構外出土遺物実測図

第41表 第23トレンチ遺構外出土遺物観察表

種別	器種	部位・残存率	口径器高底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考		
第83回	1	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	外傾。口縁端部にキザミ。外面条線文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒微量	普通	外面にぶい赤褐色, 内面にぶい橙色	E6e2, II層	—	PL56
	2	縄文土器	深鉢	口縁部, 5%以下	—	内傾。複合口縁。口縁部外面横位に近い斜位の熱糸文。胴部縦位に近い斜位の熱糸文。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・黒色砂粒微量	良好	サンドイッチ状。内外面にぶい内部黒色	E6g2, I層	—	PL56
	3	弥生土器	小型壺	胴部, 5%以下	—	内彎気味。外傾。外面磨消縄文手法による三角連繫文か。内面ミガキ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・海綿骨針微量	良好	内外面にぶい橙色	E6i2, II層	—	PL56
	4	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	外反。外傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・雲母細粒・海綿骨針微量	良好	外面灰黄褐色, 内面にぶい褐色	E6i2, I B層	—	PL56 外面炭化物付着
	5	弥生土器	壺	胴部, 5%以下	—	内彎。外傾。外面縦位の条痕文。内面ナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・チャート粒微量	良好	サンドイッチ状。外面にぶい褐色, 内面灰黄色, 内部黒色	E6i2, II層	—	PL56
	6	土師器	環	口縁部, 20%	[16.8] (4.2)	体部内彎・外傾。口縁部で外反。外面ロクロナデ。内面黒色処理	メノウ粒少量, 石英粒・チャート粒・泥岩粒微量	良好	外面にぶい黄褐色, 内面黒色	E6h2, II層	—	PL56
	7	土師器	環	口縁部, 20%	[14.4] (4.8)	外傾。内彎。口縁部で外反気味。外面ロクロナデ。体部下位ヘラケズリ。内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量, 石英粒・泥岩粒・赤褐色砂粒・海綿骨針微量	良好	外面にぶい黄褐色, 内面黒色	E6d2, I B層	—	PL56 外面炭化物付着
	8	土師器	環	口縁部, 20%	[13.8] (4.2)	体部内彎・外傾。口縁部で外反。外面ロクロナデ。内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒・石英粒・黒色砂粒・褐色砂粒微量	普通	外面にぶい黄褐色, 内面黒褐色・暗褐色	E6h2, II層	2片	PL56
	9	土師器	高台付環	底部, 5%	— [6.0]	平底にハの字に開く高台を貼り付け。内外面ロクロナデ。体部内面ミガキ・黒色処理	メノウ粒少量, 石英粒・褐色砂粒・黒色砂粒微量	良好, 焼けムラ	内外面にぶい橙色, 体部内面黒褐色	E6h2, II層	—	PL56
	10	土師器	甕	口縁部, 5%以下	[20.0]	大きく外傾。外反。口縁端部つまみ上げ。内外面ロクロナデ	メノウ粒少量, 石英粒・黒色砂粒微量	良好	内外面橙色	E6e2, II層	—	PL56 9～10世紀
	11	土師器	甕	頸部, 5%以下	— (4.8)	体部内彎・内傾。頸部外反。頸部径[20.0]cm。外面頸部横ナデ。胴部ヘラケズリ。内面ナデ	メノウ粒少量, 石英粒・褐色砂粒・微量	良好, 堅緻	外面灰褐色, 内面にぶい赤褐色	E6i2, II層	—	PL56
	12	須恵器	甕	頸部, 5%以下	—	頸部内彎・内傾。頸部外反。内外面ロクロナデ	メノウ粒少量, メノウ礫・石英粒・海綿骨針微量	還元炭焼成	内外面灰色	E6e2, II層	—	PL56
	13	須恵器	甕	胴部, 5%以下	—	わずかに内彎。外面平行タタキ。内面同心円状当て具痕	メノウ粒・石英粒・黒色砂粒微量	還元炭焼成	外面オリープ色・灰色, 内面灰色	E6e2, I B層	—	PL56

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径 器高 底径 (cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第83図 14	灰軸 陶器	碗	口縁～ 体部、 5%	[14.8] — —	体部内彎・外傾。口縁部で 外反。内外面ロクロナデ 灰軸。体部外面に重ね焼き による下位の碗の口縁部軸 着	密精良。石英・ 石英粒・黒色粒子 微量	還元炎 焼成	器胎灰白色。 軸オリーブ 灰色	E6h2, II層	—	PL56 9～10世 紀
15	灰軸 陶器	皿	体～ 台部、 5%以 下	— (1.6) [6.4]	体部内彎。大きく外傾。三 日月高台貼り付け。内外面 ロクロナデ。体部内外面灰 軸施軸	精良。石英粒・ 長石粒・褐色 砂粒微量	還元炎 焼成	器胎灰白色。 軸浅黄色	E6e2, II層	—	PL56 9世紀後 半～10世 紀前半
16	陶器	楕鉢	体部～ 底部、 5%	— (6.5) [12.6]	平底。胴部外傾。底部回転 糸切痕。内面に13条1単位 の襷り目。底面の一部を除 く内外面鉄軸。底部内外面 に目の軸着痕	石英粒多量	良好	器胎灰黄褐 色。軸褐色	E6h2, II層	—	PL56 瀬戸・美 濃系。17 ～18世紀

挿図	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土 状況	接合 状況	備考
第83図 17	土器片 円盤	22	22	0.7	4.3	ミガキ・黒色処理した 平坦な土器片(土師器 高台付坏か)を利用。 黒色砂粒微量 周囲を粗磨りの上研磨 調整	メノウ粒少 量。石英粒・ 黒色砂粒微 量	良好	表裏面黒 色・暗灰 色。器胎 灰白色	E6g2, I B層	—	PL56

挿図	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石材	形態・技法	出土 状況	接合 状況	備考
第83図 18	敲石	(4.3)	(3.9)	(3.0)	(59.8)	砂岩	楕円状または棒状の礫を利用。一端に敲 石としての使用痕	E6h2, II層	—	PL56 一部残存
19	石織	2.5	1.7	0.7	2.2	メノウ	尖基織。分厚い。裏面に一部自然面を残す。 調整剥離やや不安定	E6f2, I B層	—	PL56 完存
20	石織	(1.4)	1.5	0.5	(1.0)	メノウ	凹基無基織。透明感のある良質のメノウ を利用。先端部と脚の一部を欠損。全面 調整剥離	E6g2, I B層	—	PL56 一部欠損

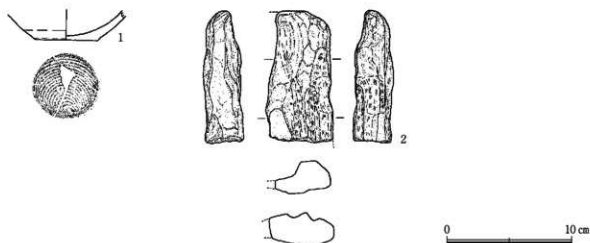
8 表面採集

(1) 調査概要

トレンチによる確認調査と同時に、調査区付近の地表面の遺物採集を試みた。

(2) 採集遺物

表面採集により、土器等16点、石器1点が出土している。うち土師器1点(坏1)、石器1点(砥石1)を掲載する(第84図、第42表)。



第84図 表面採集遺物実測図

第42表 表面採集遺物観察表

挿図	種別	器種	部位・残存率	口径器高底径(cm)	形態・技法	胎土	焼成	色調	出土状況	接合状況	備考
第84図 1	土師器	坏	胴~底部, 10%	— (2.4) 5.0	平底, 回転糸切り。胴部内厚外積。ロクロ成形成, 水挽き調整	精良。メノウ粒・石英粒・褐色砂粒・雲母細粒微量	良好	内外面にふい橙色	表採	3片	PL56

挿図	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	形態・技法	出土状況	接合状況	備考
第84図 2	砥石	(10.4)	(5.3)	3.1	(144.9)	凝灰岩	やや扁平な礫を利用。図左と下を欠損。上面に3条の溝状砥面, 側面にも砥面。裏面は未使用。砂粒粗く荒砥の可能性	表採	—	PL56 一部残存 玉砥石か

(3) 所見

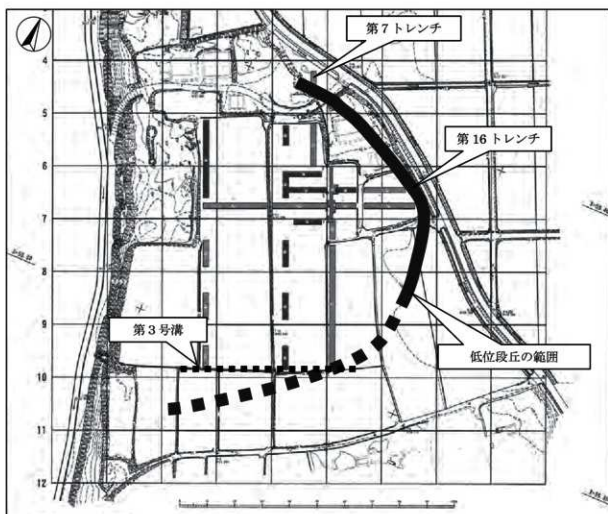
掲載した砥石は、玉砥石と考えられる。当遺跡では初めての出土であり、土地利用状況を考えてうえで貴重な資料となった。

第4章 総括

泉坂下遺跡では、平成18年の調査の際に7基の土坑から人面付壺形土器をはじめとする弥生土器や玉類が出土し、弥生時代中期の再葬墓であることが確認された。とはいえ調査が行われたのは遺跡の所在する低位段丘のわずか36mにすぎず、遺跡の適切な保護、保存、活用を図っていくためにはさらなる性格及び範囲の確認が必要とされたため、確認調査が実施されたものである。平成24年度の第1次調査においては、様々な成果が得られたものの、同時に課題も多く残された。

以下、第1次調査の成果を踏まえ、今次調査において明らかになった点を記して総括する。

1 泉坂下遺跡の範囲 (第85図)



第85図 泉坂下遺跡の立地する低位段丘の範囲

泉坂下遺跡の立地する低位段丘は、東側の水田面から比高差2mほどで、台地からの湧水に分断されながらも南東に大きく展開し、現在も根本地区をはじめとする複数の集落が存在する。遺跡付近は水田耕作によって原地形がすでに改変されていることが想定されたため、今回の調査においては、原地形を確認し、遺跡の所在する低位段丘の範囲を掴むことが目的の一つであった。遺跡西側は比高差30m近い台地が立地しているため、東・南・北側がその確認対象となった。第

1次調査において、東の限界を第16トレンチで、また北の限界を第7トレンチで確認し、この付近では原地形からの改変が軽微であることも判明している。しかし南の限界については、第1次調査の際、第3・11トレンチで確認できず、課題となっていた。

今次調査では、第10トレンチにおいて確認に努めたが、トレンチ南端ではまたしてもゆるやかな掘り込みの溝跡が所在し、明確なロームの傾斜を確認することはできなかった。しかし、第3・10・11トレンチに共通して確認された第3・4号溝跡は、付近が旧来の谷地形の底であり、自然地形を活かして構築された可能性は高いと考える。この点については引き続き検証していく。

2 土地利用の変遷

平成18年の調査において平安時代の住居跡が確認されており、弥生以外の時代にもまたがる複合遺跡であることは知られていた。第1次調査ですでに縄文、弥生、平安、中世、近世という幅広い時代の遺構・遺物が確認されており、今次調査でもその様相は同様である。以下、遺跡の所在する低位段丘の土地利用の変遷を時代順に総括していく。

まず縄文時代であるが、第1次調査で晩期の遺物が多く出土した第5トレンチの北方に設定した第12トレンチにおいて、晩期の竪穴住居跡4軒が確認された。繰り返して述べるが、泉坂下遺跡が平成18年に学術調査されたのは、石棒製作遺跡としての可能性が考えられたからであり、今次調査において集落の所在が確認できたことの意義は大きい。残念なのは、これら竪穴住居跡を掘り込んでの確認ができなかった点である。なお石棒の未製品等を含む晩期の遺物は、後述する弥生時代遺構が集中する区域にも相伴するものの、最も密となるのはそこから西側となる第5・12トレンチ付近である。以西は未調査であるが比高差30m近い台地があるため、第5・12トレンチ付近が晩期遺跡の中心地であると推測できる。

また今次調査で、第12トレンチから古代サメ類カルカロン・メガロドンの歯化石が出土している。水田耕作の影響を受けている第ⅠB層からの出土であるが、その状況から、第10号竪穴住居跡に帰属する可能性が高いと考えられる。またこの歯化石には自然運搬等の痕跡が見られないため、人為的に持ち込まれたものと推測される。特殊な遺物であるため、専門家の判断を仰ぎ、玉稿を付章に掲載した。

弥生時代については後述するため、ここでは割愛する。

平安時代の遺構・遺物は、やはり調査区域の全域に広く分布しており、今次調査では竪穴住居跡6軒が確認されている。第1次調査で確認された7軒と合わせ、泉坂下遺跡内で計13軒が確認された。第1次調査では刻書「万吉」のある耳皿や「□□大宅」の墨書土器といった特殊な遺物も確認されており、ある程度の規模の集落が所在したことが窺える。

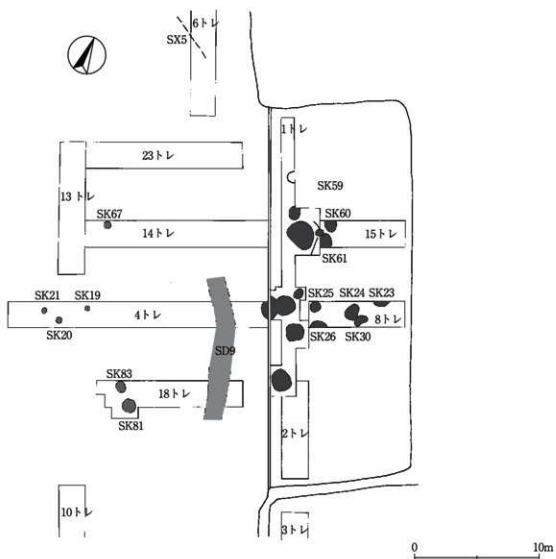
中世の遺構としては、土坑と溝跡が広く所在することが知られていたが、新たに井戸跡1基が確認された。これらは土地利用状況を考える一助となろう。第1次調査では墓壇5基が確認されていたが、今次調査ではさらに9基が確認され、計14基が把握された。また、溝跡は新たに2条確認され、計5条が把握された。これらのうち等高線に平行するものは第7号溝跡だけであり、ほか4条は等高線に直交する。ちなみに、ここまで把握された中世墓壇14基のうち、第80号土坑を除く13基は、南北に走る第7号溝跡以西に所在する。

泉坂下遺跡から北西には中世の佐竹系城郭である前小屋城跡があり、確認された中世遺構のいずれかが関連することは想像に難くない。前小屋城は、秀郷流藤原氏系那珂氏の分流平沢丹後守

通行の築城に始まり、小場氏五代義忠の弟義広（義澄）が前小屋に分家して前小屋氏を称した15世紀から、本格的に拡大整備が進められた。前小屋氏は、佐竹氏の重臣として山入の乱、部垂の乱を戦い抜いたが、慶長7年（1602）の佐竹氏秋田移封に同行し、前小屋城は廃された。前小屋城は連郭式平山城で、本郭は泉坂下遺跡から北西約500mにあり、台地端部に沿って4つの曲輪が約300mにわたり南東向きに並ぶ。その宿は城域の南側にあり、即ち泉坂下遺跡の西方、比高差約30mの台地上、直線距離にして100m程度に所在する。これほどの至近距離で、墓域が広がっていることは興味深いものがある。

このほか、近世の掘立柱建物跡等も確認されており、当遺跡の立地する低位段丘は、久慈川が東側を南流する地理的環境が、農業のみならず水運との関連においても良好な立地で、いつの時代にも人々を惹きつけたのであろう。

3 弥生時代遺構分布状況（第86図、第43表）



第86図 弥生遺構分布状況（1:300）

第43表 泉坂下遺跡再葬墓等一覧表

遺構番号	位置		種別	埋納されたと考えられる 土器個体数
	トレンチ	グリッド		
SK1	1トレ	F6a0, F7a1	再葬墓	4
SK2	1トレ	F6a5, F6b5	再葬墓	14
SK3	1トレ	F6a9, F6b9	再葬墓	7 (土器K含む)
SK4	1トレ	F6a7, F6a8	再葬墓	6
SK5	1・4トレ	E6j8, F6a8	再葬墓	8
SK6	1トレ	F6b4	再葬墓	3
SX1	1トレ	F6b7	再葬墓	1
SK19	4トレ	E6d8	土器棺墓	1
SK20	4トレ	E6b8	土器棺墓	1
SK21	4トレ	E6b8	土器棺墓	1
SK23	8トレ	F6d8, F6e8	再葬墓	3
SK24	8トレ	F6c8, F6d8	再葬墓	4
SK25	8トレ	F6d8	再葬墓	2
SK26	8トレ	F6b8, F6c8	再葬墓	4
SK30	8トレ	F6d8	再葬墓	1
SK59	15トレ	F6b5, F6c5	再葬墓	1
SK60	15トレ	F6c5	再葬墓	4
SK61	15トレ	F6c5	再葬墓	1
SK67	14トレ	E6d5	土器棺墓	-
SK81	18トレ	E7f1, E7f2	土器棺墓	-
SK83	18トレ	E7e1, E7f1	土器棺墓	-

(1) 再葬墓遺構

弥生再葬墓遺構の分布範囲について、所見の変更がある。平成18年の調査で7基、第1次調査で5基が確認されていて、今次調査では第15トレンチで3基が新たに確認され、合計15基の再葬墓遺構が分布することが確認された。第2号土坑東側に3基確認されたことにより、再葬墓分布範囲は広まり、15～16mの南北幅となるものと考えられる。また最も西側に位置する第5号土坑から、最も東側の第23号土坑までは約12mである。なお、再葬墓遺構は第5号土坑が西端、第1号土坑が南端である状況に現時点で変更はない。

しかし、再葬墓分布範囲の限界を掴むことはできなかった。さらに範囲が広がる可能性を含むため、この確認は次の調査の課題として残された。

(2) 土器棺墓

第1次調査で3基が確認されていたが、今次調査では第14トレンチで1基、第18トレンチで2基が確認され、計6基が確認されたことになる。これらは南北幅14～15m、東西幅12～13mの範囲に分布しているが、その密度は疎である。これらの分布範囲を確定させることは、次の調査の課題である。

(3) 溝跡

第1次調査で第4号性格不明遺構としていた遺構について、その走向及び形状が確認できたため、新たに第9号溝跡とした。やはり断面V字形で、上端の幅235cm、深さ146cmの本格的な溝跡であり、付近の等高線に沿ってゆるやかに弧を描くものと考えられる。遺構内から出土した遺物のうち最も新しいものは十王台式の弥生土器であった。このためこの溝跡の埋没時期は、弥生の範囲にこそ収まるものの、付近の再葬墓の時期より新しいと考えられる。調査時には、再葬墓の時期の集落跡と再葬墓域の区画溝といった仮説を持っていたが、その仮説を維持することは困難

になった。ただし、東側の再葬墓域と、西側の土器棺墓域に挟まれた弥生時代の遺構であるため、走向や性格等その全容を確認していくことは今後の調査の課題として残されている。

4 まとめ

ここまでの確認調査において、当遺跡の所在する低位段丘には、様々な時代の遺構・遺物が広く分布していることが確認された。中でも弥生時代の遺構は、第4トレンチを中心とした低位段丘の中央やや東よりに集中していることも判明している。

ここまでの調査で、残されている大きな課題は以下の3点である。

- ①再葬墓の分布範囲の確認
- ②土器棺墓の分布範囲の確認
- ③第9号溝跡の走向・性格の確認

これらの解明に向けて、第3次調査では、弥生時代の遺構が集中する地点を面的に調査する方針とした。これまでに再葬墓が確認されている第1・8・15トレンチを中心に、再調査の可能な状況を残しつつのアプローチを行う計画である。

また、第3次調査で弥生部分に集中して調査を行う一方、その他の部分が遅れてしまうことから、補足調査が必要になると考えられる。このため、3か年と考えていた泉坂下遺跡確認調査の期間を1か年延長し、4か年の調査とするよう計画を変更し、各方面の了解を得た。

また、遺跡の保護のため遺構を掘り込まないことを原則として進めてきたものの、得られる情報の壁に突き当たった。縄文晩期の竪穴住居跡については、裏付け調査のためには掘り込みが必要であるし、何より再葬墓の埋納過程を分析し、葬送儀礼について考察を加えるためには遺構を掘り込むことは不可避である。当遺跡の価値を損なわずに調査していく方法については、今後十分に協議していく。遺構を掘り込むとなると、精度の高い三次元計測や、自然科学的な分析・考察も必要となってくるため、合わせて検討が必要である。

なお、今次調査に先行して、来たる当遺跡の整備等に備え、土中環境について専門家による検証をいただき、玉稿を付章に掲載している。単なる調査に留まらず、当遺跡の適切な保護・保存・活用といった所期目的を踏まえ、遺跡と市の将来を見据えて取り組んでいきたいと考えている。いよいよ佳境を迎える確認調査である。万全を期したい。

【参考文献】

- 茨城県立歴史館史料部『茨城の縄文土器』茨城県立歴史館史料叢書9 平成18年3月
大宮町史編さん委員会『大宮町史』大宮町 昭和52年3月
後藤俊一、萩野谷悟、中林香澄『茨城県常陸大宮市埋蔵文化財発掘調査報告書第16集 泉坂下遺跡Ⅱ 保存整備事業に伴う第1次確認調査報告』常陸大宮市教育委員会 平成25年7月
鈴木素行『本覚遺跡の研究—関東地方東部における縄文時代晩期の石棒製作について—』鈴木素行 平成17年3月
鈴木素行『泉坂下遺跡の研究—人面付土器を伴う弥生時代中期の再葬墓群について—』鈴木素行 平成23年8月

付 章

第1節 泉坂下遺跡の保存に向けて

1 泉坂下遺跡の再葬墓群に伴う壺形土器の保存のための土中環境と遺跡周辺微小環境の検討

谷口 陽子（筑波大学）

泉坂下遺跡の再葬墓群に伴う壺形土器など重要な遺物をいかに現地で適切に保護し、また、遺跡をなるべく破壊しないように保存してゆくかというのは非常に難しい課題である。遺跡の範囲を確認調査後、その再葬墓群と地形・遺跡景観を保護し、総合的に活用するためには、できうる限り弥生時代中期の墓制を示す遺跡の考古学的、学術的な価値を損なわないように、遺物の取り上げを限定する必要がある。

まず、遺物を土中に残したままにするのか、あるいは外気に露出して現地で展示を行った場合にどのようなリスクがありうるのかを前もって検討する必要がある。たとえば、遺物の取り上げを行わず、原位置保存として、埋め戻しを行うという方針にするのであれば、土中にて遺物が安定した状態を保っているということを確認しなければならない。

泉坂下遺跡は水田耕作地内に位置しており、土地の水分量が比較的高いと予想された。また、地表から遺物包含層までが20～40センチメートルと極めて浅い箇所が多いため、温湿度の変動を緩衝するに十分な土の堆積がなく、とくに冬季に遺物包含層が凍結するような危険はないかどうか、基礎的なデータを得ることとした。

平成24年度の調査終了間際の埋め戻しの際（2012年11月3日10時30分）に、後藤俊一主幹の協力を得て、第4トレンチの再葬墓壺形土器脇の同一のレベルに土壤水分センサー（Decagon Devices社製10cmフォーク型土壤水分センサー）と土中温度を測定するためのセンサー（12-bit温度センサー（S-TMB-M006））を設置した（図1、2）。この土壤水分センサーは、土壤の誘電率が土壤水分量にほぼ比例することを利用して、誘電率から土壤水分を測定するものである。

遺物包含層のレベルは、黒土で地表面から約30センチメートル、壺形土器が半分埋没した状態している高さである。センサーは、今後の遺物の保護の方法を想定して、山砂をかけた上に黒土を主体とする排土で埋め戻した（図3）。設置に際し、センサー周辺に空隙ができないように、山砂の上から水を一度かけている。



図1 ロガー設置の状態（2012年11月4日）



図2 土壌水分センサー，温度センサー設置状況①
(2012年11月14日)



図3 土壌水分センサー，温度センサー設置状況②
(2012年11月14日)

土壌水分センサーおよび温度センサーは，トレンチ脇に設置したデータロガー（Onset社製 HOBOマイクロステーション（H21-002））に接続し，15分間隔でデータを収集するよう設定した。また，外気の温湿度については，第4トレンチ東側の木製のポールにOnset社製温湿度データロガー（HOBO pro V2）を高さ地表から150センチメートルのところ設置し，土中環境データと同じく15分間隔でデータを収集するよう設定した。

各データは，平成25年度の調査時期まで継続して収集した。土壌水分，温度については2013年7月9日12:00まで，外気の温湿度については2013年6月17日15:15までである。

遺跡周辺微小環境（温度・湿度）

図4は，遺跡周辺の温度・湿度の最高，最低，平均値を示したものである。屋外の温湿度であるため，当然日較差，季節較差の変動が極めて大きい。泉坂下遺跡周辺では，11月から3月までに氷点下以下になった日数が66日，3月から5月まででは10日であった。また，土中の水分が凍結する -4°C 以下の日数は11月から3月までで43日，3月から5月までで1日であった。この年の最低気温は2月26日5:45頃の -9.8°C となっている。ちなみに，この同時刻の土中温度は $+6.05^{\circ}\text{C}$

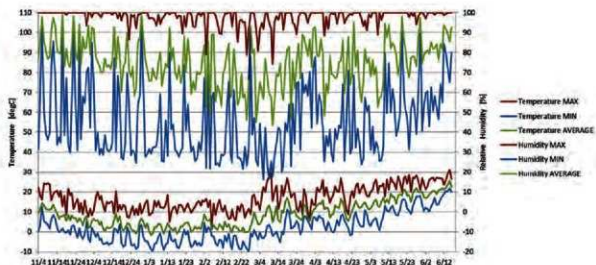


図4 泉坂下遺跡周辺微小環境（温度・湿度）

であった。夜間放射による温度低下も生じると考えられるので、おそらく、冬季の土壤表面温度は気温よりもさらに数度低くなっていると予想される。もし土器や遺構などを遺跡現地において露出展示するのであれば、この環境であることを考えると、冬季から春季の-4℃前後の温度変動が非常に高頻度で生じるため、おそらく凍結破砕や凍上現象によって土器や遺構が損傷を受ける可能性が高いと考えられる。

相対湿度についてみてみると、日中20-30% RH、夜間100% RHと夜間の結露が繰り返される状況にあることがわかる。

土中環境

図5は、土中環境のデータを示したものである。土壤水分センサーを土中に設置した2012年11月3日には、 $0.3240\text{m}^3/\text{m}^3$ となったが、すぐに $0.286\text{m}^3/\text{m}^3$ 付近で安定化している。測定期間中、比較的多量の降雨によって土壤水分量が上昇する日が15回程度あったが、数日のうちに水分量が安定化する様子が見られた。例えば2013年6月15日～16日の大雨の際でも（常陸大宮市24.5mm[※]）、 $0.3711\text{m}^3/\text{m}^3$ まで水分量が上昇したのち、ほぼ24時間後には元の水分量に戻っている。

土中温度を見てみると、1月、2月の寒冷な時期にあっても、土中では+5℃を下回ることがなく、地表面からさほど深くないところにあるにもかかわらず、基本的には安定した状況にあると考えられる。

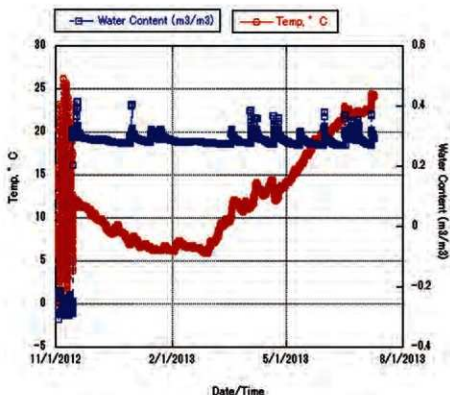


図5 土壤水分量と土中温度の変化

まとめ

泉坂下遺跡においては、遺構が地表面から比較的浅いところに存在するため、土中にあっても外気の影響を受けやすいのではないかと懸念されたが、今回の計測により、遺構のレベルに遺物がある場合には比較的安定した環境であることが確認された。しかし、外気は寒暖の差が大きく、冬季や春季には凍結・融解を引き起こす回数が多いため、現地に露出した状態で遺構や遺物を置いておくことは望ましくないと考えられる。遺跡の保存計画、展示計画は、引き続き慎重に検討する必要がある。

註) 2013年6月15日アメダス(降水量)による。日本気象協会。

参考文献

- 渡辺晋生, 紀藤哲矢, 坂井勝, 取出伸夫(2010年)「凍結面近傍の不凍水量変化に基づく凍土の水分特性曲線と不飽和透水係数の検討」, 『土壌の物理性』, 116, 9-18.
- 宇野朋子(2008年)『バミヤーン遺跡保存のための環境調査報告—2005～2006年—』(アフガニスタン文化遺産調査資料集 別冊第3巻)東京文化財研究所。

第2節 第12トレンチ出土の古代サメ歯化石

1 泉坂下縄文晩期遺跡の古代サメ類カルカロドン・メガロドンの歯化石

菊池 芳文（財団法人自然史科学研究所）

出土化石の特徴と分類学的検討

大形で表面は平滑な状態をなす。歯冠の下部、歯頭および歯根は欠落する。歯冠の先端は僅かに破損状態にある。歯冠の両辺（近心縁と遠心縁）の長さはほぼ等しく、外形は正三角形に近い二等辺三角形形状をなすと推測される。舌側面（内側面）は顕著に膨らみ、唇側面（外側面）は平坦な状態をなす。歯冠の両辺には細かな鋸歯の発達が認められる。

以上の形質から、泉坂下縄文晩期遺跡から出土した化石は *Carcharodon megalodon*（カルカロドン・メガロドン：和名ムカシ オオホホジロザメ）の、上顎前歯化石と同定される。また、歯の大きさから全長は11～12m程度と類推される。

Carcharodon megalodon について

Carcharodon megalodon は、150万年前頃～1800万年前頃（2800万年前の説も有り）棲息したとされる絶滅種のサメである。*Carcharodon megalodon* は、現在棲息し全長が5～6mの同属 *Carcharodon carcharias*（カルカロドン・カルカリアス：和名ホホジロザメ）に対して、巨大で全長が11～16mと推測されている。また、鋸歯が細かい等の形質から *Carcharodon carcharias* の歯との区別は容易である。*Carcharodon megalodon* の歯化石は、古くから「天狗の爪」と称され信仰の対象とされることもあった。

近年 *Carcharodon megalodon* は、系統分類学上 *Carcharodon*（カルカロドン）属ではなく、*Carcharocles*（カルカロクレス）属の *Carcharocles megalodon*（カルカロクレス・メガロドン：和名ムカシ オオホホジロザメ）として扱う傾向にある。

考察

泉坂下縄文晩期遺跡から出土した *Carcharodon megalodon*（カルカロドン・メガロドン：和名ムカシ オオホホジロザメ）の歯化石は、歯根部等の欠落や衝撃が要因と判断される歯冠先端部の破損は認められるが、歯冠部は比較的良好な保存状態にある。そうした状態や歯冠の破断面の形状等から、当初、この *Carcharodon megalodon* の歯化石は歯根を有した完全な状態にあり、その後、何らかの原因で欠損した可能性が窺える。

また、本歯化石は「礫を伴った出土状態にあった」とのことであるが、化石には自然運搬時の磨滅等の痕跡が全く認められない。よって、人為的な運搬で泉坂下に到達した可能性が高いと判断される。

常陸大宮市とその近傍には、*Carcharodon megalodon* の歯化石を含有する可能性の高い玉川層、坂地層、瑞龍層、瓜連層、源氏川層の分布が認められ、それらの地層から縄文人が歯化石を発見・採取し、泉坂下に運んだと推測しても矛盾は生じない。

遺跡から出土した *Carcharodon megalodon* の歯化石の記録は、全国的にも極めて僅かで、泉坂下縄文晩期遺跡出土の本化石は考古学的研究上貴重な試料であるといえる。また、常陸大宮地域の地層から *Carcharodon megalodon* の歯化石は、現在も発見されておらず地質学・古生物学的に

も重要な記録である。

参考文献

Ellis, R. and McCosker, J. E. 1995. Great White Shark. Stanford University Press.

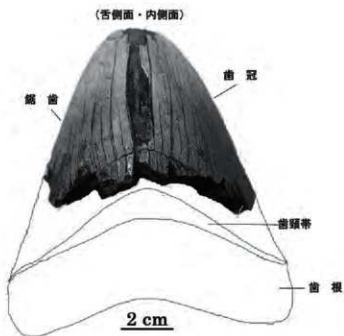


図1 泉坂下遺跡出土カルカロドン・メガロドン化石

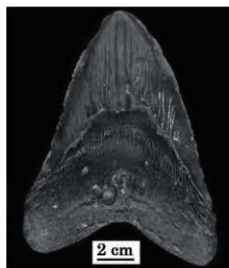


図2 カルカロドン・メガロドン化石
(比較資料)



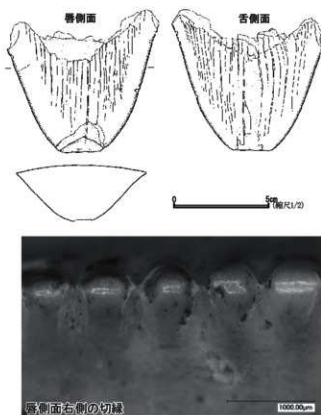
図3 カルカロドン・メガロドン
(大)化石とカルカロドン・カルカ
リアス(小)化石のサイズ比較
(Ellis and McCosker, 1991より)

2 縄文時代におけるサメ類の化石について

鈴木 素行 (ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社)

1. はじめに

泉坂下遺跡の発掘調査で検出されたサメ類の化石は、出土位置から縄文時代晩期の遺物として捉えられるものであり、これは、菊池芳文 [2014] によりメガロドンの歯と同定された(第1図)。残存部だけでも長さ75mm、幅80mm、厚さ30mm、重量119.2gという大型の歯である。歯冠の先端に衝撃剥離のような痕跡が見られることもあって、特徴的な切縁の鋸歯が利器として使用された可能性を検討するため、まずは顕微鏡による観察を実施した。鋸歯には磨滅が生じているように観えたが、明瞭な線条痕は残されており、磨滅の成因が化石化するまでの過程にあった可能性もあり、利器として使用されたと断定することはできなかった。そこで、共通する事例を集成し、縄文時代の遺跡からメガロドンの歯の化石が出土する現象について検討することにした。

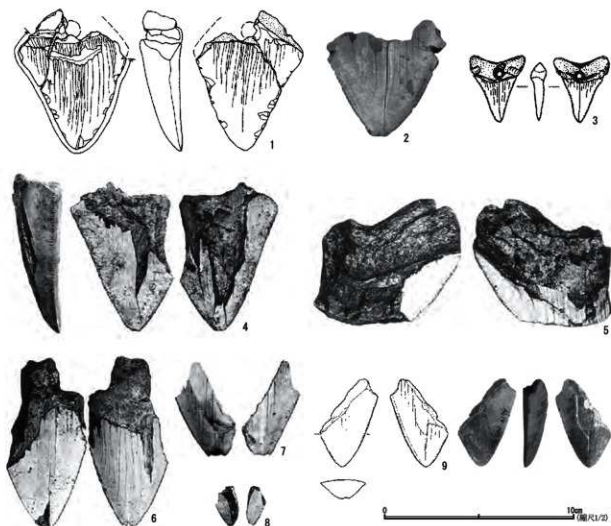


第1図 泉坂下遺跡のメガロドン

2. 縄文時代遺跡のメガロドン

添山(第2図1) 北海道北斗市(旧・上磯町)の添山遺跡 [石本・鈴木1983] から発掘調査で検出された。長沼孝は、「縄文時代晩期中葉大洞C2式の遺跡の包含層から化石を加工したものが1点出土している。出土品は、長さ7.50cm、幅5.57cm、厚さ2.02cm、重さ45.0gの大型のもので、歯根部の約半分が欠損している。残存している歯根部の舌側面に横方向の溝がみられ、中央部に穿孔が施されている。歯冠部は、長軸方向に多数の亀裂が入っているが、両切縁及び両面は研磨されているようである。しかし、舌側面尖頭部の近心縁の一部に鋸歯がわずかに残存している。新第三紀のホホジロザメ属のカルカロドン・メガロドン (Carcharodon megalodon) の左上顎歯である」 [長沼1984] と観察している。

鯨ヶ沢(第2図2) 後藤仁敏が、日本におけるサメ類の歯を中心とした化石軟骨魚類の研究史を概括する中に、「日本人によるサメの歯の化石の発見」の最古の事例として紹介した「縄文時代晩期の遺跡である青森県西津軽郡鯨ヶ沢の近くから出土したもの」。「あきらかに日本の新第三紀の代表的な化石サメであるCarcharodon megalodonの歯と思われる。しかもこの標本には、人為的に加工したらしいあと(歯冠の切縁の歯頸に近い部分に、近心・遠心両側とも対称的な位置に、U字型のきれこみが存在する)があり」 [後藤1972] という、加工の痕跡も残されている。後藤は、これを「槍あるいは銛の先」と想定した。長さ7.0cm、幅6.5cmほどが残存し、現在でも



1:添山遺跡[石本・鈴木1983], 2:鯨ヶ沢(京都国立博物館提供), 3:桧木遺跡[瀬川他1983], 4~8:東裏遺跡[相原他1980], 9:小場遺跡[沼田1986]

第2図 縄文時代遺跡から出土したメガロドンの歯の化石

京都国立博物館に保管、展示されている。

桧木 (第2図3) 青森県上北郡横浜町の桧木遺跡 [瀬川他1983] から試掘調査で検出された。縄文時代後期後葉~晩期のものである。「鯨の歯」とのみ記載され、化石とは報告されていない。長さ3.4cm、幅3.0cmほどで、全体の形態と切縁の鋸歯から、メガロドンの幼体の歯と思われる。「歯根の中央には両側から加工した孔を持ち、裏面には、歯根と歯部の境上に、1条の刻線が施されている。歯根基部には、削りによる成形痕が見られる。表面には、歯根と歯部の間の側面に、削られた浅い溝を持つ」という加工は、穿孔と裏面の刻線が「添山」に、表面の溝が「鯨ヶ沢」に共通する。

東裏 (第2図4~8) 岩手県奥州市(旧・衣川村)の東裏遺跡 [相原他1980] から発掘調査で検出された。縄文時代晩期の遺跡において19点のサメの歯の化石が出土している。メガロドンと思われるものが5点含まれており、泉坂下遺跡に匹敵する大きさのもの(第2図5)も見られる。同定にあたった佐藤二郎は、「東裏遺跡をとりまく衣川下流域一帯」の「中部中新統に属する下黒沢層と呼称される細粒砂岩層」を採集地に推定した。「B標本(引用註:本稿第2図5)は、鋸歯縁が著しく磨耗」、「A標本(引用註:本稿第2図4)の鋸歯縁にも、わずかに磨耗している点」から、

1. メガロドンの化石が出土した縄文時代の遺跡



2. メガロドン化石の産出地

(〔後藤 1972〕より引用)



第3図 メガロドン化石の分布

「加工用具」と考えられている。

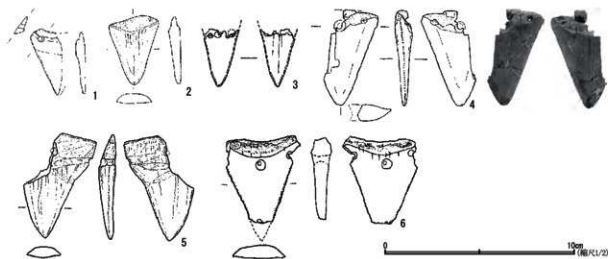
小場 (第2図9) 茨城県高萩市の小場遺跡〔沼田1986〕から発掘調査で検出された。第25号住居跡の覆土中に出土しており、縄文時代後期後葉～晩期のものである。長さ46mm、幅31mm、厚さ125mm、重さ7.0gの破片。切縁は磨滅するが、鋸歯は大部分が残されている。「サメの歯の化石」と報告されており、鋸歯の細かさや歯冠部の厚みから、メガロドンと思われる。実見したところ、破断面も磨滅しており、破片の状態で採集され持ち込まれた可能性もある。

以上の5遺跡9点が、縄文時代の遺跡から出土したメガロドンの事例として集成された。「泉坂下」を加えれば6遺跡10点ということになる。時期は、絞り込めない事例もあるが、それは遡っても後期後葉であり、全てが晩期の遺跡である。地域は、東日本でも東北地方を中心に分布しており、泉坂下遺跡は現在のところ、その南限に位置する。メガロドンの化石産出地の分布と対比すると、遠くて100kmほどの距離、ほとんどの遺跡は、近在に産出地が知られている (第3図)。一方で、産出地が分布しても、遺跡から出土する事例の認められない地域がある。時期と地域が限定されることから、メガロドンの化石の利用が「大洞式」の地域に特徴的な現象として捉えることができよう。縄文時代晩期におけるメガロドンの化石は、3つの遺跡の事例に、穿孔や挟りなどの加工が施された成品があり、化石を素材として装身具の垂飾が製作されたと考えられる。大型の「添山」に垂飾としての加工が認められることは、「泉坂下」の欠損部に、そのような加工があったことを想定してもよいのであろう。東裏遺跡には、製作の痕跡が残されているのかもしれない。ただ、佐藤が使用痕と捉えた切縁等の磨滅を、長沼による研磨という捉え方に変更できるのかについては、化石化するまでに生じた可能性をやはり検討すべきと考えるのである。

3. 縄文時代遺跡のサメ類の化石

東裏遺跡ではメガロドンの他に、「*Cosmopolitodus hastalis*および*C.trigodon*」、アオザメ属と同定された歯の化石も検出された。これらに加工の痕跡は報告されていないが、メガロドン以外にもサメ類の歯の化石を加工した垂飾は、縄文時代の遺跡から出土している。

水子 (第4図1) 埼玉県富士見市の水子貝塚〔早坂・荒井1995〕から発掘調査で検出された。縄文時代前期中葉の16号住居跡貝層から出土している。坂本治により、「ネズミザメ科のアオザメの仲間であり、顕微鏡により切縁が鋸歯状であったことが観察されるためホホジロザメ」と同定



1:水子貝塚[早坂・荒井1996], 2:有吉北貝塚[西本他1998], 3:山口遺跡[佐藤他1981],
4:宮内井戸作遺跡[小倉2008], 5:平鹿遺跡[小玉1983]

第4図 縄文時代遺跡から出土したサメ類の歯化石

されている。肉眼では鋸歯が観察されないらしい。穿孔と溝が加工された垂飾であり、現在のところ、これが最古の事例となろう。

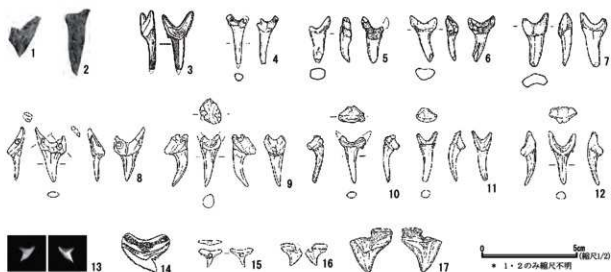
有吉北 (第4図2) 千葉県千葉市の有吉北貝塚 [西本他1998] から発掘調査で検出された。北斜面貝塚において縄文時代中期後葉の貝層から出土し、「非常に丁寧に研磨し、器面は平滑で光沢を持つ」と報告されている。実測図に鋸歯は表現されていないが、これにもホホジロザメの可能性がある。なお、同じ北斜面貝塚からは、「鹿角(オオツノシカ?)の化石を舌状に研磨」した製品も出土している。

山口 (第4図3) 宮城県仙台市の山口遺跡 [佐藤他1981] から発掘調査で検出された。縄文時代後期前葉のものとして推定されている。動物遺存体は、このサメの歯のみであることから、化石ではないかと考えて提示した。遺構外ではあるが、穿孔があり、2つは貫通した孔、1つは貫通せず小さな穴の状態である。切縁に鋸歯が見られないことや歯冠部の形態から、アオザメの類と思われる。

宮内井戸作 (第4図4) 千葉県佐倉市の宮内井戸作遺跡 [小倉2008] から発掘調査で検出された。遺構外であり、出土地点付近には縄文時代中期後葉～晩期中葉の各時期の土器が出土している。中央部の直径3～4mmほどの穿孔と、直径1mmほどの穿孔の組合せが、「山口」に似る。歯冠部の形態と切縁の鋸歯から、ホホジロザメと思われる。

下太田 (第4図5) 千葉県茂原市の下太田貝塚 [菅谷他2003] から発掘調査で検出された。出土地点が不明であり、調査では縄文時代中期中葉～晩期後葉の各時期の土器が出土している。中央に穿孔があり、「裏面に溝」と報告された加工により、縁辺に僅かな抉りも見られる。「ホホジロザメタイプの大型のサメの歯の化石」と記載されている。

平鹿 (第4図6) 秋田県横手市(旧・増田町)の平鹿遺跡から発掘調査で検出された [小玉1983]。縄文時代晩期のS K087という土坑の覆土から出土している。「県立男鹿水族館竹内 健館長より鑑定いただいたところ、^{ホホ}ほほじろざめ、*Carcharodon carcharias* (LINNÉ)の歯に最も近く、新世代第三紀の化石である可能性が高い」と記載された。「先端を欠損しているが推定52mmあり、中央部とその両側に3個の穿孔がある」ことから、「装飾品」と考えられている。両



1・2:網取貝塚〔佐藤・山崎他1996〕, 3:寺脇貝塚〔馬目他1966〕, 4~7:薄磯貝塚〔大竹・山崎他1988〕, 8~12:大谷貝塚〔駒澤他2009〕, 13:原町西貝塚〔鈴木他1985〕, 14:岩坪貝塚〔杉山1979〕, 15:大貫落神南貝塚〔井上・金子他2000〕, 16:小堤貝塚〔井上・金子他2000〕, 17:上高津貝塚〔東京国立博物館編2009〕

第5図 福島県南部～茨城県の縄文時代遺跡から出土したサメ類の歯

側は穿孔でなく挟りであり, これは「鯨ヶ沢」と「桧木」に共通する。

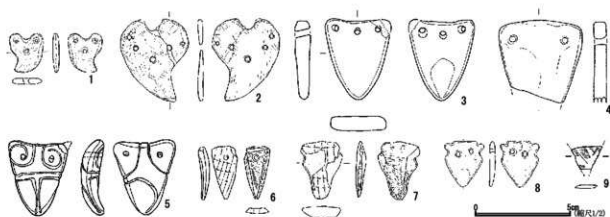
以上の6遺跡6点が集成された。サメ類の歯の化石を素材とした垂飾は, 縄文時代晩期に限定されることなく, 前期には既に出現しており, ホホジロザメを利用した事例が多い。前期の「水子」には既に, 穿孔や溝状の加工が施されているが, 両側縁の挟りは「下太田」と「平鹿」にのみ認められ, この確実な時期は晩期である。

4. 貝塚から出土するサメ類の歯

サメ類の歯の加工は, 化石と同じく縄文時代前期から見られる。福島県南部のいわき市域と茨城県域を泉坂下遺跡の周辺地域として事例を集成し, 比較してみよう。

いわき市域では, 縄文時代前期の網取貝塚〔佐藤・山崎他1996〕, 後期中葉～晩期中葉の寺脇貝塚〔馬目他1966〕, 晩期前葉～中葉の薄磯貝塚〔大竹・山崎他1988〕からサメの歯及び, その加工品が検出されている(第5図1～7)。網取貝塚はメジロザメ科(1)とアオザメの歯(2), 寺脇貝塚はネズミザメの加工品(3), 薄磯貝塚には, アオザメの加工品が4点(4～7)と, メジロザメ科, ネコザメの歯が見られる。アオザメの加工品のうち薄磯貝塚の1点(4)は, 歯根部に研磨と2つの穿孔が施されており, 垂飾と考えられる。寺脇貝塚の1点(3)と薄磯貝塚の3点(5～7)は, 歯根部が研磨されただけのもので, 垂飾の未成品であろうか。これには, 馬目順一, 山崎京美などにより鯨の可能性も指摘されている。

茨城県域では, 縄文時代前期の美浦村大谷貝塚〔駒澤他2009〕, 古河市原町西貝塚〔鈴木他1985〕, 中期のかすみがうら市岩坪貝塚〔杉山1979〕, 後期前葉の大洗町大貫落神南貝塚〔井上・金子他2000〕, 後期～晩期中葉の茨城町小堤貝塚〔井上・金子他1987〕, 土浦市上高津貝塚〔東京国立博物館編2009〕からサメの歯及び, その加工品が検出されている(第5図8～17)。大貫落神南, 小堤貝塚は県央部の濁沼川流域, 岩坪, 大谷, 上高津貝塚は県南部の霞ヶ浦沿岸域, 原町西貝塚は県西部の渡良瀬川流域に位置する。大谷貝塚ではアオザメとネズミザメの加工品が3点(8～10), 歯が2点(11・12), 原町西貝塚はメジロザメ科の歯(13), 岩坪, 大貫落神南, 小堤,



1:上ノ内貝塚, 2:有吉北貝塚〔西本他1998〕, 3:岩折遺跡, 4:宮内井戸作遺跡〔小倉2008〕, 5:片岡遺跡〔風間・宮崎他1997〕, 6・7:小堤貝塚〔井上・金子他1987〕, 8:御雲前遺跡〔後藤2001〕, 9:美々4遺跡〔長沼1984〕

第6図 サメ類の歯を模倣した垂飾

上高津貝塚はメジロザメ科^{メジロ}の加工品 (14~17) である。メジロザメ科の加工品は、1つもしくは3つの穿孔が施されており、垂飾と考えられる。

以上の9遺跡において歯から集成されたサメ類の種は、メジロザメ科とアオザメ、ネズミザメ、ネコザメであり、加工品はネコザメを除いて各種類に見られた。そのうち長さの最大は、寺脇貝塚の残存長31mmである。ホホジロザメは検出されておらず、この地域にあってメガロドンの歯は、素材としてのみならず、異質な形態と隔絶する法量であったことが読み取れる。

5. 垂飾の模倣品

縄文時代後・晩期の沖縄では、ホホジロザメの歯を加工した垂飾が出土し、貝殻を素材に長さ35mmを越える模倣品も製作されたことが知られている〔金子・忍沢1986〕。泉坂下遺跡の周辺地域の事例を中心としながら、模倣品^{うま}についても見ておくことにしよう。

骨角製品は、ひたちなか市上ノ内貝塚〔藤本1980〕、千葉県有吉北貝塚〔西本他1998〕から出土している (第6図1・2)。時期はともに縄文時代中期後葉。上ノ内貝塚は、鹿角を素材として、丸みを帯びた鉤状の平面形状、3つの穿孔が施されている (1)。有吉北貝塚は、「海獣骨?」を素材として、丸みを帯びた鉤状の平面形状、5つの穿孔が施されている (2)。これらは、平面形態が鉤状であることから、メジロサメ科の歯を模倣したように見える。ただ、上ノ内貝塚が長さ21mmで大きさも歯の実物に近いのに対して、有吉北貝塚は、長さ44mmほどに拡大して製作されている。

土製品は、日立市^{いわね}岩折遺跡〔福山1992〕と鹿嶋市^{きたかみ}片岡遺跡〔風間・宮崎他1997〕、千葉県の宮内井戸作遺跡と西広貝塚〔鶴岡他2007〕から出土している (第6図3~5)。岩折遺跡は、SK124という土坑から検出されたが、土器が伴出しておらず、時期は不明。調査区には、縄文時代中期中葉~晩期後葉の土器が見られるが、晩期の集中地点とは異なり、付近には、中期後葉と後期前葉の住居跡が位置している。三角形の平面形状で、無文、3つの穿孔が施されている (3)。片岡遺跡は、遺構外から検出されたもので、調査区には、後期前葉~後葉の土器が見られる。三角形の平面形状で断面が湾曲し、沈線により文様が構成され、2つの穿孔が施されている (5)。宮内井戸作遺跡も遺構外から検出されたもので、調査区には中期後葉~晩期の土器が見られる。三角形の平面形状が推定され、無文、2つの穿孔が施されている (4)。西広貝塚も無文で、2つの穿孔



第7図 サメ類の歯の垂飾を着装した埋葬人骨

があり、宮内井戸作遺跡のものによく似ている。これらは、平面形状が三角形で、長さが40～50mmほどであることから、ホホジロサメの歯を模倣したように見える。

猪牙製品は、小堤貝塚から2点が出土している（第6図6・7）。貝層には後期前葉の土器群と「晩期前半の破片も混在していた」という状況から、時期は、後期前葉と晩期前葉～中葉の2つで考えなければならない。平面形状が長三角形のもの（6）は、金子浩昌が「サメの歯を模したのではないかと報告している。長さが28mmほどで、平面形状からは、アオサメの歯を模倣したように見える。三角形で両側縁の上部に挟りが施されたもの（7）を、金子は「完成されたもの」と捉えたが、あるいは穿孔前の未完成品であるのかもしれない。挟りがメガロドンの加工に共通しており、晩期の可能性が考えられる。

石製品は、栃木県御釜前遺跡〔後藤2001〕から出土している（第6図8）。SI-04という住居跡の覆土中から検出され、時期は縄文時代晩期中葉の「大洞C2式」と報告された。石材は粘板岩。三角形の平面形態で、両側縁の上部と上縁に挟りがあり、2つの穿孔が施されている。メガロドンの加工に共通しており、まさしく「大洞式」に伴う。但し、長さは24mmと小さい。なお、北海道美々4遺跡〔北海道教育委員会〕の後・晩期には、切縁の鋸歯を表現した石製品が長沼孝により紹介されている（9）。

模倣品は、サメ類の歯の垂飾を別の材質に置換することで成立しており、その形態は抽象化されている。断面形状はほぼ平板で、メジロザメ科やホホジロザメの歯が原型に推定される平面形状であっても切縁の鋸歯はほとんど表現されない。中期の骨角製品は、メジロザメ科の歯を原型として、後期の土製品は、ホホジロザメの歯の化石を原型として成立したことが考えられよう。宮内井戸作遺跡において、ホホジロザメの歯の化石を加工した垂飾と、土製品が近い位置から出土しているのが示唆的である。晩期の石製品は、クマ、オオカミ、キツネ等の犬歯を素材に製作されていた所謂「牙勾玉」が、石製品の勾玉として盛行する時期に一致している。ホホジロザメ等に加えて、メガロドンの歯の化石が垂飾の素材として選択されるようになるのも、これらに同期した現象と考えられるのである。

6. おわりに

サメ類の歯の垂飾は、埋葬人骨に伴った事例から首-胸飾り（第7図1）と耳飾り（2）の2つがあったと推定されている。模倣品であっても50mmを大きく越えるものは見られず、ほとんどが30mm未満の小型である。これに対して、メガロドンの歯の化石は、70mmを優に超える大型のものがあ、重さも格段に異なる。耳飾りとしては重量があり過ぎることから、首-胸飾りと想定しておきた

い。また、垂飾が伴った人骨には女性と男性があり、サメ類の歯という素材は、一方の性に限定されない。ただ、大型の犬歯であるイノシシの牙の垂飾が男性に集中すること〔山田2008〕は、メガロドンの歯で製作された大型の垂飾も男性が装着したものではないかと考えさせる。際立つて特異な垂飾と、石剣や石刀という石製品の組合せは、見る者に畏怖を抱かせる演出に効果的であったろうと想像するのである。

本稿の成立にあたり忍沢成視氏、小倉知重氏・松田富美子氏（佐倉市教育委員会）、瓦吹 聖氏（高萩市歴史民俗資料館）、菊池芳文氏、国府田良樹氏（茨城県自然博物館）、佐藤真弓氏、柴垣和弘氏（茨城県大洗水族館）、鈴木八重子氏、関口 満氏、立石尚之氏（古河市歴史博物館）、宮川禎一氏（京都国立博物館）より、ご教示や文献、写真の提供でお世話をいただいた。特に、「鯨ヶ沢」の写真を掲載できたのは、宮川氏のご高配による。心より感謝申し上げます。

- 註1 メガロドンには、現在、カルカロドン・メガロドン (*Carcharodon megalodon*) とカルカロクレス・メガロドン (*Carcharocles megalodon*) という2つの学名が付けられている。現生のホホジロザメ (*Carcharodon carcharias*) と同じ属か、絶滅した異なる属かという捉え方の相違である。本稿では、「メガロドン」とのみ表記する。和名は「ムカシオオホホジロザメ」。
- 註2 長沼孝は、「1980年12月京都国立博物館にて展示資料を実見したことがある。歯根部は欠損していたので穿孔の有無はわからないが、歯冠部の基部の両端に挟り込みがみられた」〔長沼1984〕ことを記述している。但し、出土地は「千葉県余山貝塚」となっていた。これは、展示キャプションの混乱であったことを、京都国立博物館に確認した。なお、大きさはスケールが写り込んだ写真による。
- 註3 検木遺跡に報告された動物遺存体及び骨角牙貝器は、この「鯨の歯」のみである〔瀬川^註1983〕。これらを保存する貝塚等の条件がない遺跡で、「鯨の歯」が遺存したのは、それが化石化したものであったことが考えられる。但し、岩手県九年橋遺跡では、「歯の近くには南北0.7m、東西1.4mの楕円形に焼土塊が検出され、付近には焼土がまごっていたようである。この歯もその中に埋存していたもので、火を受け灰白色を呈していた」〔金子1980〕という状況で、歯冠部のエナメル質部分が保存されることもあり、個別に判断が必要である。
- 註4 それぞれが各遺跡地で製作されたことを主張するものではない。垂飾の製作地が限定されていて、流通した可能性もある。
- 註5 小場遺跡については小破片の状態では採集されたことも考えられることから、全てが垂飾の製作を目的として採集されたとは限定できない。
- 註6 歯根部が残存しないものについては、加工の有無を判断できないことから、歯として扱う。
- 註7 金子浩昌により「モウカザメ」と同定されている〔金子1980〕。「モウカザメ」はネズミザメの地方名。
- 註8 報告書〔駒澤^註2009〕には5点ともアオザメと記載されているが、第5図10・12については、歯の主咬頭の両側に副咬頭があり、寺脇貝塚と同じくネズミザメと思われる。
- 註9 報告書〔鈴木^註1985〕では、金子浩昌により同定された「イタチザメ」と記載してある。近年の金子の同定は「メジロザメ科」で止めてあることから、本稿では、「メジロザメ科」とした。
- 註10 岩坪貝塚について杉山荘氏は「ホウジロザメ」〔杉山1979〕と記載したが、これは、金子浩昌により「イタチザメ」〔金子・忍沢1986〕と訂正された。本稿では「メジロザメ科」としたが、これについては、特徴的な形態からイタチザメと同定できるものと思われる〔Bigelow & Schroeder1948〕。

引用・参考文献

- 相原康二他 1980 『東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書—4—（一関地区 東表遺跡）』岩手県文化財調査報告書第55集 岩手県教育委員会
- 石本省三・鈴木正語 1983 『添山 一北海道南部に於ける縄文時代晩期遺跡の調査—』上磯町教育委員会
- 井上義安・金子浩昌他 1987 『茨城町小堤貝塚』茨城町史編さん委員会
- 井上義安・金子浩昌他 2000 『大貫落神南貝塚』大貫台地埋蔵文化財発掘調査報告書第2冊 大貫台地埋蔵文化財発掘調査会
- 上野輝彌・渡部 晟 1984 『秋田県立博物館蔵のホホジロザメ属の歯化石』『秋田県立博物館研究報告』第9号 71-80頁
- 上野輝彌・坂本 治・関根浩史 1989 『埼玉県川本町中新統産出カルカロドン・メガロドンの同一個体に属する歯群』『埼玉県立自然史博物館研究報告』第7号 73-85頁
- 大竹憲治・山崎京美他 1988 『薄磯貝塚 一縄文時代晩期貝塚の調査—』いわき市埋蔵文化財調査報告第19冊 いわき市教育委員会
- 風間和秀・宮崎美和子他 1997 『片岡遺跡発掘調査報告書Ⅲ 一都市計画街路3・3・10号線第3工区—』鹿嶋市の文化財第98集 財団法人鹿嶋市文化スポーツ振興事業団
- 金子浩昌 1980 『魚類遺存体』『九年橋遺跡第6次調査報告書』文化財調査報告第29集 北上市教育委員会 58-62頁
- 金子浩昌・忍沢成規 1986 『骨角器の研究 縄文篇Ⅰ・Ⅱ』考古民俗叢書22・23 慶友社
- 菊池芳文 2014 『常陸大宮の縄文人と巨大ザメの化石』『広報常陸大宮』№116 14頁 常陸大宮市
- 小玉 準 1983 『平鹿遺跡発掘調査報告書』秋田県文化財調査報告書第101集 秋田県教育委員会
- 駒澤悦郎他 2009 『大谷貝塚 国道125号大谷バイパス建設事業に伴う埋蔵文化財調査報告書2』茨城県教育財団文化財調査報告第317集 財団法人茨城県教育財団
- 後藤信祐 2001 『御堂前遺跡Ⅱ 一主要地方道宇都宮・笠間線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査—』栃木県埋蔵文化財調査報告第248集 栃木県教育委員会
- 後藤仁敏 1972 『日本産の化石軟骨魚類についての一総括』『地質学雑誌』第78巻第11号 585-600頁
- 佐藤典邦・山崎京美他 1996 『網取貝塚 一第1・2次調査報告—』いわき市埋蔵文化財調査報告第45冊 いわき市教育委員会
- 佐藤 洋他 1981 『山口遺跡発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第33集 仙台市教育委員会
- 菅谷通保他 2003 『千葉県茂原市下太田貝塚 一かんがい排水事業（排水対策特別型）新治地区埋蔵文化財調査業務—』財団法人総南文化財センター調査報告第50集 財団法人総南文化財センター
- 杉山庄平 1979 『岩坪貝塚』『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』茨城県 200-202頁
- 鈴木素行他 1985 『原町西貝塚発掘調査報告書』古河市史資料第9集 古河市
- 瀬川 滋他 1983 『検木遺跡発掘調査報告書』横浜町教育委員会
- 樽 創他 2002 『ザ・シャーク ～サメの進化と適応・ケースコレクションより～』神奈川県立生命の星・地球博物館
- 鶴岡英一他 2007 『市原市西広貝塚Ⅲ』市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第2集・上総国分寺台遺跡調査報告XⅦ 市原市教育委員会
- 東京国立博物館編 2009 『東京国立博物館所蔵 骨角器集成』（株）同成社
- 永井昌文・前川威洋他 1972 『山鹿貝塚 一福岡県遠賀郡芦屋町山鹿貝塚の調査—』山鹿貝塚調査団
- 長沼 孝 1984 『遺跡出土のサメの歯について 一北海道の出土例を中心として—』『考古学雑誌』第70巻第1号

- 西本豊弘他 1998 『千葉東南部ニュータウン19 有吉北貝塚1 (旧石器・縄文時代)』千葉県文化財センター調査報告第324集 財団法人千葉県文化財センター
- 沼田文夫 1986 『常磐自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書9 小場遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第35集 財団法人茨城県教育財団
- 早坂廣人・荒井幹夫 1995 『水子貝塚 史跡整備事業に伴う発掘調査報告書』富士見市文化財報告第46集 富士見市教育委員会
- ビクター・スプリンガー、ジョイ・ゴールド 1992 『サメ・ウォッチング』(仲谷 宏訳) 株式会社平凡社
- 福山俊彰 1992 『岩折遺跡発掘調査報告書』日上市文化財報告第29集 日上市教育委員会
- 藤本瀧城 1992 『那珂川下流の石器時代研究Ⅱ』(私家版)
- Henry B. Bigelow, William C. Schroeder 1948 『SHARKS』[Fishes of the Western North Atlantic] PART1
- 北海道教育委員会 1979 『美沢川流域の遺跡群Ⅲ 一新千歳空港建設用地内埋蔵文化財発掘調査報告書—』北海道教育委員会
- 本間嘉晴他 1977 『堂の貝塚 新潟県佐渡郡金井町堂の貝塚発掘調査報告』金井町文化財調査報告書Ⅱ集 金井町教育委員会
- 馬目順一他 1966 『寺脇貝塚』磐城市教育委員会
- 山田康弘 2008 『人骨出土例にみる縄文の墓制と社会』(株) 同成社



遺跡遠景（1）（東から）



遺跡遠景（2）（北東から）



遺跡遠景（3）（南東から）



調査区全景（1）（鉛直、上が東）



第13～15・18・23トレンチ付近拡大（鉛直、上が北）



調査区全景（2）（西から、奥に久慈川・阿武隈山地を望む）



調査区全景（3）（北西から）



調査区全景（4）（北から）



調査区全景（5）（北東から）



調査区全景（6）（東から）



調査区全景 (7) (南東から)



調査区全景 (8) (南から)



テストピット西壁 (東から)



テストピット北壁 (南から)



第10トレンチ11・12区全景 (北から)



第10トレンチ11・12区セクション (東から)



S I 13確認状況 (西から)



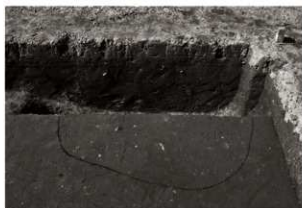
S I 13調査状況 (1) (東から)



S I 13竈調査状況 (2) (鉛直. 上から)



S I 13竈完掘状況 (東から)



S K 49確認状況 (1) (東から)



S K 49確認状況 (2) (北から)



S K 50確認状況 (東から)



S K 52確認状況 (北から)



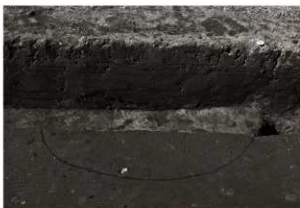
S K 53確認状況 (東から)



S K 62確認状況 (東から)



S K 63確認状況 (東から)



S K 86確認状況 (東から)



S K 87・88確認状況 (西から)



S K 89確認状況 (西から)



S K 90確認状況 (東から)



S K 91確認状況 (西から)



S K 92確認状況 (東から)



S D 3 確認状況 (東から)

図版 6



SD 6 確認状況 (東から)



SX 6 確認状況 (1) (東から)



SX 6 確認状況 (2) (東から)



SX 6 確認状況 (3) (東から)



第12トレンチ全景 サブトレンチ掘削前 (北から)



第12トレンチセクション (1) 3区付近 (東から)



第12トレンチセクション (2) 5区付近 (東から)



第12トレンチセクション (3) 5・6区付近 (東から)



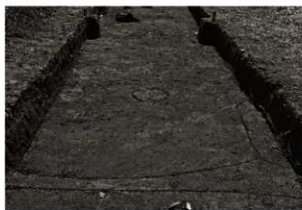
S I 9確認状況 (1) サブトレンチ掘削前 (北から)



第12トレンチセクション (4) 1区付近 (東から)



S I 9確認状況 (2) (東から)



S I 10確認状況 (1) サブトレンチ掘削前 (北から)



S I 10確認状況 (2) (東から)